

兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事 設計図

図面リスト

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
A-01	建築改修工事特記仕様書(1)	A-31	改修後 2階展開図(1)	G-01	改修前・後 外構配置図	E-01	電気設備工事特記仕様書
A-02	建築改修工事特記仕様書(2)	A-32	改修後 2階展開図(2)	G-02	改修前 外構平面詳細図	E-02	改修前・後 電灯分電盤盤結線図
A-03	建築改修工事特記仕様書(3)	A-33	改修後 2階展開図(3)	G-03	改修後 外構平面詳細図	E-03	照明器具参考姿図、改修前・後 動力盤結線図
A-04	建築改修工事特記仕様書(4)	A-34	改修後 2階展開図(4)	G-04	改修後 外構部分詳細図	E-04	改修後 電灯設備 1～2階、屋根裏平面図
A-05	建築改修工事特記仕様書(5)	A-35	改修後 屋根裏展開図(1)	G-05	部分詳細図	E-05	改修後 電灯・コンセント・弱電設備 1～2階、屋根裏平面図
A-06	工事概要・付近見取図・現況配置図	A-36	改修後 屋根裏展開図(2)	G-06	撤去 屋外便所 仕上表・平面図・立面図・展開図・天井伏図	E-06	改修前 電灯設備 1～3階平面図
A-07	仮設計画図(参考図)	A-37	改修前・後 1階天井伏図			E-07	改修前 電灯・コンセント・弱電設備 1～3階平面図
A-08	改修前・後 外部・内部仕上表(1)	A-38	改修前・後 2階天井伏図			E-08	改修前・後 外構配置図 電気設備平面図
A-09	改修前・後 内部仕上表(2)	A-39	改修 建具表(1)				
A-10	改修前 1～3階平面図	A-40	改修 建具表(2)				
A-11	改修後 1階平面図	A-41	建具詳細図	S-01	補強前・後 基礎・土台伏図		
A-12	改修後 2階平面図	A-42	部分詳細図(1)	S-02	補強前・後 2階梁伏図		
A-13	改修後 屋根裏平面図	A-43	部分詳細図(2)	S-03	補強前・後 屋根裏梁伏図		
A-14	改修前・後 立面図(1)	A-44	展示棚詳細図	S-04	補強前・後 小屋梁伏図	M-01	機械設備工事特記仕様書(1)
A-15	改修前・後 立面図(2)			S-05	補強前・後 軸組図(1)	M-02	機械設備工事特記仕様書(2)
A-16	改修前・後 断面詳細図(1)			S-06	補強前・後 軸組図(2)	M-03	機械設備工事特記仕様書(3)
A-17	改修前・後 断面詳細図(2)			S-07	補強前・後 軸組図(3)	M-04	改修前・後 屋外設備図
A-18	改修前・後 断面詳細図(3)			S-08	補強前・後 軸組図(4)	M-05	機器表
A-19	改修後 階段詳細図			S-09	補強前・後 軸組図(5)	M-06	改修後 空調ダクト設備 1～2階、屋根裏平面図
A-20	改修前 1階展開図(1)			S-10	補強壁詳細図(1)	M-07	改修後 空調配管設備 1～2階、屋根裏平面図
A-21	改修前 1階展開図(2)			S-11	補強壁詳細図(2)	M-08	既設機器表
A-22	改修前 1階展開図(3)					M-09	撤去 空調設備 1～3階平面図
A-23	改修後 1階展開図(1)					M-10	既設便所撤去図
A-24	改修後 1階展開図(2)						
A-25	改修後 1階展開図(3)						
A-26	改修後 1階展開図(4)						
A-27	改修前 2階展開図(1)						
A-28	改修前 2階展開図(2)						
A-29	改修前 2階展開図(3)						
A-30	改修前 2階展開図(4)						

建築改修工事特記仕様書									
I. 工事概要	1) 工事名称 兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事 2) 工事場所 岐阜県可児市兼山675-1 3) 構造及び規模 木造(兼山歴史民俗資料館) 2階建て 延 402.03 m ²								
II. 建築工事仕様 1. 共通仕様	図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(最新版)」(以下、「標仕」という。)及び「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(最新版)」(以下、「標改」という。),「建築物解体工事共通仕様書(最新版)」(以下、「解共」という)による。								
2. 特記仕様書	本仕様書は工事の概要を述べるものの、詳細は設計図書及び監督職員の指示により施工する。								
3. 特記仕様	(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 (2) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は ※印の付いたものを適用する。 ◎印と◎印が付いている場合は、共に適用する。 (3) 特記事項に記載の< >内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。 (4) 特記事項に記載の()内表示番号は、標改の当該項目、当該図又は当該表を示す。 (5) 特記事項に記載の<別>は標仕5.3.7による別図「各部配筋」の当該項目を示す。 (6) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また、《 》内は製品名を示す。								
章	節・項目	特記事項	備考						
1章 一般 共通 事項	① 適用基準等 (1.1.1)	● 建築工事標準詳細図(国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課監修 最新版) ● 工事写真の撮り方(改訂第二版)建築編(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修) ● 可児市建設工事共通仕様書(可児市HPにて閲覧可)							
	② 適用範囲	設計図書間に相違がある場合の優先順位は、次の(1)から(4)の順番のとおりとし、これにより難い場合は、(1.1.8)による。 (1) 質疑応答書 (2) 特記仕様書 (3) 図面 (4) 標仕 図面間に相違がある場合の優先順位は下記により、これにより難い場合は、(1.1.8)による。 (1) 意匠図 - 仕上表を優先する。 (2) 構造図 - 断面リストを優先する。							
	③ 官公署その他への届出手続等 (1.1.3)	工事施工にあたり、関係官公署その他関係機関への届出手続等は、遅滞なく、請負者にて行う。 工事施工に必要な諸手続、外線工事負担金・仮設用電力・用水などの引き込み手続、道路使用手続、他人管理の土地使用手続等々の費用は請負者にて負担する。							
	④ 工事カルテの作成・登録 (1.1.4)	可児市建設工事共通仕様書 共通編 総則 1-1-6工事カルテ作成・登録により、工事請負代金額500万円以上の工事について「工事カルテ」を作成・登録すること。 (財)日本建設情報総合センター(JACIC)の工事実績情報システム(CORINS)に、工事実績情報の登録をその内容について監督員の確認を(JACICの様式「登録のための確認のお願い」に従って)受けた上、行う。 また、登録後にJACICが発行する「登録内容確認書」を監督員へ提出する。							
	⑤ 書類の書式等	本工事の施工に関して提出する書類は、「可児市建設工事における取扱い書類等一覧表」により、定めがない場合は監督職員の指示による。なお、監督職員から訂正の指示があった場合は、異議なく訂正し、すみやかに提出する。 (1) 契約時提出書類 ● 着工届 ● 経歴書 ● 工程表 ● 請負代金内訳書 ● その他可児市指定書類 (2) その他の提出書類 ・ 下請負人届 下請負人が決定次第、工事下請基本契約書(約款共)の写しと共に提出する。 ● 工事日報 現場代理人は工事名称、年月日、曜日、天気、各職種の出面及び累計、その他必要な事項を記入の上、監督職員まで提出し、承諾を得る。 ● 設計図製本 A3二つ折り3部 (3) 施工体制台帳 下請契約を締結する全ての工事は、「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」第15条第1項による施工体制台帳の写しを提出する。							
	6 別契約の関連工事	別契約の関連工事がある場合、本工事請負者は、別途工事請負者と絶えず連絡を密にし、工事の円滑な進行に努力し、完成期日までに完成するよう努める。							
	⑦ 関係法令等の遵守 (1.1.13)	工事の施工に当たり、関係法令を遵守し、工事の円滑な進行を図る。							
	⑧ 施工計画書 (1.2.2)	工事の施工に当たり、関係法令を遵守し、工事の円滑な進行を図る。							
	9 品質計画	建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 <table border="1"> <tr><td>風圧</td><td>VO</td></tr> <tr><td>地表面粗度区分</td><td></td></tr> <tr><td>多雪地域の指定</td><td></td></tr> </table>	風圧	VO	地表面粗度区分		多雪地域の指定		
風圧	VO								
地表面粗度区分									
多雪地域の指定									
	⑩ 工事の記録	工事写真はデジタル写真で撮影する場合は、200万画素以上とし、印刷は300dpi以上で3年以上は劣化しない品質とする。なお、補助対象工事については、完成時に、銀塩カメラ撮影はネガ及びネガベタを、デジタルカメラの場合は画像データを提出する。							
	⑪ 電気保安技術者	要							
	⑫ 施工中の安全確保及び環境保全	● 工事の施工に当たり、「建設工事公衆災害防止対策要綱」(平成5年1月12日建設省経建発1号)を遵守し、公衆災害防止に努める。 ● 工事中は道路上に物を放置したり、あるいは多数の車を駐車して交通に支障を与えることのないよう十分に注意する。							

章	節・項目	特記事項	備考																																				
1章 一般 共通 事項	⑬ 発生材の処理等	● 建築物の新築、増築、改築及び解体工事に伴って発生する産業廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づいて適正に処理する。 ● 収集、運搬・埋立地等に関する廃棄物処理計画書を作成し、本市関係機関の承認を受けたのちに処理する。 ● 「岐阜県廃棄物の適正処理等に関する条例」及び同施行規則に基づき必要に応じて関係機関に届け出る。 ● 産業廃棄物は「可児市が発注する公共工事から発生する産業廃棄物適正処理について」に基づき適正に処理すること。なお、提出された産業廃棄物管理票の写しは、可児市情報公開条例に基づき公開することがある。 ● 請負者は資源の有効な利用の促進に関する法律(ラージサイクル法)により適正に処理する。なお、工事完了時には建設副産物(再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書)のフロッピーディスクと実施書(1部)を提出する。 ● 請負者は「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づいて適正に処理するとともに、工事着手に際し当該工事についての説明書を、工事完了時には当該工事計画の実施状況に関する報告書を提出すること。なお、契約締結時には、分別解体等の方法・解体工事に要する費用等を書面に記載し提出すること。																																					
	⑭ 材料の品質等	※ 使用する材料が、「評価名簿による」と特記されたものについては、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 建築材料等評価名簿(平成19年版)」による。 ※ 本工事において、工事材料に関わる納入契約を締結する場合は、当該契約の相手方は可児市内に営業所を有するものとするよう努めると共に、調達する工事材料は地元製品を使用するよう努めること。 ※ 本特記仕様及び設計図書に指示のあるJIS製品については、JIS規格である旨の認定書類又は規格証明を提出する。ただし、監督職員の認めた小規模建築の場合は省略することができる。 ※ 屋内に使用する建材、塗料、接着剤、家具などは揮発性有機化合物(VOC)の放出量の少ないものを使用し、ホルムアルデヒド放散量は原則としてF☆☆☆☆とする。F☆☆☆☆製品が無い場合は、監督職員と協議の上、決定する。 ※ グリーン商品を積極的に利用するように努めるものとし、品目等については監督職員と打ち合わせによる。																																					
	⑮ 特別な材料の工法	標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。																																					
	⑯ 材料の検査に伴う試験	試験は、公共試験場または認定共同試験場で行う。ただし、監督職員が認めた場合は、公共試験場に準ずる機関で行うことができる。																																					
	⑰ 技能士 (1.6.2)	※本工事に必要な工種に応じて適用する。 <table border="1"> <tr><th>適用工事種別</th><th>技能検定の職種</th></tr> <tr><td>鉄筋工事</td><td>● 鉄筋施工</td></tr> <tr><td>コンクリート工事</td><td>● コンクリート圧送施工 ● 型枠施工</td></tr> <tr><td>鉄骨工事</td><td>・ とび</td></tr> <tr><td>ブロック、ALCパネル工事</td><td>・ ブロック建築 ・ ALCパネル施工</td></tr> <tr><td>防水工事</td><td>・ アスファルト防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ 塗膜防水工事作業 ● シーリング防水工事作業</td></tr> <tr><td>石工事</td><td>・ 石材施工</td></tr> <tr><td>タイル工事</td><td>・ タイル張り</td></tr> <tr><td>木工事</td><td>● 建築大工</td></tr> <tr><td>屋根及びとい工事</td><td>● 建築板金(内外装板金作業)</td></tr> <tr><td>金属工事</td><td>● 内装仕上げ施工(鋼製下地工事作業)</td></tr> <tr><td>左官工事</td><td>・ 左官</td></tr> <tr><td>建具工事</td><td>・ サッシ施工 ・ ガラス施工 ・ 自動ドア施工</td></tr> <tr><td>カーテンウォール工事</td><td>・ カーテンウォール施工 ・ サッシ施工 ・ ガラス施工</td></tr> <tr><td>塗装工事</td><td>● 塗装(建築塗装作業)</td></tr> <tr><td>内装工事</td><td>・ プラスチック系床仕上げ工事作業</td></tr> <tr><td>植栽工事</td><td>● ボード仕上げ工事作業 ● 表装(壁装作業)</td></tr> <tr><td>樹脂接着剤注入工事</td><td>・ 造園 ・ 樹脂接着剤注入施工</td></tr> </table>	適用工事種別	技能検定の職種	鉄筋工事	● 鉄筋施工	コンクリート工事	● コンクリート圧送施工 ● 型枠施工	鉄骨工事	・ とび	ブロック、ALCパネル工事	・ ブロック建築 ・ ALCパネル施工	防水工事	・ アスファルト防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ 塗膜防水工事作業 ● シーリング防水工事作業	石工事	・ 石材施工	タイル工事	・ タイル張り	木工事	● 建築大工	屋根及びとい工事	● 建築板金(内外装板金作業)	金属工事	● 内装仕上げ施工(鋼製下地工事作業)	左官工事	・ 左官	建具工事	・ サッシ施工 ・ ガラス施工 ・ 自動ドア施工	カーテンウォール工事	・ カーテンウォール施工 ・ サッシ施工 ・ ガラス施工	塗装工事	● 塗装(建築塗装作業)	内装工事	・ プラスチック系床仕上げ工事作業	植栽工事	● ボード仕上げ工事作業 ● 表装(壁装作業)	樹脂接着剤注入工事	・ 造園 ・ 樹脂接着剤注入施工	
適用工事種別	技能検定の職種																																						
鉄筋工事	● 鉄筋施工																																						
コンクリート工事	● コンクリート圧送施工 ● 型枠施工																																						
鉄骨工事	・ とび																																						
ブロック、ALCパネル工事	・ ブロック建築 ・ ALCパネル施工																																						
防水工事	・ アスファルト防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ 塗膜防水工事作業 ● シーリング防水工事作業																																						
石工事	・ 石材施工																																						
タイル工事	・ タイル張り																																						
木工事	● 建築大工																																						
屋根及びとい工事	● 建築板金(内外装板金作業)																																						
金属工事	● 内装仕上げ施工(鋼製下地工事作業)																																						
左官工事	・ 左官																																						
建具工事	・ サッシ施工 ・ ガラス施工 ・ 自動ドア施工																																						
カーテンウォール工事	・ カーテンウォール施工 ・ サッシ施工 ・ ガラス施工																																						
塗装工事	● 塗装(建築塗装作業)																																						
内装工事	・ プラスチック系床仕上げ工事作業																																						
植栽工事	● ボード仕上げ工事作業 ● 表装(壁装作業)																																						
樹脂接着剤注入工事	・ 造園 ・ 樹脂接着剤注入施工																																						
	⑱ 技能資格者 (8.14.2)(8.14.3)	● 溶接技能者((社)日本溶接協会が検定した技能資格を有するもの) ・ 圧接技量資格者(JIS Z 3881(ガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準)による技量を有する者) ・ (社)日本建築あと施工アンカー協会会員																																					
	⑲ 化学物質の濃度測定 (1.6.9)	指定する居室の「ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物」の測定を行い、報告書を提出する。 なお、工事完成時に測定し、測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合は、原因の究明・適正な改善方法の報告及び改善のうえ、再測定を行う。 検査対象箇所・室名 4箇所(展示) 測定時期 ● 工事完成時 判定基準 改修前後 各1回 <table border="1"> <thead> <tr><th>検査項目</th><th>判定基準(下記の数値を超えない)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>ホルムアルデヒド</td><td>100µg/m³(0.08ppm)</td></tr> <tr><td>トルエン</td><td>260µg/m³(0.07ppm)</td></tr> <tr><td>キシレン</td><td>870µg/m³(0.20ppm)</td></tr> <tr><td>パラジクロロベンゼン</td><td>240µg/m³(0.04ppm)</td></tr> <tr><td>エチルベンゼン</td><td>3800µg/m³(0.88ppm)</td></tr> <tr><td>スチレン</td><td>220µg/m³(0.05ppm)</td></tr> </tbody> </table>	検査項目	判定基準(下記の数値を超えない)	ホルムアルデヒド	100µg/m ³ (0.08ppm)	トルエン	260µg/m ³ (0.07ppm)	キシレン	870µg/m ³ (0.20ppm)	パラジクロロベンゼン	240µg/m ³ (0.04ppm)	エチルベンゼン	3800µg/m ³ (0.88ppm)	スチレン	220µg/m ³ (0.05ppm)																							
検査項目	判定基準(下記の数値を超えない)																																						
ホルムアルデヒド	100µg/m ³ (0.08ppm)																																						
トルエン	260µg/m ³ (0.07ppm)																																						
キシレン	870µg/m ³ (0.20ppm)																																						
パラジクロロベンゼン	240µg/m ³ (0.04ppm)																																						
エチルベンゼン	3800µg/m ³ (0.88ppm)																																						
スチレン	220µg/m ³ (0.05ppm)																																						
	⑳ 工事保険加入について	本工事において、発注者、請負者及び全下請人を被保険者として、工事着手から工事目的物の引渡しまでの期間について、賠償責任保険(保険対象 第三者に与えた損害)及び火災保険(保険対象 工事目的物及び工事材料等)に加入するものとする。 また、工事着手前に保険証書の写しを監督員に提示すること。 保険の種類 ※ ● 火災保険 ● 建設工事保険 ・ 組立保険 保険金額 請負金額以上 保険期間 工事着手のときから完成期日後14日までの期間																																					
	㉑ 保険の付保	請負者は、雇用保険法、労働者災害補償保険法、健康保険法及び中小企業退職金共済法の規定により雇用者等の雇用の形態に応じ、雇用者等を被保険者とするこれらの保険に加入しなければならない。																																					
	㉒ 設計変更における工事費の算定	設計変更における工事費は、当該変更対象の市の直接工事費を積算し、これに当該変更に係わる共通費を加えて得た額に、「当初請負代金額から消費税相当額を減じた額/当初設計金額の工事価格」の比率を乗じさらに消費税相当額を加えて得た額を原則とする。																																					
	㉓ 事前調査	工事着手前には必ず設計照査を行い、設計内容と現場に相違がないか確認し、監督員へ報告すること。 また、劣化の著しい部分があれば合せて報告すること。																																					

章	節・項目	特記事項	備考															
1章 一般共通事項	⑭ 中間検査	工事施工途中における検査は、可見市建設工事検査要綱、可見市建設工事監督要綱による。																
	⑮ 完成図 (1.8.2)	<table border="1"> <tr> <td>㊦ 設計図一式</td> <td>変更箇所全て修正の上、図面右下に「完成図面」と表記する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	㊦ 設計図一式	変更箇所全て修正の上、図面右下に「完成図面」と表記する。														
	㊦ 設計図一式	変更箇所全て修正の上、図面右下に「完成図面」と表記する。																
⑯ 完成写真	<p>㊦ 設計図書CADデータを貸与する。</p> <p>下記のものを監督職員に提出する。</p> <table border="1"> <tr> <th>分類・規格</th> <th>撮影箇所数</th> <th>提出部数</th> <th>原板の大きさ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・ カラー ※サービス版</td> <td>適宜</td> <td>※1</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>㊦ カラー ※キャビネ版 ※ベタ焼</td> <td>外部 1 2箇所 内部 1 2箇所</td> <td>※2</td> <td>※100×125以上</td> </tr> <tr> <td>㊦ 電子データ</td> <td>外部 1 2箇所 内部 1 2箇所</td> <td>※2</td> <td>※200万画素以上 ※300dpi以上</td> </tr> </table> <p>※ 写真は、アルバムに整理すること。(金文字入り黒表紙製本1部)</p>	分類・規格	撮影箇所数	提出部数	原板の大きさ (mm)	・ カラー ※サービス版	適宜	※1	—	㊦ カラー ※キャビネ版 ※ベタ焼	外部 1 2箇所 内部 1 2箇所	※2	※100×125以上	㊦ 電子データ	外部 1 2箇所 内部 1 2箇所	※2	※200万画素以上 ※300dpi以上	
分類・規格	撮影箇所数	提出部数	原板の大きさ (mm)															
・ カラー ※サービス版	適宜	※1	—															
㊦ カラー ※キャビネ版 ※ベタ焼	外部 1 2箇所 内部 1 2箇所	※2	※100×125以上															
㊦ 電子データ	外部 1 2箇所 内部 1 2箇所	※2	※200万画素以上 ※300dpi以上															
⑰ 引渡し後の検査	<p>引渡し後の検査時期は下記により、請負者は検査に立会うものとする。</p> <p>㊦引渡し1年後 ・引渡し2年後</p>																	
2章 仮設工事	① 足場その他 (2.2.1)	<p>足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について(厚生労働省 基発第0424001号平成21年4月24日)の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。</p> <p>また、屋根面からの墜落事故防止対策として、必要に応じて、JIS A8971(屋根工用足場及び施工方法)に基づき、建方作業台渡り廊下、墜落防護さく等を設置する。</p> <p>(c) 内部足場 種別 ㊦脚立・足場板等 ㊦(くさび緊結式棚足場)</p> <p>(d) 外部足場 種別 ・A種 ㊦B種 ・C種 ・D種 (表2.2.1)</p> <p>養生 ・防護シート(JISA8952) ㊦防護ネット(JISA8960) ・養生シート(防炎1類シート)</p> <p>(e) 材料、撤去材等の運搬方法 種別 ・A種 ㊦B種 ・C種 ・D種 ・E種</p>	(表2.2.2)															
	② 既存部分の養生 (2.3.1)	<table border="1"> <tr> <th>部位及び家具等の名称</th> <th>各室床</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> <tr> <td>養生方法</td> <td>ビニールシート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>移動場所(保管場所)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※ 移動作業については、担当職員にて行う。</p> <p>・A種 ・B種 ・C種 (表2.3.1) 設置箇所 ・図示による</p> <p>材種 合板厚さ ・9mm ・() ・せっこうボード厚さ ・9.5mm ・()</p> <p>仕上げ塗装等 ・有 ・無</p> <p>種別 ・木製 (合板張り) ・() 設置箇所 ・図示による</p>	部位及び家具等の名称	各室床				養生方法	ビニールシート				移動場所(保管場所)					
	部位及び家具等の名称	各室床																
	養生方法	ビニールシート																
	移動場所(保管場所)																	
	3 仮設間仕切り (2.3.2)	<p>規模 ・設ける ・1号 ・2号 ・3号 ・4号 ・5号 ・()㎡程度</p> <p>・設けない (ただし、請負者事務所内に打合せスペース10㎡程度を設けること。)</p> <p>標準仕上 (床) 合板張り又はビニール床シート張り</p> <p>(内壁・天井) 合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルジョンペイント塗り</p> <p>(屋根) 塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り</p>																
	4 仮設扉	<p>規模 ・設ける ・1号 ・2号 ・3号 ・4号 ・5号 ・()㎡程度</p> <p>・設けない (ただし、請負者事務所内に打合せスペース10㎡程度を設けること。)</p> <p>標準仕上 (床) 合板張り又はビニール床シート張り</p> <p>(内壁・天井) 合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルジョンペイント塗り</p> <p>(屋根) 塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り</p>																
	5 監督員事務所 (2.4.1)	<p>規模 ・設ける ・1号 ・2号 ・3号 ・4号 ・5号 ・()㎡程度</p> <p>・設けない (ただし、請負者事務所内に打合せスペース10㎡程度を設けること。)</p> <p>標準仕上 (床) 合板張り又はビニール床シート張り</p> <p>(内壁・天井) 合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルジョンペイント塗り</p> <p>(屋根) 塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り、又は鉄板張り、調合ペイント塗り</p>																
6 監督員事務所の備品	<p>標準備品 机、いす、書棚、行事予定表、ゴム長靴、雨合羽、保護帽、懐中電灯、寒暖計、安全帯、衣類ロッカー、請負者加入の電話子機、冷暖房機器、消火器、湯沸器、掃除具</p> <p>選択備品 ・パソコン ・プリンター ・FAX ・複写機 (例) サイズ 1800×900程度</p>																	
⑦ 請負者事務所その他建設現場標識及び建設工事名称板の設置	<p>㊦ 構内(従業員宿舎を除く) ・構外</p> <p>㊦ 設ける ・設けない</p>																	
⑧ 材料置場その他仮設物の設置場所	<p>㊦ 設ける 位置 ・既存建物内の一部 ㊦ 構内(従業員宿舎を除く)</p> <p>・設けない</p>																	

章	節・項目	特記事項	備考																				
3章 土工事	① 埋め戻し及び盛土 <3.2.3>	・A種 ㊦B種 ・C種 ・D種	<表3.2.1>																				
	② 建設発生土の処理 <3.2.5>	建設発生土については、「岐阜県埋立て等の規制に関する条例」及び「岐阜県建設発生土管理基準」に基づき管理するものとする。																					
4章 地業工事	① 材料 <4.6.2>	㊦再生クラッシュラン RC-40 ・切込砕石 C-40																					
	② 砂利及び砂地業 <4.6.3>	厚さ ・60mm ㊦(100)mm																					
	③ 捨てコンクリート地業 <4.6.4>	捨てコンクリート厚さ ㊦50mm ・(30)mm 強度 ㊦18 N/mm ² ・() N/mm ² スランブ ・15 ㊦18 ・適用しない ・適用する 範囲 ()																					
	4 床下防湿層 <4.6.5>	材料 ・ポリエチレンフィルム 厚さ ・0.15mm																					
5章 防水改修工事	① 施工一般 (3.1.3)	降雨等に対する養生方法 ㊦3.1.3(e)による ・()																					
	2 アスファルトの材料 (3.2.2)	・1種 ・2種 ・3種 ・4種	JIS K2207																				
	3 既存下地の補修及び処置 (3.2.6)	既存露出防水層及び塗膜防水層の表面仕上塗装の除去 ・デッキブラシ水洗い ・高圧水洗浄																					
	4 アスファルト防水材料 (3.3.2)	押さえ金物 ・アルミ製L-30×15×2.0mm程度 ・() 屋根保護防水断熱工法の断熱材 材質 ・押出法ポリスチレンフォーム保温材3種bスラフ層付き (JIS A9511) ・() 厚さ () mm 絶縁用シート材料 ・3.3.2(j)による ・() 防水層保護れんが ・JIS R1250 (普通レンガ) ・()	改修工法は表3.1.1による																				
	5 アスファルト防水 (3.3.3)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>改修工法</th> <th>新規防水層の種別</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>脱気装置 (M3D、P0D、P0DI、M3DI、M4DI工法) ・設ける ・設けない</p>	施工箇所	改修工法	新規防水層の種別																		
	施工箇所	改修工法	新規防水層の種別																				
6 合成高分子系ルーフィングシート防水 ~3.5.3)	<p>材料 ・絶縁用シート ・発砲ポリエチレンシート ・()</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>改修工法</th> <th>新規防水層の種別</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>脱気装置 ・設ける ・設けない</p>	施工箇所	改修工法	新規防水層の種別							改修工法は表3.1.1による												
施工箇所	改修工法	新規防水層の種別																					
7 塗膜防水 (3.6.3)	<p>材料 ・絶縁用シート ・発砲ポリエチレンシート ・()</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>改修工法</th> <th>新規防水層の種別</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>脱気装置 (POX、L4X工法) ・設ける ・設けない</p> <p>トップコートの種別 ・一般タイプ ・高反射タイプ</p>	施工箇所	改修工法	新規防水層の種別							改修工法は表3.1.1による												
施工箇所	改修工法	新規防水層の種別																					
⑧ 保証年限	防水の保証期間は工事目的物引渡しからモルタル防水5年、その他防水10年とする。また、元請・施工者・メーカーの三者連名にて保証書を作成し、監督員に提出する。																						
⑨ シーリング 材料 (3.7.2)	<table border="1"> <tr> <th>改修工法</th> <th>シーリング充填工法</th> <th>シーリング充填工法</th> <th></th> <th></th> </tr> <tr> <td></td> <td>ｶﾞｰｽ廻り</td> <td>ひび割れ誘発目地</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施工箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>JIS SR-1</td> <td>PS-2</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	改修工法	シーリング充填工法	シーリング充填工法				ｶﾞｰｽ廻り	ひび割れ誘発目地			施工箇所					種類	JIS SR-1	PS-2			改修工法は表3.1.2による	
改修工法	シーリング充填工法	シーリング充填工法																					
	ｶﾞｰｽ廻り	ひび割れ誘発目地																					
施工箇所																							
種類	JIS SR-1	PS-2																					
⑩ 目地寸法 (3.7.3)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>コンクリート打継ぎ部</th> <th>ひび割れ誘発部</th> <th>ガラス回り(5.12.13以外)</th> <th>左記以外</th> </tr> <tr> <td>目地幅(mm)</td> <td>・20 () ・20 ()</td> <td>㊦5 ()</td> <td>㊦5 ()</td> <td>㊦図示 ()</td> </tr> <tr> <td>目地深さ(mm)</td> <td>・10 () ・10 ()</td> <td>㊦5 ()</td> <td>㊦5 ()</td> <td>㊦図示 ()</td> </tr> </table>	施工箇所	コンクリート打継ぎ部	ひび割れ誘発部	ガラス回り(5.12.13以外)	左記以外	目地幅(mm)	・20 () ・20 ()	㊦5 ()	㊦5 ()	㊦図示 ()	目地深さ(mm)	・10 () ・10 ()	㊦5 ()	㊦5 ()	㊦図示 ()							
施工箇所	コンクリート打継ぎ部	ひび割れ誘発部	ガラス回り(5.12.13以外)	左記以外																			
目地幅(mm)	・20 () ・20 ()	㊦5 ()	㊦5 ()	㊦図示 ()																			
目地深さ(mm)	・10 () ・10 ()	㊦5 ()	㊦5 ()	㊦図示 ()																			
11 といの工法 (3.8.3)	鋼管製といの防露 ・表3.8.4による ・() ロックウール保温筒のホルムアルデヒド放散量 ・F☆☆☆☆ ・()																						
12 アルミニウム製笠木 (3.9.2)	部材の種類 ・押し出し250形 ・押し出し300形 ・押し出し350形 板材折り曲げ形 本体幅 () mm 板厚さ ・2.0mm ・() mm 表面処理 ・A-1種又はB-1種 ・() (表5.2.2)																						
6章 外壁改修工事	1 外壁改修工法の種類 (4.1.4)	<table border="1"> <tr> <th>外部仕上部位</th> <th>コンクリート打放し仕上げ</th> <th>モルタル塗り仕上げ</th> <th>A L C仕上げ</th> </tr> <tr> <td>ひび割れ部</td> <td>※ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法 ・ シール工法</td> <td>※ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法 ・ シール工法</td> <td>・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法 ・ シール工法</td> </tr> <tr> <td>欠損部</td> <td>※ 充填工法 ・ ()</td> <td>※ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法</td> <td>※ A L C専用補修材充填</td> </tr> <tr> <td>浮き部</td> <td></td> <td>・ アカビシ工法部分※ 樹脂注入工法 ・ アカビシ工法全面※ 樹脂注入工法 ※ 注入口付アカビシ工法部分※ 樹脂注入工法 ・ 注入口付アカビシ工法全面※ 樹脂注入工法 ・ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>塗り仕上げ外壁 ・薄付け仕上塗材塗り ・厚付け仕上塗材塗り ※ 複層仕上塗材塗り ・ 可とう形改修用仕上塗材塗り ・ 各種塗料塗り ・ マスチック塗材塗り</p>	外部仕上部位	コンクリート打放し仕上げ	モルタル塗り仕上げ	A L C仕上げ	ひび割れ部	※ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法 ・ シール工法	※ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法 ・ シール工法	・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法 ・ シール工法	欠損部	※ 充填工法 ・ ()	※ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法	※ A L C専用補修材充填	浮き部		・ アカビシ工法部分※ 樹脂注入工法 ・ アカビシ工法全面※ 樹脂注入工法 ※ 注入口付アカビシ工法部分※ 樹脂注入工法 ・ 注入口付アカビシ工法全面※ 樹脂注入工法 ・ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法		目地				
	外部仕上部位	コンクリート打放し仕上げ	モルタル塗り仕上げ	A L C仕上げ																			
	ひび割れ部	※ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法 ・ シール工法	※ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法 ・ シール工法	・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーリング材充填工法 ・ シール工法																			
	欠損部	※ 充填工法 ・ ()	※ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法	※ A L C専用補修材充填																			
	浮き部		・ アカビシ工法部分※ 樹脂注入工法 ・ アカビシ工法全面※ 樹脂注入工法 ※ 注入口付アカビシ工法部分※ 樹脂注入工法 ・ 注入口付アカビシ工法全面※ 樹脂注入工法 ・ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法																				
目地																							

章	節・項目	特記事項	備考																													
6章 外壁 改修 工事	2 工法別使用材料 (4.2.2)	樹脂注入工法 ・ エポキシ樹脂 ※ 低粘度形 ・ 中粘度形 Uカットシール材充填工法 シーリング材料 ※ ポリウレタン系シーリング材 ・ () シール工法 4.2.2(c)を ※ 適用する ・ 適用しない 充填工法 4.2.2(d)を ※ 適用する ・ 適用しない アンカーピンニング注入工法 アンカーピン材質等 ※ ステンレスSUS304 呼び径 4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピンニング注入工法 注入口付アンカーピン材質等 ※ ステンレスSUS304 呼び径 6mm タイル(部分)張替え工法 4.2.2(h)(1)を ※ 適用する ・ 適用しない タイル役物 ・ 使用する ・ 使用しない 試験張り ※ しない ・ する 見本焼き ※ しない ・ する 塗り仕上げ工法 仕上塗材の種別、仕上げ形状、工法(表4.2.4)は下記による。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 複層仕上塗材の耐侯性 ※ 耐侯形3種 ・ 耐侯形()種 複層仕上塗材の上塗材の種類 () (表4.2.5)	施工箇所	呼び名	仕上げの形状	工法									JIS A 6024																	
	施工箇所	呼び名	仕上げの形状	工法																												
	3 種類 (4.3.4)	4 樹脂注入工法 (4.4.5)	コンクリート打放し仕上げ外壁(4.3.4) ※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 注入間隔 ※ 200~300mm間隔 モルタル塗り仕上げ外壁(4.4.5) ※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 注入間隔 ※ 200~300mm間隔 タイル張り仕上げ外壁(4.5.5) ※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 注入間隔 ※ 200~300mm間隔 樹脂注入量 () 樹脂注入量 () 樹脂注入量 () 手動式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 () 機械式エポキシ樹脂注入工法 注入口間隔 () 樹脂注入量 () ひび割れ部の注入状況検査 ・ 実施する(4.3.4(f)による) ・ 実施しない 浮き部分に対するアンカーピン本数(本/㎡)(一般部分) ※ 16 ・ () (指定部分) ※ 25 ・ () 樹脂充てん量(挿入孔1箇所当たり) ※ 25ml ・ () ml 浮き部分に対するアンカーピン本数及び注入口数 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</th> <th colspan="2">アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</th> </tr> <tr> <th>一般部分</th> <th>指定部分</th> <th>一般部分</th> <th>指定部分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※13 ・ ()</td> <td>※20 ・ ()</td> <td>※13 ・ ()</td> <td>※20 ・ ()</td> </tr> <tr> <th colspan="2">注入口の箇所数(箇所/㎡)</th> <th colspan="2">注入口の箇所数(箇所/㎡)</th> </tr> <tr> <th>一般部分</th> <th>指定部分</th> <th>一般部分</th> <th>指定部分</th> </tr> <tr> <td>※12 ・ ()</td> <td>※20 ・ ()</td> <td>※12 ・ ()</td> <td>※20 ・ ()</td> </tr> <tr> <td colspan="2">樹脂注入量(注入口1箇所当たり) ※ 25ml ・ ()</td> <td colspan="2">樹脂注入量(注入口1箇所当たり) ※ 50ml ・ ()</td> </tr> </tbody> </table>	アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法		アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法		一般部分	指定部分	一般部分	指定部分	※13 ・ ()	※20 ・ ()	※13 ・ ()	※20 ・ ()	注入口の箇所数(箇所/㎡)		注入口の箇所数(箇所/㎡)		一般部分	指定部分	一般部分	指定部分	※12 ・ ()	※20 ・ ()	※12 ・ ()	※20 ・ ()	樹脂注入量(注入口1箇所当たり) ※ 25ml ・ ()		樹脂注入量(注入口1箇所当たり) ※ 50ml ・ ()		
	アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法		アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法																													
	一般部分	指定部分	一般部分	指定部分																												
	※13 ・ ()	※20 ・ ()	※13 ・ ()	※20 ・ ()																												
	注入口の箇所数(箇所/㎡)		注入口の箇所数(箇所/㎡)																													
	一般部分	指定部分	一般部分	指定部分																												
	※12 ・ ()	※20 ・ ()	※12 ・ ()	※20 ・ ()																												
	樹脂注入量(注入口1箇所当たり) ※ 25ml ・ ()		樹脂注入量(注入口1箇所当たり) ※ 50ml ・ ()																													
5 アンカーピン部分エポキシ樹脂注入工法 (4.4.10)	6 アンカーピン全面エポキシ樹脂注入工法 (4.4.11)	7 アンカーピン全面ポリマーセメントスラリー注入工法 (4.4.12)																														
8 注入口付アンカーピン部分エポキシ樹脂注入工法 (4.4.13)	9 注入口付アンカーピン全面エポキシ樹脂注入工法 (4.4.14)	10 注入口付アンカーピン全面ポリマーセメントスラリー注入工法 (4.4.15)																														
11 タイル張替え工法 (4.5.8)	12 既存塗膜等の除去及び下地処理 (4.6.3)																															
7章 建具 改修 工事	1 改修工法 (5.1.3) 2 防火戸 (5.1.4) ③ 建具見本の製作 (5.1.5) ④ その他 (5.1.7) 5 アルミニウム製建具 (5.2.2~5.2.5)	かぶせ工法 ※ 撤去工法 (・ 引抜き工法 ※ はつり工法) ※ 建具表参照 ・ 有 ③ 無 防犯建物部品 ・ 適用する 箇所 () ④ 適用しない 外部に面するアルミニウム製建具の種別(表16.2.1) ・ A種 ・ B種 ・ C種 上記によらない場合(JIS A4706 又は A4702) 耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 ・ () 気密性 ・ A-3 ・ A-4 ・ () 水密性 ・ W-4 ・ W-5 ・ () 表面処理 ・ A-1種 ・ A-2種 ※ B-1種(屋外) ・ B-2種 ※ C-1種(屋内) ・ C-2種 ・ D種 枠見込み ※ 表5.2.1による () mm	(表5.2.2)																													

章	節・項目	特記事項	備考																				
7章 建具 改修 工事	⑥ 性能及び構造 (5.2.2) (5.3.2) (5.4.2) (5.5.2)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>アルミニウム製建具</th> <th>鋼製建具</th> <th>鋼製軽量建具</th> <th>ステンレス製建具</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防音ドア、サッシ</td> <td>・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4</td> <td>・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4</td> <td>④ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4</td> <td>・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4</td> </tr> <tr> <td>断熱ドア、サッシ</td> <td>・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5</td> <td>・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5</td> <td>④ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5</td> <td>・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5</td> </tr> <tr> <td>耐震ドアセット</td> <td>・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3</td> <td>・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3</td> <td>④ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3</td> <td>・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3</td> </tr> </tbody> </table>		アルミニウム製建具	鋼製建具	鋼製軽量建具	ステンレス製建具	防音ドア、サッシ	・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4	・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4	④ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4	・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4	断熱ドア、サッシ	・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5	・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5	④ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5	・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5	耐震ドアセット	・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3	・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3	④ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3	・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3	ドアセット JIS A 4702 サッシ JIS A 4706
		アルミニウム製建具	鋼製建具	鋼製軽量建具	ステンレス製建具																		
	防音ドア、サッシ	・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4	・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4	④ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4	・ 無 ・ 有 遮音性 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4																		
	断熱ドア、サッシ	・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5	・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5	④ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5	・ 無 ・ 有 断熱性 ・ H1 ・ H2 ・ H3 ・ H4 ・ H5																		
	耐震ドアセット	・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3	・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3	④ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3	・ 無 ・ 有 面内変形追随性 ・ D1 ・ D2 ・ D3																		
	7 鋼製建具 (5.3.2~5.3.4)	簡易気密型ドアセットの気密性、水密性の適用 ※ する ・ しない 外部建具耐風圧性 ・ S-4 ・ S-5 ・ S-6 鋼板類の厚さ ※ 表5.3.2による () mm	(表5.3.1) (表5.2.1)																				
	8 鋼製軽量建具 (5.4.2~5.4.3)	簡易気密型ドアセットの気密性の適用 ※ する ・ しない ビニル被覆鋼板 ・ 有 ・ 無 召合せ、縦小口包み板等の材質 ※ 鋼板 ・ ステンレス鋼板 ・ アルミニウム合金の押出型材																					
	9 ステンレス製建具 (5.5.4~5.5.5)	表面仕上げ ※ HL仕上げ ・ () 曲げ加工 ※ 普通曲げ ・ 角出し曲げ																					
	⑩ 建具用金物 (5.6.2)	材質 ⑩ 表5.6.1 ・ ()																					
	⑪ 鍵 (5.6.4)	マスターキー ⑩ 有 (3)組 ・ 無																					
	12 自動ドア開閉装置 (5.7.2~5.7.3)	スライディングドア用自動ドア開閉装置の性能値 ・ SSLD-1 ・ SSLD-2 ・ DSLD-1 ・ DSLD-2 センサースイッチの種類 ・ マット ・ 光線(反射) ・ 熱線 ・ 音波 ・ 光電 スイングドア用自動ドア開閉装置の性能値 ・ SWD-1 ・ SWD-2 センサースイッチの種類 ・ マット ・ 光線(反射) ・ 熱線 ・ 音波 ・ 光電 ・ 多機能便所	(表5.7.1) (表5.7.3)																				
	⑬ 自閉式上吊り引戸装置 (5.8.3)	性能 ⑩ 表5.8.1による ・ ()																					
14 重量シャッター (5.9.2)	種類 ・ 一般重量シャッター ・ 外壁用防火シャッター ※ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 開閉機能による種類 ※ 上部電動式(手動併用) ・ 上部手動式 耐風圧性能による区分 ・ () ・ 50 ・ 80 ・ 120	(表5.9.1) JIS A 4705																					
15 軽量シャッター (5.10.2)	開閉機能による種類 ・ 上部電動式(手動併用) ※ 手動式 耐風圧性能による区分 ・ () ・ 50 ・ 65 ・ 80	(表5.10.1) JIS A 4704																					
16 材料 (5.10.3)	スラット材質 ※ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯(JIS G3312)又は塗装溶融亜鉛-5%Zn-Ni合金めっき鋼板及び鋼帯(JIS G3318) ・ ()																						
17 形状及び仕上げ (5.10.4)	・ スラット形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形																						
18 オーバーヘッドドア (5.11.2)	セクション材料 ※ スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ 耐風圧性能による区分 ・ 50 ・ 75 ・ 100 ・ 125 開閉方式 ※ バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式 収納形式 ・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ パーチカル形	JIS A 4715																					
19 材料 (5.11.3)	ガイドレール材料 ※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板																						
⑳ ガラス (5.12.2)	合わせガラス 種類 ・ LI ・ LII-1 ・ LII-2 ・ LIII 強化ガラス 種類 ・ TI 熱線吸収板ガラス 性能 ・ 1種 ・ 2種 ・ 3種(U3-1) ・ 3種(U3-2) 複層ガラス 断熱性 ・ 1種(U1) ・ 2種(U2) 熱線反射ガラス 日射遮蔽性 ・ 4種(E4) ・ 5種(E5) 日射遮蔽性 ・ 1種 ・ 2種 ・ 3種 耐久性 ・ A類 ・ B類 ガラス留め材 ④ シーリング材(9章6節による) ガスケット ・ グレイジングチャンネル形 ・ グレイジングビード形	JIS R 3205 JIS R 3206 JIS R 3208 JIS R 3209 JIS R 3221																					
㉑ ガラス溝の大きさ (5.12.3)	⑩ 表5.12.1による ・ ()																						
22 ガラスブロック積み (5.12.5)	材料 ※ 表面形状、呼び寸法、厚さ、壁用金属枠、補強材及び力骨などは、図示による。 工法 ※ 風速、地表面粗度区分、目地幅、伸縮調整目地、目地部の力骨の補強方法などは、図示による。																						
8章 内装 改修 工事	① 既存床の撤去並びに下地補修 (6.2.2)	合成樹脂塗り床材の除去等 ④ 機械的除去工法 ・ 目荒工法																					
② 既存壁の撤去並びに下地補修 (6.3.2)	間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 ※ モルタル塗り(4.4.9) ・ ()																						
③ 木下地等 (6.5.1)	表面仕上げ(表6.5.1) ・ A種 ※ B種 ・ C種 含水率(表6.5.2) ※ A種 ・ B種																						
④ 材料 (6.5.2)	等級 構造材及び下地材 ※ 6.5.2(a)(2)(iii) ①~② ・ () 造作材 ※ A種 ・ B種 代用樹種(表6.5.4) ※ 認める ・ 認めない 構造用集成材 強度等級 () 材面の品質 ※ 2種 ・ () 構造用単板積層材 樹種名 () 接着性能 () 樹種名 () 厚さ () 曲げ性能 () 造作用集成材 樹種名 () 見付け材面の品質 ※ 1等 ・ () 化粧ばり造作用集成材 心材の樹種名 ※ 針葉樹の単一材種 ・ () 化粧薄板の樹種名 () 厚さ () 見付け材面の品質 ※ 1等 ・ ()	(表6.5.3)																					

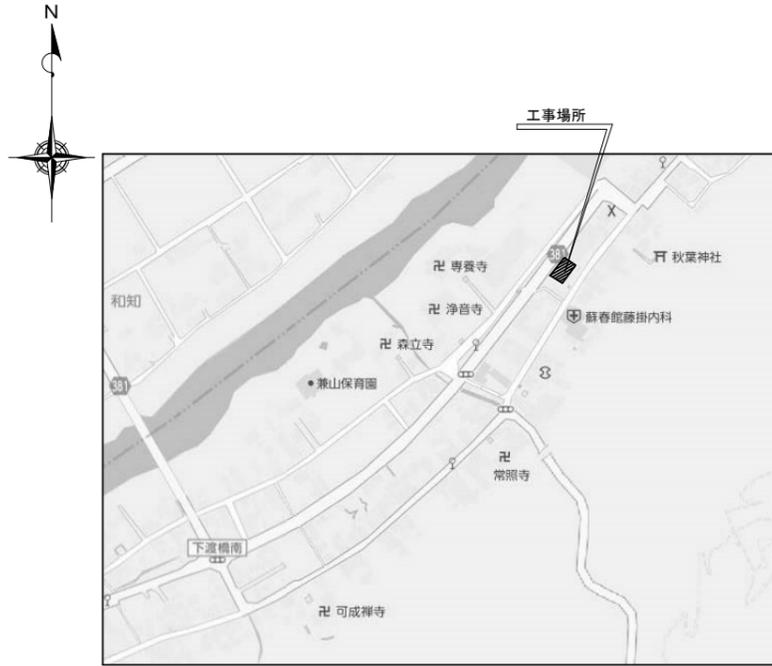
章	節・項目	特記事項	備考
8章	内装改修工事	造作用単板積層材 表面の品質 ※ 天然木化粧加工 () 防虫処理 () 厚さ () 5.5mm合板 接着の程度 ※ 1類 () 板面の品質 ※ 2類 (広葉樹) C-D (針葉樹) () 12mm合板 表板の樹種名 (シ) 防虫処理 () 難燃処理 () 接着の程度 ※ 1類 () 板面の品質 ※ C-D () 等級 ※ 2級 () 表板の樹種名 () 防虫処理 () 集材材、合板、パーティクルボード、MDF及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ () 防腐剤 種類 () 品質 () 防蟻処理 () 防虫処理 ※ K1 (珪材を使用する場合) ()	表面処理用木材保存(防腐・防蟻)剤は監督員の承諾するものとする。
5	軽量鉄骨天井下地 (6.6.2)	野縁等の種類 (表6.6.1) 屋内 ※ 19形 25形 屋外 19形 ※ 25形	
6	形状及び寸法 (6.6.3)	屋外の野縁受け吊りボルト及びインサート間隔 () mm 野縁間隔 () mm	
7	工法 (6.6.4)	既存の埋込みインサート ・ 使用する ※ 使用しない あと施工アンカーの引抜き試験 ※ 行う ・ 行わない	
8	軽量鉄骨壁下地 (6.7.3)	スタッド、ランナーの種類 ※ 表6.7.1 ()	
9	ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り (6.8.2～6.8.3)	ビニル床シート 種類 ⊗ FS () 色柄 ・ 無地 ○ (マープル) 厚さ (mm) ○ 2.0 ⊗ 2.5 () 工法 ⊗ 熱溶接工法 ・ 突き付け工法 ビニル床タイル 種類 () 厚さ (mm) ※ 2.0 3.0 () 特殊機能床材 () ビニル幅木 厚さ (mm) ※ 1.5 () 高さ (mm) ・ 60 () ゴム床タイル 種類 () 厚さ (mm) () 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ⊗ F☆☆☆☆ ()	JIS R 5705 JIS A 5705
10	カーペット敷き (6.9.2～6.9.3)	織じゅうたん 種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 (表6.9.1) 織り方 () パイルの形状 () 帯電性 ※ JIS L1023 人体帯電圧3kV以下 () タフテッドカーペット パイルの形状 () 帯電性 ※ JIS L1023 人体帯電圧3kV以下 () パイル長 () 工法 ・ グリッパー工法 ・ 全面接着工法 ニードルパンチカーペット 厚さ (mm) () 帯電性 ※ JIS L1023 人体帯電圧3kV以下 () タイルカーペット 種類 ※ 第1種 ・ 第2種 敷き方 平場 ※ 市松 () () 階段 ※ 模様流し () パイルの形状 ※ ループパイル () 寸法 ※ 500mm角 () 総厚さ ※ 6.5mm () 下敷き材 ※ JIS L3204 第2種第2号、厚さ8mm 取付用付属品 見切り 材質 () 種類 () 形状 () 押さえ金物 材質 () 種類 () 形状 ()	JIS L 4405 JIS L 4406
11	合成樹脂塗り床 (6.10.3)	塗料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ () 弾性ウレタン塗り床 仕上げの種類 ※ 平滑 ・ 防滑 ・ つや消し エポキシ樹脂塗り床 仕上げの種類 ・ 薄膜流し展べ ・ 厚膜流し展べ ・ 樹脂モルタル ・ 防滑	(表6.10.3) (表6.10.4～表6.10.7)
12	フローリング張り材料 (6.11.2)	単層フローリング ・ フローリングボード ・ フローリングブロック ・ モザイクパーケット 複合フローリング ・ 複合1種フローリング ・ 複合2種フローリング ・ 複合3種フローリング 複合フローリング、接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ () 樹種 ※ なら () 厚さ(mm) ※ 15 () 大きさ(mm) ※ 303×303 () 樹種 ※ なら () 複合フローリングの種別 ・ A種 ・ B種 ※ C種 樹種 (モザイクパーケットを除く) ※ なら () モザイクパーケット 樹種 () 厚さ () mm 大きさ () 仕上塗装 ※ ウレタン樹脂ワニス ・ オイルステイン+ワックス ・ ワックス	(表6.11.1) (表6.11.3)
13	モルタル埋込み工法 (6.11.4)	樹種 ※ なら () 厚さ(mm) ※ 15 () 大きさ(mm) ※ 303×303 ()	(表6.11.1)
14	釘留め工法 (6.11.5)	樹種 ※ なら () 複合フローリングの種別 ・ A種 ・ B種 ※ C種	(表6.11.3)
15	接着工法 (6.11.6)	樹種 (モザイクパーケットを除く) ※ なら ()	(表6.11.3)
16	モザイクパーケット (6.11.7)	モザイクパーケット 樹種 () 厚さ () mm 大きさ ()	(表6.11.3)
17	仕上げ (6.11.7)	仕上塗装 ※ ウレタン樹脂ワニス ・ オイルステイン+ワックス ・ ワックス	(表6.11.3)
17	畳敷き (6.12.2)	種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種	(表6.12.1)
18	せっこうボード、その他ボード及び合板張り (6.13.2)	合板類、MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ⊗ F☆☆☆☆ () 厚さ (9.5, 12.0, 12.5) 種類 普通合板 (難燃処理) 表面の樹種名 (シ) 板面の品質 () 防虫処理 () 天然木化粧合板 (難燃処理) 化粧板の樹種 () 防虫処理 () 特殊加工化粧合板 (難燃処理) 表面性能 () 防虫処理 () 化粧加工の方法 ()	(表6.13.3) (表6.13.5)
19	壁紙張り (6.14.2～6.14.3)	合板類の張付け 種別 ・ A種 ⊗ B種 せっこうボードの目地工法 種別 ○ 目透かし工法 ・ 突付け工法 ○ 継目処理工法 品質 (A級) 防火性能 () 下地調整 モルタル及びプaster面 ・ RA種 ※ RB種 ・ RC種 コンクリート面 ・ RA種 ※ RB種 ・ RC種 せっこうボード面 ・ RA種 ※ RB種 ・ RC種	(表7.2.5) (表7.2.5) (表7.2.7)
20	タイル張り (6.16.2)	ホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ () 伸縮調整目地 位置 () 接着力試験 面積50㎡以下の危険性の少ない場合は省略する。	(表6.16.5)
21	タイル張り材料 (6.16.3)	施工箇所 きじの質 標準色・特別色の別 役物 ・ 有 ・ 無 試験張り ・ 有 ※ 無 見本焼き ・ 有 ※ 無 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ () 参考メーカー 朝日製陶(株) 同等品 壁タイル ・ 改良積上げ張り ・ 壁タイル接着剤張り	(表6.16.5)
21	セメント系材料 (6.17.2)	・ せっこう系 ・ セメント系	
22	その他 (6.16.5)	視覚障害者誘導 ブロック 屋内 ※ 塩化ビニル製 ・ 磁器又はせっ器質タイル ・ レジンコンクリート製 屋外 ※ 磁器又はせっ器質タイル、レジンコンクリート製 突起の形状・寸法及び配列はJIS T 9251による。	

章	節・項目	特記事項	備考
9章	① 材料 (7.1.3)	塗料のホルムアルデヒド放散量 ⊗ F☆☆☆☆ ()	
9章	② 下地調整 (7.2.1)	RB種の既存塗膜の除去範囲 ⊗ 塗替え面積の30% ()	
9章	③ 木部下地調整 (7.2.2)	・ RA種 ⊗ RB種 ・ RC種	(表7.2.1)
9章	④ 鉄鋼面下地調整 (7.2.3)	・ RA種 ⊗ RB種 ・ RC種	(表7.2.2)
9章	⑤ 亜鉛めっき面下地調整 (7.2.4)	・ RA種 ※ RB種 ・ RC種	(表7.2.3)
9章	⑥ モルタル面及びプaster面下地調整 (7.2.5)	・ RA種 ※ RB種 ・ RC種	(表7.2.4)
9章	⑦ コンクリート及びALCパネル面下地調整 (7.2.6)	・ RA種 ※ RB種 ・ RC種	(表7.2.5)
9章	⑧ コンクリート及び押出成形セメント板面下地調整 (7.2.7)	・ RA種 ⊗ RB種 ・ RC種	(表7.2.6)
9章	⑨ その他のボード面下地調整 (7.2.7)	・ RA種 ⊗ RB種 ・ RC種	(表7.2.7)
9章	⑩ 鉄面錆止め塗料種別 (7.3.2)	鉄鋼面 ⊗ A種 ※ B種 (EP-G) ・ C種 亜鉛めっき鋼面 ※ A種 ・ B種 ※ C種 (EP-G)	(表7.3.1) (表7.3.2)
9章	⑪ 鉄面錆止め塗料塗り (7.3.3)	鉄鋼面 ※ A種 (新規見え掛り) ※ B種 (新規見え隠れ) ⊗ C種 (塗替え) 亜鉛めっき鋼面 ・ A種 ・ B種 ※ C種 (塗替え)	(表7.3.3) (表7.3.4)
9章	⑫ 合成樹脂調合ペイント (7.4.2)	⊗ 1種 2種	
9章	⑬ 合成樹脂調合ペイント塗り (7.4.3～7.4.5)	木部 新規 ※ A種 (外部) ⊗ B種 (内部) ・ C種 塗替え ・ A種 ⊗ B種 ・ C種 鉄鋼面 ・ A種 ※ B種 ・ C種 亜鉛めっき鋼面 新規に塗る場合及び鋼製建具の塗り替え ※ A種 ・ B種 ・ C種 その他 ・ A種 ※ B種 ・ C種	(表7.4.1) (表7.4.1) (表7.4.2) (表7.4.3) (表7.4.3)
9章	⑭ クリヤラッカー塗り (7.5.2)	・ A種 ※ B種	(表7.5.1)
9章	⑮ アクリル樹脂系非水分散形塗料 (7.7.2)	・ A種 ※ B種	(表7.7.1)
9章	⑯ 耐候性塗料塗り (7.8.2)	鉄鋼面 ・ A種 ○ B種 ・ C種 亜鉛めっき鋼面 ・ A種 ・ B種 ・ C種 コンクリート面及び押出成形セメント板面 ・ A-1種 ・ A-2種 ・ B-1種 ・ C-2種	(表7.8.1) (表7.8.2) (表7.8.3)
9章	⑰ つや有り合成樹脂エマルジョンペイント塗り (7.9.2～7.9.5)	・ A種 ⊗ B種 ・ C種 塗替えの場合のしみ止め ⊗ 7.9.2 (b)による。 () 木部 (屋内) ※ A種 (新規) ※ B種 (塗替え) ・ C種 鉄鋼面 (屋内) ・ A種 ※ B種 ・ C種 亜鉛メッキ鋼面 (屋内) ・ A種 ※ B種 ・ C種	(表7.9.1) (表7.9.2) (表7.9.3) (表7.9.4)
9章	⑱ 合成樹脂エマルジョンペイント塗り (7.10.2)	・ A種 ※ B種 ・ C種 塗替えの場合のしみ止め ※ 7.10.2 (b)による。 ()	(表7.10.1)
9章	⑲ 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (7.11.2)	新規 ・ A種 ※ B種 ・ C種	(表7.11.1)
9章	⑳ 珪酸樹脂系ニス塗り (7.12.1)	・ A種 ※ B種	(表7.12.1)
9章	㉑ 木材保護塗料塗り (7.14.2)	・ A種 ※ B種	(表7.14.1)
9章	㉒ マスチック塗材塗り (7.15.2)	・ A種 ・ B種 仕上材塗り ・ 有 (・アクリル樹脂エナメル ・ つや有合成樹脂エマルジョンペイント) ・ 無	(表7.15.1)
10章	① コンクリートの種類 (8.1.3)	⊗ I類 ・ II類 (表8.1.1) コンクリートの種類 ○ 普通コンクリート ・ 軽量コンクリート	JIS A 5705
10章	② コンクリートの強度 (8.1.3)	普通コンクリート(N/mm2) ○ 18 ○ 21 ・ 24 軽量コンクリート(N/mm2) ・ 18 ・ 21 ・ 24	
10章	③ コンクリートの品質 (8.1.4)	⊗ 構造体コンクリートの強度は材齢91日において設計基準強度以上とする 打放し仕上げの種別 ・ A種 ・ B種 ○ C種	(表8.1.3)
10章	④ 鉄骨製作工場 (8.1.5)	建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた、㈱日本鉄骨評価センター又は(社)全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める下記のグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 グレード ○ Rグレード以上 施工管理技術者 ※ 適用する ・ 適用しない	(表8.2.1) JIS G 3511
10章	⑤ 鉄筋の種類 (8.2.1)	⊗ JIS G 3112 (種類の記号: SD295A) ・ 建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けた鉄筋	(表8.2.1)
10章	⑥ 溶接金網 (8.2.2)	網目の形状 () 寸法 () 鉄線の径 ()	JIS G 3511
10章	⑦ あと施工アンカー (8.2.4)	○ 金属系アンカー セット方式 ※ 本体打込み式 () 引張耐力 () セン断耐力 () 径 (10) mm 埋込み深さ () mm 接合筋 種類 () 径 () mm 長さ () mm アンカーの種類 ※ カプセル型 () 引張耐力 (20KN, 36KN) セン断耐力 (12KN, 21KN) 確認耐力 (14KN, 24KN) アンカー筋 径 (12, 16) mm 埋込み深さ (7da, 17da) アンカー筋の種類 () アンカー筋の新設壁内への定着長さ () 性能確認試験 ・ 行う ○ 行わない 穿孔工法 ・ ハンマードリル ○ ダイヤモンドコアドリル	(表8.2.1) JIS G 3511

章	節・項目	特記事項	備考
⑧	コンクリートの材料 (8.2.5)	セメントの種類 ⑧ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ・ () 高炉セメントB種又はフライアッシュセメントB種 ・ 使用する (適用箇所) ⑨ 使用しない 細骨材の種類 (JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) 「附属書1レディーミクストコンクリート用骨材」以外) フェロニッケルスラグ細骨材 ・ 使用する ⑩ 使用しない 鋼スラグ細骨材 ・ 使用する ⑩ 使用しない 電気炉酸化スラグ細骨材 ・ 使用する ⑩ 使用しない 再生骨材H ・ 使用する ⑩ 使用しない 砂利及び砂等の品質 (アルカリシリカ反応性による区分) Ⓜ A ・ B 混和材料 (JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) に規定されているもの以外) ⑪ 8.2.5 (f) による ・ ()	
⑨	型枠の材料 (8.2.6)	せき板の種類 材質 ・ 広葉樹 ・ 針葉樹 ※ 複合材 (針葉材50%以上) ・ () 指定された種類以外のせき板を使用する場合は、監督員の承諾を得る。 塗装 ・ 有 ⑫ 無 合板を用いる場合 ※ 「コンクリート型枠用合板の日本農林規格」による厚さ12mmのもの ・ () ラス型枠については、下記の仕様により使用できるものとする。 1) 使用可能部位 独立基礎、地中梁 (ただし、見えがかり部、ピット内部は合板型枠とする。) 2) 鉄筋の最小かぶり厚さ ラス型枠を使用した部分の鉄筋の最小かぶり厚さは、公共建築工事標準仕様書 (建築工事編) 5.3.5表に示す数値の+10mmするものとする。 3) コンクリートのスランブ スランブは15cm又は18cmとする。パイプレーターを使用するときには、ラス型枠に直接当て及び打込み ⑬ 行うように注意する。 4) その他 各メーカーで仕様が異なるため、それぞれの施工要領書等で確認する。	
⑩	鋼材の種類 (8.2.7)	種類の記号 ⑭ SS400 ・ SN400A ・ SN490B ・ SN490C ⑮ SSC400 ・ () 規格等 ※ JIS規格品 ・ () 使用箇所 設備架台	
11	高力ボルトの種類 (8.2.8)	・ トルシア形高力ボルト ・ JIS 形高力ボルト ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト	
12	モルタル及びグラウト材 (8.2.10)	柱底均しモルタル ※ 8.2.10 (b) による ・ () 無収縮グラウト材 ・ 現場調査 ※ プレミックスタイプ 無収縮グラウト材の品質 項目 コンシステンシーの範囲 圧縮強度 乾燥収縮 品質 J14ロート 8±2秒 30Nmm2以上 0×10-4	
13	連続繊維シート (8.2.11)	材料 () 工法 () 引張強度 () Mpa ヤング係数 () Gpa	
⑬	鉄筋の継手 (8.3.4)	⑯ 重ね継手 ・ ガス圧接継手 ・ 特殊な鉄筋継手 () 鉄筋の継手位置 () 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ ※ 40d (軽量コンクリートの場合は50d) と表 8.3.2による長さの大きい値 ・ () 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さ ※ 40d (軽量コンクリートの場合は50d) と表 8.3.4による定着長さのうち大きい値 ・ ()	
15	壁の配筋及び補強 (8.3.7)	壁の配筋及び開口部の補強 ※ 構造図参照	
16	ガス圧接 (8.3.9)	超音波探傷試験 ・ しない ・ する	
17	機械式継手 (8.4.2)	種類 () 工法 ()	
18	溶接継手 (8.4.3)	・ 適用する ・ 適用しない	
⑰	コンクリートの調合強度 (8.5.5)	温度補正 ※ 表8.5.1による ・ 室温による温度補正 ・ 温度補正しない	
20	構造体用モルタルの調合 (8.5.10)	圧縮強度及びフロー値 ()	
⑱	型枠工事 (8.7.9)	コンクリート打放し仕上げの打増し厚さ (20)	
22	軽量コンクリート (8.10.1)	種類 所要気乾単位容積質量 (t/m3) 適用箇所 備考 1種 2種 種類は表8.10.1による	
23	あと施工アンカー工事 (8.11.5)	施工確認試験 ※ 8.11.5 (1) ~ (5) による ・ () 確認強度 ※ 鋼材又はコンクリート破壊による引張り強度の小さい方の2/3 ・ ()	
24	鉄骨工作 仮組 (8.12.9)	仮組の実施 ・ 行う ※ 行わない	
25	高力ボルト接合の摩 (8.13.2)	すべり係数試験 ・ 行う 試験の方法 () 試験片摩擦面の状態 () 擦面の性能及び処理 ・ 行わない	
26	高力ボルトの締付け (8.13.7)	JIS形高力ボルトのボルトの長さが呼び径の5倍を超える場合 回転量 ()	
⑳	溶接接合技能資格者 (8.14.3)	技量付加試験 ・ 行う ※ 行わない	
28	材料準備 (8.14.4)	開先の形状 ()	
29	溶接施工 (8.14.7)	完全溶込み溶接 スカーラップの形状 ()	
30	溶接部の試験 (8.14.11)	完全溶込み溶接部の超音波深傷試験 ※ 行う ・ 行わない	
31	耐火被覆材 (8.17.2)	種別 ・ 耐火材吹付け ・ 耐火板張り ・ 耐火材巻付け ・ ラス張りモルタル塗り 性能 ()	
32	増設壁のコンクリートの打込み (8.19.8)	コンクリート打込み工法 ・ 流込み工法 ・ 圧入工法	
33	柱補強工事 (8.21.5)	溶融金網巻き工法及び溶接閉鎖7フ巻き工法 ・ 流込み工法 ・ 圧入工法	
34	連続繊維補強工法 (8.21.7)	強度試験 ・ 行わない ・ 行う (試験数量:)	
35	耐震リフト新設工事 (8.22.2)	スリット 幅 () mm 深さ () mm 充填材の種類 使用箇所 仕様 備考 耐火材 遮音材 シーリング 仕様は表3.7.1の記号による	

章	節・項目	特記事項	備考
9章	1 アスベスト含有建材 (9.1.1) の処理工事	アスベスト含有吹付け材、アスベスト含有保温材等及びアスベスト含有成形板の処理にあたっては、公共建築改修工事標準仕様書 (建築工事編) 第9章第1節「アスベスト含有建材の処理工事」に基づき、適切に処理すること。 処理工法 ※ 除去工法 ・ 封じ込め工法 ・ 囲い込み工法 アスベスト封じ込め処理工事 劣化の著しい部分、下地との接着が不良な部分については9.1.3により除去し、粉じん飛散防止処理剤を用いて封じ込め処理を行う。封じ込めの工法は施工業者の仕様による。 なお、施工にあたっては、9.1.3(a)、(c)、(d)を適用する。 アスベスト囲い込み処理工事 あと施工アンカー等で吹付け面を荒らす恐れのある場合は、9.1.3(a)、(c)、(d)を適用する アスベスト粉じん濃度測定 ・ 行う ・ 行わない アスベスト粉じん濃度測定を行う場合は下記による。ただし、取壊し工事を含む場合は、取壊し工事特記仕様書「6.1.4アスベスト粉じん濃度測定」による。 測定時期 測定場所 測定点 備考 処理作業中 ① 負圧・除じん装置の 出口吹き出し風速1m/sec (注) 1 排出吹き出し口付近 以下の位置各2点 ② 処理作業室外 4方向各1点 (敷地境界) (注) 1 処理作業後 (養生中) ③ 処理作業室内 (注) 2 (注) 3 (注) 1 速報値で10f/1以上検出された場合は、その原因を確認すること。 (注) 2 各施工箇所ごとの室面積が10㎡以下は1点、50㎡以下までは2点、300㎡以下までは3点とする。300㎡を超えるものは、300㎡ごとに測定点を追加する。 (注) 3 粉じん測定は、粉じん飛散抑制剤を散布した翌日とし、速報値で10f/1以下であることを確認した後、シートの撤去を行う 粉じん濃度結果報告書 ・ 2部 ・ () 主たる工事がアスベスト対策工事の場合は、自社所属の石綿作業主任者を選任すること。 処理を行う吹付けアスベストの仕様等 材料名 厚さ (mm) 含有率 (%) 処理を行う範囲 ※ 図示 ※ 図示 ・ 密封処理 ・ セメント固化	
2	石綿作業主任者 (9.1.2)		
3	アスベスト含有吹付け材の除去 (9.1.3)		
4	除去物及び汚染物の処理 (9.1.4.5)	アスベスト含有保温材等及び成形板として処理するもの 品名 部位 品名 部位 作業場の隔離 ・ 行う ・ 行わない	
5	アスベスト含有保温材等、成形板の除去 (9.1.4.5)		
6	断熱材打込み工法 (9.5.2)	種類 種別 厚さ (mm) 品質・規格 ピーズ法ポリスチレンフォーム JIS A9511の規格品 押出法ポリスチレンフォーム 硬質ウレタンフォーム 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ・ () 種類 ・ A種1 ・ () 吹付け厚さ () mm	
7	断熱材現場発泡工法 (9.5.3)		
10章	1 カーテン <20.2.14>	暗幕 形式 ・ 片引き ・ 引分け 機構 ・ 手引き ・ ひも引き ・ 電動 ひだ ※ 片ひだ (1.5倍以上) ・ 加工 中央交差の重ね代は300mmとする 部品 タッセルバンド、ひるかん、テープ 東リ:エコシャドール同等品	
その他	2 ガラス用フィルム張り	材料 ・ 日射調整フィルム ・ ガラス飛散防止フィルム 張り面 ・ 内張り ・ 外張り 保証年限 フィルムの保証期間は工事目的物引渡しから内張り5年、外張り3年とする。 また、元請・施工者・メーカーの三者連名にて保証書を作成し、監督員に提出する。 参考メーカー 下記同等品とする。 ・ ESC研究所 エコシールド E-f ・ スリーエムジャパン スコッチティント SH2CLARX	
その他	① 化学物質の濃度等	工事完成時に室内化学物質の濃度測定を行い、厚生労働省が定める指針値以下であることが確認出来なければ、建物を引き渡すことが出来ない。なお、室内の化学物質濃度が指針値を超えた場合は、原因を特定するとともに、換気を行うなどの対策後、再度測定し確認する。	
その他	② 外壁等の色決め等	各種材料の選定に当り、カラーサンプルを提示し、監督員と協議の上決定する。	

付近見取図

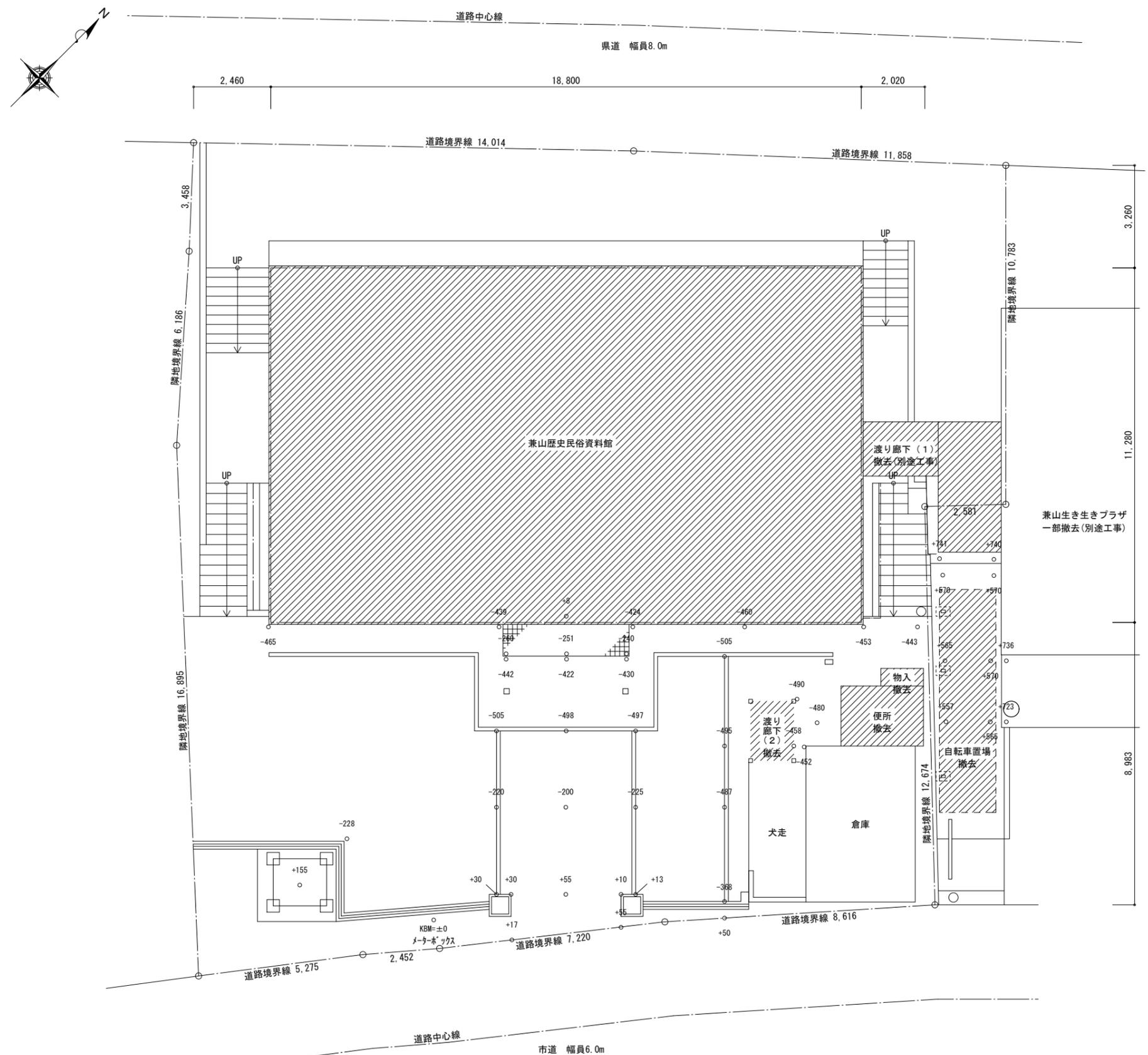


工事概要

工事名称	兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事
工事場所	岐阜県可児市兼山675-1

工事内容 【兼山歴史民俗資料館】

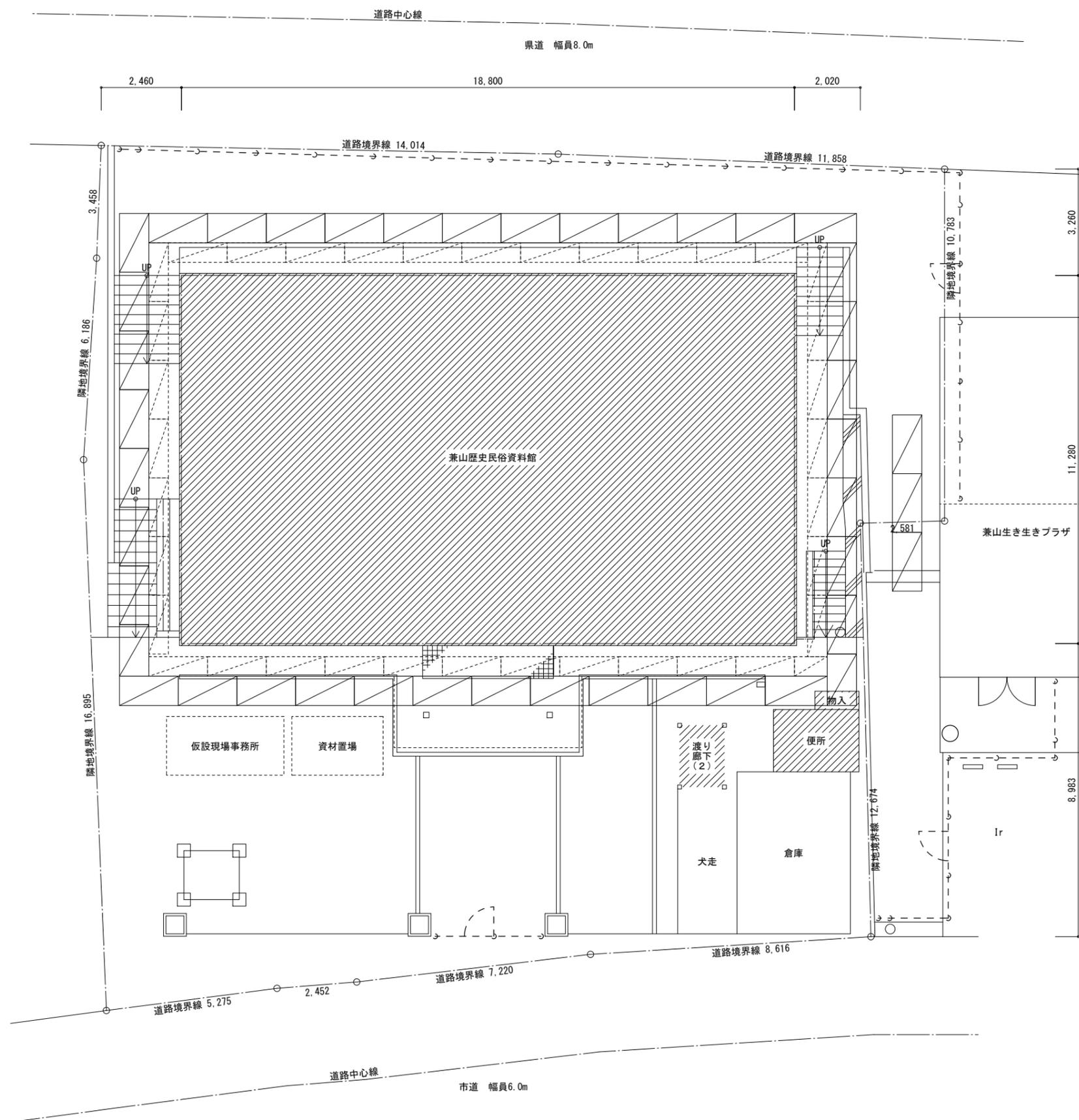
- ①耐震補強
 - ・壁構造用合板及び壁筋交いの新設
 - ・接合部補強
 - ・1階天井面水平ブレース新設
 - ・屋根裏床面構造用合板新設
- ②外壁改修等
 - ・樋撤去新設
 - ・木部再塗装
 - ・渡り廊下撤去部の開口閉塞
- ③内装改修等
 - ・耐震補強に伴う内装改修
 - ・木製階段1ヶ所新設
- ④建具改修
 - ・耐震補強に伴う建具改修
 - ・錠取替え
- ⑤塗装改修
 - ・内装改修に伴う塗装改修
- ⑥外構改修
 - ・渡り廊下(2)、便所、物入の解体撤去
 - ・アプローチ及びスロープ新設
 - ・自転車置場撤去新設
- ⑥電気設備改修
 - ・既設照明をLED照明に取替え
 - ・展示用照明の新設
 - ・建築工事に伴う電気設備改修
- ⑦機械設備改修
 - ・空調設備の全面改修
 - ・建築工事に伴う機械設備改修



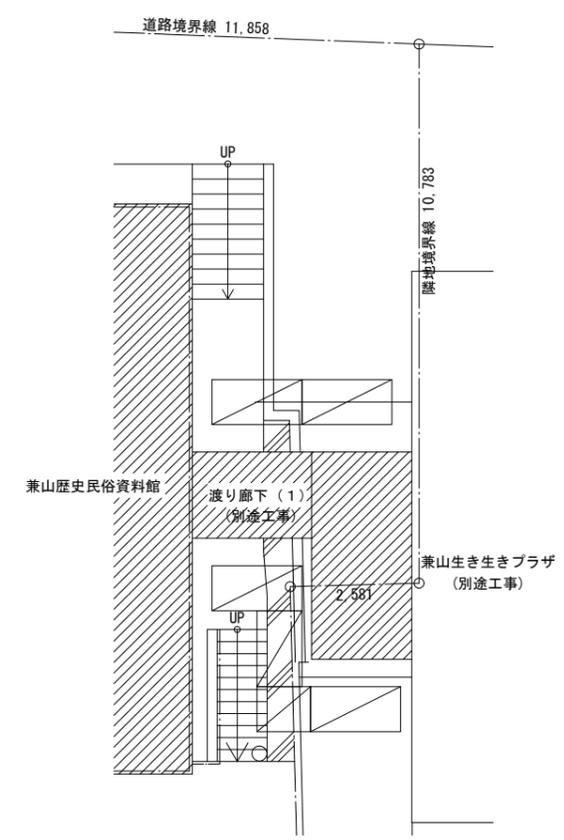
配置図 S=1/100

凡例	
	工事対象部分を示す。
	敷地進入口を示す。

CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE
			1/100
			DATE
			'17.03



仮設計画図 S=1/100
渡り廊下(1)撤去後



仮設計画図 S=1/100
渡り廊下(1)撤去時

凡例	
	工事対象部分を示す。
	仮囲いを示す。(ガードフェンス H=1.8m) (参考:169.0m)
	通用口を示す。
	資材置場を示す。
	くさび緊結式足場(手すり先行方式) W900を示す。 (養生シート張り共)
	くさび緊結式足場用ブラケットを示す。
As	既設アスファルト舗装を示す。
Ir	既設インターロッキングを示す。
※工事車輛使用部分は、現況復旧を行うこと。 ※仮囲い及び足場は適宜組替えること。 ※本仮設計画及び工程計画については、監督員と十分に協議すること。 ※材料搬入時等には、適宜、交通誘導員を配置すること。	

外部仕上表 (資料館)

□ : 改修対象を示す。

屋根	前	日本瓦葺き 野地板 t=12	軒天	前	杉板張り t=9 OS	ポーチ	前	150角タイル張 撤去 (M下地共)
	後	既設のまま		後	下地調整の上 WP		後	C刷毛 新設、SUS玄関マット 新設
外壁	前	土塗壁しっくい塗り、柱・梁・筋かい: 木部 一部押縁下見板張り (1階部分のみ)	壁樋	前	ガ-鉄板 φ90 支持金物φ900		前	
	後	木部: 下地調整の上 WP 開口閉鎖部 5M t=30 しっくい塗り 新設		後	既設のまま		後	
巾木	前	Mコ	軒樋	前	ガ-鉄板 φ120 支持金物φ600		前	
	後	既設のまま		後	既設のまま		後	

内部仕上表 (資料館)

□ : 改修対象を示す。

□ : 撤去対象を示す。

階	室名	床		巾木		腰壁		上壁		天井		高さ		廻縁		室名札		カーテン及びブラインド等		備考
		仕上	塗装	仕上	H	塗装	仕上	塗装	仕上	塗装	仕上	塗装	高さ	廻縁	室名札	カーテン及びブラインド等				
1	前 衣食の間 (展示5)	板張り t=27 撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12の上 ビニルクロス張 撤去		2,650	塩ビ						展示棚 撤去
	後 倉庫3	板張り t=27 一部再取付 下地調整の上 塗装	OS	木巾木 新設	60		GB-R t=12.5 新設		GB-R t=12.5 新設		GB-R t=9.5 新設		2,650	塩ビ						
前	前 文華の間 (展示6)	板張り t=27 撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12の上 ビニルクロス張 撤去		2,650	塩ビ						展示棚 撤去
	後 展示6	板張り t=27 一部再取付 下地調整の上 塗装	OS	木巾木 新設	60	OS	GB-R t=12.5 新設	EP	GB-R t=12.5 新設	EP	GB-R t=9.5 新設	EP	2,650 2,200	塩ビ						展示棚 新設
前	前 (展示7)	板張り t=27 撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12の上 ビニルクロス張 撤去		2,650	塩ビ						展示棚 撤去、敷台 撤去
	後 展示7	板張り t=27 一部再取付 下地調整の上 塗装	OS	木巾木 新設	60	OS	GB-R t=12.5 新設	EP	GB-R t=12.5 新設	EP	GB-R t=9.5 新設	EP	2,650 2,200	塩ビ						展示棚 新設
前	前 (展示8)	板張り t=27 撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12の上 ビニルクロス張 撤去		2,650	塩ビ						展示棚 撤去、敷台 撤去
	後 展示8	板張り t=27 一部再取付 下地調整の上 塗装	OS	木巾木 新設	60	OS	GB-R t=12.5 新設	EP	GB-R t=12.5 新設	EP	GB-R t=9.5 新設	EP	2,650 2,200	塩ビ						展示棚 撤去、敷台 撤去
前	前 (陶窯の間 (展示9))	板張り t=27 撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12の上 ビニルクロス張 撤去		2,650	塩ビ						展示棚 撤去
前	前 ショーウィンドウ1	板張り t=27 撤去	OS	木巾木 撤去	100	OS	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12の上 ビニルクロス張 撤去		2,000	塩ビ						天井木格子M-ハ- 撤去
前	前 倉庫3	板張り t=27 撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12の上 ビニルクロス張 撤去		2,650	塩ビ						
後	後 展示9	板張り t=27 一部再取付	OS	木巾木 新設	60	OS	GB-R t=12.5 新設	EP	GB-R t=12.5 新設	EP	GB-R t=9.5 新設	EP	2,650	塩ビ				Ⓟ		木製階段 新設、床点検口蓋 補修
後	後 倉庫5	板張り t=27 一部再取付 下地調整の上 塗装	OS	木巾木 新設	60		GB-R t=12.5 新設		GB-R t=12.5 新設		GB-R t=9.5 新設			塩ビ						
前	前 (祭りの間 (展示10))	板張り t=27 撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12の上 ビニルクロス張 撤去		2,650	塩ビ						展示棚 撤去
前	前 (展示11)	板張り t=27 撤去	OS	木巾木 撤去	100	OS	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12の上 ビニルクロス張 撤去		2,650	塩ビ						展示棚 撤去、敷台 撤去
前	前 ショーウィンドウ2	板張り t=27 撤去	OS	木巾木 撤去	100	OS	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12の上 ビニルクロス張 撤去		2,000	塩ビ						天井木格子M-ハ- 撤去
後	後 多目的ホール	板張り t=27 一部再取付 下地調整の上 塗装	OS	木巾木 新設	60	OS	GB-R t=12.5 新設	EP	GB-R t=12.5 新設	EP	GB-R t=9.5 新設	EP	2,650	塩ビ				Ⓟ		
前	前 倉庫1	板張り t=27 撤去		木巾木 撤去	60		合板 t=5.5 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	合板 t=5.5 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	合板表し									
後	後 倉庫2	板張り t=27 一部再取付		木巾木 新設	60		ワン合板 t=5.5 新設		ワン合板 t=5.5 新設		既設のまま									
前	前 倉庫2	板張り t=27 撤去	OS	木巾木 撤去	100	OS	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12の上 ビニルクロス張 撤去		2,100	塩ビ						
後	後 倉庫4	板張り t=27 一部再取付 下地調整の上 塗装	OS	木巾木 新設	60		GB-R t=12.5 新設		GB-R t=12.5 新設		GB-R t=9.5 新設		2,100	塩ビ						
前	前 通路1	板張り t=27 撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12の上 ビニルクロス張 撤去		2,650	塩ビ						木飾り格子 撤去、木棚 撤去
後	後	板張り t=27 一部再取付 下地調整の上 塗装	OS	木巾木 新設	60	OS	GB-R t=12.5 新設	EP	GB-R t=12.5 新設	EP	GB-R t=9.5 新設	EP	2,650	塩ビ						
前	前 (通路2)	板張り t=27 撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12の上 ビニルクロス張 撤去		2,650	塩ビ						
前	前 階段1	板張り	OS	木巾木	60	OS	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 じゅらく塗	AEP	GB-R t=12+12 ビニルクロス張 じゅらく塗	AEP										樹脂手摺 撤去
後	後	下地調整の上 塗装	OS	既設のまま			既設のまま		既設のまま											木手摺 新設
後	後 階段2	タタキ集成材 t=30 ノスリッ加工	OS	木巾木	60	OS	GB-R t=12.5 新設	EP	GB-R t=12.5 新設	EP										木手摺 新設

C	コンクリート	GB-R	石膏ボード	KFK	化粧珪酸カルシウム板 改修後はノア製品とする。	NT	ノスリッ タイル	EP-G	つや有り合成樹脂エマルジョン イント塗	Ⓐ	暗幕	※使用材料表 (シックハウス対策による使用建築材料)	
C化粧	コンクリート化粧合板型枠打放し	GB-R-H	普通硬質石膏ボード	LVS	ビニル床シート	TB	テラゾブロック	DP	耐候性塗料 (外部: 2級、内部: 3級)	Ⓑ	ブラインド	床材・壁材・天井材・木製建具・新設造作材は全てF☆☆☆☆ (規制対象外) とする。	
C刷毛	コンクリート刷毛引き	GB-S	シーゾック 石膏ボード (防水仕様)	VT	ビニル床タイル	LGS	軽量鉄骨下地	WP	木材保護塗料塗り	Ⓒ	カーテン	※壁及び天井の仕上材は準不燃以上とする。	
Cコ	コンクリートコ押え	GB-D	化粧石膏ボード	MT	モザイクタイル	OSCL	オイルステイン塗ニス	VP	硬質塩化ビニル管 (厚肉)	ⒸC	暗幕+カーテン	※特記なき限り、外部木部は全て下地調整の上 WPとする。	
M	モザイク	GB-P	吸音用孔あき石膏ボード	TC	タイルカーペット	SOP	合成樹脂調合イント	VU	硬質塩化ビニル管 (薄肉)	ⒸB	カーテンボックス	※再利用する既設床材、撤去時に破損しないよう注意する。	
M刷毛	モザイク刷毛引き	GB-L	石膏ラスボード	FT	床用タイル (100角)	WX	ワックス塗 (2回塗)	人砥	人造石研出し	Ⓟ	ビクチャーレール		
Mコ	モザイクコ押え	DR	ロックール吸音板	F	フロアリング	UC	ウレタン樹脂ニス塗 (3回塗)	ルキ	フレキシブルボード (既設: アスベスト含有材)	ⒸC	ロールカーテン		
WMコ	防水モザイクコ押え	FK	珪酸カルシウム板 (既設: アスベスト含有材) 改修後はノア製品とする。	WT	壁用タイル (100角)	EP	合成樹脂エマルジョン イント塗	SUS	ステンレス				

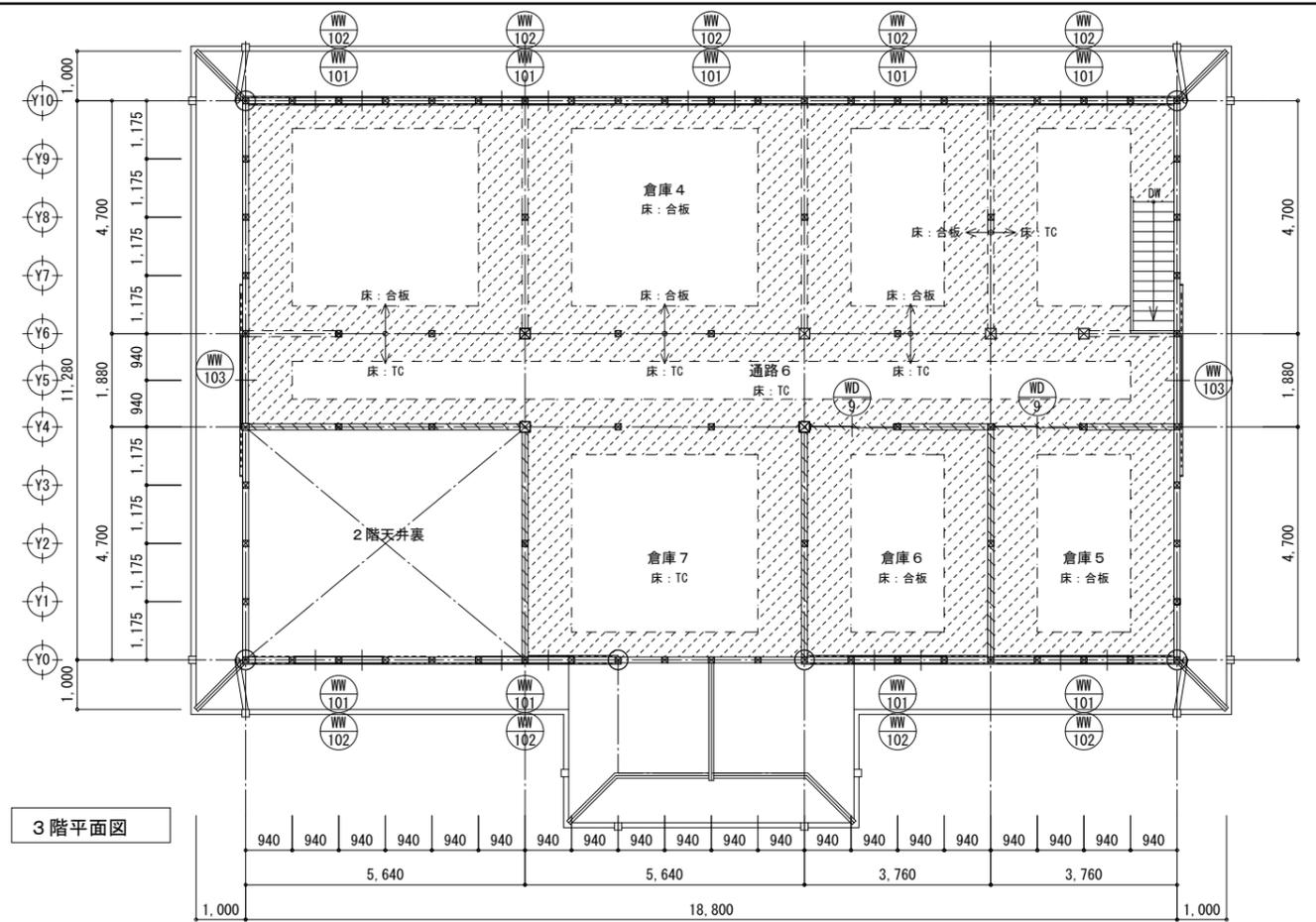
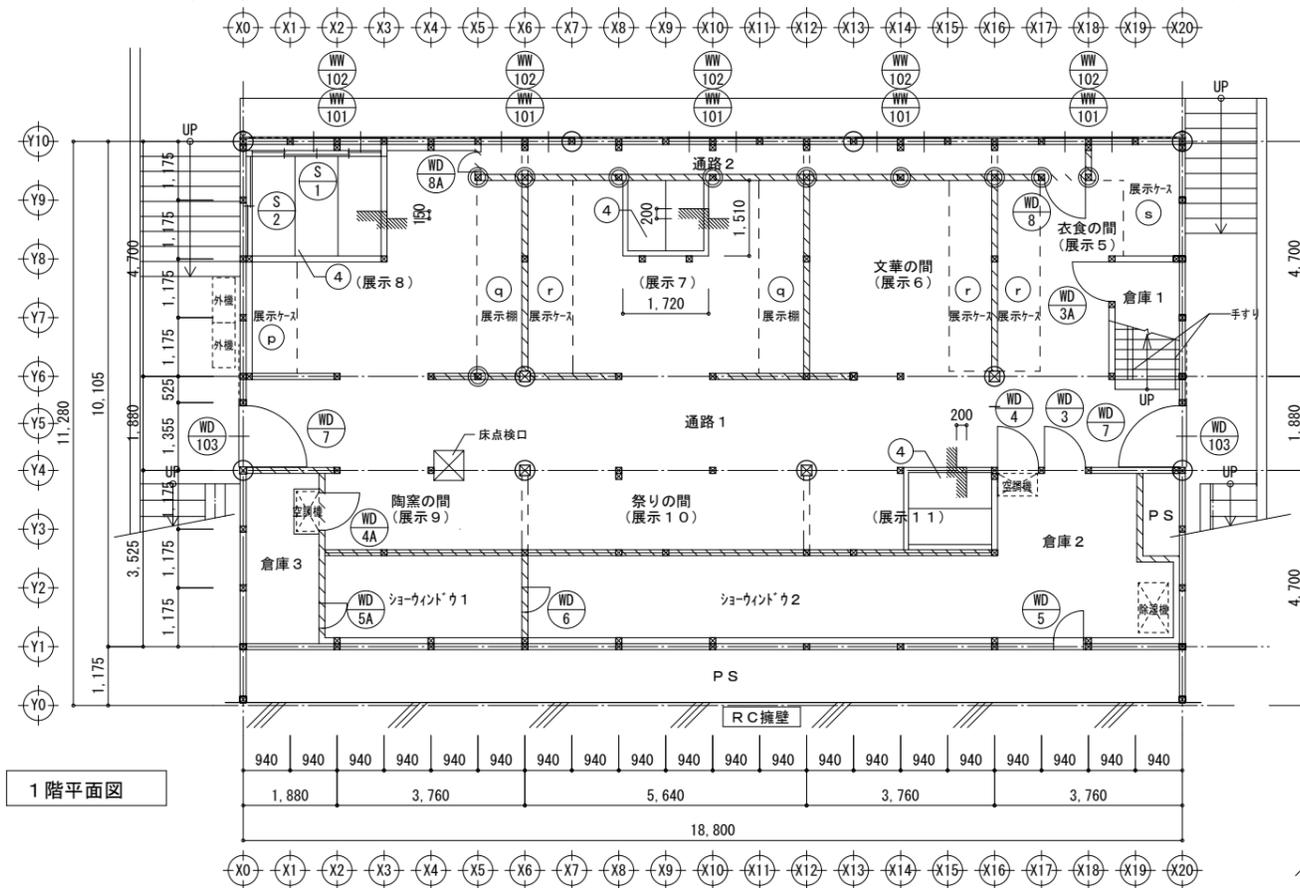
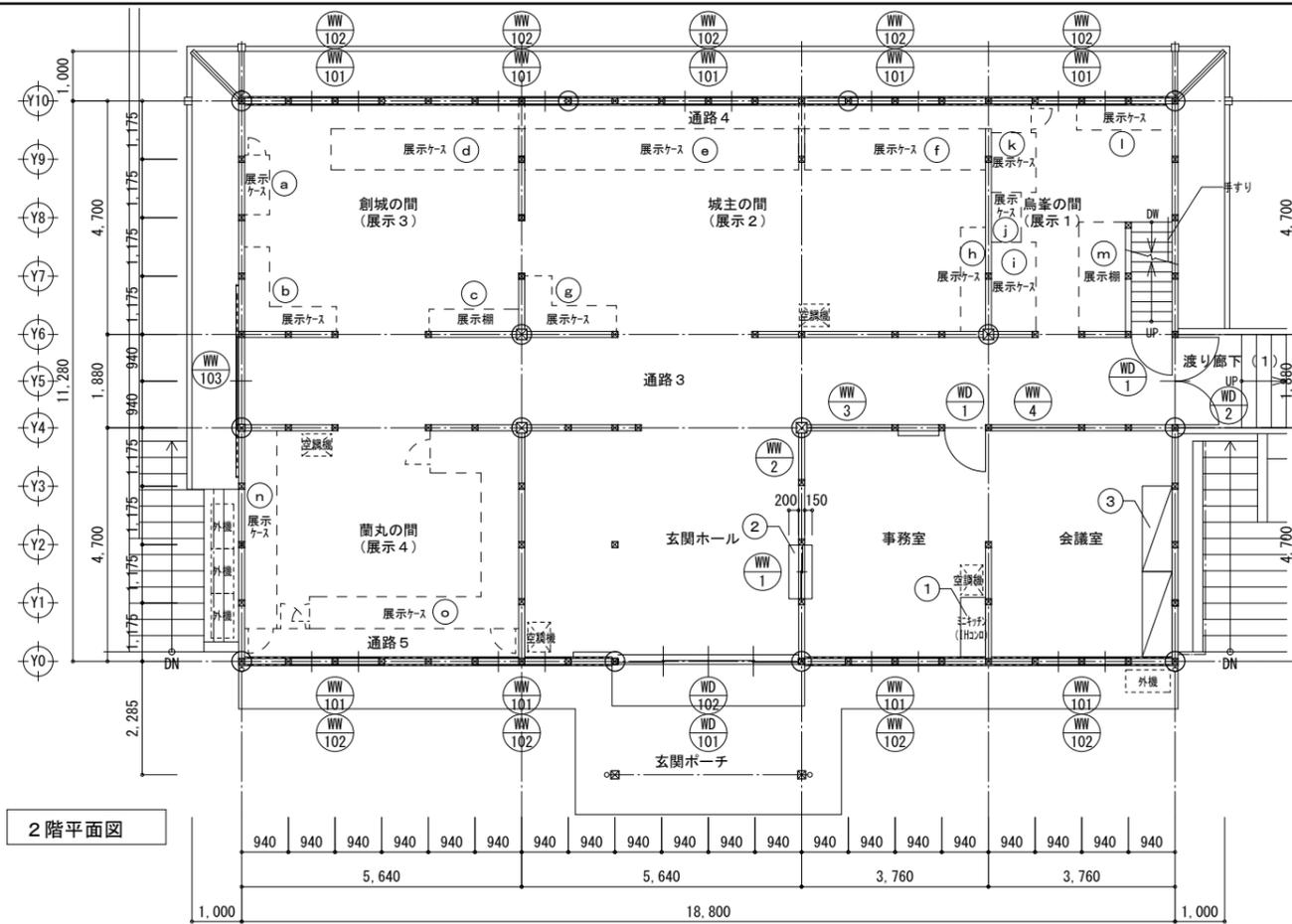
内部仕上表(資料館)

□ : 改修対象を示す。

□ : 撤去対象を示す。

階	室名	床		巾木		腰壁		上壁		天井			摘要		
		仕上	塗装	仕上	H	塗装	仕上	塗装	仕上	塗装	高さ	廻縁	室名札	カーテン及びブラインド	備考
前	鳥舎の間(展示1)	板張り t=27 一部撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12 撤去(木下地共)	EP	2,200	塩ビ	展示棚 撤去
	展示1	板張り t=27 一部再取付 捨板 t=9の上 TC t=6.5新設	/	木巾木 新設	60	OS	GB-R t=12.5の上 ビニルクロス 新設	/	GB-R t=12.5の上 ビニルクロス 新設	/	GB-R t=9.5の上 DR t=9 新設(木下地共)	/	2,200	塩ビ	展示棚 撤去
前	城主の間(展示2)	板張り t=27 一部撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12 撤去(木下地共)	EP	2,200	塩ビ	展示棚 撤去
	展示2	板張り t=27 一部再取付 捨板 t=9の上 TC t=6.5新設	/	木巾木 新設	60	OS	GB-R t=12.5の上 ビニルクロス 新設	/	GB-R t=12.5の上 ビニルクロス 新設	/	GB-R t=9.5の上 DR t=9 新設(木下地共)	/	2,200	塩ビ	展示棚 撤去
前	創城の間(展示3)	板張り t=27 一部撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12 撤去(木下地共)	EP	2,200	塩ビ	展示棚 撤去
	展示3	板張り t=27 一部再取付 捨板 t=9の上 TC t=6.5新設	/	木巾木 新設	60	OS	GB-R t=12.5の上 ビニルクロス 新設	/	GB-R t=12.5の上 ビニルクロス 新設	/	GB-R t=9.5の上 DR t=9 新設(木下地共)	/	2,200	塩ビ	展示棚 撤去
前	蘭丸の間(展示4)	板張り t=27 一部撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12 目透張 撤去(木下地共)	EP	4,200	塩ビ	展示棚 撤去、敷台 撤去
	展示4	板張り t=27 一部再取付 捨板 t=9の上 TC t=6.5新設	/	木巾木 新設	60	OS	GB-R t=12.5の上 ビニルクロス 新設	/	GB-R t=12.5の上 ビニルクロス 新設	/	GB-R t=9.5の上 DR t=9 新設(木下地共)	/	2,200	塩ビ	木製階段 新設、落下防止手摺 新設
後	倉庫1	板張り t=27 一部再取付 捨板 t=9の上 TC t=5.5 新設	/	木巾木 新設	60	OS	GB-R t=12.5	/	GB-R t=12.5	/	GB-R t=9.5 新設(木下地共)	EP	2,200	塩ビ	展示棚 撤去
	玄関ホール	板張り t=27 一部撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12 撤去	EP	2,200	塩ビ	カウンター 撤去
後		板張り t=27 一部再取付 捨板 t=9の上 TC t=6.5、LVS t=2.5新設	/	木巾木 新設	60	OS	GB-R t=12.5の上 ビニルクロス 新設	/	GB-R t=12.5の上 ビニルクロス 新設	/	GB-R t=9.5の上 DR t=9 新設	/	2,200	塩ビ	玄関マット 新設、カウンター 新設 (D300)
	事務室	板張り t=27 一部撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12 撤去	EP	2,130	塩ビ	ミニキッチン 取外し
後		板張り t=27 一部再取付 捨板 t=9の上 TC t=6.5新設	/	木巾木 新設	60	OS	GB-R t=12.5の上 ビニルクロス 新設	/	GB-R t=12.5の上 ビニルクロス 新設	/	GB-R t=9.5 新設	EP	2,130	塩ビ	ミニキッチン 再取付
	会議室	板張り t=27 一部撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12 撤去	EP	2,130	塩ビ	木棚 撤去
後		板張り t=27 一部再取付 捨板 t=9の上 TC t=6.5新設	/	木巾木 新設	60	OS	GB-R t=12.5の上 ビニルクロス 新設	/	GB-R t=12.5の上 ビニルクロス 新設	/	GB-R t=9.5 新設	EP	2,130	塩ビ	
	通路3	板張り t=27 一部撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12 撤去(木下地共)	EP	2,200	塩ビ	
後		板張り t=27 一部再取付 捨板 t=9の上 TC t=6.5新設	/	木巾木 新設	60	OS	GB-R t=12.5の上 ビニルクロス 新設	/	GB-R t=12.5の上 ビニルクロス 新設	/	GB-R t=9.5の上 DR t=9 新設(木下地共)	/	2,050	塩ビ	
	通路4	板張り t=27 一部撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12 撤去(木下地共)	EP	2,200	塩ビ	
前	通路5	板張り t=27 一部撤去	OS	木巾木 撤去	60	OS	じゅらく塗 撤去	AEP	じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12 撤去(木下地共)	EP	4,200	塩ビ	
前	倉庫4	板張り t=27 一部撤去 合板張り t=12の上 TC t=6.5 撤去	/				じゅらく塗 撤去	AEP	じゅらく塗 撤去	AEP	木組表し	OS			
	倉庫5	板張り t=27 一部撤去 合板張り t=12 撤去	/				GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	木組表し	OS			
前	倉庫6	板張り t=27 一部撤去 合板張り t=12 撤去	/				GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	木組表し	OS			
前	倉庫7	板張り t=27 一部撤去 合板張り t=12の上 TC t=6.5 撤去	/				GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	木組表し	OS			
前	通路6	板張り t=27 一部撤去 合板張り t=12の上 TC t=6.5 撤去	/				GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	GB-R t=12+12 撤去 じゅらく塗 撤去	AEP	木組表し	OS			
後	屋根裏	板張り t=27一部再取付 構造用合板 t=12 新設	/				一部: GB-R t=12.5 新設 じゅらく塗 新設	/	じゅらく塗 新設	/	既設のまま	/			

C	コンクリート	GB-R	石膏ボード	KFK	化粧珪酸カルシウム板 改修後はノア製品とする。	NT	ノンスリップタイル	EP-G	つや有り合成樹脂エマルジョンペイント塗	(A)	暗幕	※使用材料表 (シックハウス対策による使用建築材料)		
C化粧	コンクリート化粧合板型枠打放し	GB-R-H	普通硬質石膏ボード	LVS	ビニル床シート	TB	テラゾブロック	DP	耐候性塗料(外部:2級、内部:3級)	(B)	ブラインド	床材・壁材・天井材・木製建具・新設造作材は全てF☆☆☆☆(規制対象外)とする。		
C刷毛	コンクリート刷毛引き	GB-S	シーゾング石膏ボード(防水仕様)	VT	ビニル床タイル	LGS	軽量鉄骨下地	WP	木材保護塗料塗り	(C)	カーテン	※壁及び天井の仕上材は準不燃以上とする。		
Cワ	コンクリートワ押え	GB-D	化粧石膏ボード	MT	モザイクタイル	OSCL	オイルステイン塗ニス	VP	硬質塩化ビニル管(厚肉)	(AC)	暗幕+カーテン	※特記なき限り、外部木部は全て下地調整の上 WPとする。		
M	モザイク	GB-P	吸音用孔あき石膏ボード	TC	タイルカーペット	SOP	合成樹脂調合ペイント	VU	硬質塩化ビニル管(薄肉)	(CB)	カーテンボックス	※再利用する既設床材、撤去時に破損しないよう注意する。		
M刷毛	モザイク刷毛引き	GB-L	石膏ラスボード	FT	床用タイル(100角)	WX	ワックス塗(2回塗)	人砥	人造石研出し	(PL)	ピクチャーレール			
Mワ	モザイクワ押え	DR	ロックール吸音板	F	フロリング	UC	ウレタン樹脂ニス塗(3回塗)	FLK	フレキシブルボード(既設:アスベスト含有材)	(RC)	ロールカーテン			
WMワ	防水モザイクワ押え	FK	珪酸カルシウム板(既設:アスベスト含有材) 改修後はノア製品とする。	WT	壁用タイル(100角)	EP	合成樹脂エマルジョンペイント塗	SUS	ステンレス					



展示棚及びケース 撤去リスト

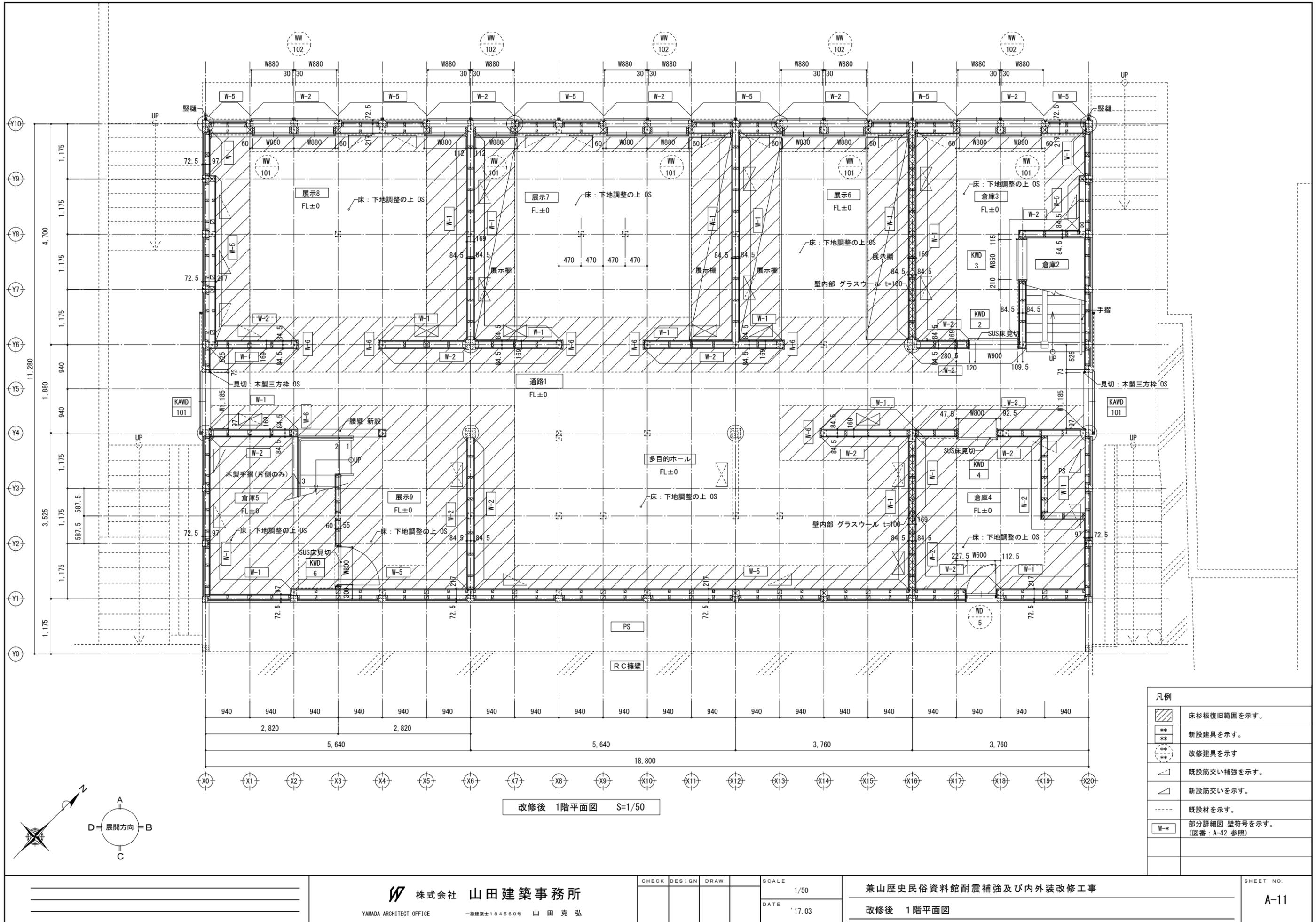
番号	名称	サイズ	箇所	備考
a	展示ケース	W1200×D500×H2100	1	照明 2箇所内蔵、扉付
b	展示ケース	W1200+1350×D500×H2100	1	照明 2箇所内蔵
c	展示棚	W1800×D450×H1740	1	
d	展示ケース	W3800×D800×H2100	1	照明 2箇所内蔵
e	展示ケース	W5500×D800×H2100	1	照明 2箇所内蔵
f	展示ケース	W3600×D800×H2100	1	照明 3箇所内蔵
g	展示ケース	W600+1300×D500×H2100	1	照明 3箇所内蔵
h	展示ケース	W2100×D500×H2100	1	照明 2箇所内蔵
i	展示ケース	W1800×D900×H900	1	
j	展示ケース	W1000×D600×H900	1	
k	展示ケース	W1200×D900×H2100	1	
l	展示ケース	W1900×D500×H2100	1	
m	展示棚	W2200×D900×H600	1	背面掲示板 H1500共
n	展示ケース	W4000×D650×H3000	1	照明 6箇所内蔵、扉付
o	展示ケース	W3450+2500+1000×D600×H3000	1	照明 12箇所内蔵、扉付
p	展示ケース	W2250×D900×H2100	1	照明 2箇所内蔵、扉付
q	展示棚	W3850×D900×H600	2	背面掲示板 H1500共
r	展示ケース	W3850×D900×H2100	3	照明 6箇所内蔵、扉付
s	展示ケース	W650+1510×D900×H2100	1	照明 4箇所内蔵

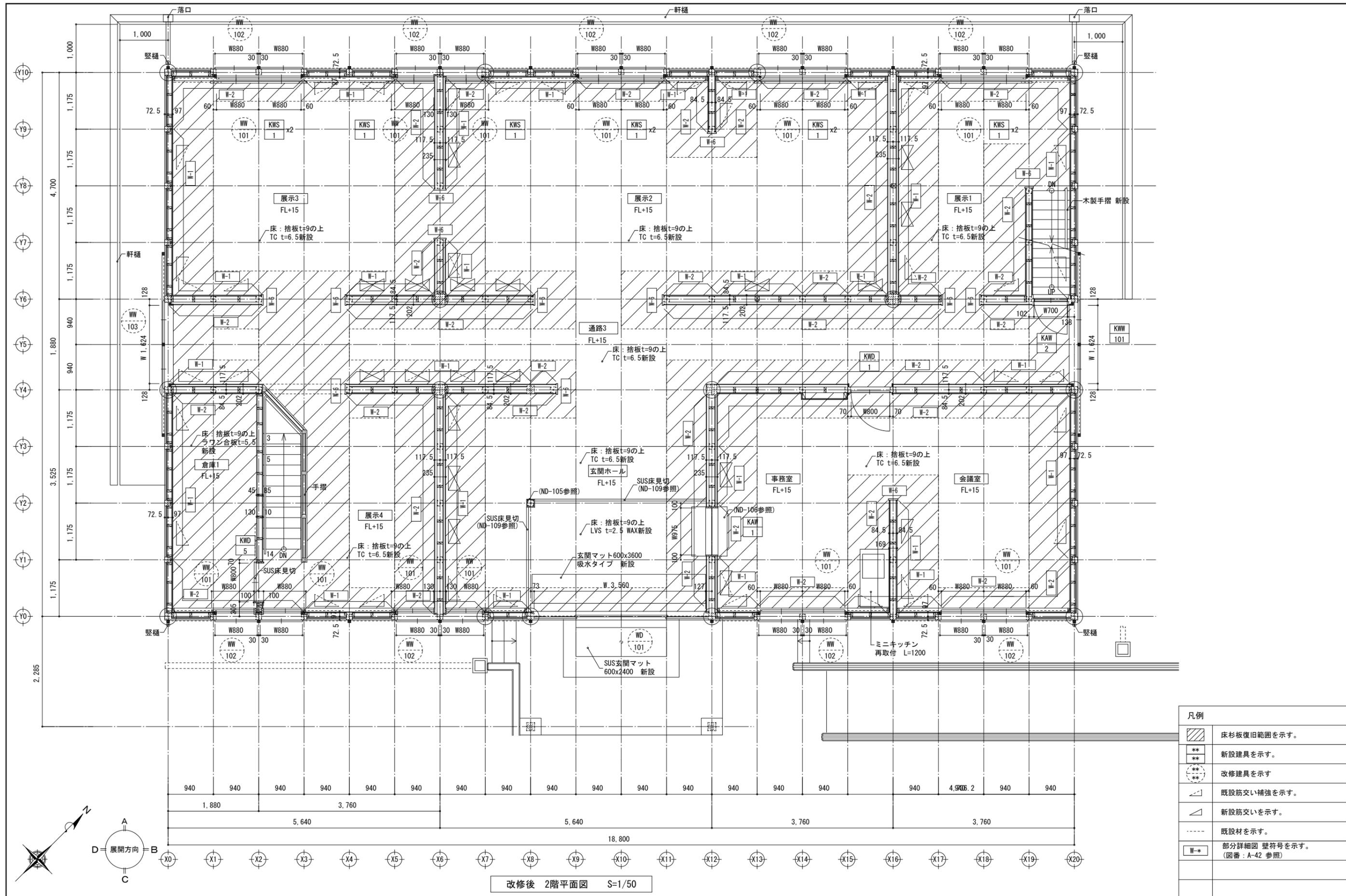
凡例

	床杉板撤去・復旧範囲を示す。
	撤去建具を示す
	展示棚及びケース 撤去
	ミキッパ 取外し：L1200
	木かたづけ 撤去
	木棚 撤去 W1720×D600×H2100×2箇所
	敷台 撤去
	柱撤去を示す。

※特記事項
 ①特記なき限り、構造材は残置とする。
 (柱、梁、筋交い)
 ②1・2階 床杉板撤去・復旧範囲は、
 改修後平面図による。

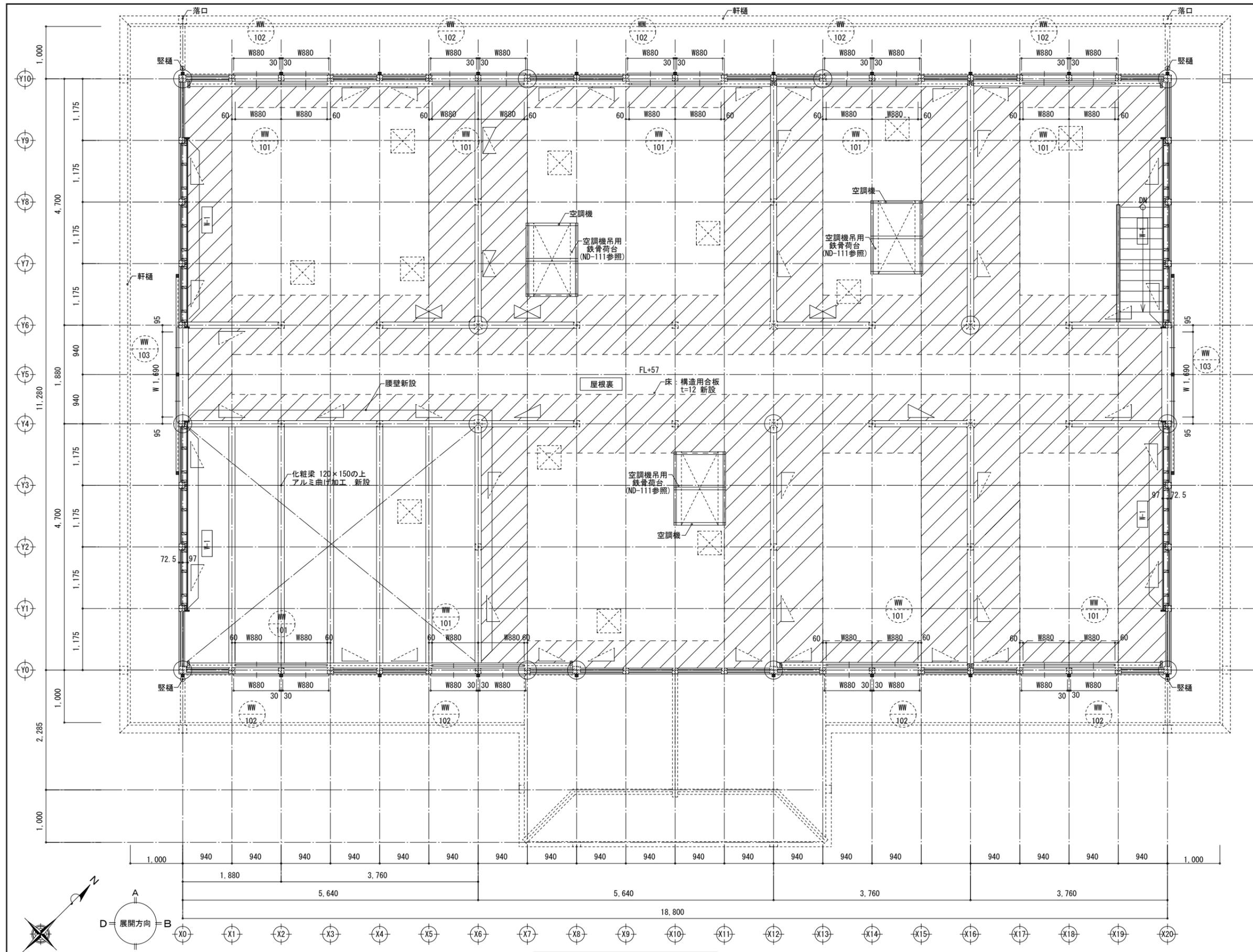






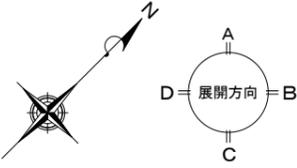
改修後 2階平面図 S=1/50

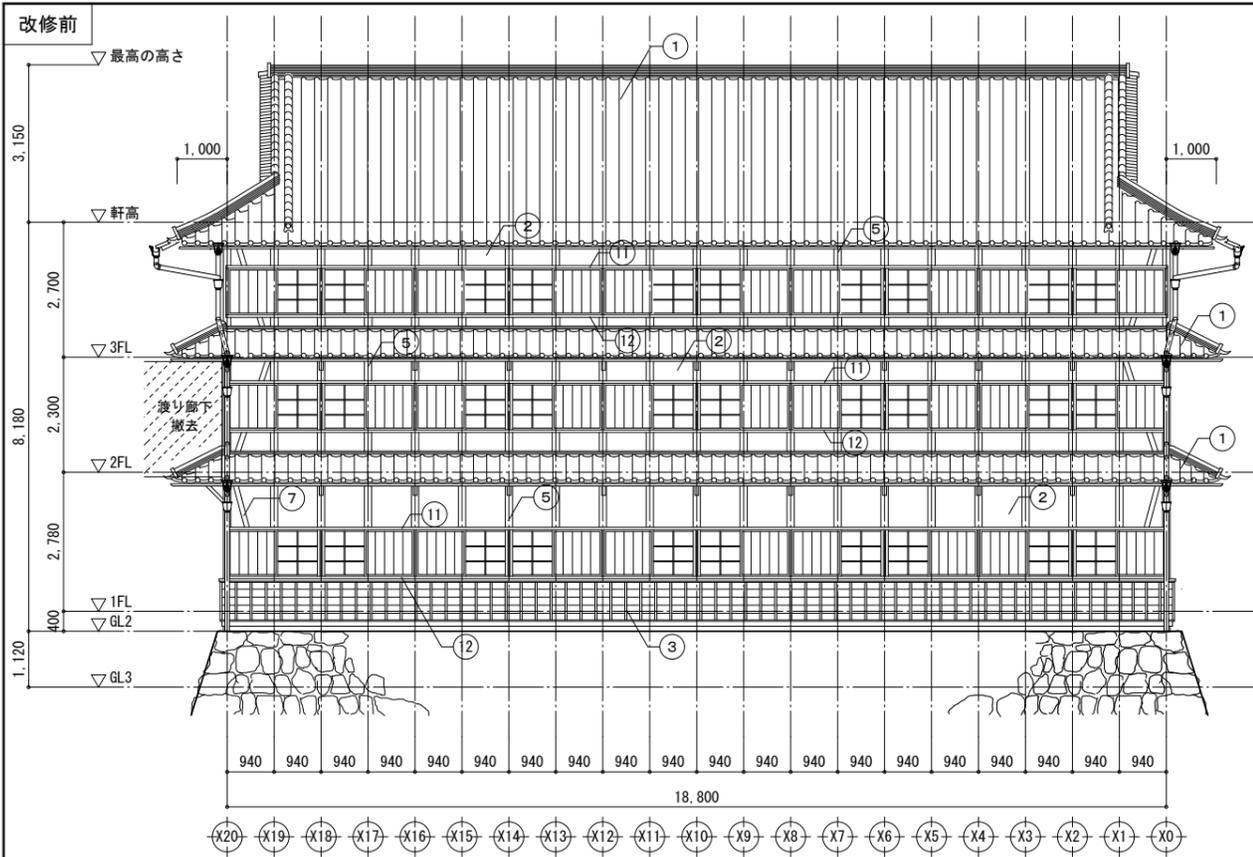
凡例	
	床杉板復旧範囲を示す。
	新設建具を示す。
	改修建具を示す
	既設筋交い補強を示す。
	新設筋交いを示す。
	既設材を示す。
	部分詳細図 壁符号を示す。 (図番: A-42 参照)



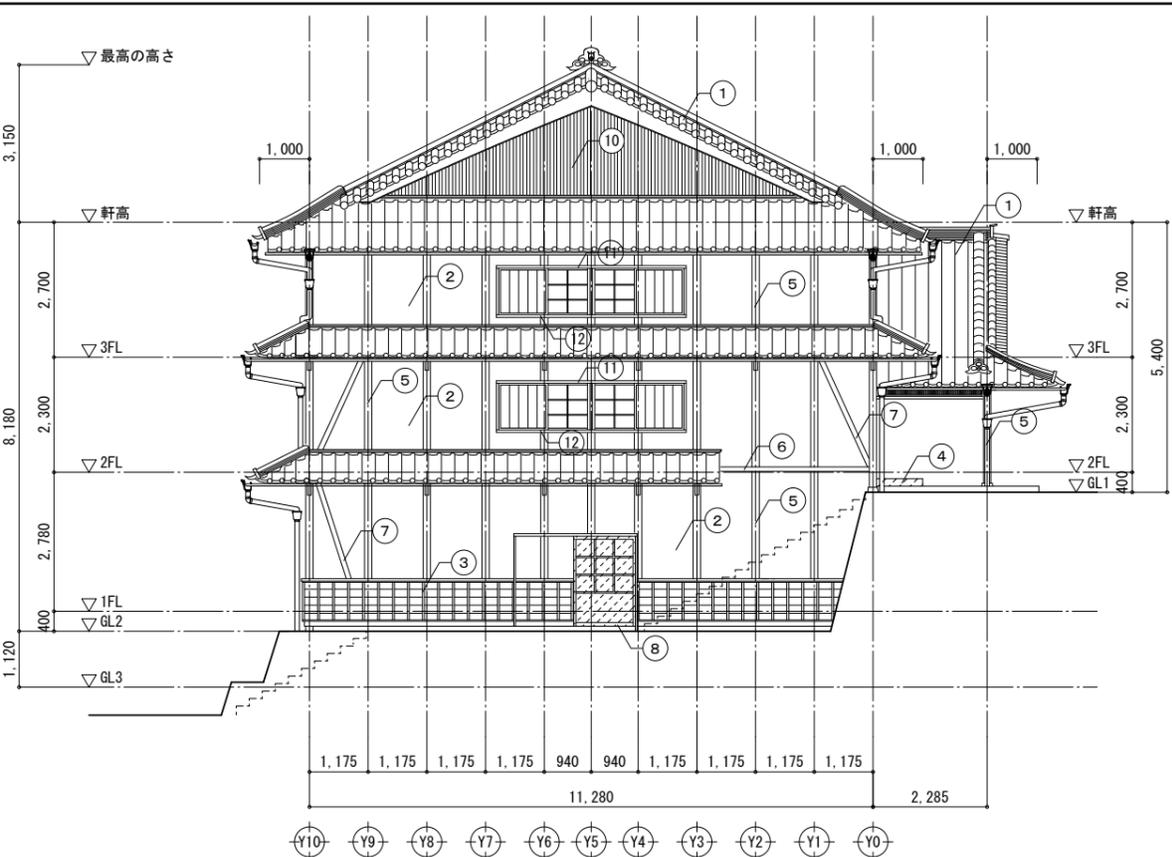
改修後 屋根裏平面図 S=1/50

凡例	
	床杉板復旧範囲を示す。
	改修建具を示す
	既設筋交い補強を示す。
	新設筋交いを示す。
	既設材を示す。
	部分詳細図 壁符号を示す。 (図番: A-42 参照)
	床開口を示す。(ダクト吹出用)
※床開口位置は一直線上に重ならないようにすること。	





北立面図 S=1/100

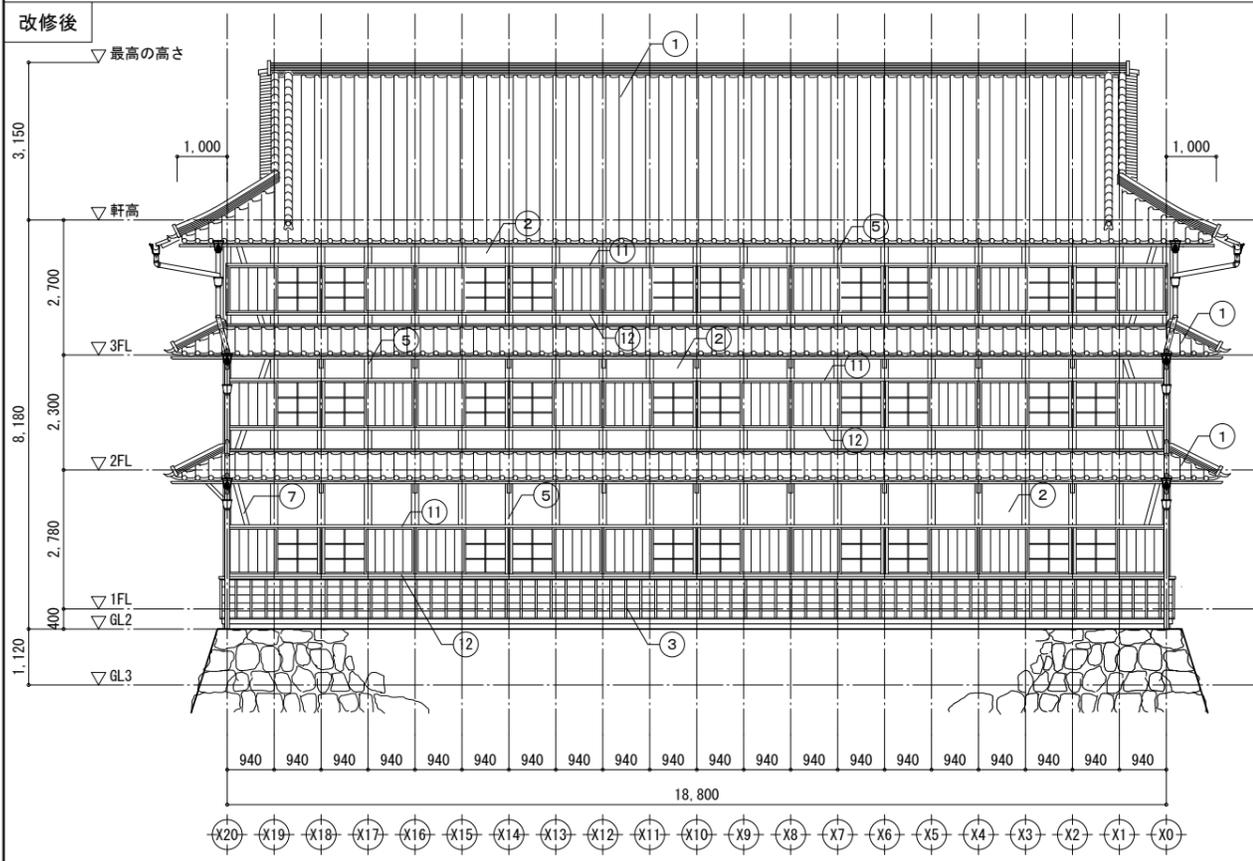


西立面図 S=1/100

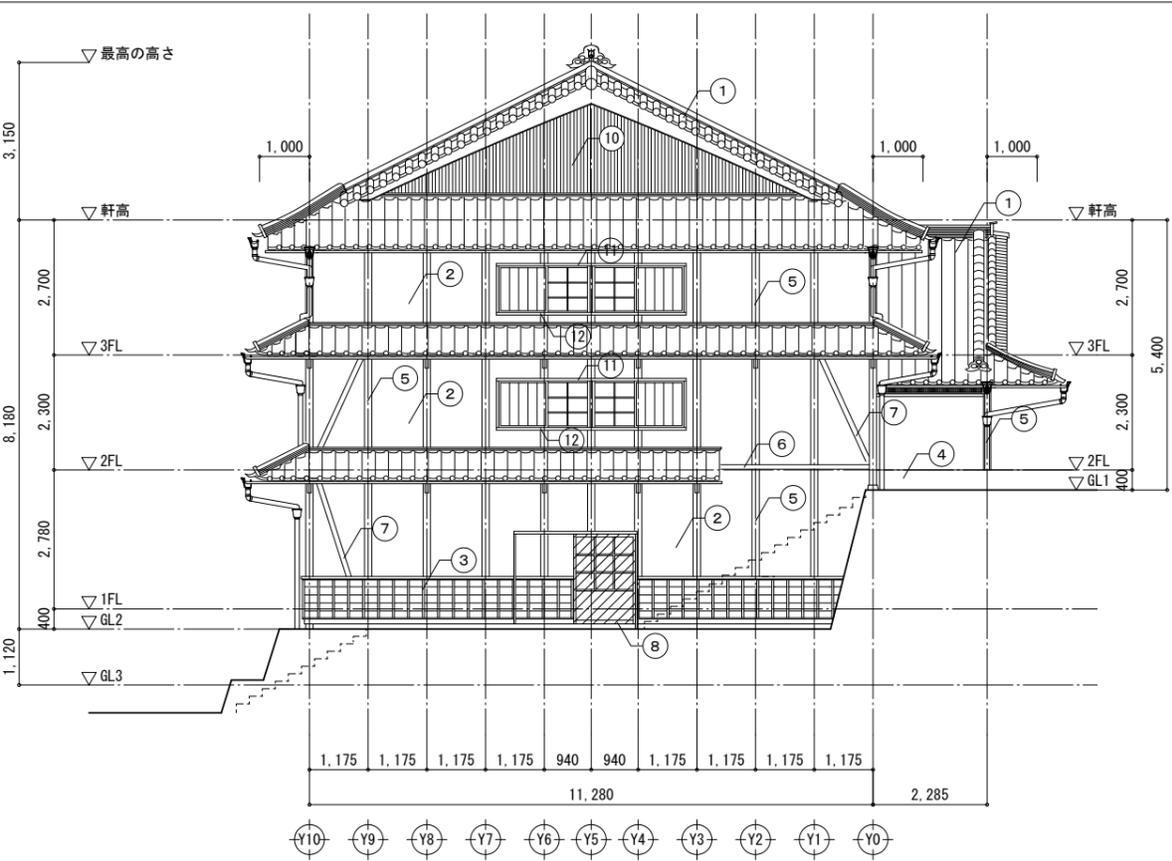
凡例 (改修前)

	撤去範囲を示す。
①	日本瓦葺き
②	土塗壁しっくい塗り
③	押縁下見板張り
④	150角材張 撤去 (M下地共)
⑤	木柱型 OS
⑥	木梁型 OS
⑦	木筋交い OS
⑧	木製建具 撤去 (枠共)
⑨	寒水掻き落とし
⑩	格子骨組板張り
⑪	一筋鴨居: 木下地の上 水切銅板
⑫	一筋敷居: 木下地の上 水切銅板

※特記事項



北立面図 S=1/100



西立面図 S=1/100

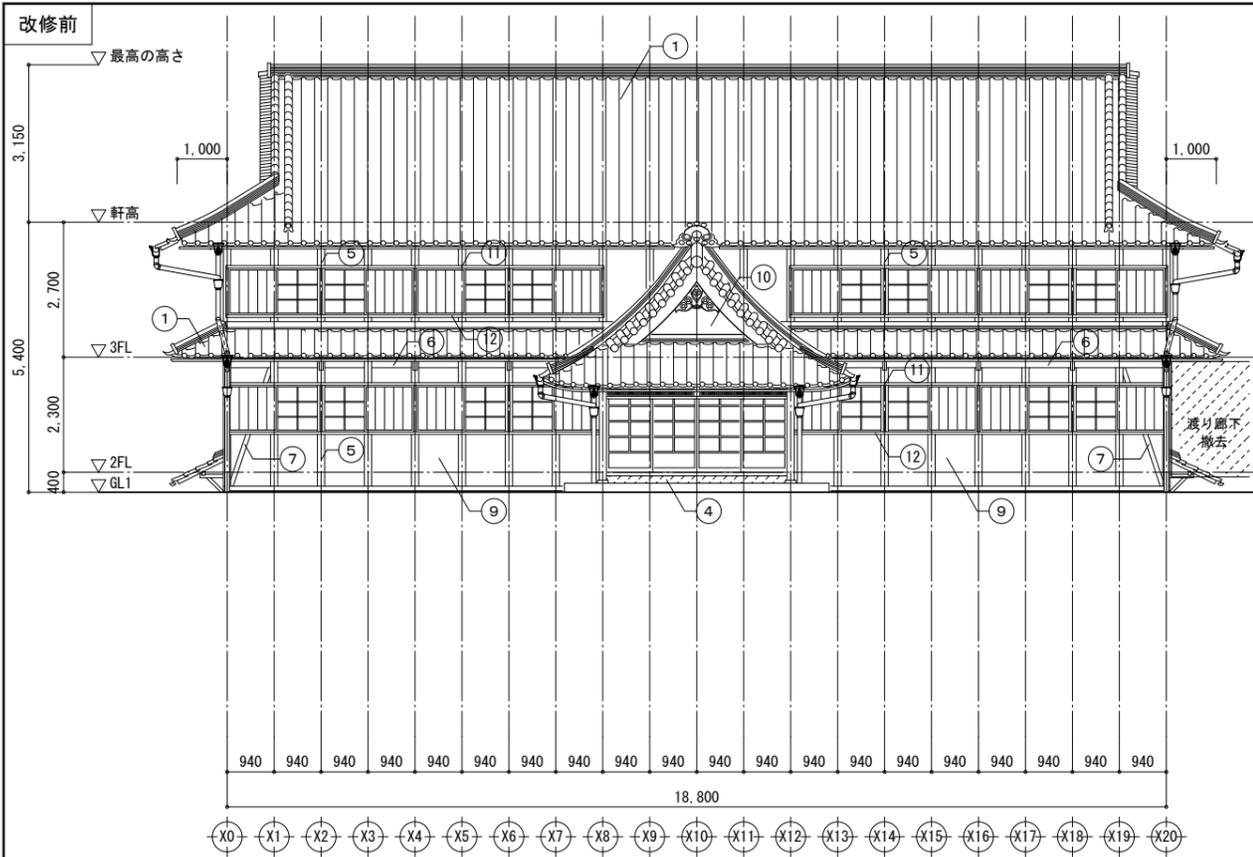
凡例 (改修後)

	新設範囲を示す。
①	日本瓦葺き: 既設のまま
②	土塗壁しっくい塗り: 既設のまま
③	押縁下見板張り: 下地調整の上 WP
④	外構 新設
⑤	木柱型: 下地調整の上 WP
⑥	木梁型: 下地調整の上 WP
⑦	木筋交い: 下地調整の上 WP
⑧	建具 新設
⑨	寒水掻き落とし: 既設のまま
⑩	格子骨組板張り: 下地調整の上 WP
⑪	一筋鴨居: 下地調整の上 DP (2級)
⑫	一筋敷居: 下地調整の上 DP (2級)

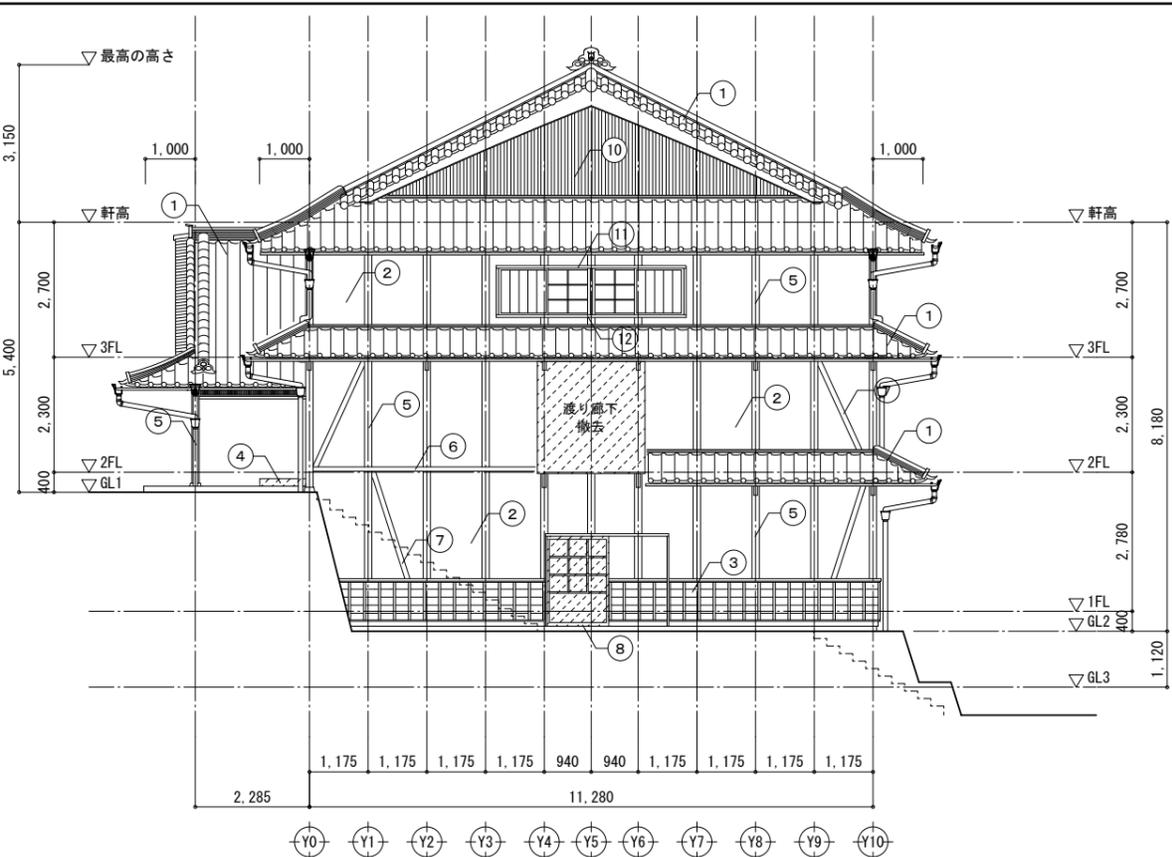
※特記事項
①特記なき限り、木部は全て下地調整の上 WPとする。

CHECK	DESIGN	DRAW

SCALE 1/100
DATE '17.03



南立面図 S=1/100

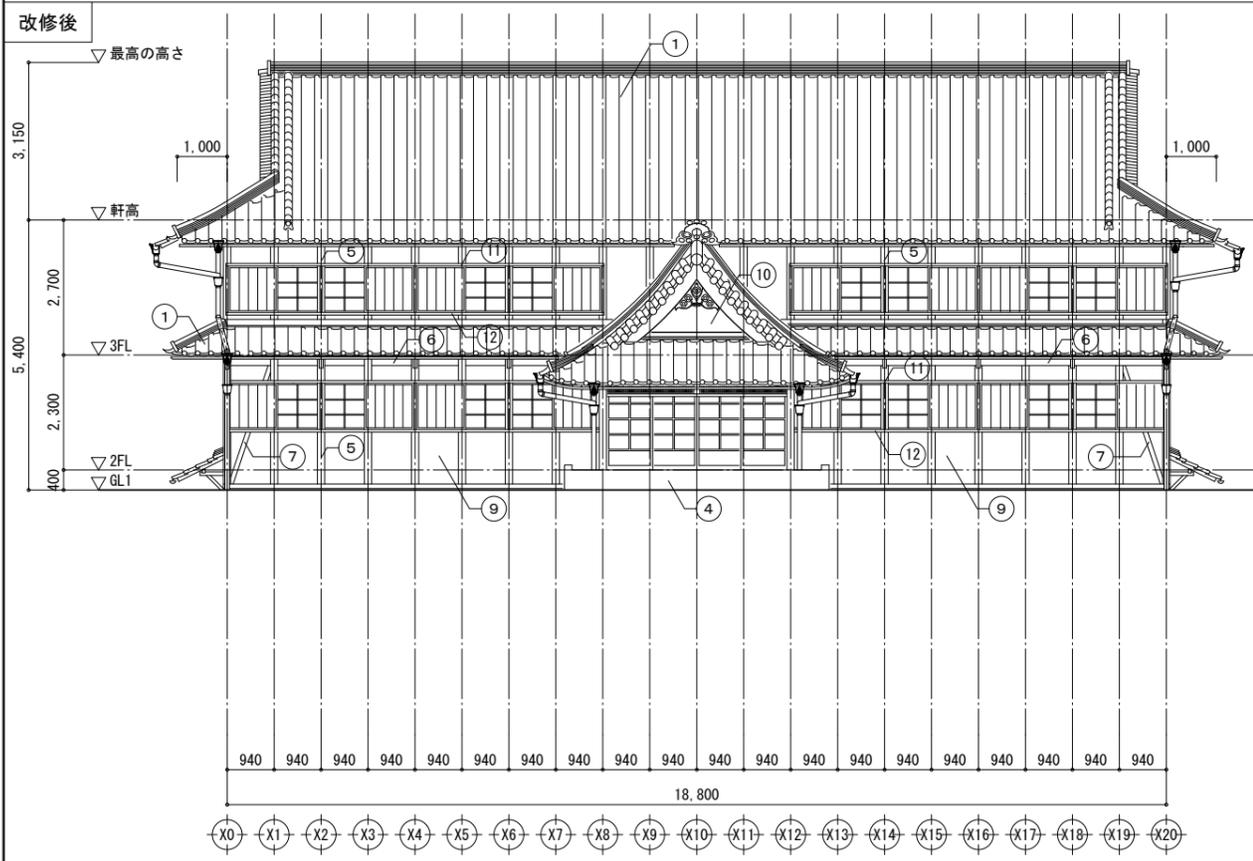


東立面図 S=1/100

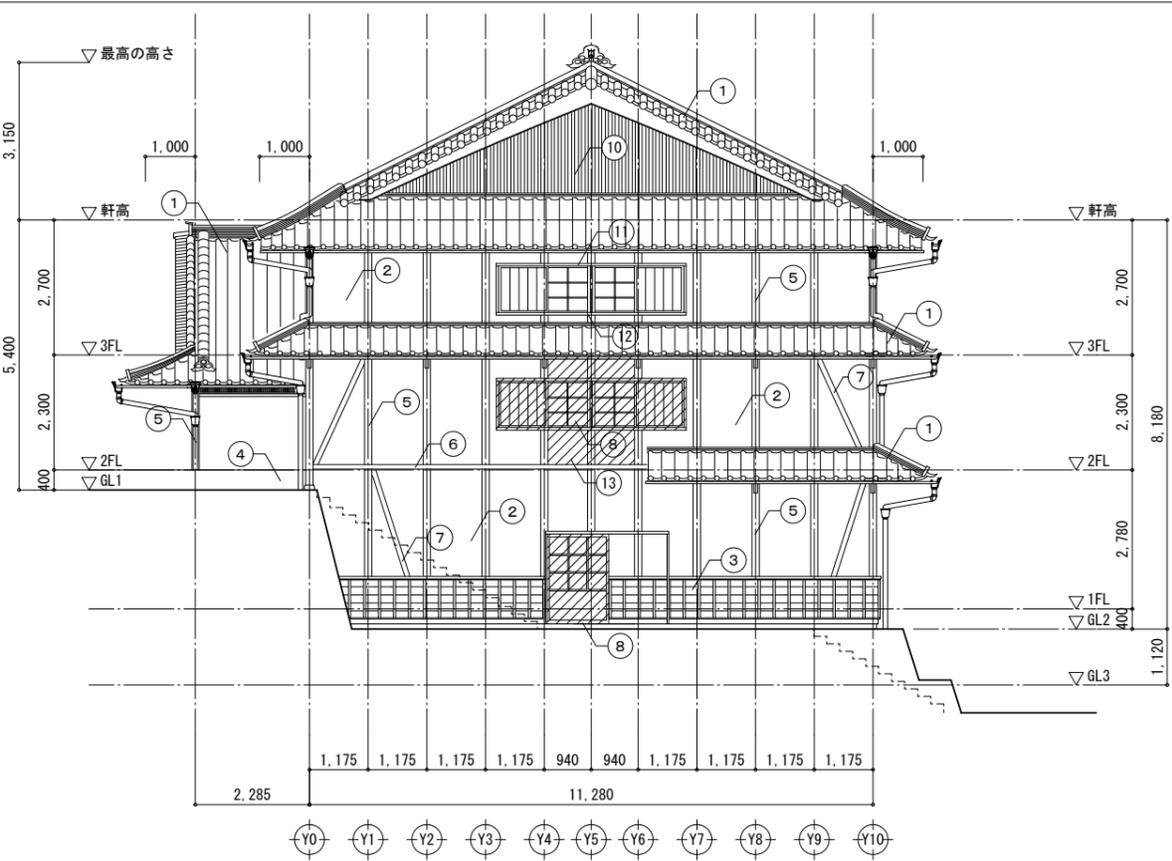
凡例 (改修前)

	撤去範囲を示す。
①	日本瓦葺き
②	土塗壁しっくい塗り
③	押縁下見板張り
④	150角材張 撤去 (M下地共)
⑤	木柱型 OS
⑥	木梁型 OS
⑦	木筋交い OS
⑧	木製建具 撤去 (枠共)
⑨	寒水掻き落とし
⑩	格子骨組板張り
⑪	一筋鴨居: 木下地の上 水切銅板
⑫	一筋敷居: 木下地の上 水切銅板

※特記事項



南立面図 S=1/100



東立面図 S=1/100

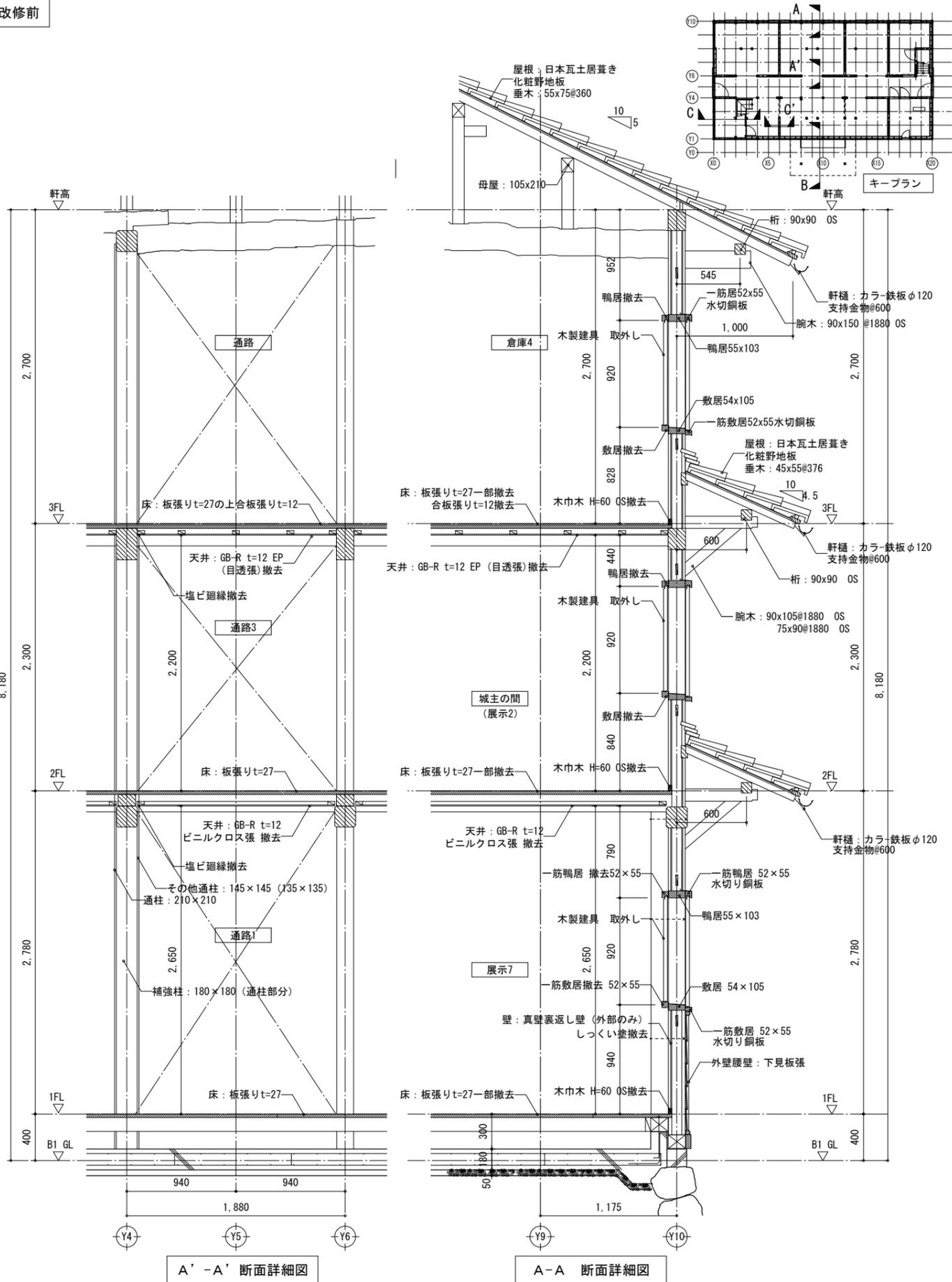
凡例 (改修後)

	新設範囲を示す。
①	日本瓦葺き: 既設のまま
②	土塗壁しっくい塗り: 既設のまま
③	押縁下見板張り: 下地調整の上 WP
④	外構 新設
⑤	木柱型: 下地調整の上 WP
⑥	木梁型: 下地調整の上 WP
⑦	木筋交い: 下地調整の上 WP
⑧	建具 新設
⑨	寒水掻き落とし: 既設のまま
⑩	格子骨組板張り: 下地調整の上 WP
⑪	一筋鴨居: 下地調整の上 DP (2級)
⑫	一筋敷居: 下地調整の上 DP (2級)
⑬	外壁: 5M t=30の上 しっくい塗り 新設

※特記事項
①特記なき限り、木部は全て下地調整の上 WPとする。

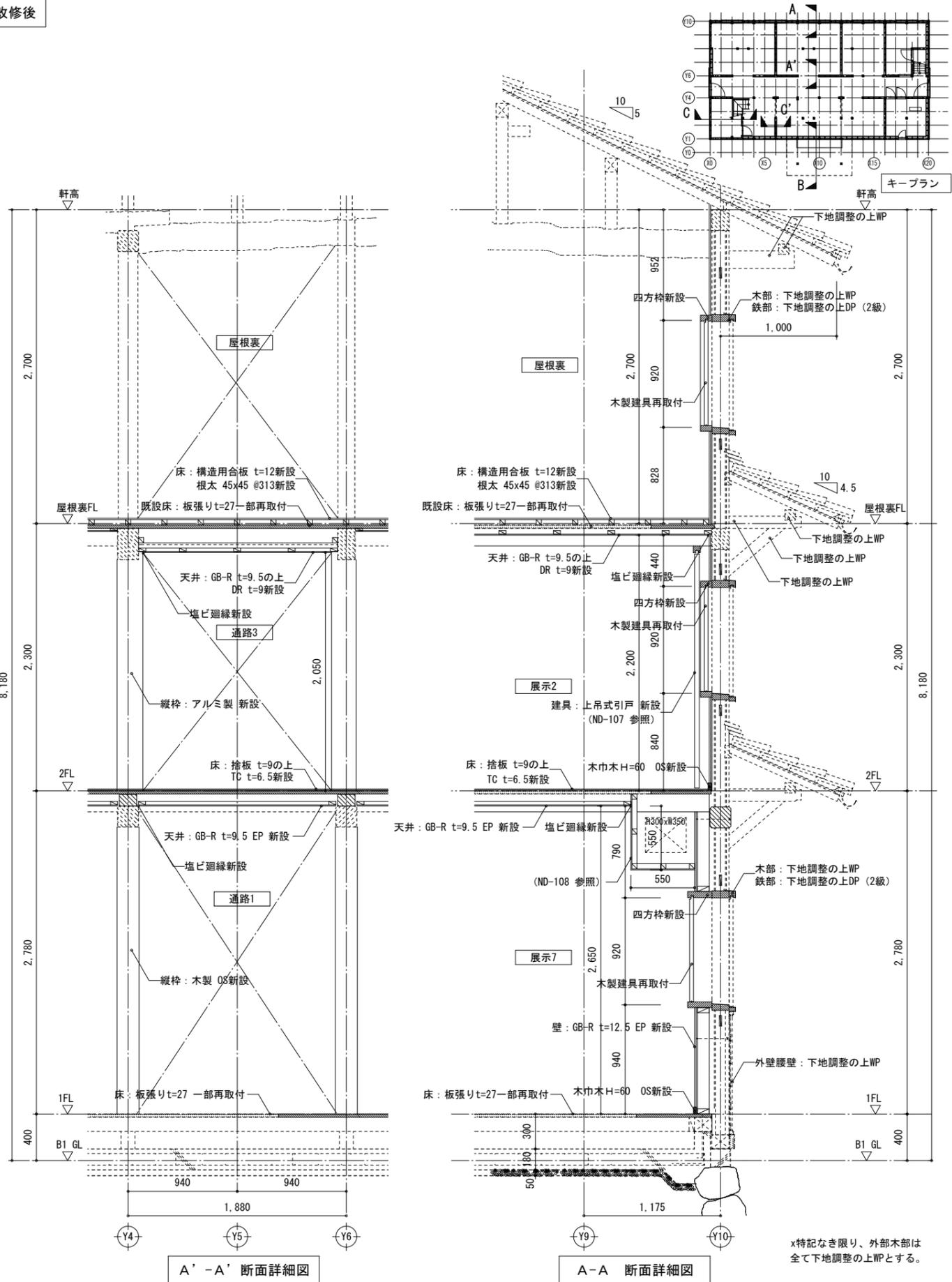
CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE
			1/100
			DATE
			'17.03

改修前



A' - A' 断面詳細図

改修後

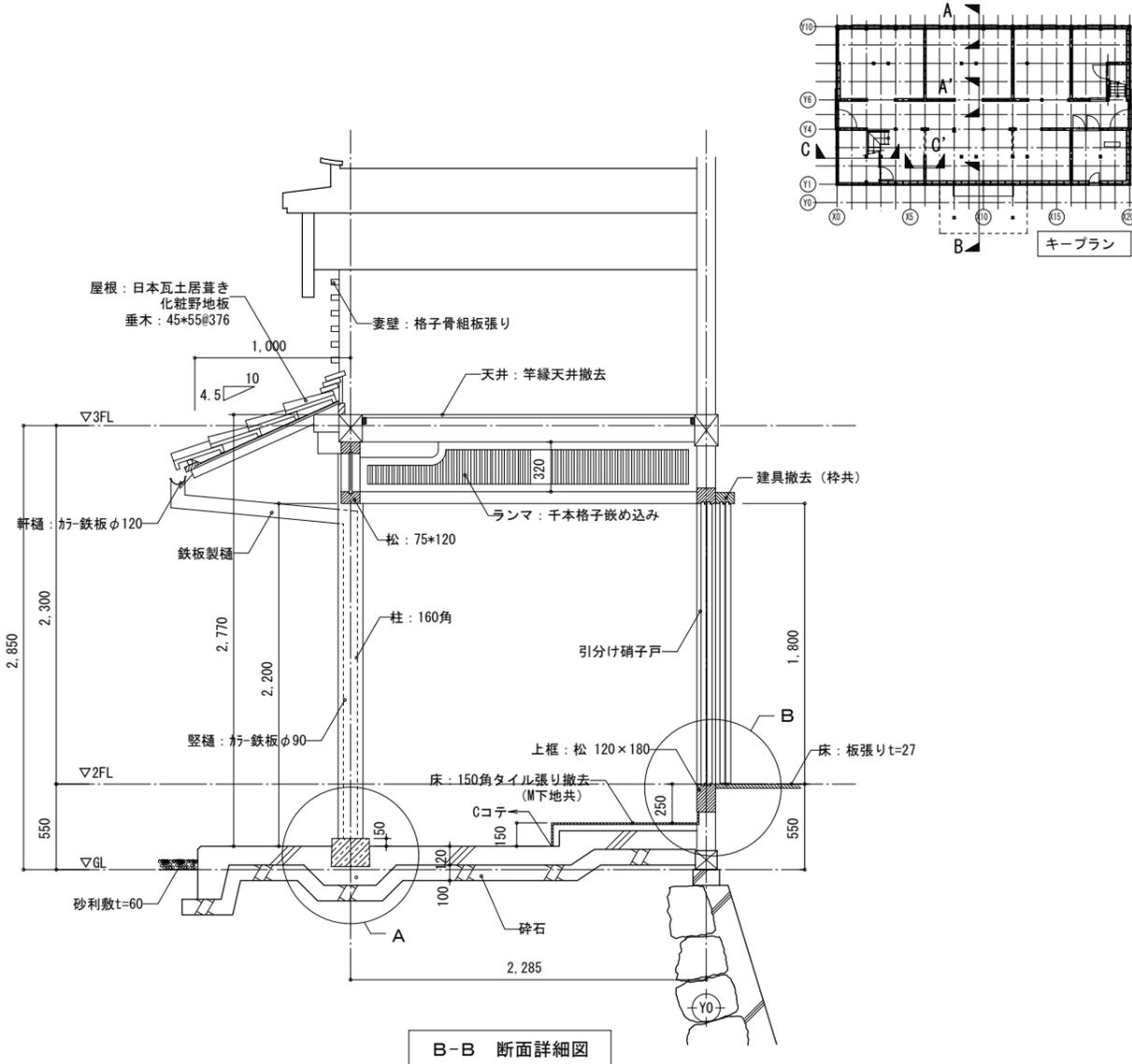


A' - A' 断面詳細図

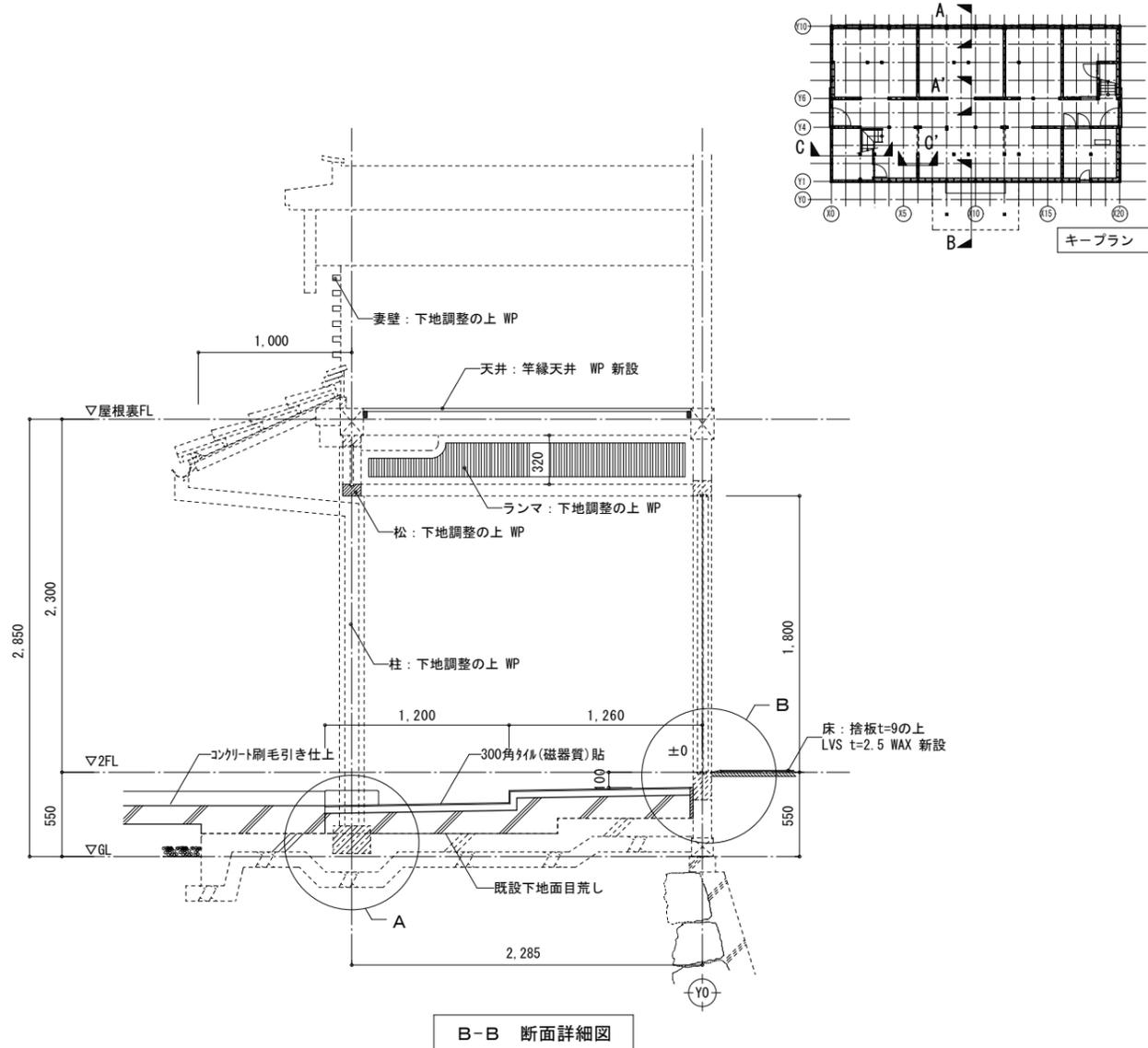
A - A 断面詳細図

x特記なき限り、外部木部は全て下地調整の上WPとする。

改修前



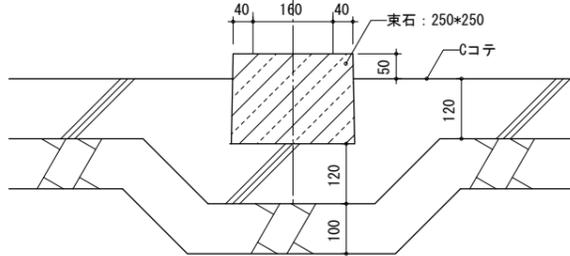
改修後



*特記なき限り、外部木部は全て下地調整の上WPとする。

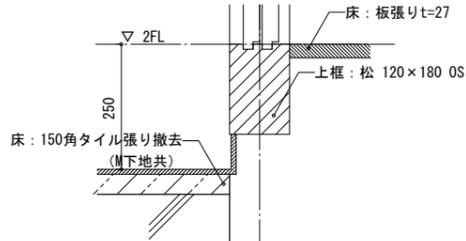
改修前 A部詳細図

S=1/10



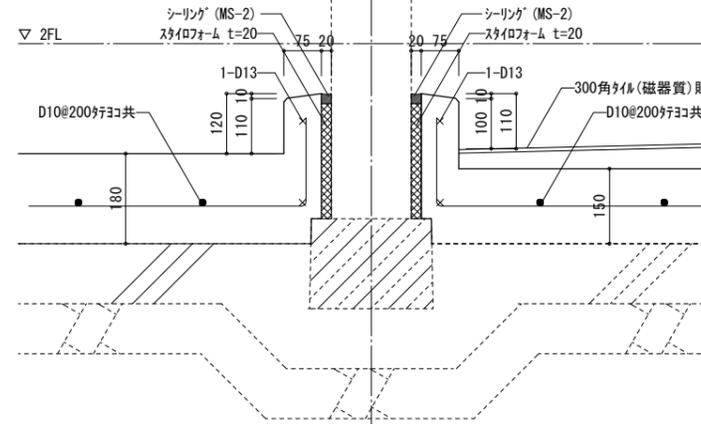
改修前 B部詳細図

S=1/10



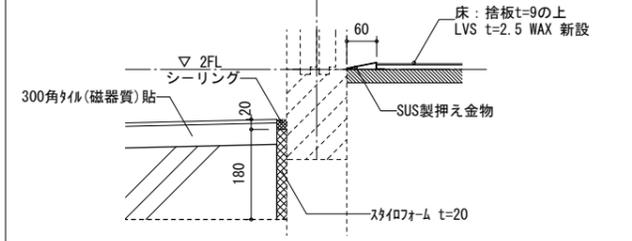
改修後 A部詳細図

S=1/10



改修後 B部詳細図

S=1/10



株式会社 山田建築事務所

YAMADA ARCHITECT OFFICE

一級建築士 1845660号 山田 克弘

CHECK	DESIGN	DRAW

SCALE	1/10, 1/30
DATE	'17.03

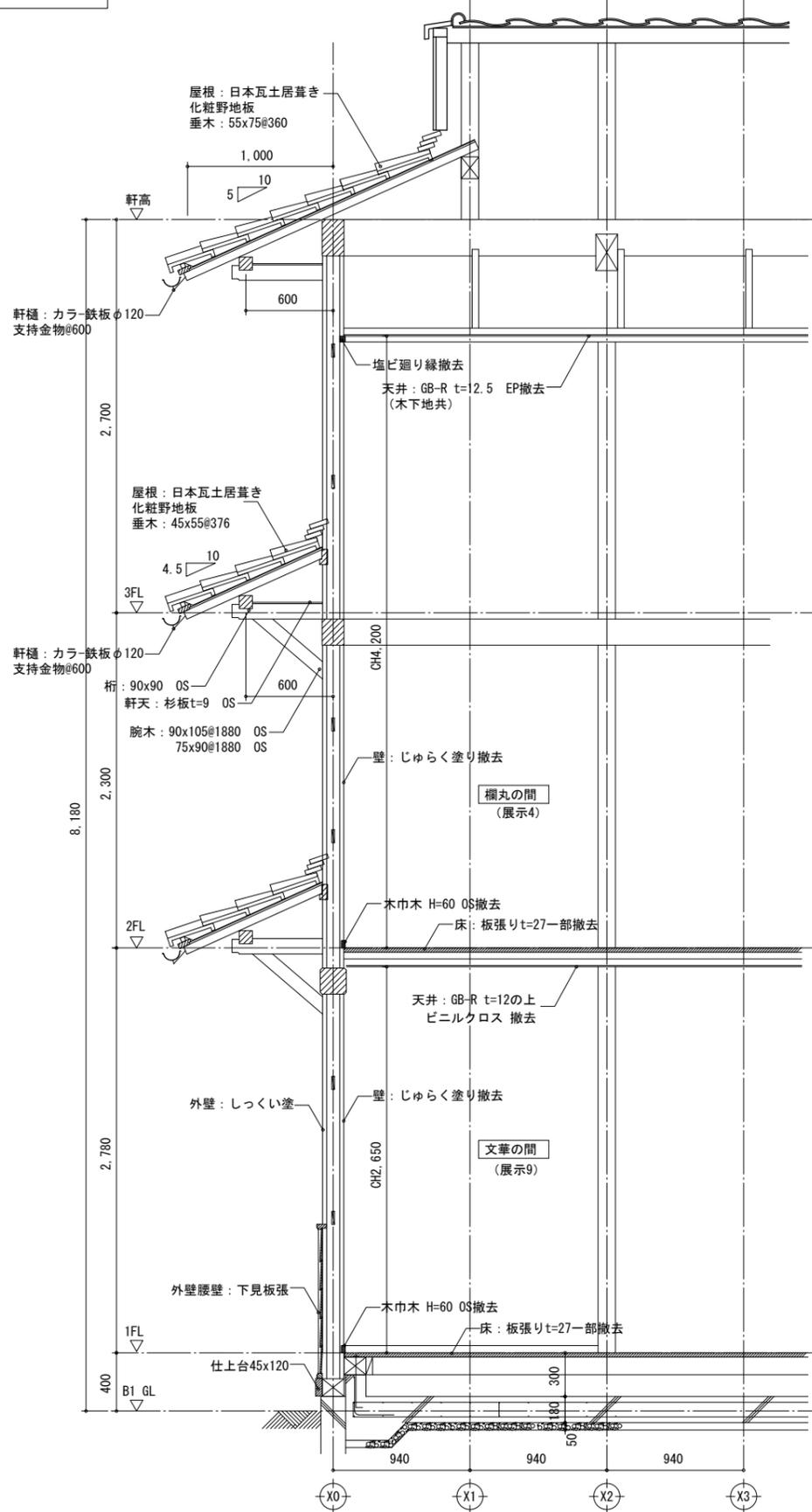
兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事

改修前・後 断面詳細図 (2)

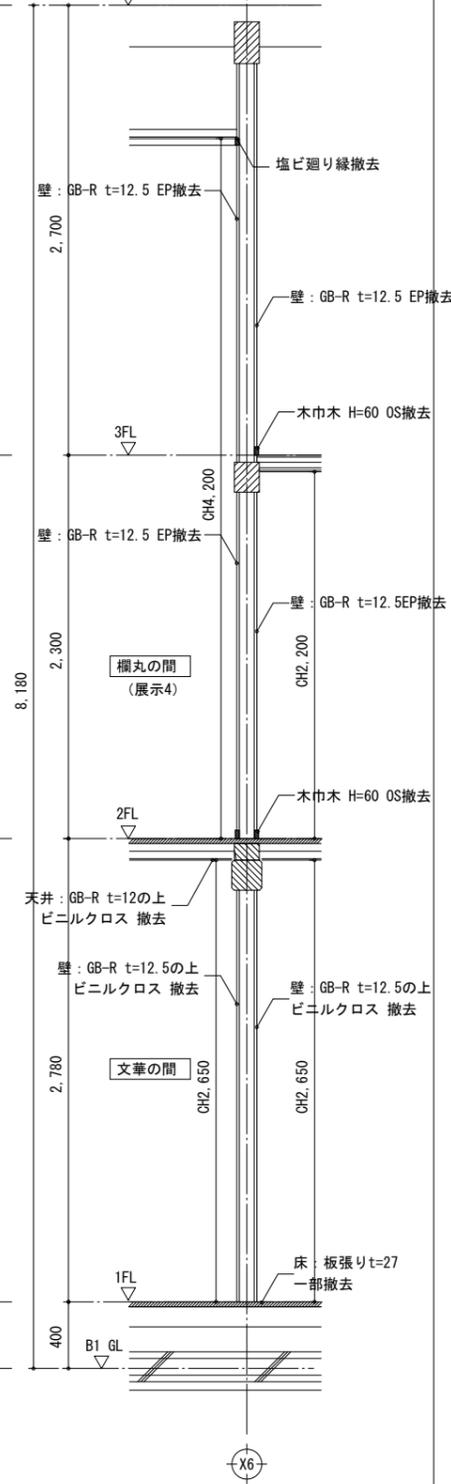
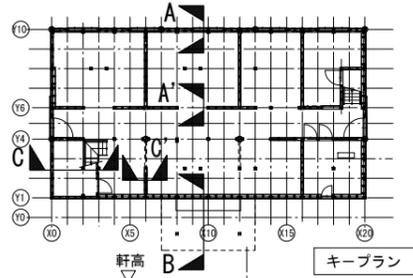
SHEET NO.

A-17

改修前

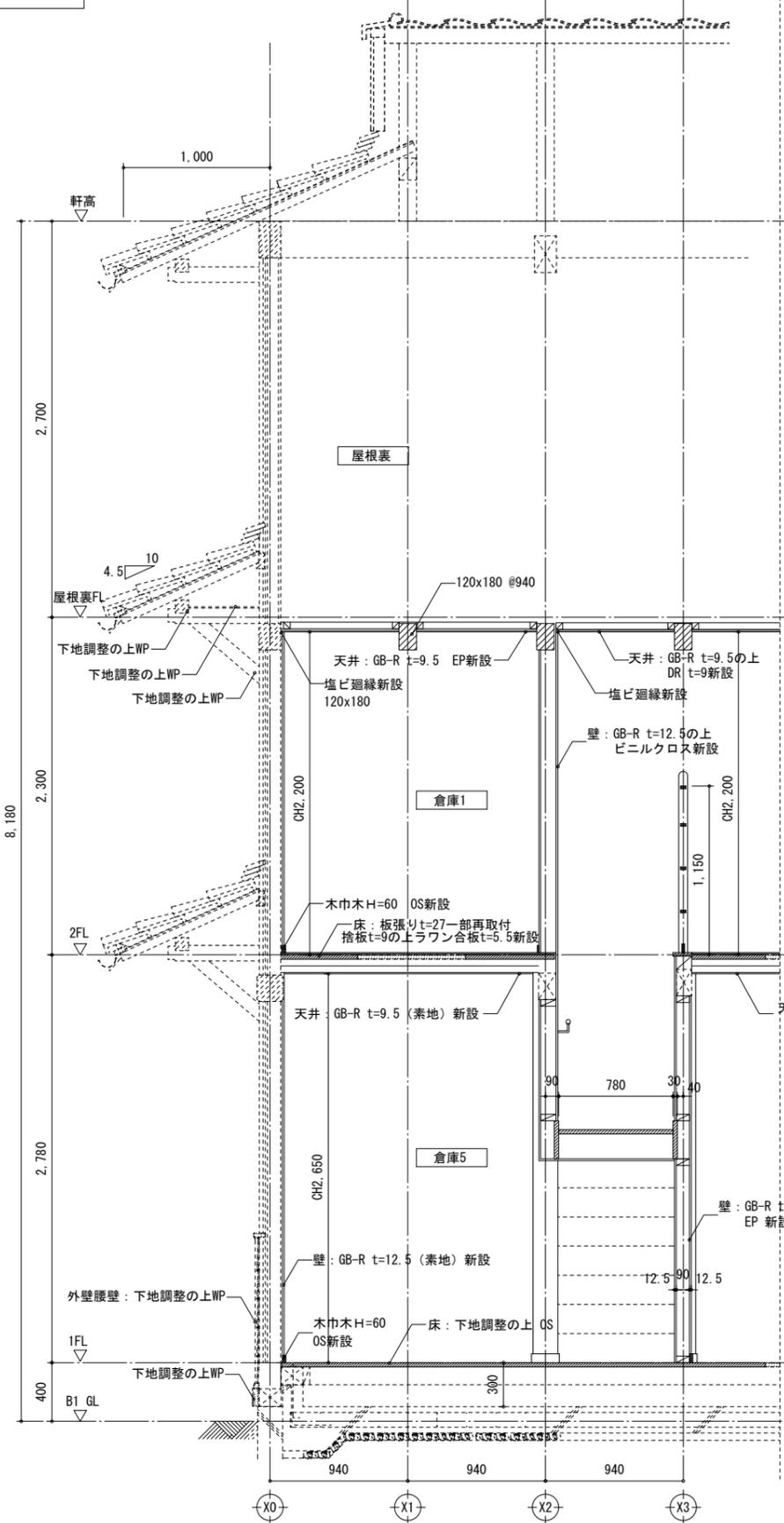


C-C 断面

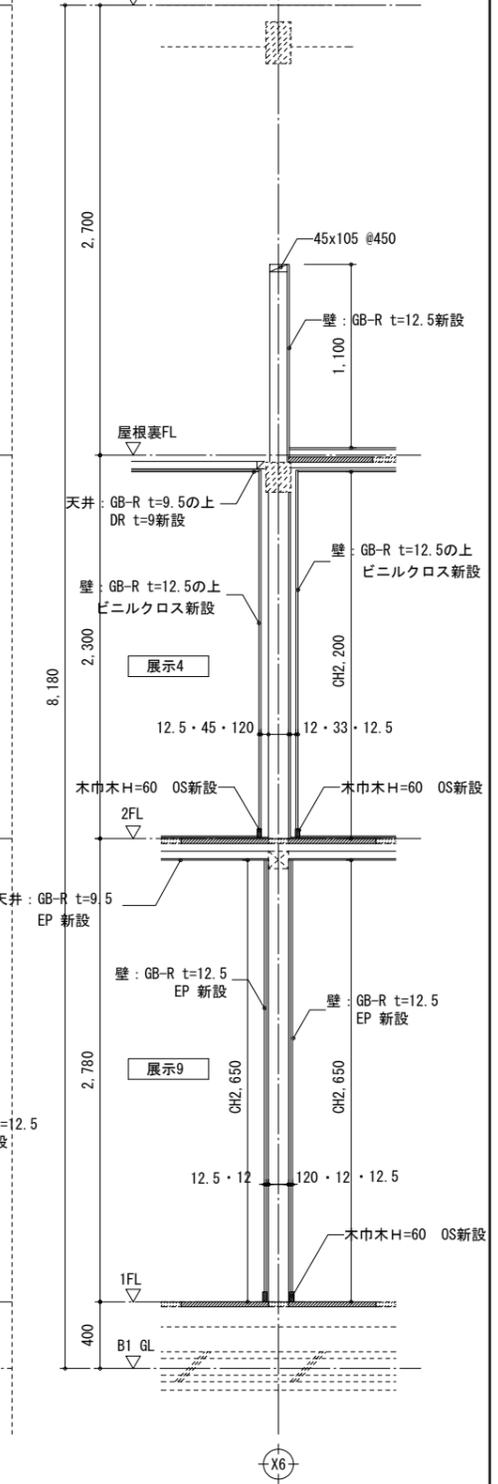
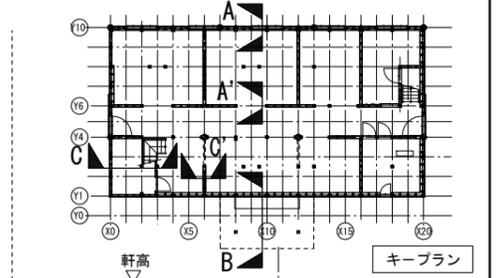


C'-C' 断面

改修後



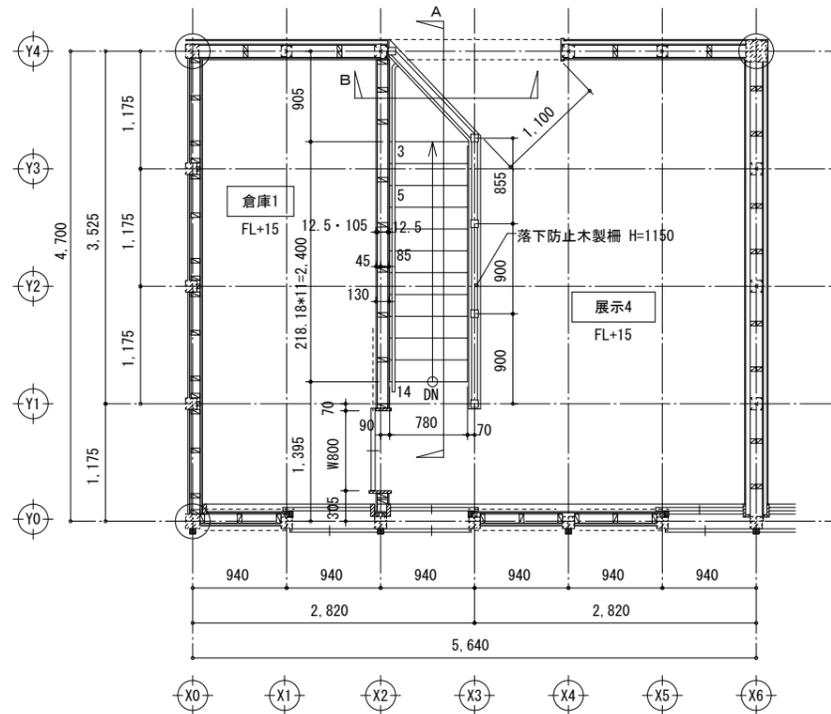
C-C 断面



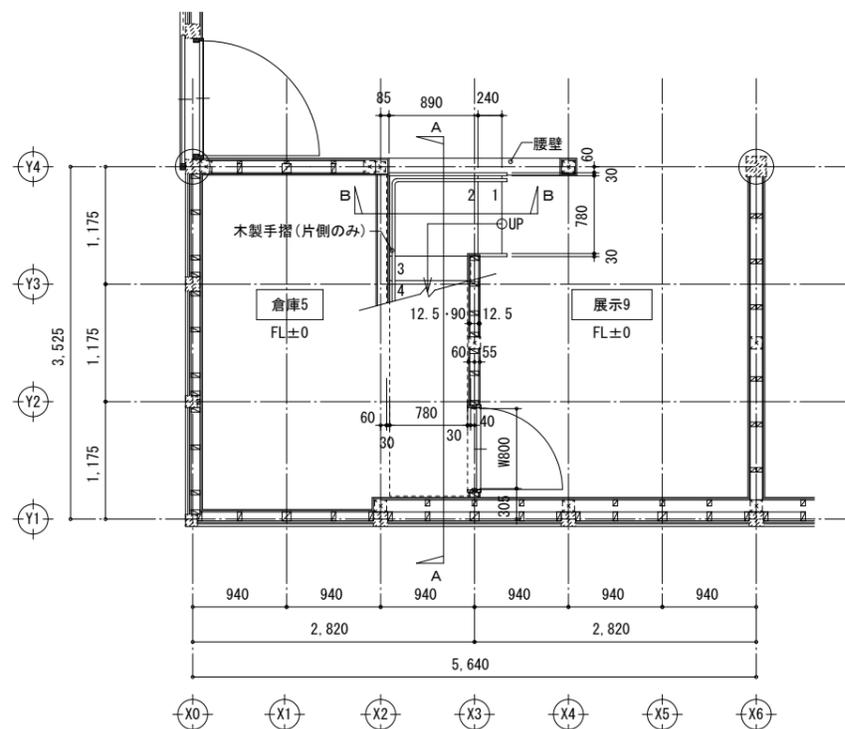
C'-C' 断面

x特記なき限り、外部木部は全て下地調整の上WPとする。

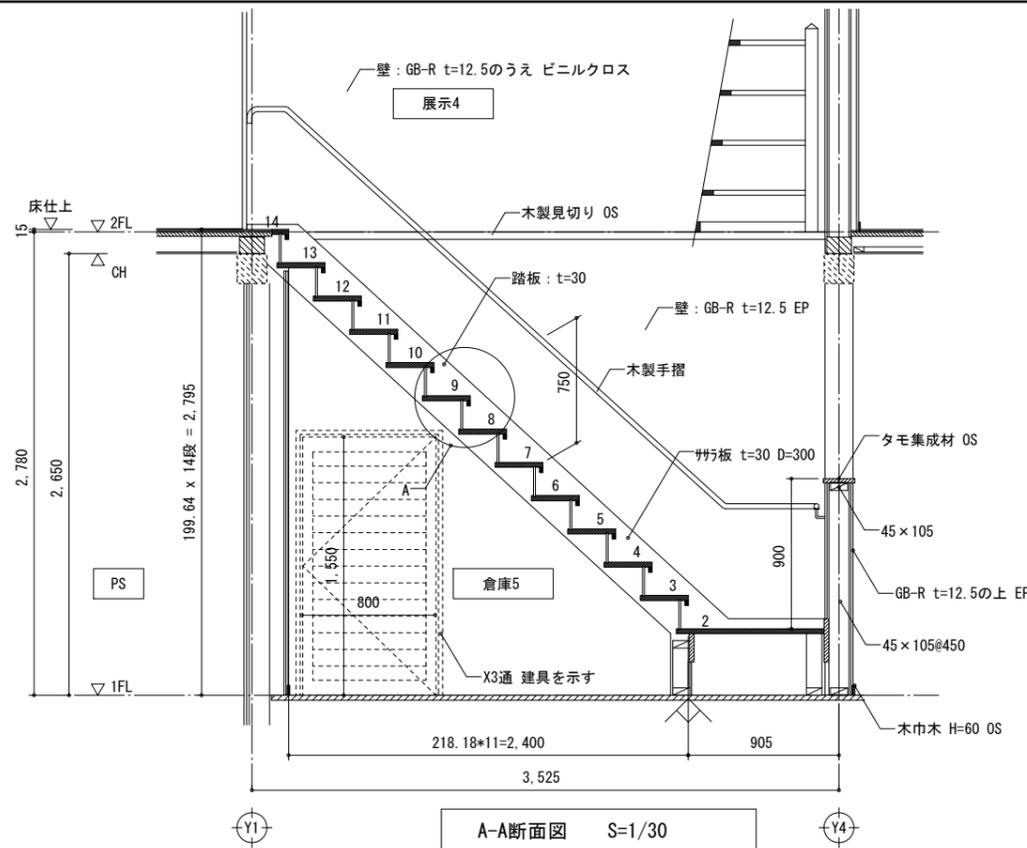
改修後



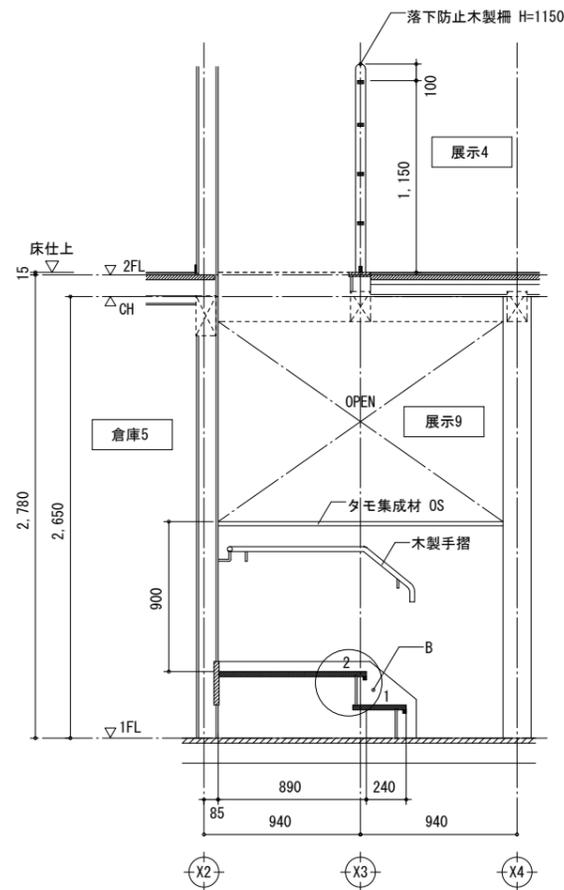
改修後 2階平面詳細図 S=1/50



改修後 1階平面詳細図 S=1/50



A-A断面図 S=1/30



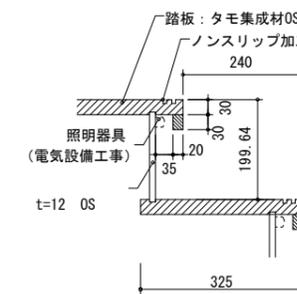
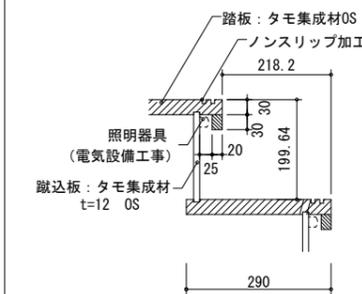
B-B断面図 S=1/30

A部 詳細図

S=1/10

B部 詳細図

S=1/10

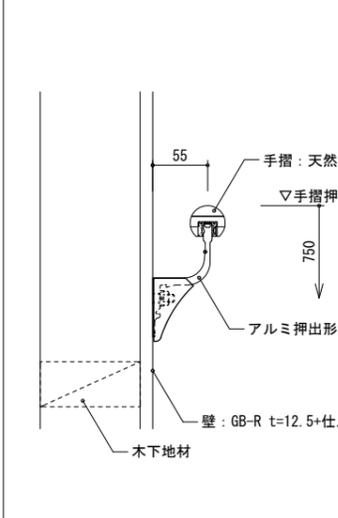
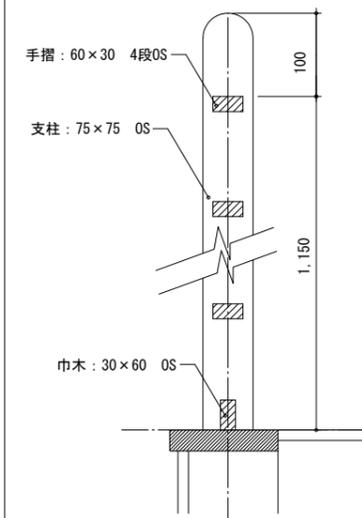


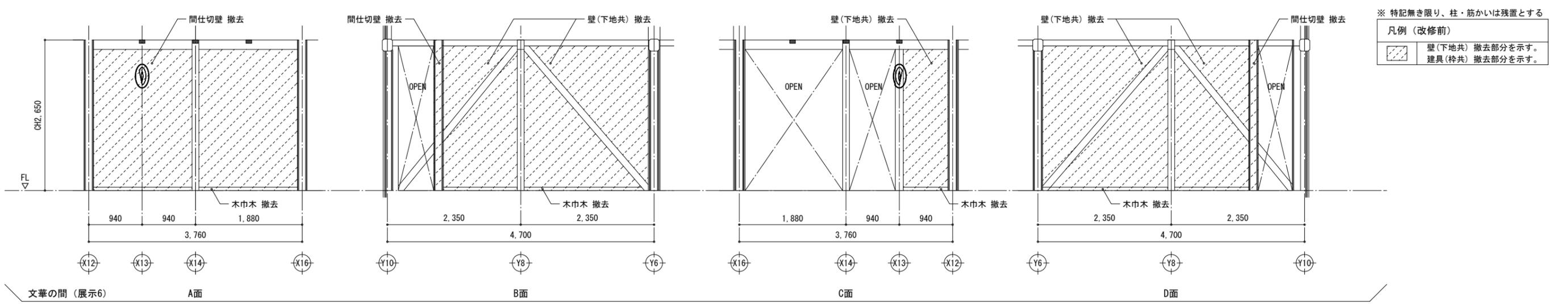
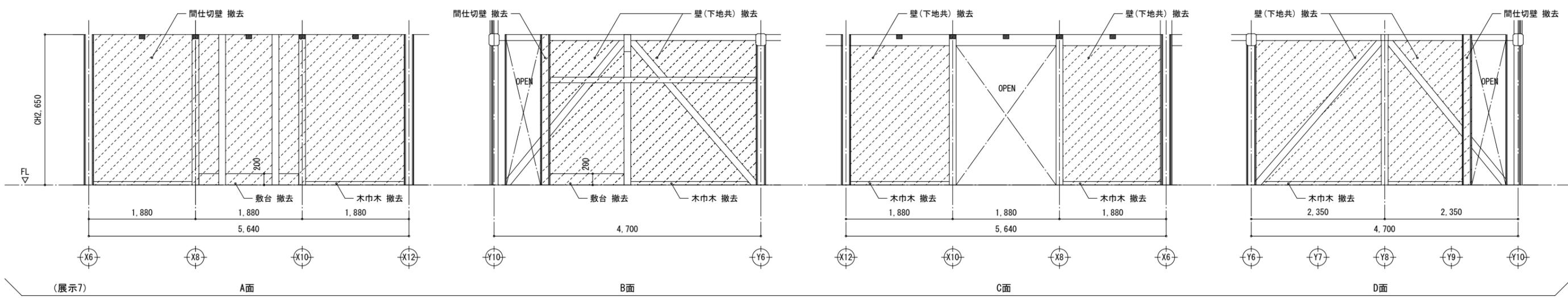
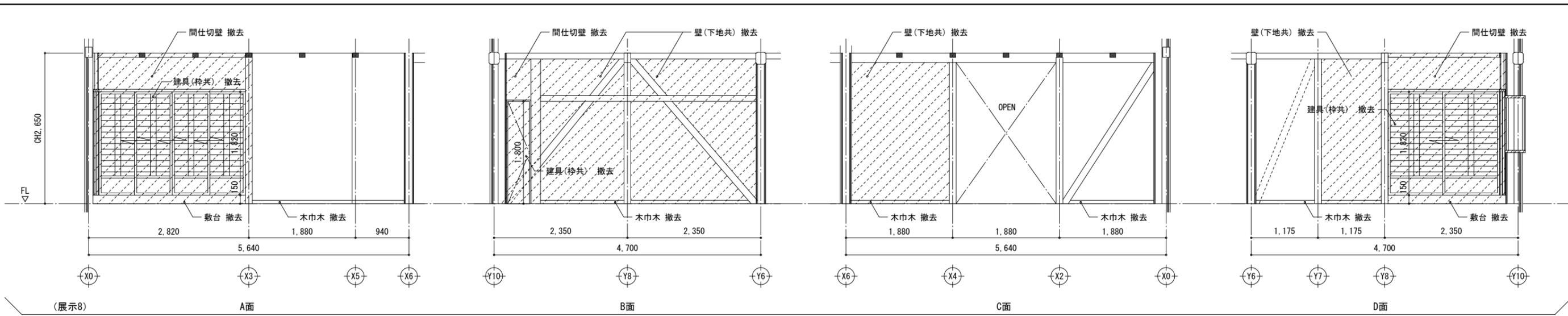
落下防止木製柵 詳細図

S=1/10

木製手摺 詳細図

S=1/5





※ 特記無き限り、柱・筋かいは残置とする
 凡例 (改修前)
 [Hatched Box] 壁(下地共) 撤去部分を示す。
 [Dashed Box] 建具(桝共) 撤去部分を示す。

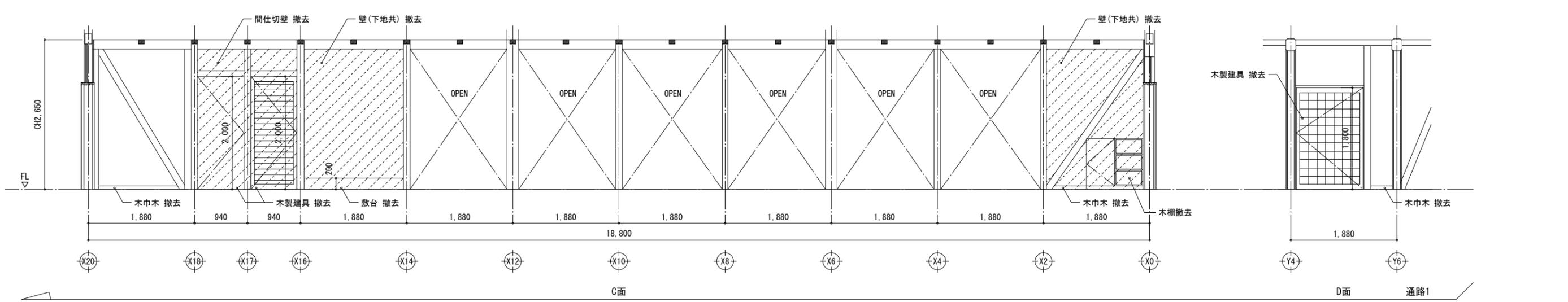
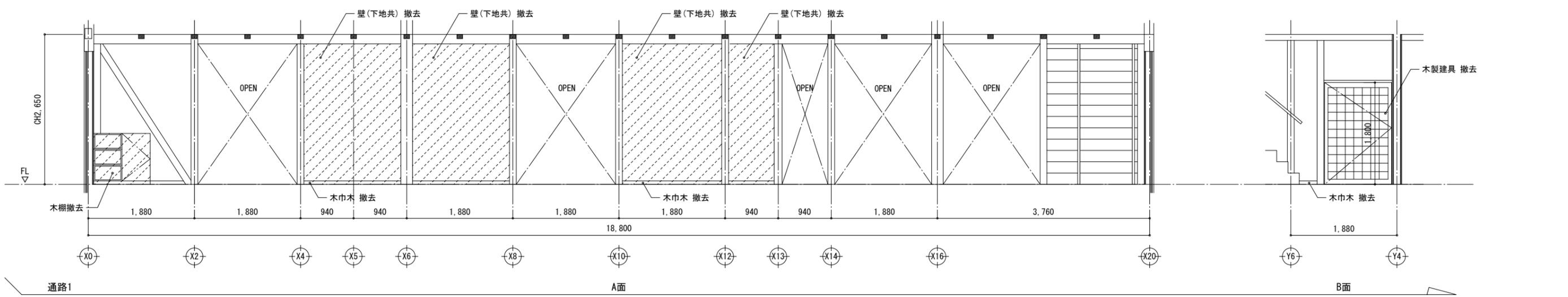
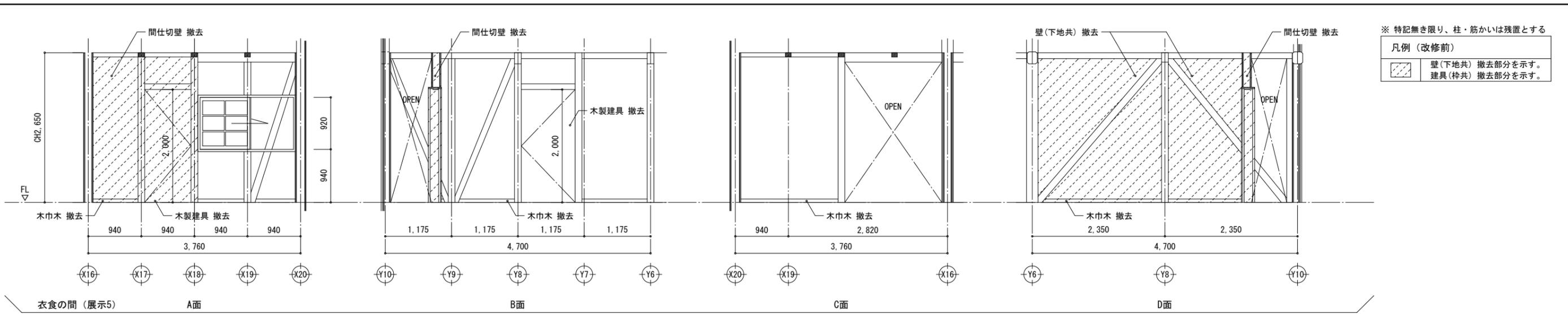

株式会社 山田建築事務所
 YAMADA ARCHITECT OFFICE 一級建築士 184560号 山田 克弘

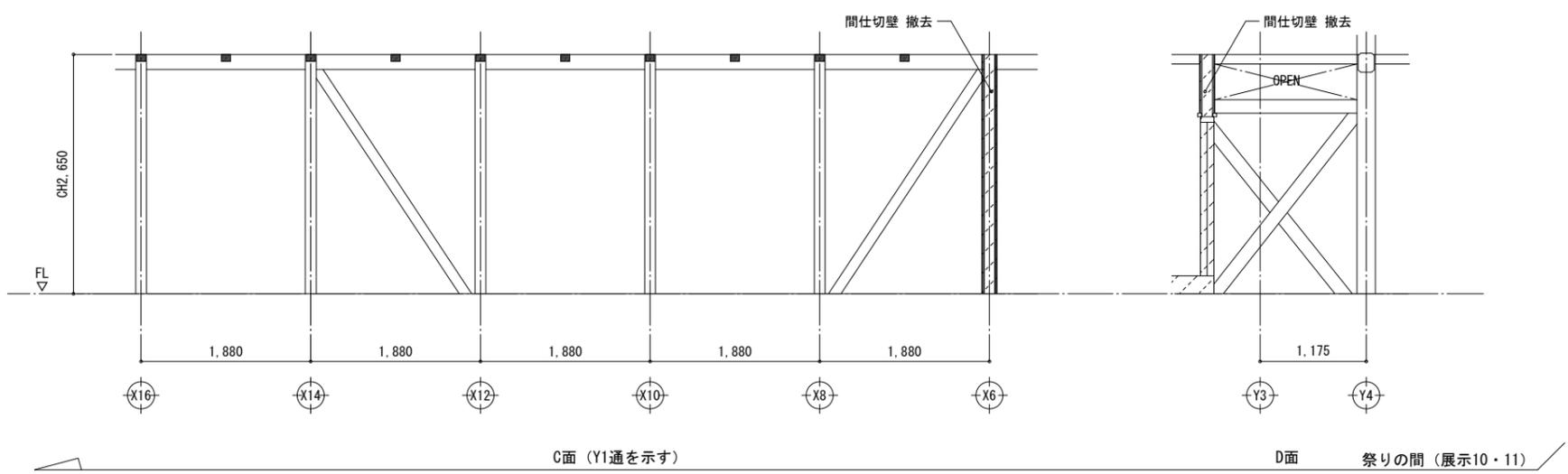
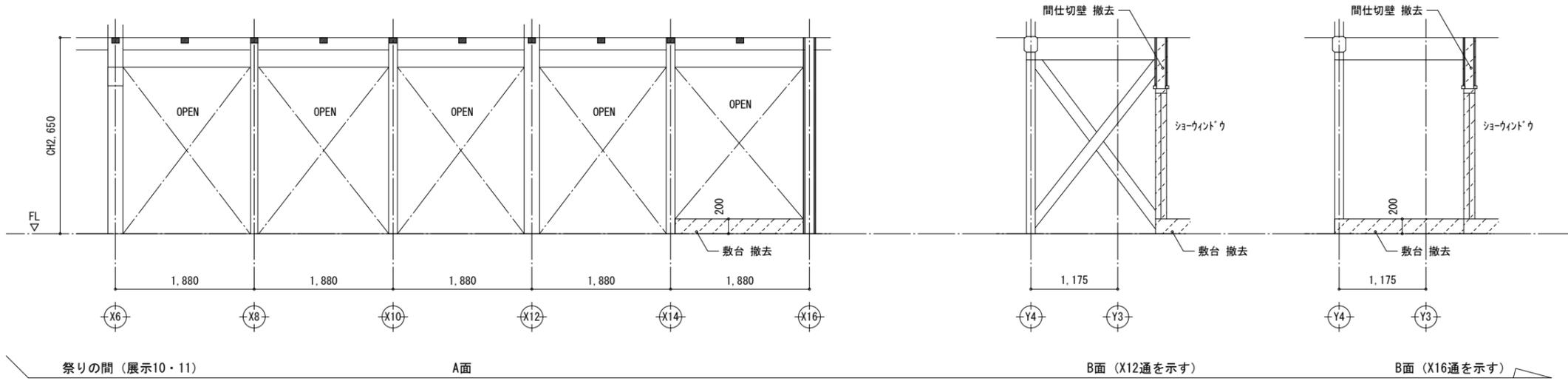
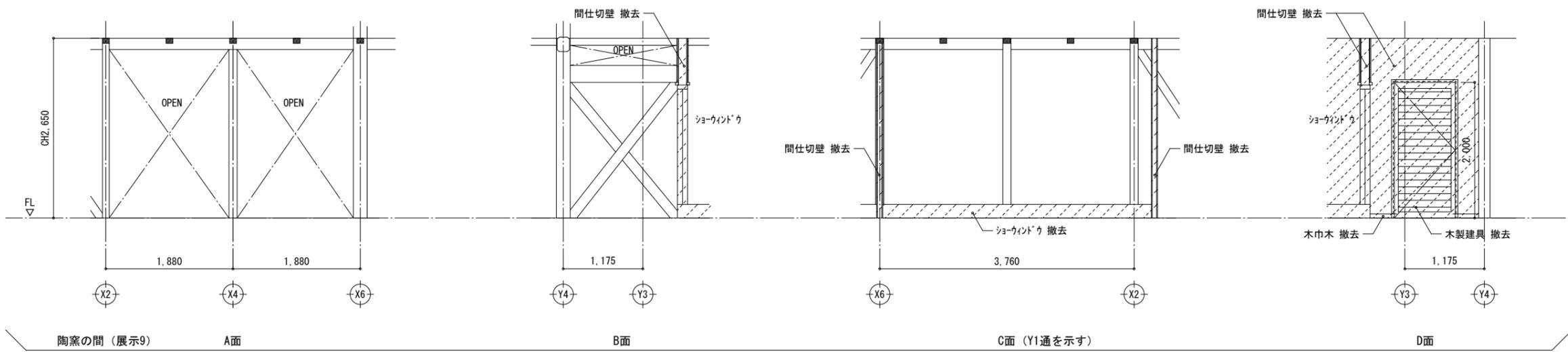
CHECK	DESIGN	DRAW

SCALE	1/50
DATE	'17.03

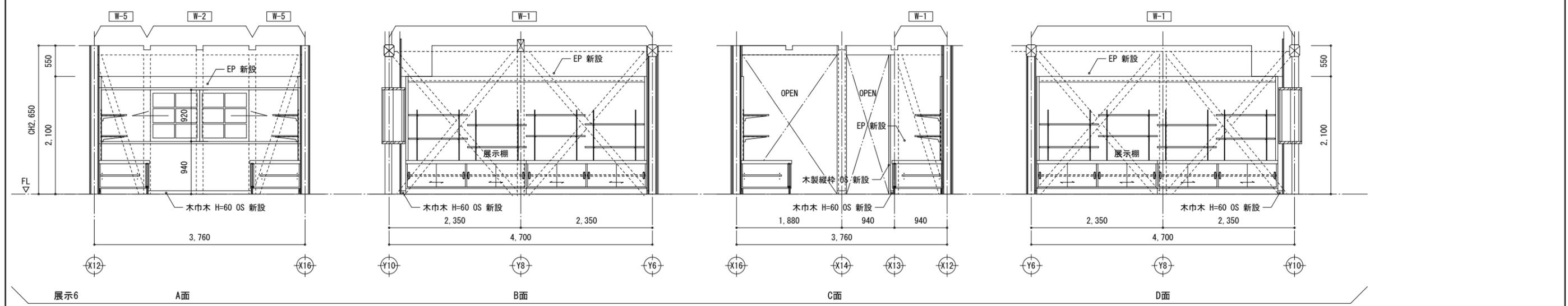
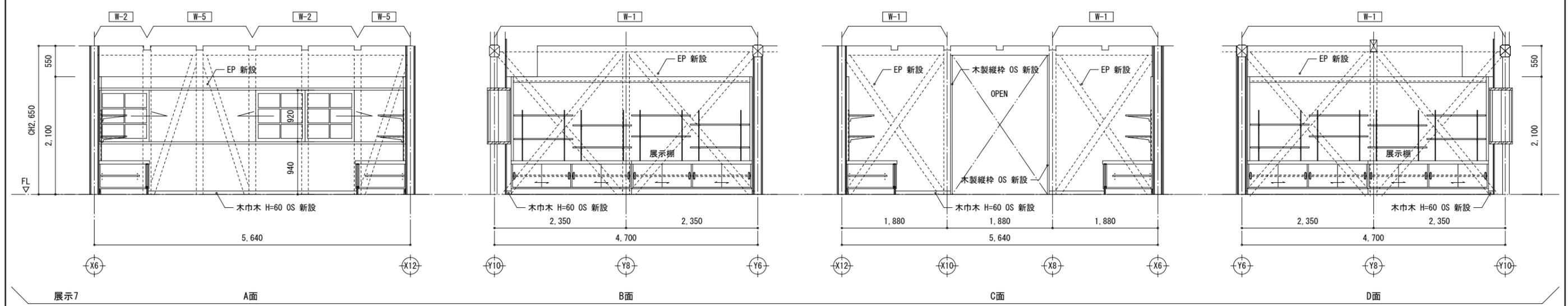
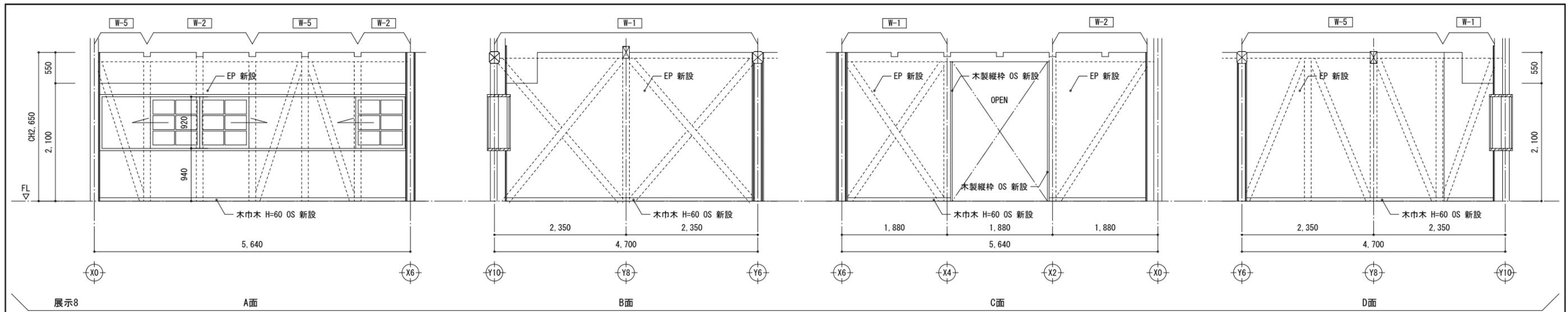
兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事
 改修前 1階展開図(1)

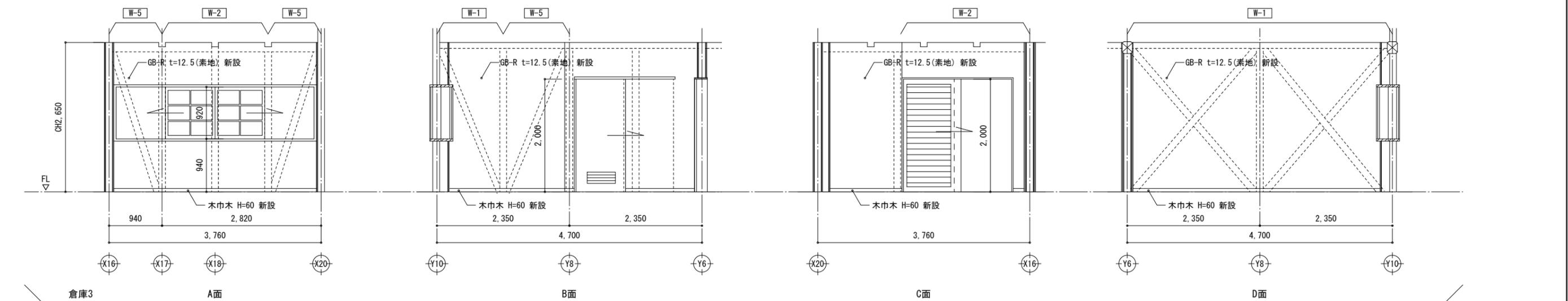
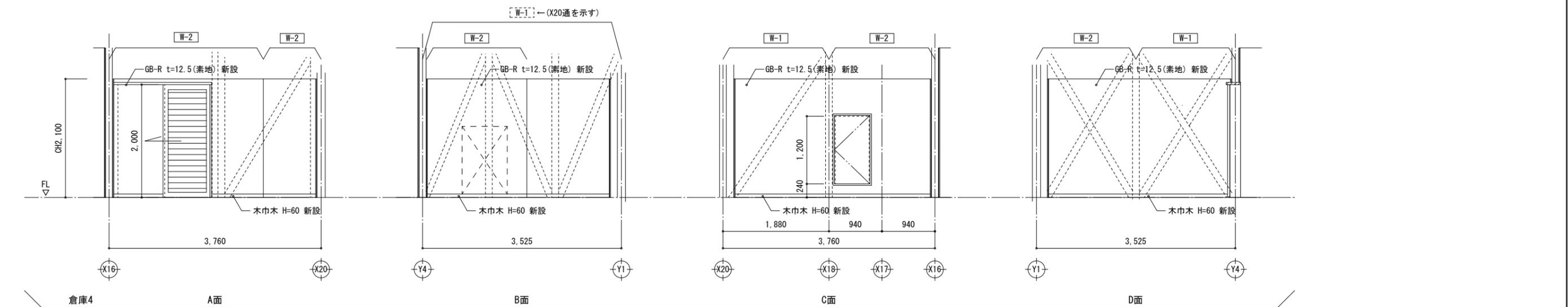
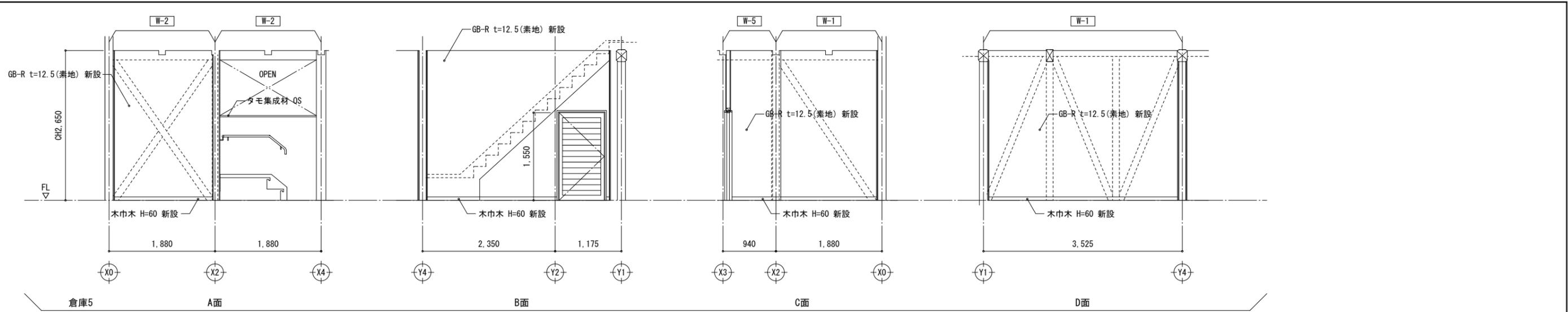
SHEET NO. A-20

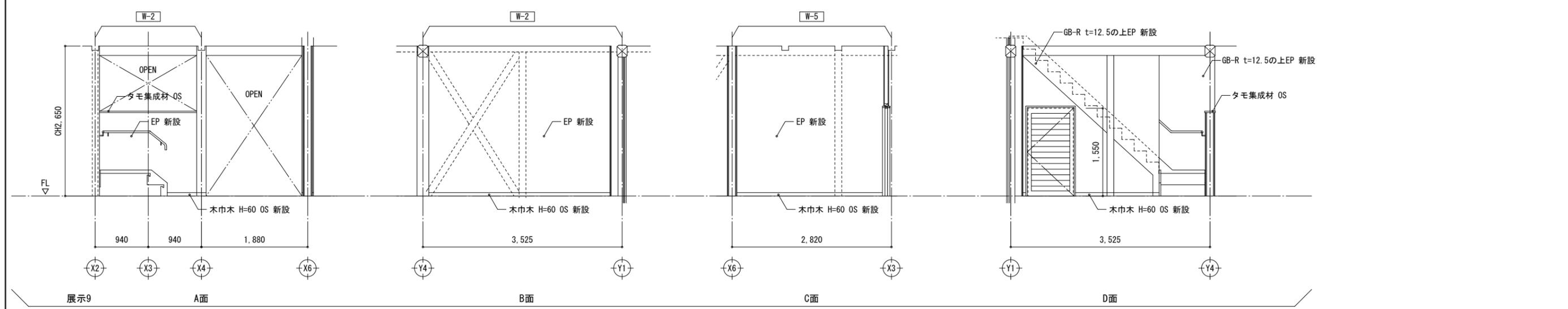
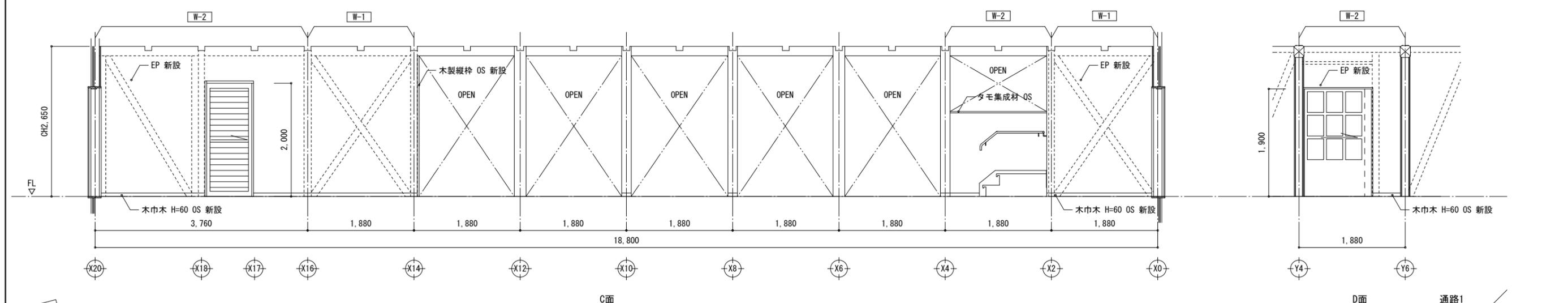
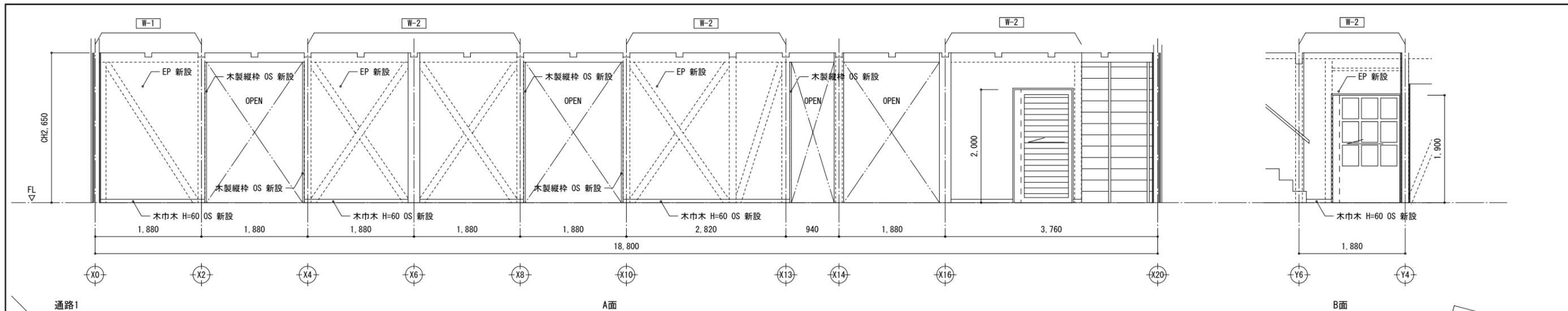


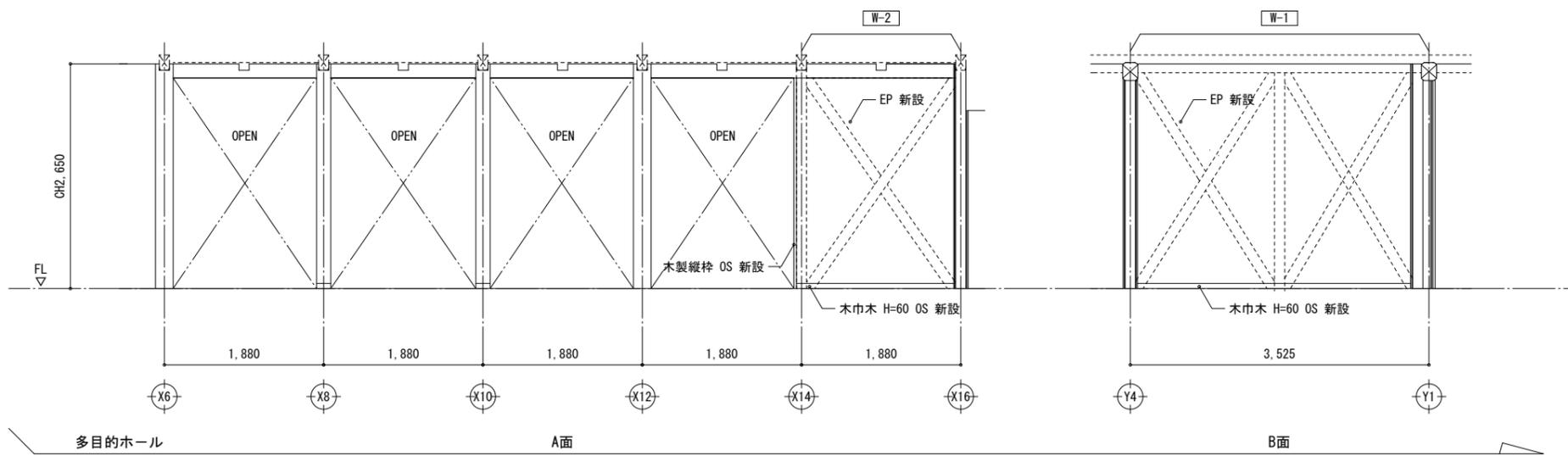


※ 特記無き限り、柱・筋かいは残置とする
凡例 (改修前)
 壁(下地共) 撤去部分を示す。
 建具(枠共) 撤去部分を示す。





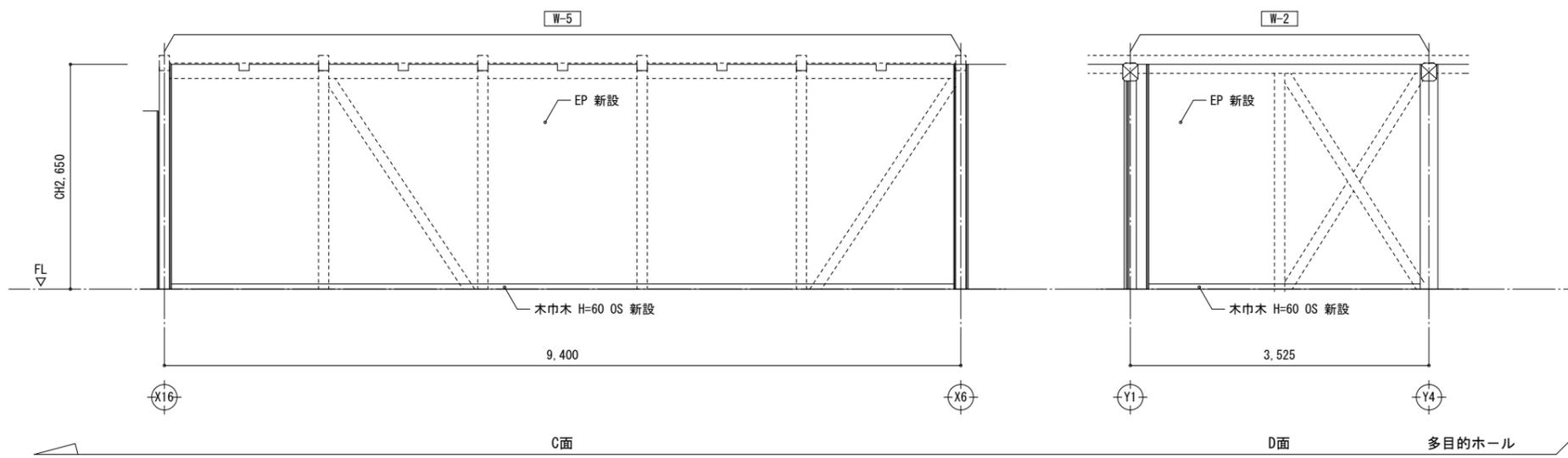




多目的ホール

A面

B面



C面

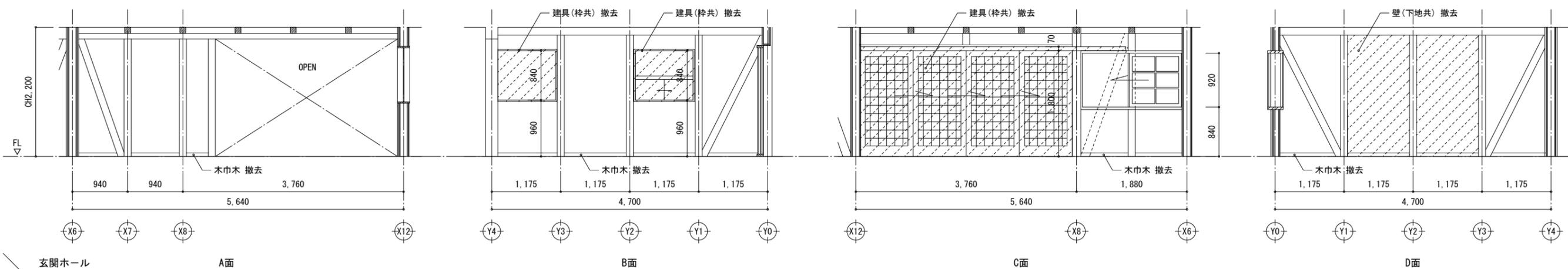
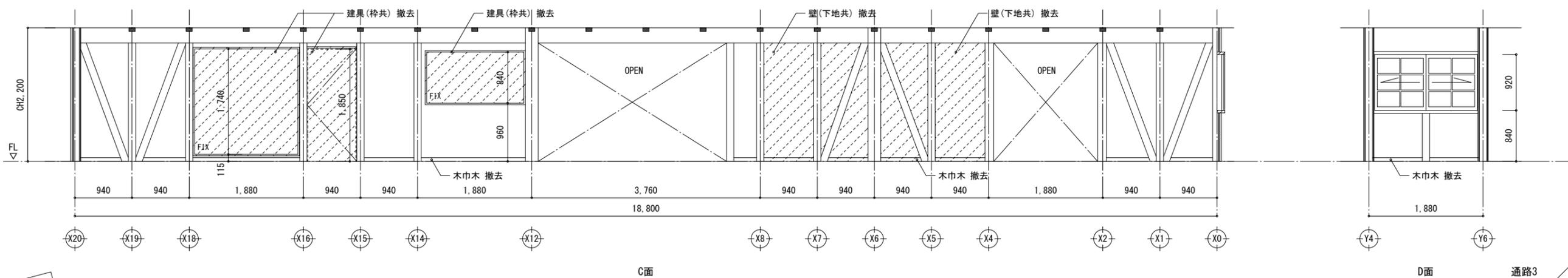
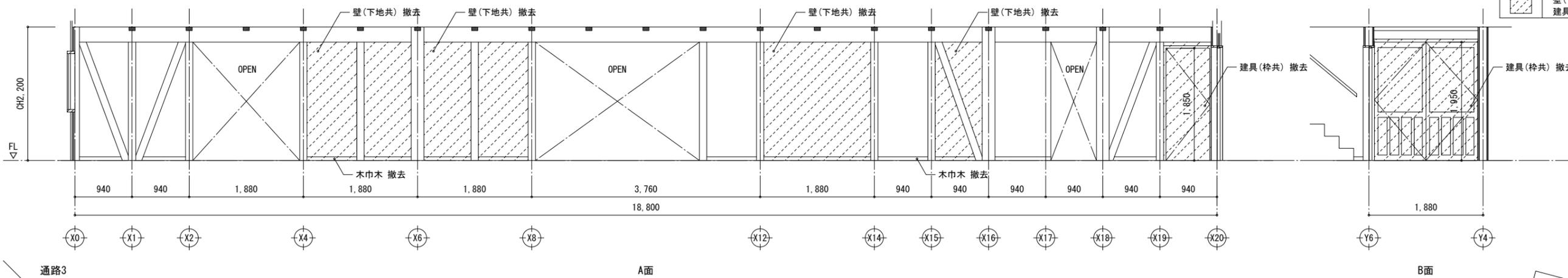
D面

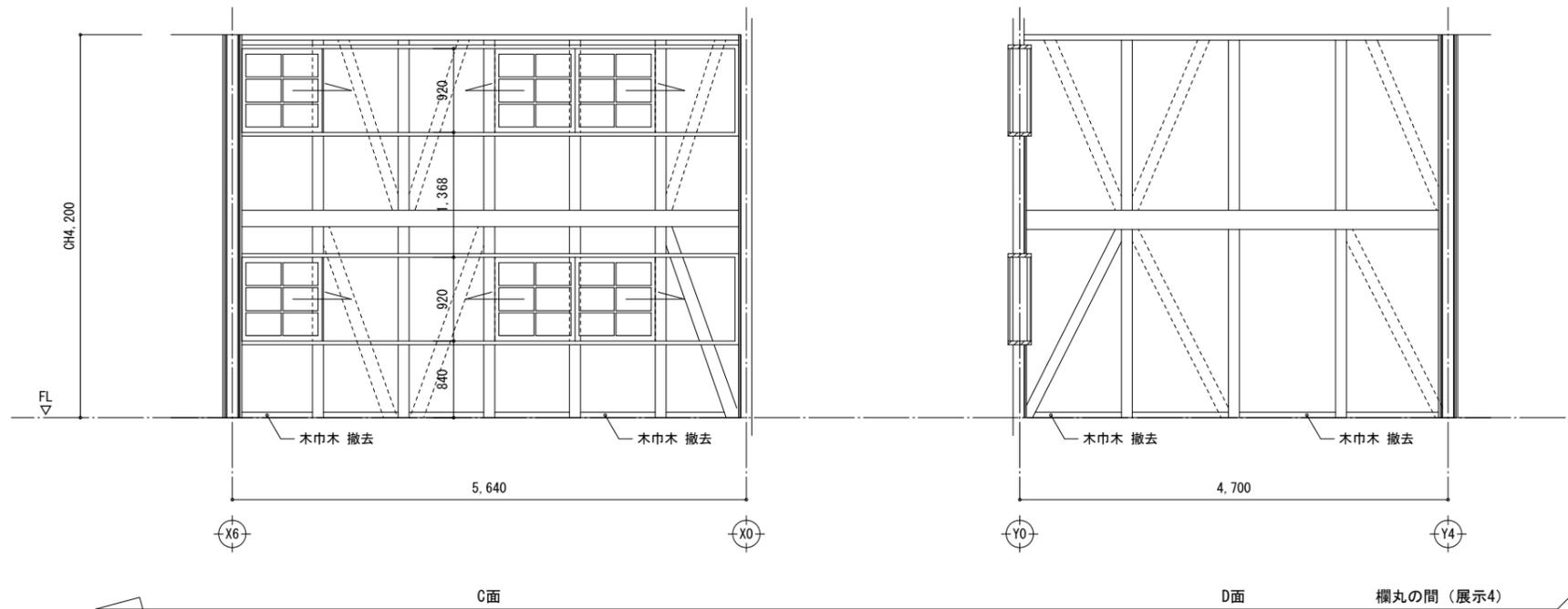
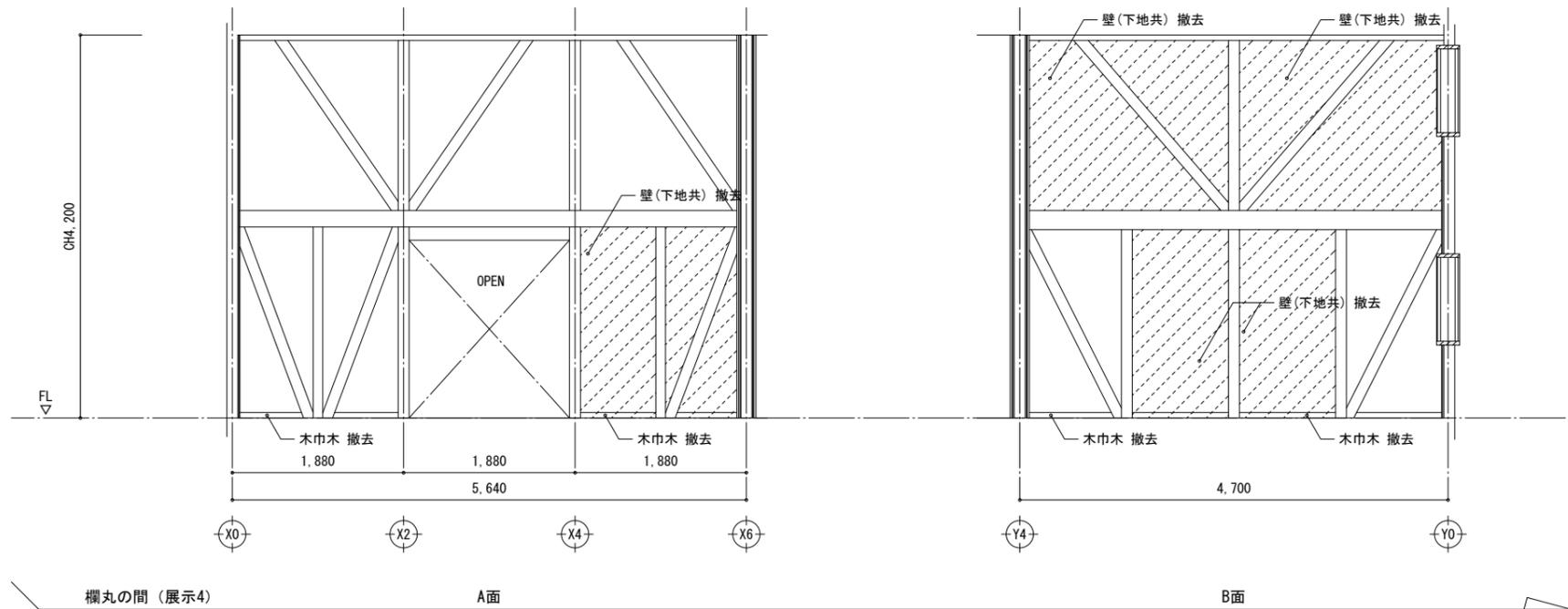
多目的ホール

※ 特記無き限り、柱・筋かいを残置とする

凡例 (改修前)

 壁(下地共)撤去部分を示す。
 建具(枠共)撤去部分を示す。





※ 特記無き限り、柱・筋かいは残置とする

凡例 (改修前)

 壁(下地共) 撤去部分を示す。

 建具(枠共) 撤去部分を示す。

株式会社 山田建築事務所

YAMADA ARCHITECT OFFICE

一級建築士 184560号 山田克弘

CHECK	DESIGN	DRAW

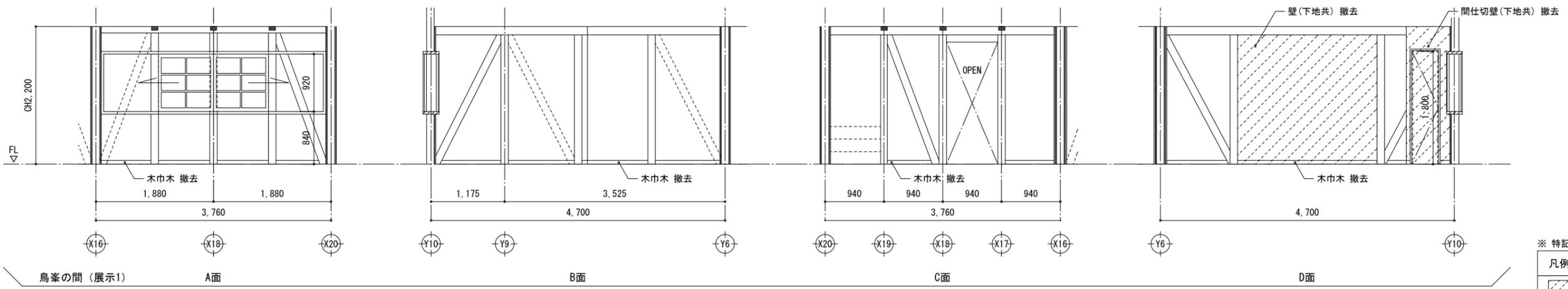
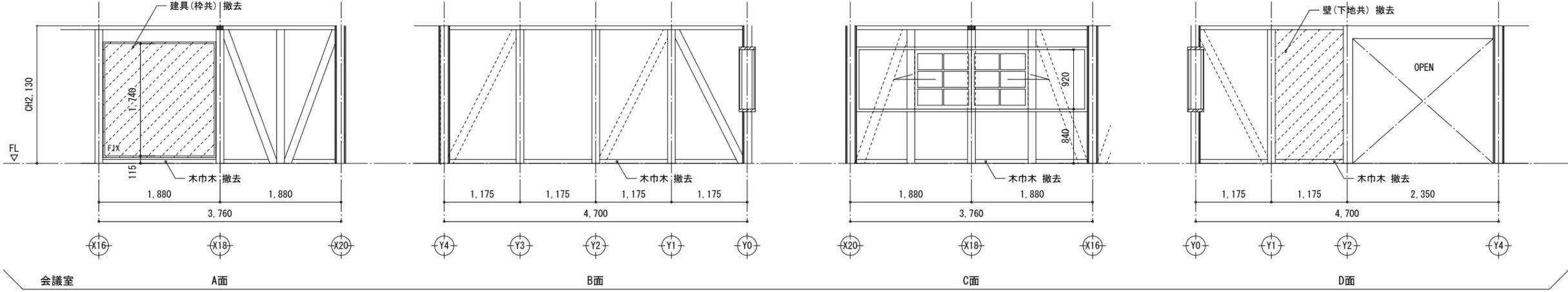
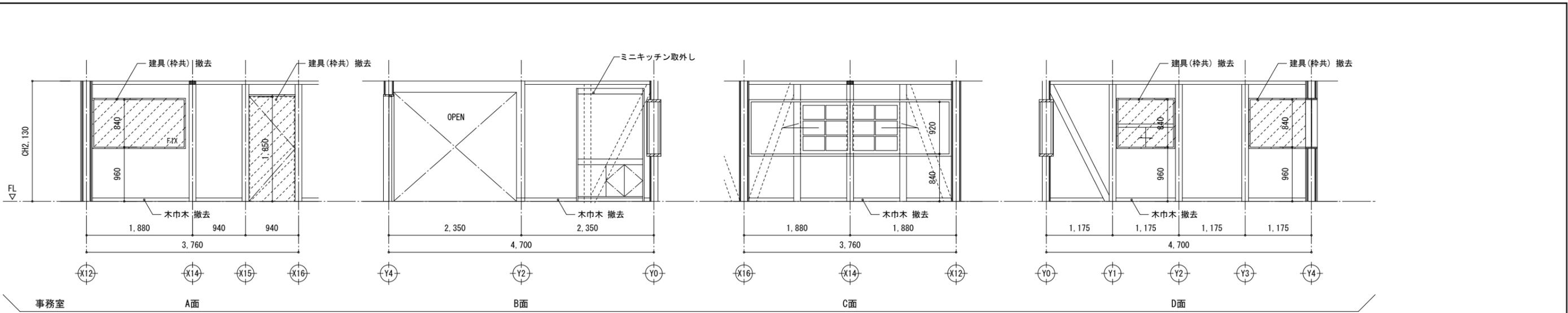
SCALE	1/50
DATE	'17.03

兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事

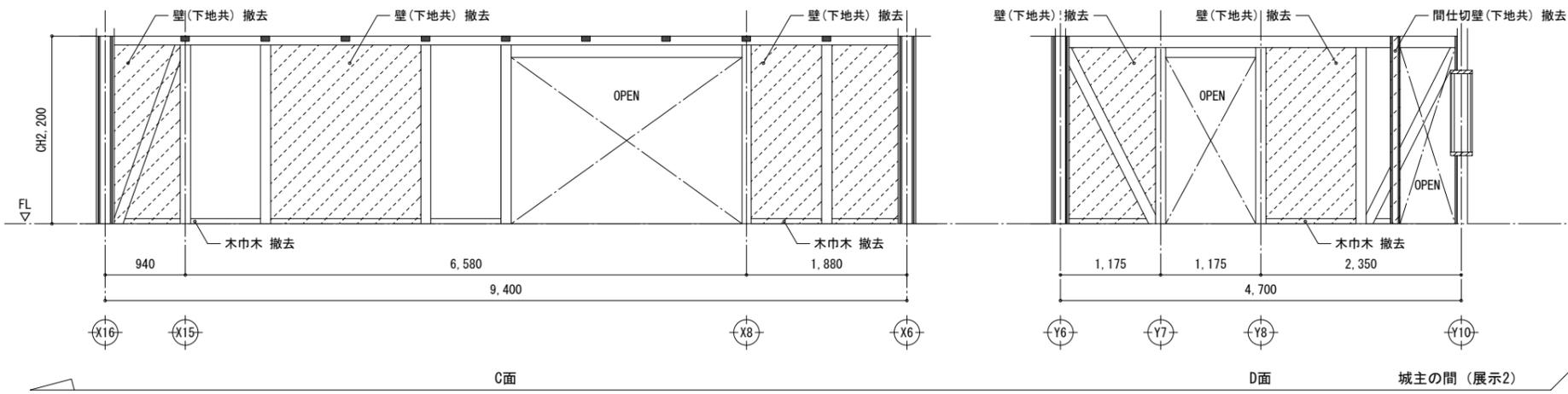
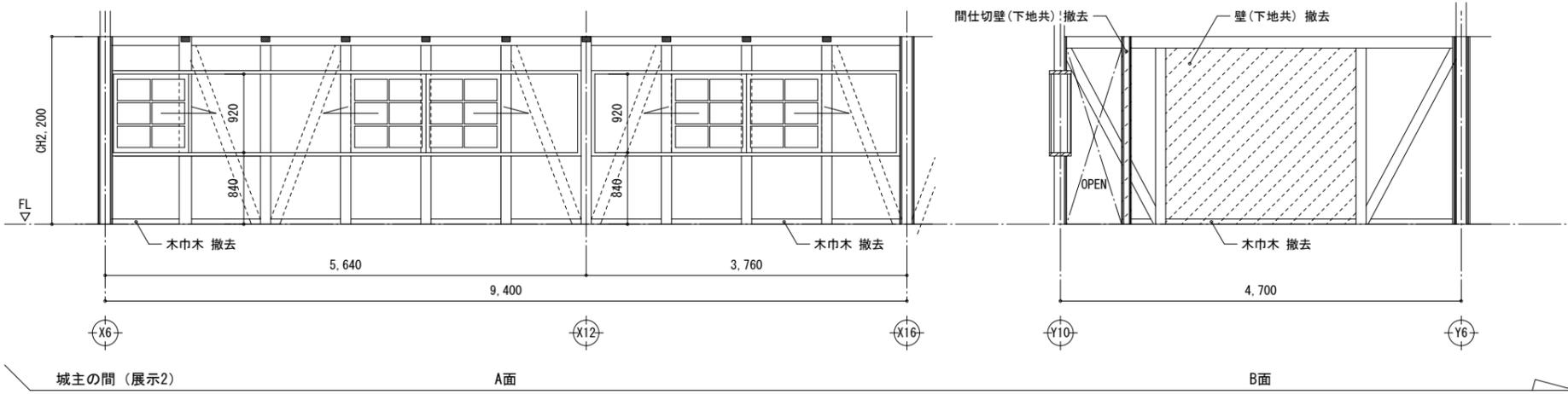
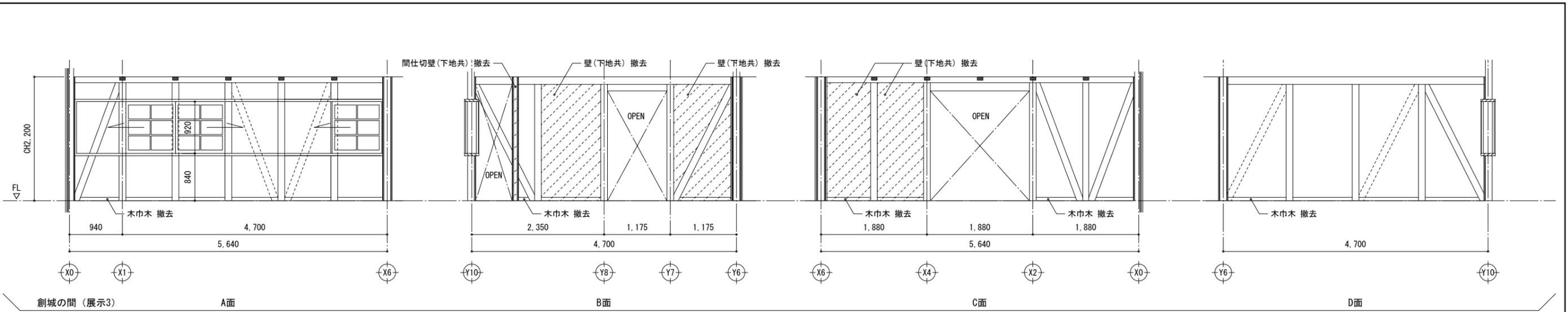
改修前 2階展開図(2)

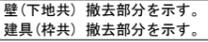
SHEET NO.

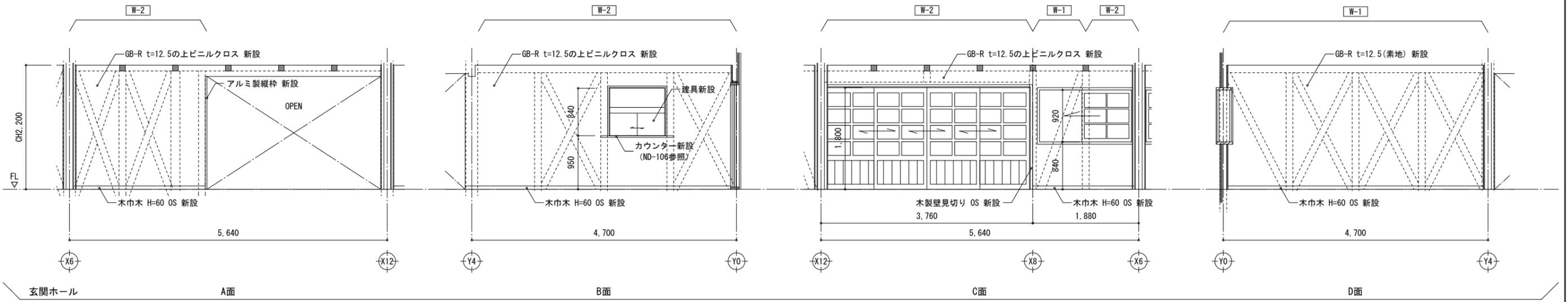
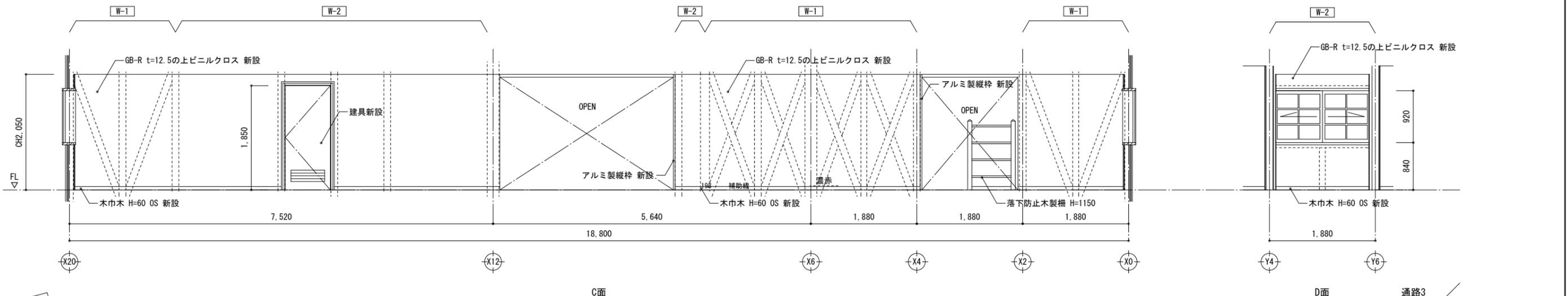
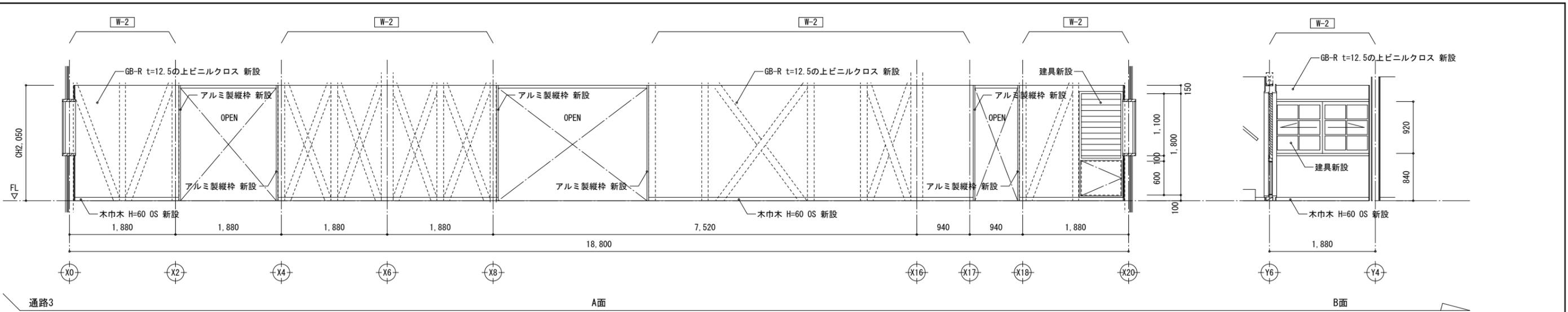
A-28

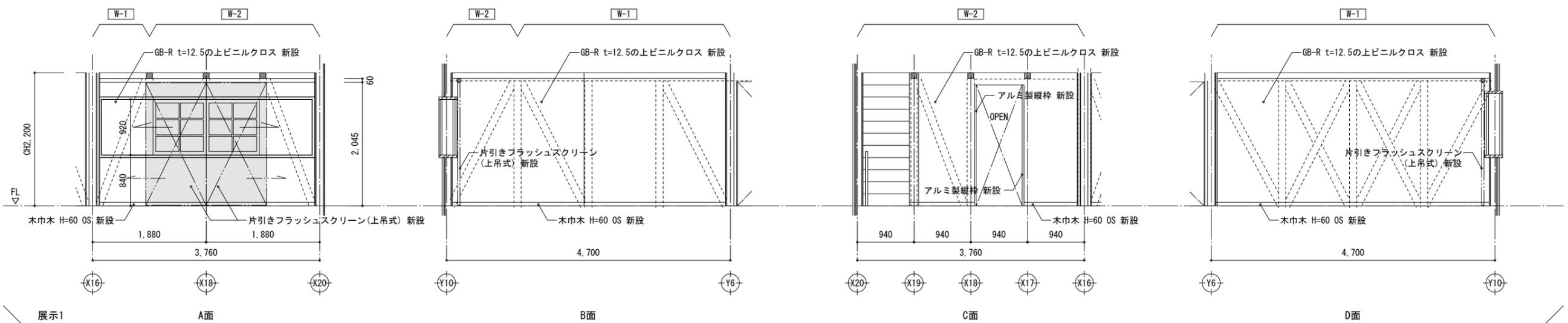
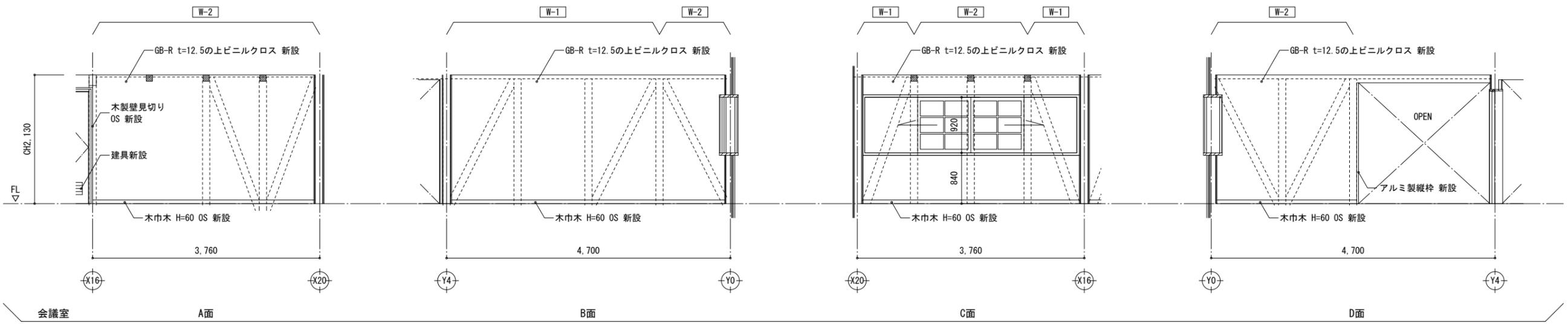
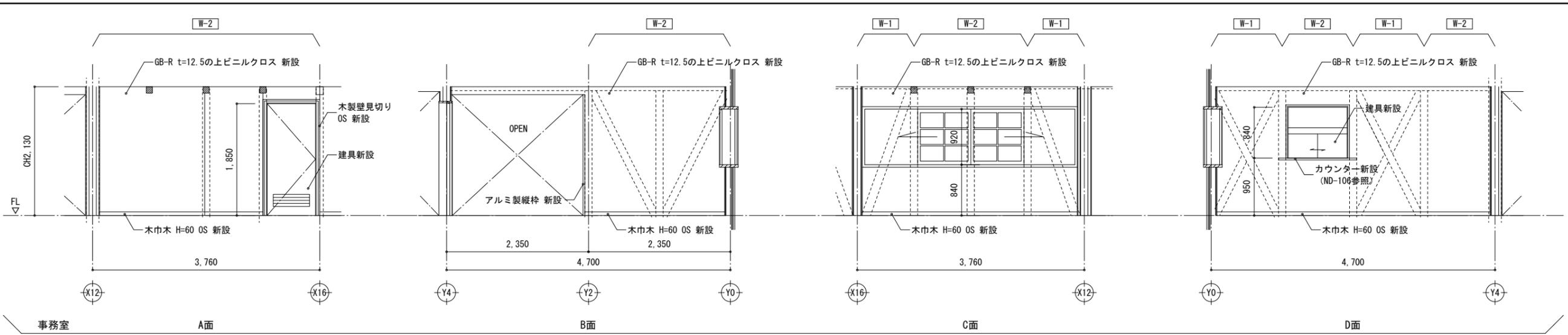


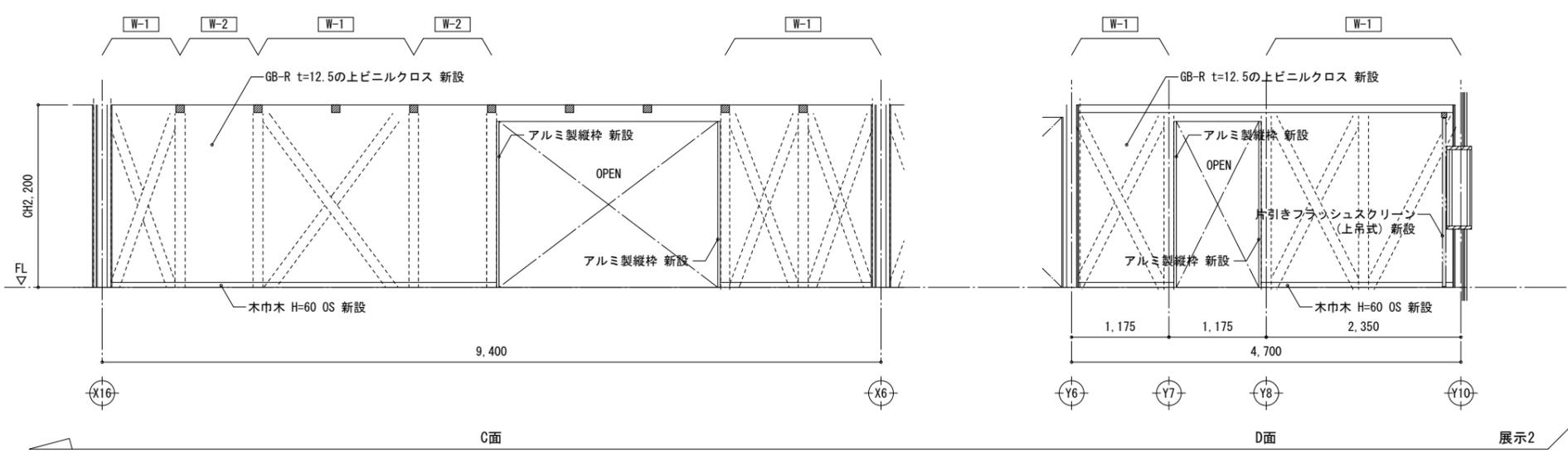
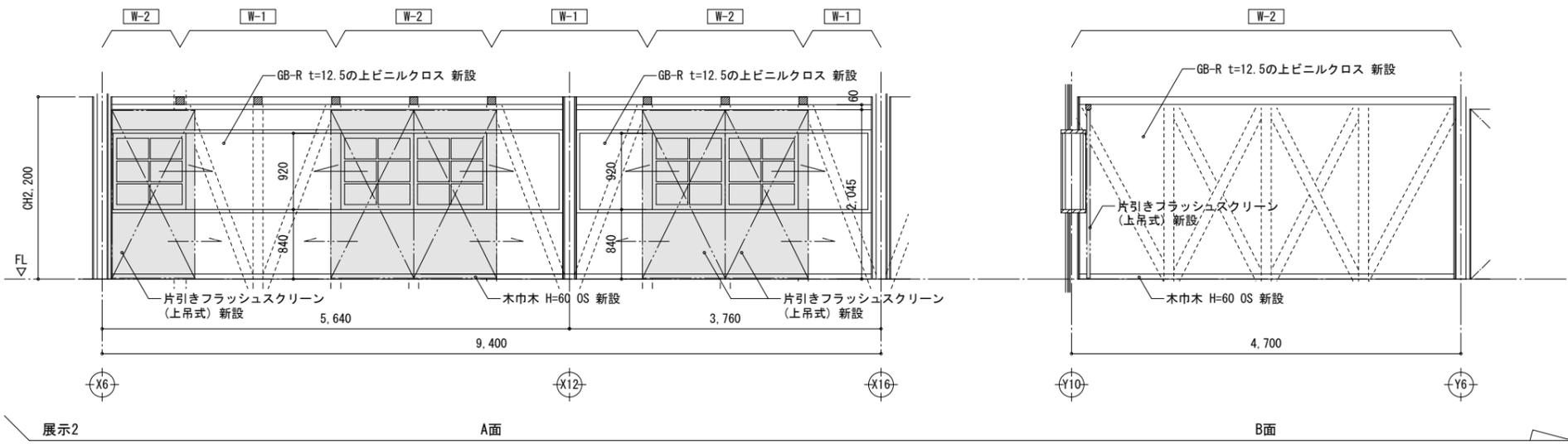
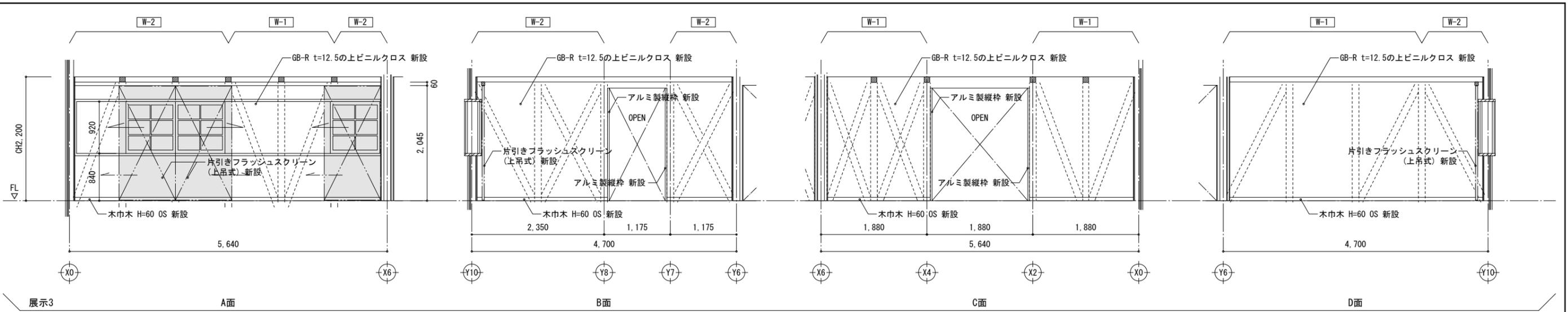
※ 特記無き限り、柱・筋かいは残置とする
 凡例 (改修前)
 [Hatched Box] 壁(下地共)撤去部分を示す。
 [Dashed Box] 建具(枠共)撤去部分を示す。

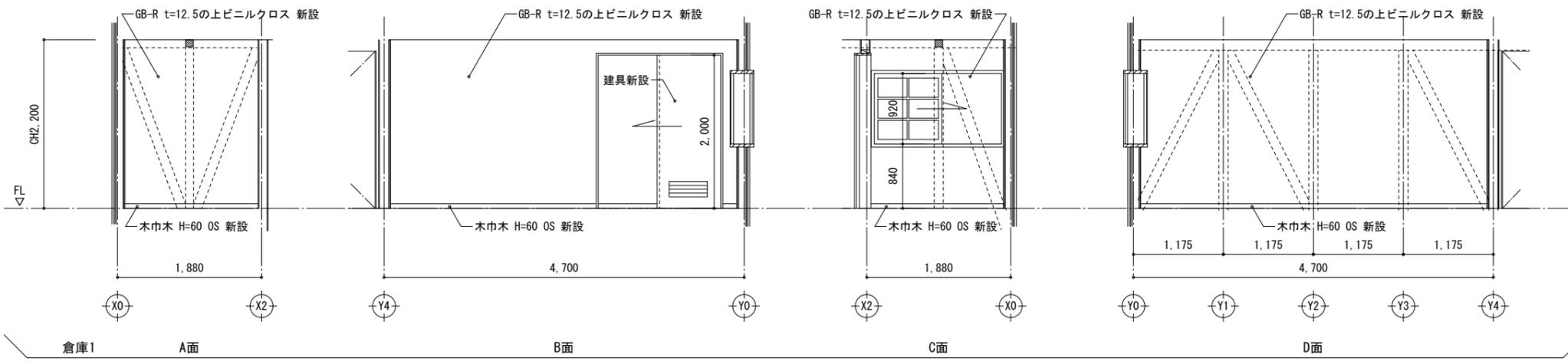
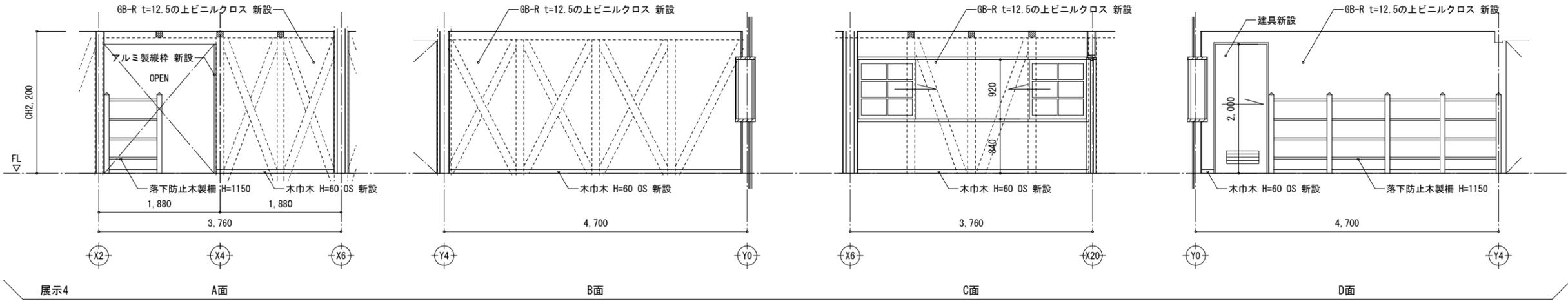


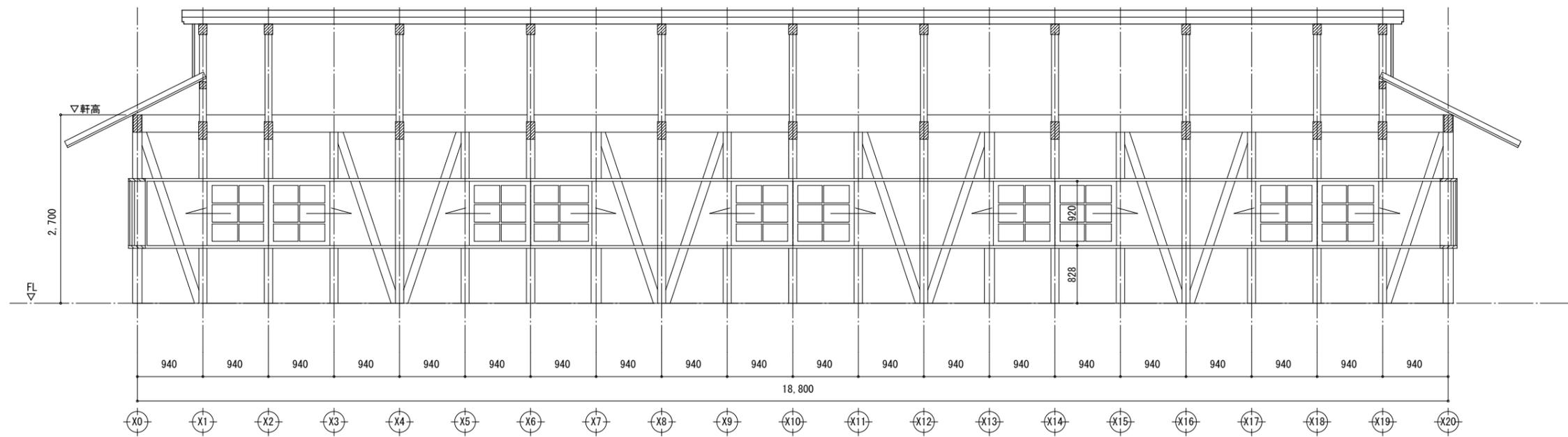
※ 特記無き限り、柱・筋かいは残置とする
凡例 (改修前)
 壁(下地共)撤去部分を示す。
 建具(桎共)撤去部分を示す。





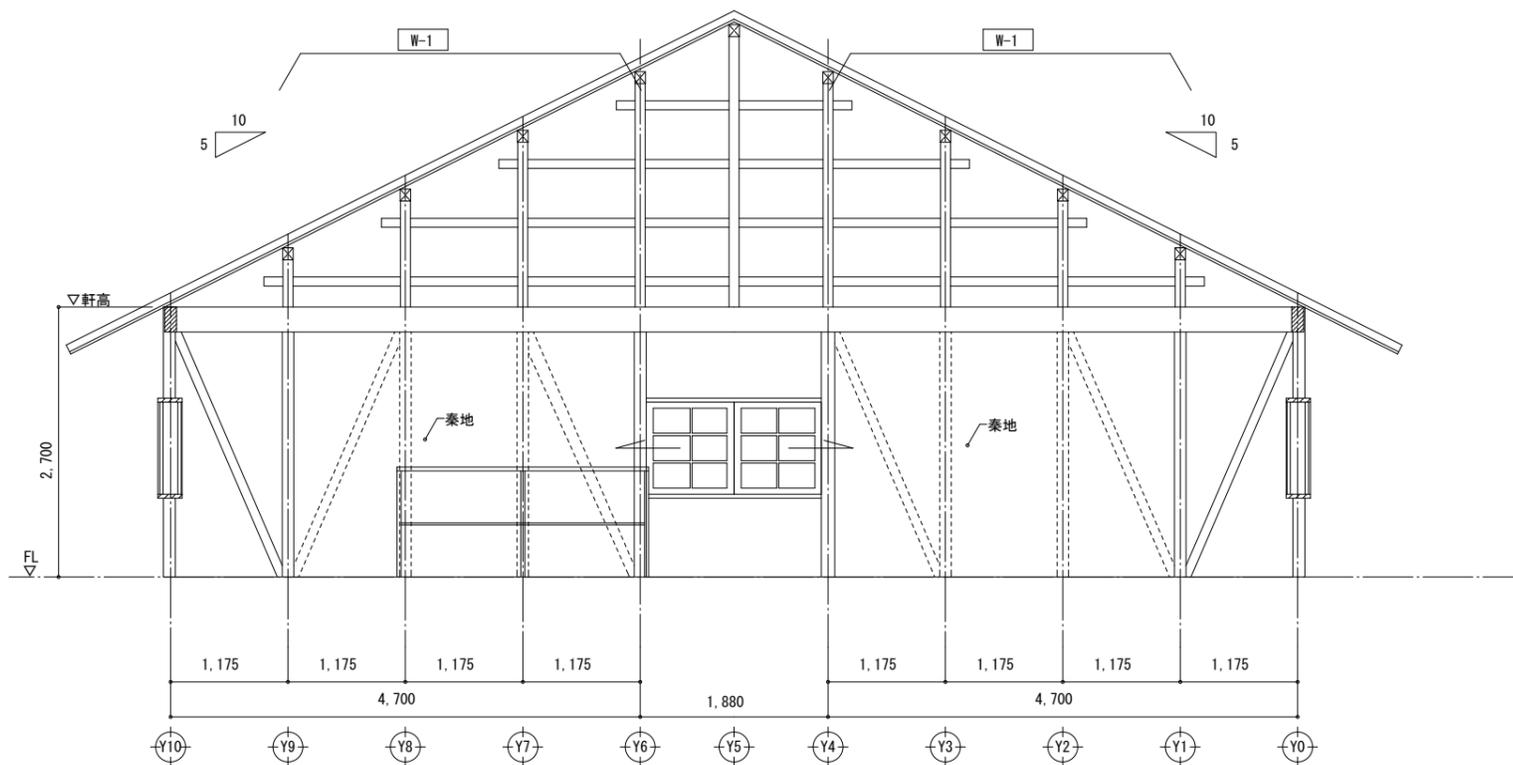






屋根裏

A面 (Y10通り面)



B面 (X20通り面)

株式会社 山田建築事務所

YAMADA ARCHITECT OFFICE 一級建築士 184560号 山田 克弘

CHECK	DESIGN	DRAW

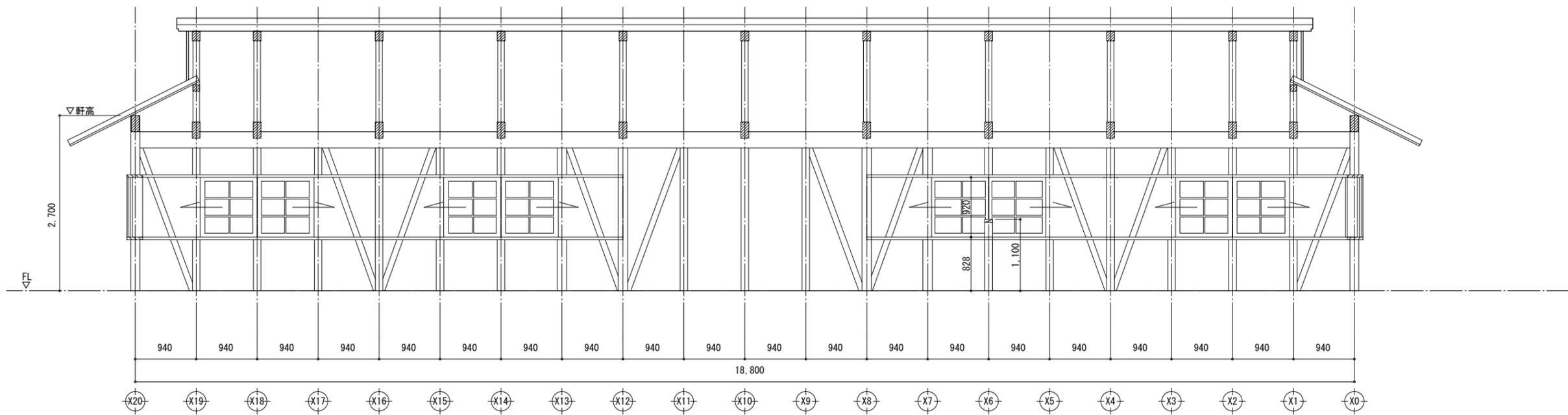
SCALE	1/50
DATE	'17.03

兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事

改修後 屋根裏展開図 (1)

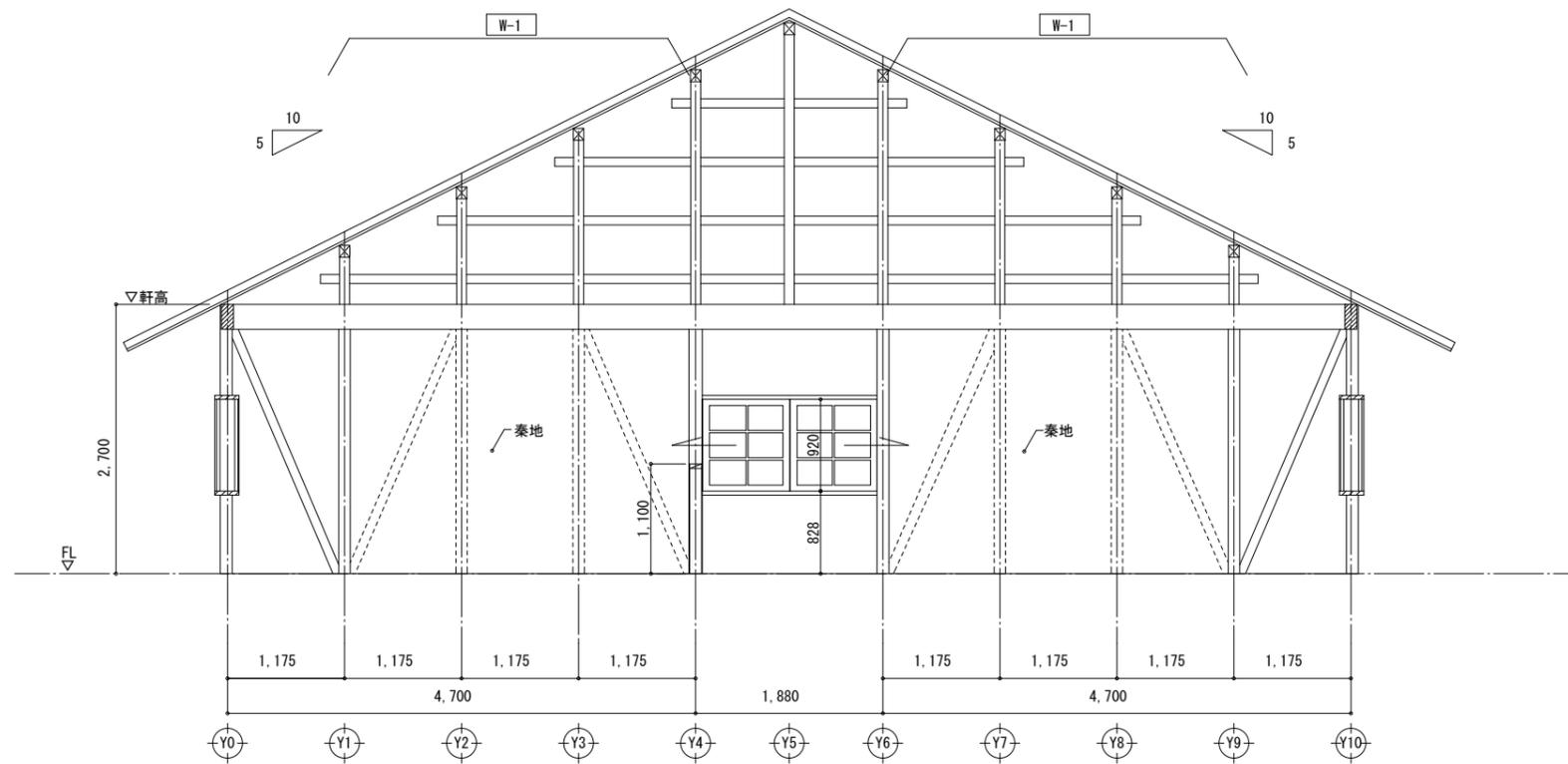
SHEET NO.

A-35



屋根裏

C面 (Y0通り面)



D面 (X0通り面)

株式会社 山田建築事務所

YAMADA ARCHITECT OFFICE 一級建築士 184560号 山田 克弘

CHECK	DESIGN	DRAW

SCALE	1/50
DATE	'17.03

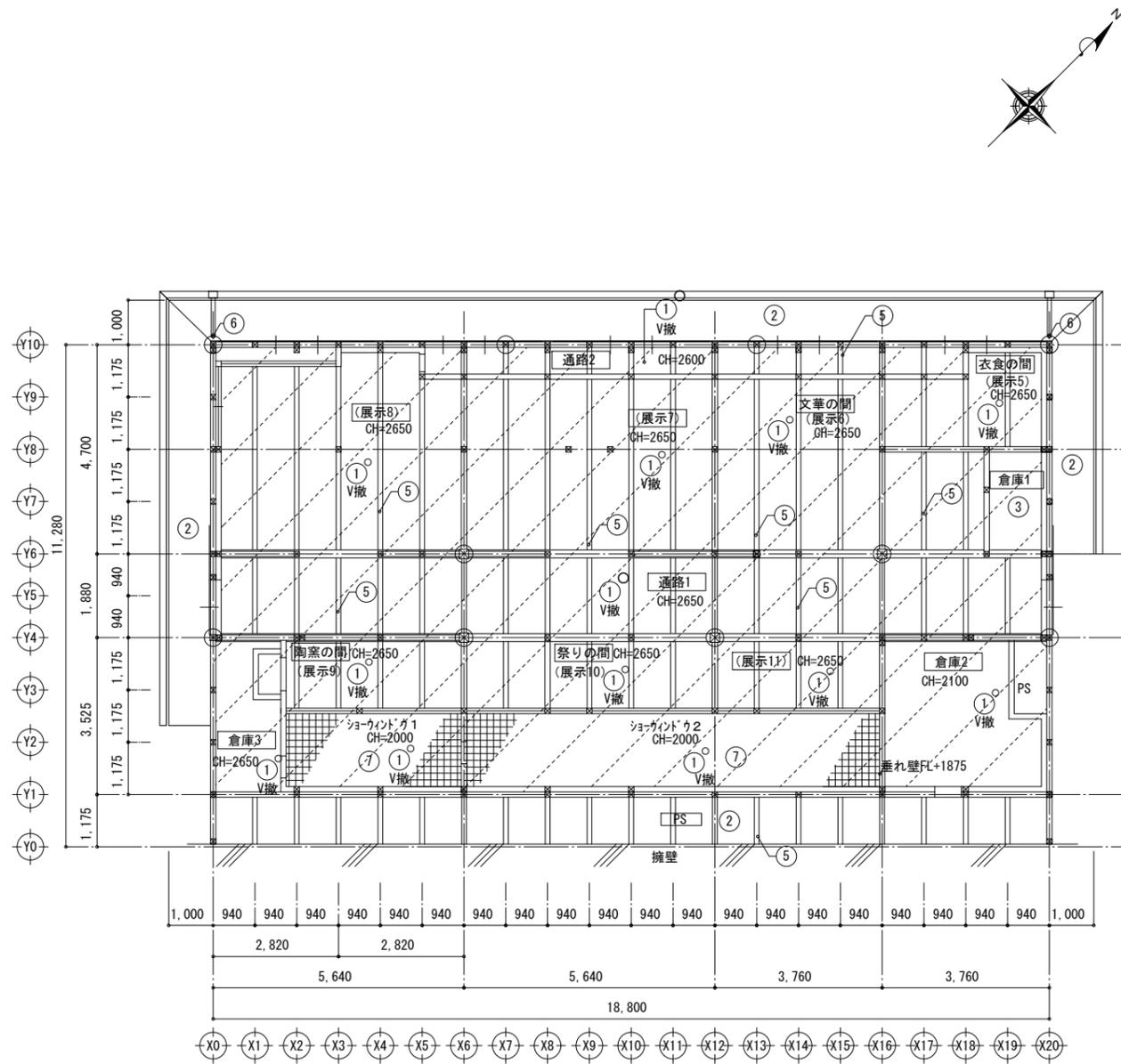
兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事

改修後 屋根裏展開図 (2)

SHEET NO.

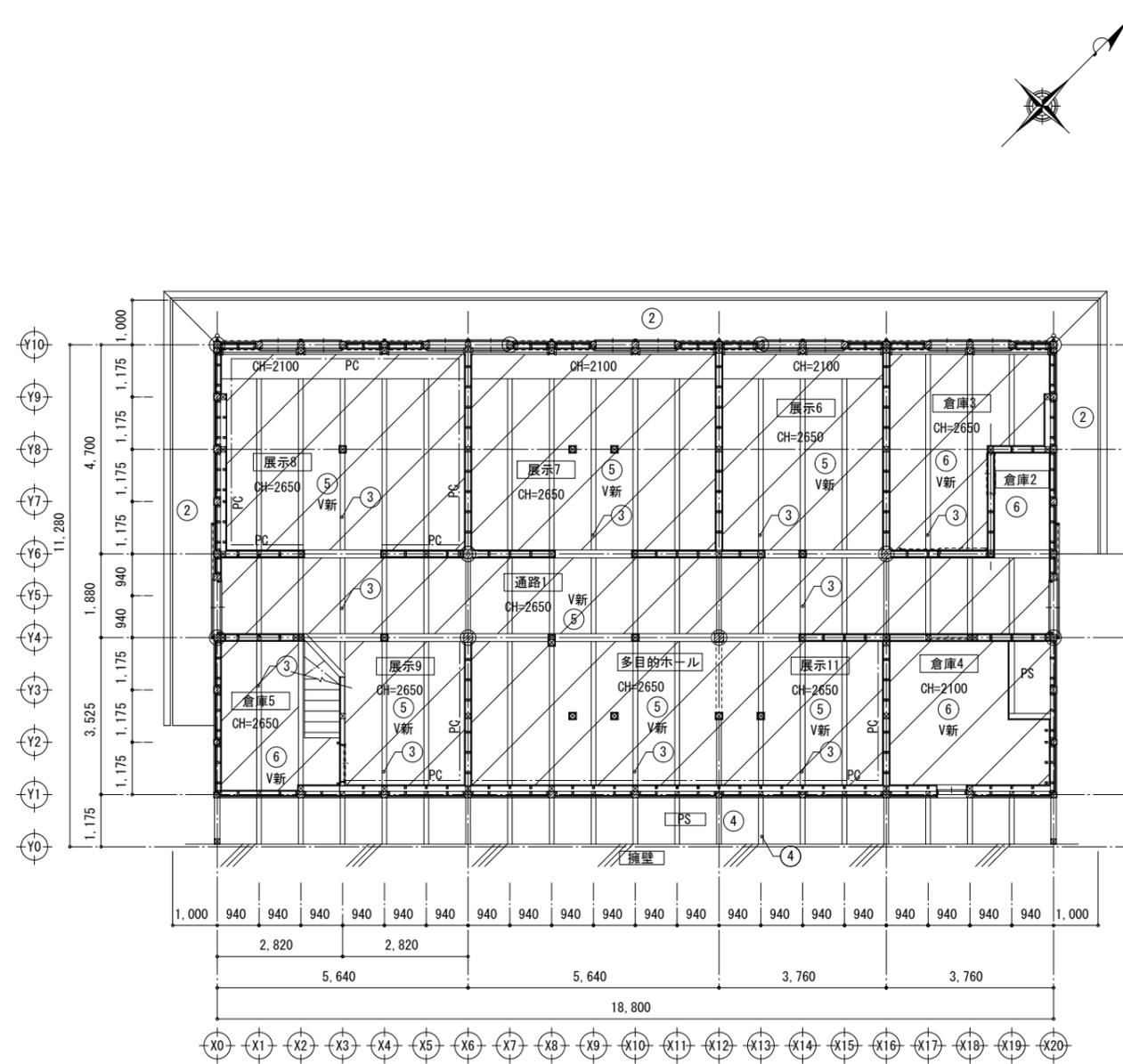
A-36

改修前



改修前 1階天井伏図 S=1/100

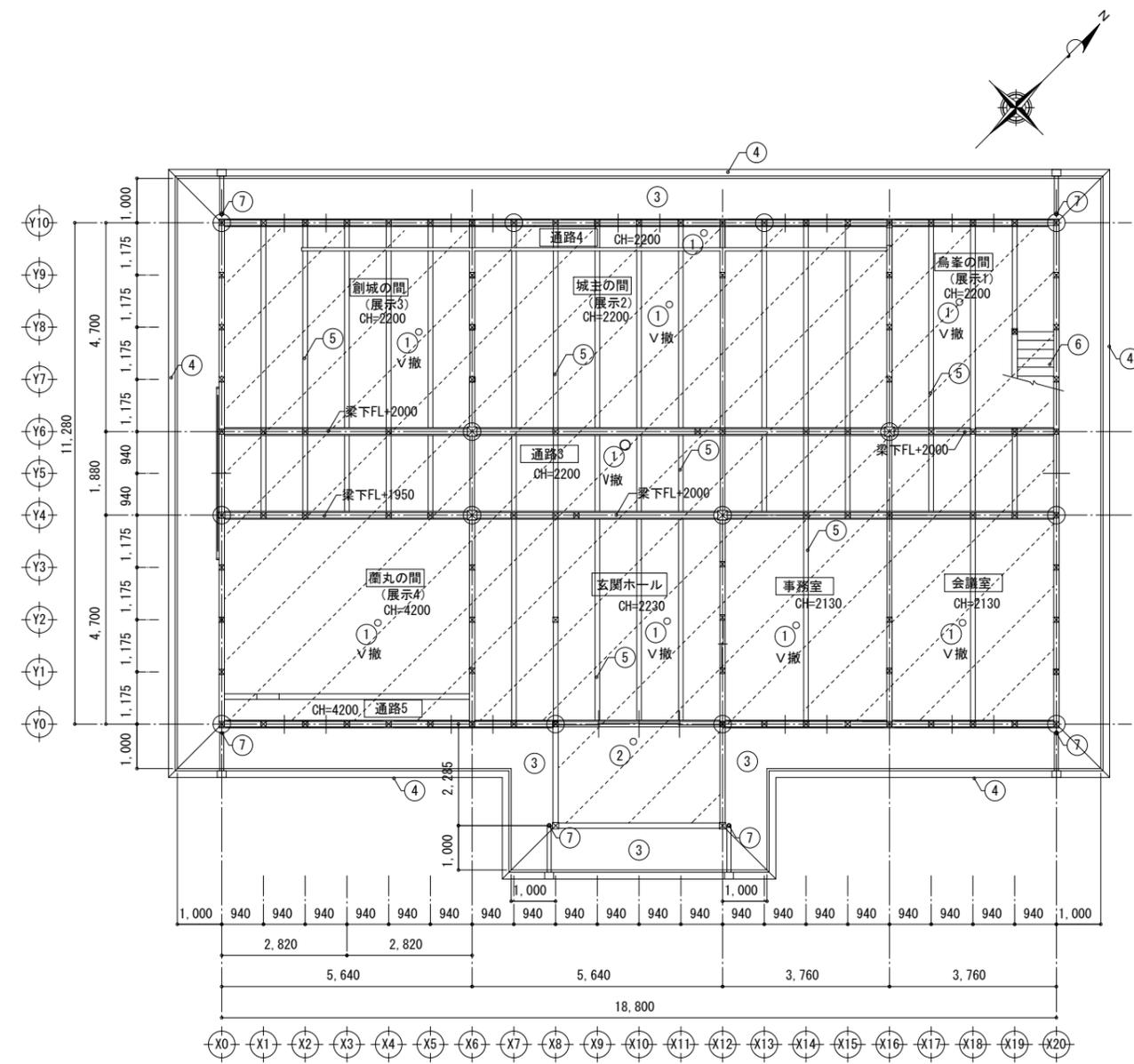
改修後



改修後 1階天井伏図 S=1/100

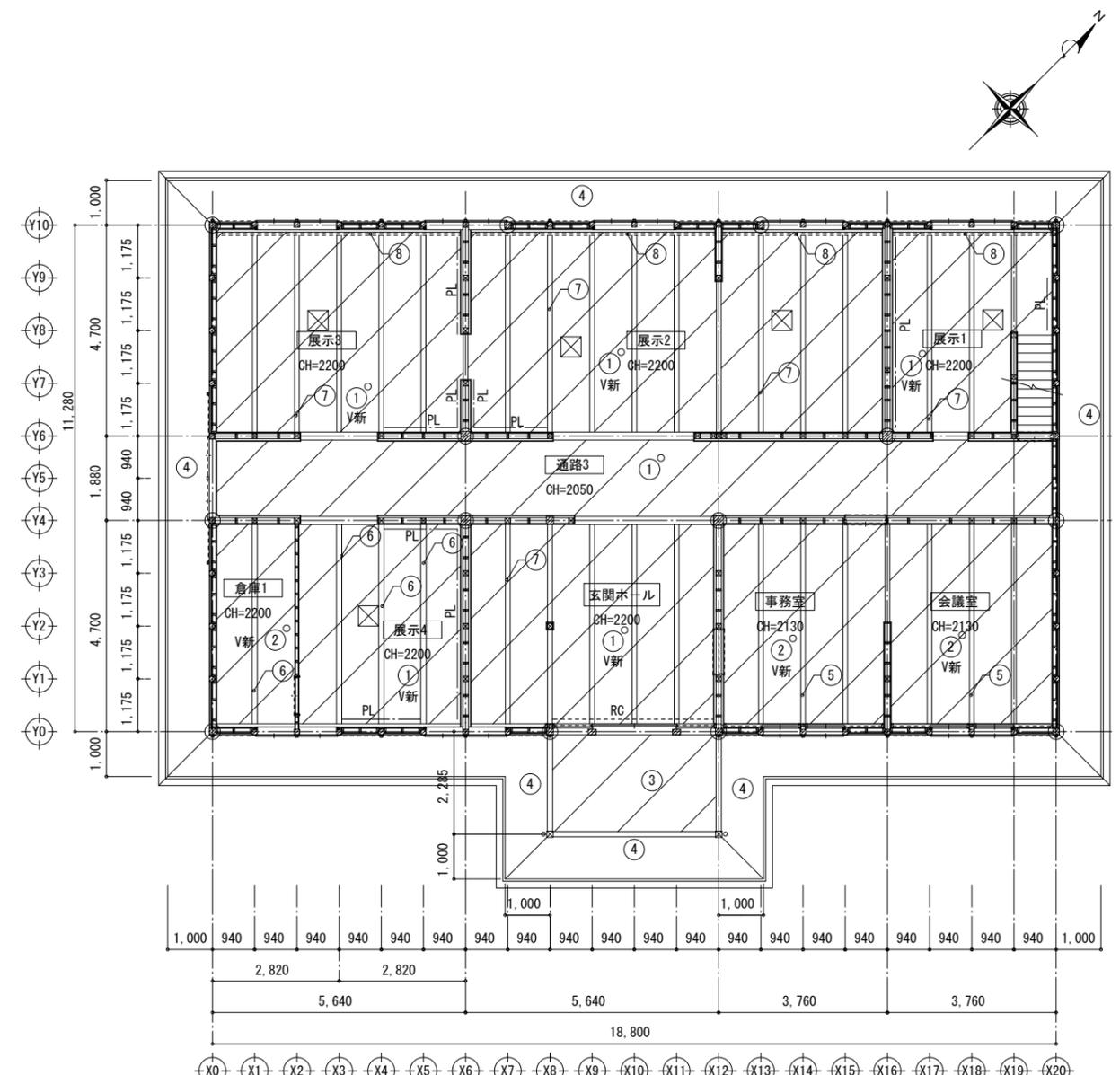
凡例 (改修前)	①	GB-Rt=12の上 ビニルクロス張 撤去	凡例 (改修後)	①	GB-Rt=9.5の上 ビニルクロス張 新設
撤去範囲を示す。	②	木組表し	新設範囲を示す。	②	木部：下地調整の上 WP
木下地共撤去を示す。	③	合板表し	木下地共新設を示す。	③	木部：下地調整の上 OS
V撤 塩ビ廻縁撤去を示す。	④	軒樋：カラー鉄板 φ120	V新 塩ビ廻縁新設を示す。	④	既設のまま
	⑤	津子：105x150 OS	PC ビクチャーレール 新設	⑤	GB-Rt=9.5の上 EP 新設
	⑥	縦樋：カラー鉄板 φ90		⑥	GB-Rt=9.5 (素地) 新設
	⑦	天井木格子ルーバー 撤去			※特記事項
		※特記事項			

改修前



改修前 2階天井伏図 S=1/100

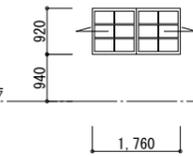
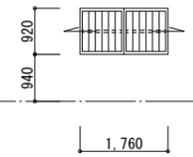
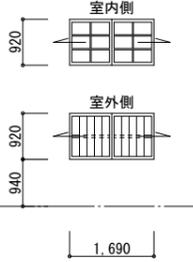
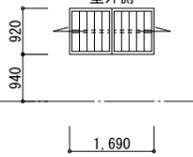
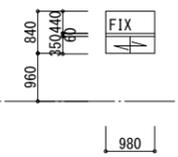
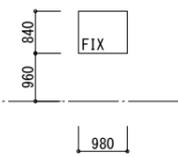
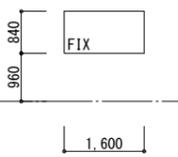
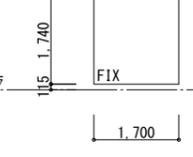
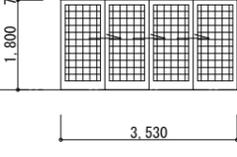
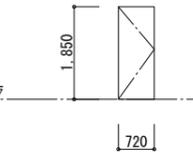
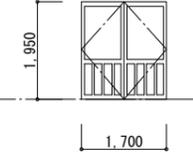
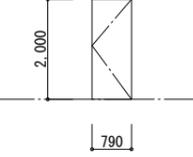
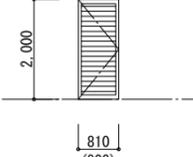
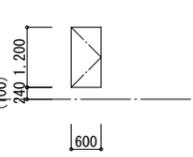
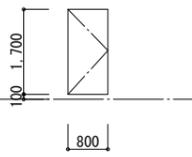
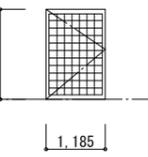
改修後



改修後 2階天井伏図 S=1/100

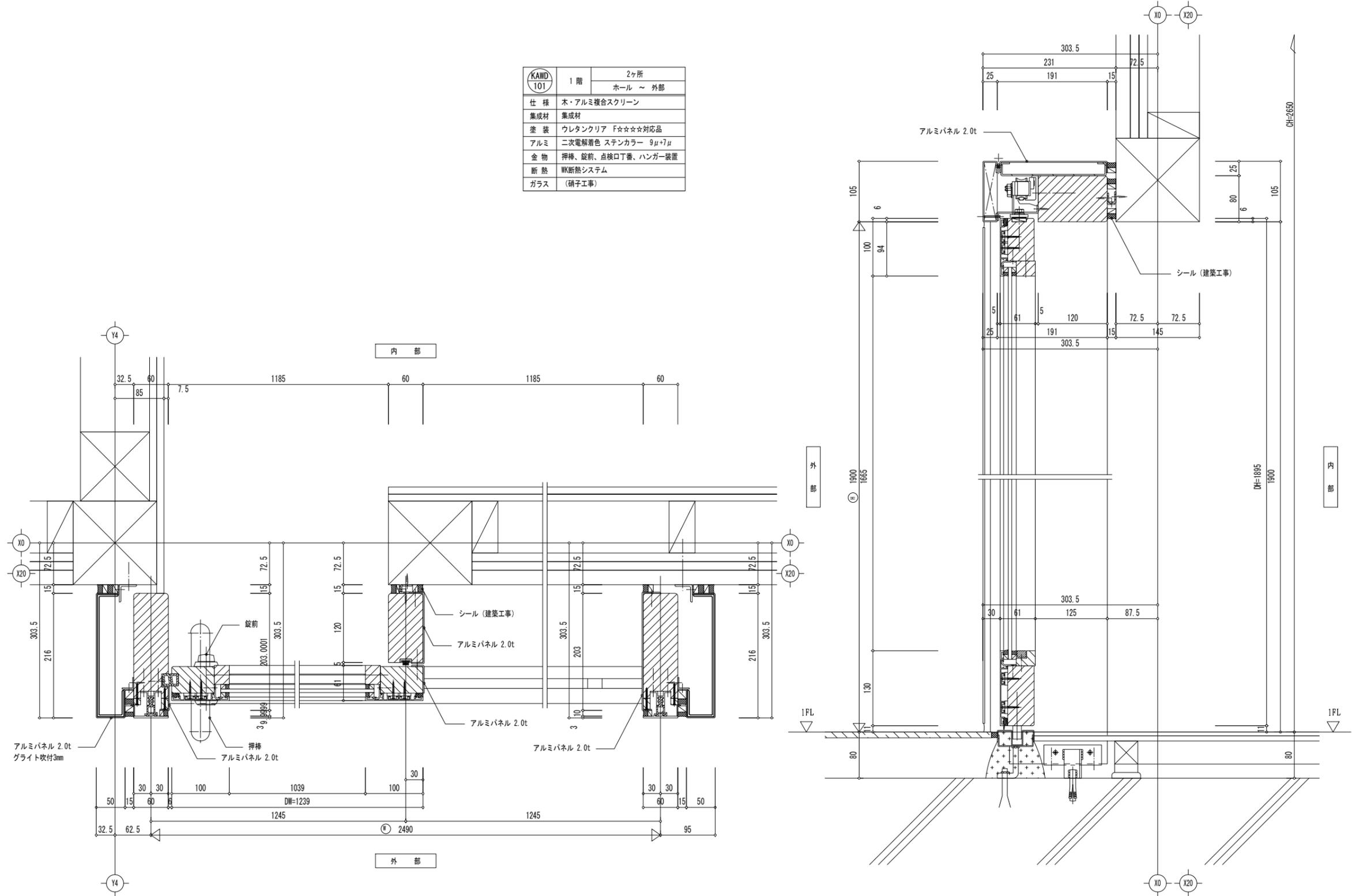
凡例 (改修前)	①	GB-Rt=12 (目透貼) EP 撤去	
撤去範囲を示す。	②	竿縁天井 撤去	
木下地共撤去を示す。	③	木組 表し	
V撤	④	軒樋: カラー鉄板 φ120	
	⑤	津子: 105x150 OS	※特記事項
	⑥	杉板 OS	
	⑦	竖樋: カラー鉄板 φ90	

凡例 (改修後)	①	GB-Rt=9.5下地の上 DRt=9 新設	
新設範囲を示す。	②	GB-Rt=9.5 EP 新設	
木下地共新設を示す。	③	竿縁天井 WP 新設	
V新	④	木部: 下地調整の上 WP	
PL	⑤	木部: 下地調整の上 OS	
RC	⑥	梁: 120x180 アルミ曲げ加工 新設	※特記事項
開口補強 450角	⑦	アルミ曲げ加工 t=0.5 新設 (ND-103参照)	
	⑧	引戸用レール 新設 (ND-107参照)	

符号及び記号		記号・数量	各階 展示	2 3	各階 展示	2 3	2階 通路1 3階 通路6	3	2階 事務室	1	2階 事務室	1	2階 事務室	1													
建具		記号・数量	改修内容：下地調整の上 OS 取外し・再取付	2 3	改修内容：下地調整の上 WP(木部)・DP(鉄部)	2 3	改修内容：下地調整の上 WP(木部)・DP(鉄部)	3	枠共撤去	1	枠共撤去	1	枠共撤去	1													
OSD	オーバースライディングドア	形状																									
SD	鋼製ドア																										
SS	鋼製シャッター																										
SG	鋼製ガラリ																										
SSD	ステンレス製ドア																										
AD	アルミニウム製ドア																										
AS	アルミニウム製シャッター																										
AW	アルミニウム製窓																										
AG	アルミニウム製ガラリ																										
P	簡易間仕切																										
SLW	スライディングウォール																										
LSD	鋼製軽量ドア																										
HD	ハンガードア																										
WD	木製ドア																										
WW	木製窓														形式	引分け窓	引分け雨戸	二重窓(引分け窓+引分け雨戸)			引違窓+FIX窓	FIX窓	FIX窓				
WS	木製スクリーン	見込	戸：33 枠：55	戸：33 枠：55	戸：33 枠：90			105	105	105																	
TB	トイレブース	材質・仕上	戸・枠：スプルス OS	戸：スプルス+杉板 OS	戸：スプルス+杉板 OS			枠：スプルス OS	枠：スプルス OS	枠：スプルス OS																	
WP	木製簡易間仕切	硝子	FL3	水切板金	FL3			FL6	FL6	FL6																	
ACW	アルミカーテンウォール	金物			水切板金																						
TP	トップライト	備考																									
SF	防煙スクリーン	記号・数量	2階 事務室	1				1階 玄関ホール	1	1階 玄関ホール	1	1階 通路1	2														
S	障子	形状																									
AWD	アルミ複合ドア																										
金物																											
DC	ストップ付 ドアチェック																										
H	丁番																										
M	アルミニウム水切																										
AP	アングルピース																										
A	SUS製網戸																										
PH	ピボッドヒンジ																										
FH	フロアヒンジ																										
HC	ヒンジクローザー																										
LH	レバーハンドル																										
ガラス																											
FL	フロート板ガラス																										
F	型板ガラス																										
PW	網入磨き板ガラス																										
PWL	線入磨き板ガラス																										
FW	網入り型板ガラス																										
FWL	線入型板ガラス																										
ST	強化ガラス(フロート)																										
SFT	強化ガラス(型板)																										
SRG	熱線反射ガラス																										
SG	スリガラス																										
IG	複層ガラス	記号・数量	2階 事務室、通路3	5	2階 通路3	1	1階 倉庫1、2	3:1 3A:1	1階 展示室	4:1 4A:1	1階 倉庫2 ショーウィンドウ2	5:1 5A:1	1階 ショーウィンドウ2	1	1階 通路1	2											
A	空気層	形状																									
凡例																											
***	撤去建具																										
***	改修建具																										
K***	新設建具																										
特記事項																											
1. 特記なき限り、建具塗装は両面とし、 枠共とする。																											
2. 特記なき限り、クレンジングは両面とする。																											
3. 特記なき限り、ガラス廻りシーリング撤去新設 は内部のみとする。																											
4. 既設建具は現地調査を行い、劣化部分を 確認すること。																											
5. 新設建具は現地探寸を行い、寸法を決定 すること。																											
形式	片開きフラッシュ戸														片開きフラッシュ戸	両開き扉戸	片開きフラッシュ戸	片開きルーバー戸	片開きフラッシュ戸	片開きフラッシュ戸	片開きフラッシュ戸	片開きフラッシュ戸	片開きフラッシュ戸	片開き格子戸			
見込	戸：33														戸：33	戸：33	戸：33	戸：33	戸：33	戸：33	戸：33	戸：33	戸：33	戸：33			
材質・仕上	戸・枠：スプルス OS														戸・枠：スプルス OS	戸・枠：スプルス OS	戸：スプルス SOP 枠：スプルス OS	戸・枠：スプルス OS	戸：スプルス SOP 枠：スプルス OS	戸：スプルス SOP 枠：スプルス OS	戸：スプルス SOP 枠：スプルス OS	戸：スプルス SOP 枠：スプルス OS	戸：スプルス SOP 枠：スプルス OS	戸・枠：スプルス OS			
硝子																											
金物	LH、DC、シリンダー錠、丁番	木引手、DC、丁番	LH、(シリンダー錠)、(サムターン)、丁番	把手、丁番、マグネットキャッチ	ケースハンドル、丁番	ケースハンドル、丁番	ケースハンドル、丁番	ケースハンドル、丁番	ケースハンドル、丁番	ケースハンドル、丁番	把手、サムターン、丁番																
備考					(下部アンダーカット)																						

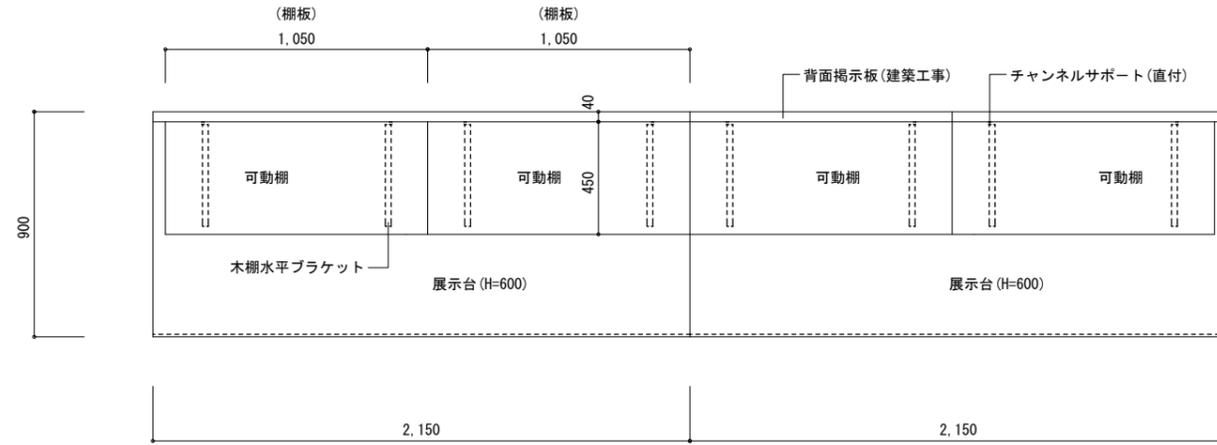
記号・数量	WD 8 WD 8A 1階 通路2 8 : 1 8A : 1	WD 9 3階 倉庫5、6 2		S 1 1階 展示8 1	S 2 1階 展示8 1				
形状	 枠共撤去 ()内はWD8Aを示す。	 枠共撤去		 枠共撤去	 枠共撤去				
形式	片開きフラッシュ戸	引違ガラス戸		4枚引違障子戸	引違障子戸				
見込	戸: 3 3	戸: 3 3		戸: 3 3	戸: 3 3				
材質・仕上	戸: スプルー OS 枠: スプルー OS	戸・枠: スプルー OS		戸・枠: スプルー OS	戸・枠: スプルー OS				
硝子		SG 4							
金物	LH、丁番								
備考									
記号・数量	KAW 1 2階 事務室 1	KAW 2 2階 通路3 1		KAWD 101 1階 通路1 2		KWW 101 2階 通路3 1			
形状	 開口率 70%	 開口率 70%		 開口率 70%		 開口率 70%			
形式	カウンター窓	片開き点検窓(アルミガラリ付)		片引きフラッシュ戸(外付)		二重窓(引分け窓+引分け両戸)			
見込	7 0	7 0		※建具詳細図による		戸: 3 3 枠: 9 0			
材質・仕上	アルミ電解着色(カラー)	アルミ電解着色(カラー)		アルミ電解着色(カラー)		戸: スプルー+杉板 OS			
硝子	FL 3			SFT 4		FL 3			
金物	クレセント、AP、アルミ額縁 下部フラットレール	ケースハンドル、シリンダー錠、SUS丁番 AP、アルミ額縁		シリンダー付錠錠(内部サムターン)、 ハンガーレール		水切: カガリリウム鋼板 t=0.5			
備考									
記号・数量	KWD 1 2階 倉庫1、事務室 2	KWD 2 1階 倉庫3 1	KWD 3 1階 倉庫2 1	KWD 4 1階 倉庫4 1	KWD 5 2階 倉庫1 1	KWD 6 1階 倉庫5 1		KWS 1 2階 展示 1 0	
形状	 開口率 30%	 開口率 70%	 開口率 70%	 開口率 70%	 開口率 30%	 開口率 70%		 開口率 70%	
形式	片開きフラッシュ戸	片引きガラリ戸(上吊式)	片引きフラッシュ戸(上吊式)	片引きフラッシュ戸(上吊式)	片引きフラッシュ戸(上吊式)	片開きガラリ戸		片引きフラッシュスクリーン(上吊式)	
見込	戸: 3 3 枠: 1 8 0	戸: 3 3 枠: 1 0 0	戸: 3 3 枠: 2 5 0	戸: 3 3 枠: 1 8 0	戸: 3 3 枠: 1 0 0	戸: 3 3 枠: 1 8 0		戸: 3 3	
材質・仕上	戸: 仕合板 t=4の上ビニル 枠: 7mm電解着色(ｶﾗｰ)	戸: 仕合板 t=4 OS 枠: スプルー OS	戸: 仕合板 t=4 OS 枠: スプルー OS	戸: 仕合板 t=4 OS 枠: スプルー OS	戸: 仕合板 t=4の上ビニル 枠: 7mm電解着色(ｶﾗｰ)	戸: 仕合板 t=4 OS 枠: スプルー OS		戸: 仕合板 t=4の上ビニル張	
硝子									
金物	LH、シリンダー錠、DC、SUS丁番 アルミガラリ	SUS影込引手、シリンダー錠、ハンガーレール	SUS影込引手、シリンダー錠、ハンガーレール	SUS影込引手、シリンダー錠、ハンガーレール	SUS影込引手、シリンダー錠、ハンガーレール アルミガラリ	LH、シリンダー錠、SUS丁番		埋込ハンガーレール、フランス落し(2箇所)	
備考	ビニルは片面とし、反対面はSOPとする。				ビニルは片面とし、反対面は素地とする。			ビニルは片面とし、反対面及び小口はSOPとする。	
株式会社 山田建築事務所 YAMADA ARCHITECT OFFICE 一級建築士 184560号 山田 克弘				CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE 1/100	兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事	
							DATE '17.03	改修 建具表(2)	
								SHEET NO. A-40	

KAWD 101	1階	2ヶ所
		ホール ~ 外部
仕様	木・アルミ複合スクリーン	
集成材	集成材	
塗装	ウレタンクリア F☆☆☆☆対応品	
アルミ	二次電解着色 ステンカラー 9μ+7μ	
金物	押棒、錠前、点検口丁番、ハンガー装置	
断熱	断熱システム	
ガラス	(硝子工事)	



<p>W-1 壁仕上詳細図 S=1/5</p>	<p>W-2 壁仕上詳細図 S=1/5</p>	<p>W-3 壁仕上入隅詳細図 S=1/5</p>	<p>W-4 壁仕上詳細図 S=1/5</p>	<p>W-5 壁仕上詳細図 S=1/5</p>	<p>W-6 壁出隅詳細図 S=1/10</p>
<p>C-1 天井仕上詳細図 S=1/5</p>					
<p>ND-101 ピクチャーレール詳細図 S=1/5</p>	<p>ND-102 建具廻り詳細図 S=1/10</p>	<p>ND-103 梁仕上詳細図 S=1/10</p>	<p>ND-106 カウンター詳細図 S=1/10</p>		
<p>ND-104 水平ブレース詳細図 S=1/10</p>	<p>ND-105 柱廻り詳細図 S=1/5</p>	<p>ND-107 上吊式・引戸レール詳細図 S=1/5</p>	<p>ND-106 (continued) Counter detail diagram showing 断面図 and 平面図 for 事務室 and 玄関ホール.</p>		
<p>株式会社 山田建築事務所 YAMADA ARCHITECT OFFICE 一級建築士 184560号 山田 克弘</p> <p>CHECK DESIGN DRAW SCALE 1/5, 1/10 DATE '17.03</p> <p>兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事 部分詳細図(1)</p> <p>SHEET NO. A-42</p>					

部屋名	展示台製作寸法	可動棚製作寸法・枚数
展示室6	W=4,300(2,150+2,150)	W=1,050x8
展示室7	W=4,300(2,150+2,150)	W=1,050x8

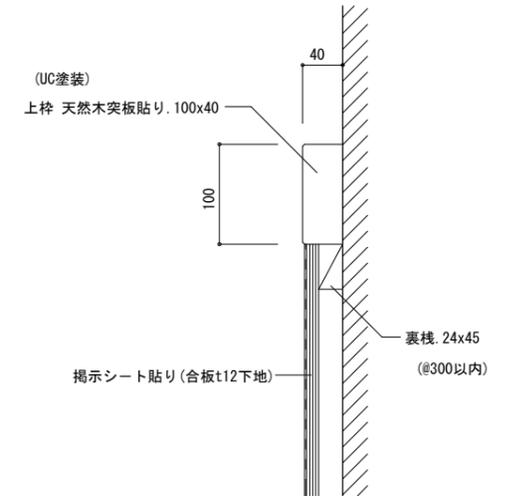


(展示台)

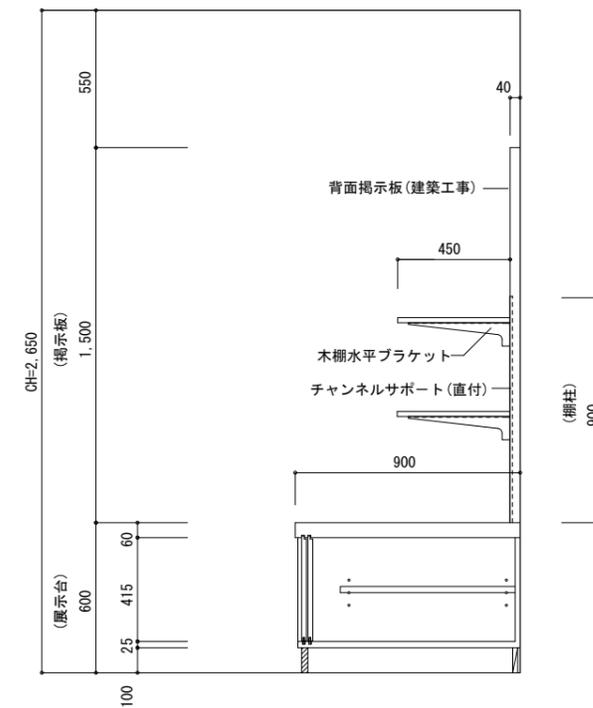
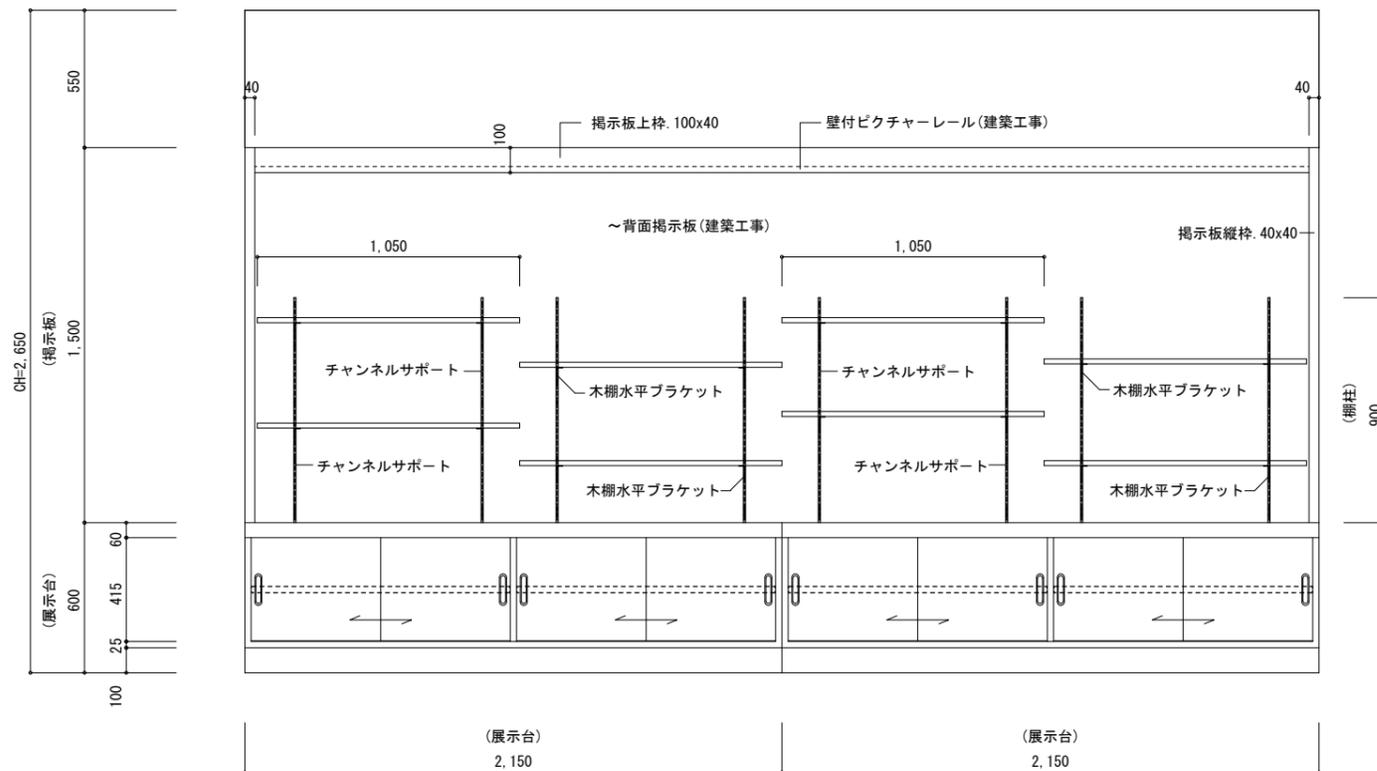
- 天板 天然木突板貼り (ア) 60 (UC塗装)
(木口 天然木無垢材)
- 見え掛り 天然木突板フラッシュ (UC塗装)
(木口 天然木無垢材)
- 扉 天然木突板フラッシュ (UC塗装)
(アルミ溝レール・アルミ取手)
- 内部 シナ合板貼り
- 巾木 天然木無垢材 (塗装)

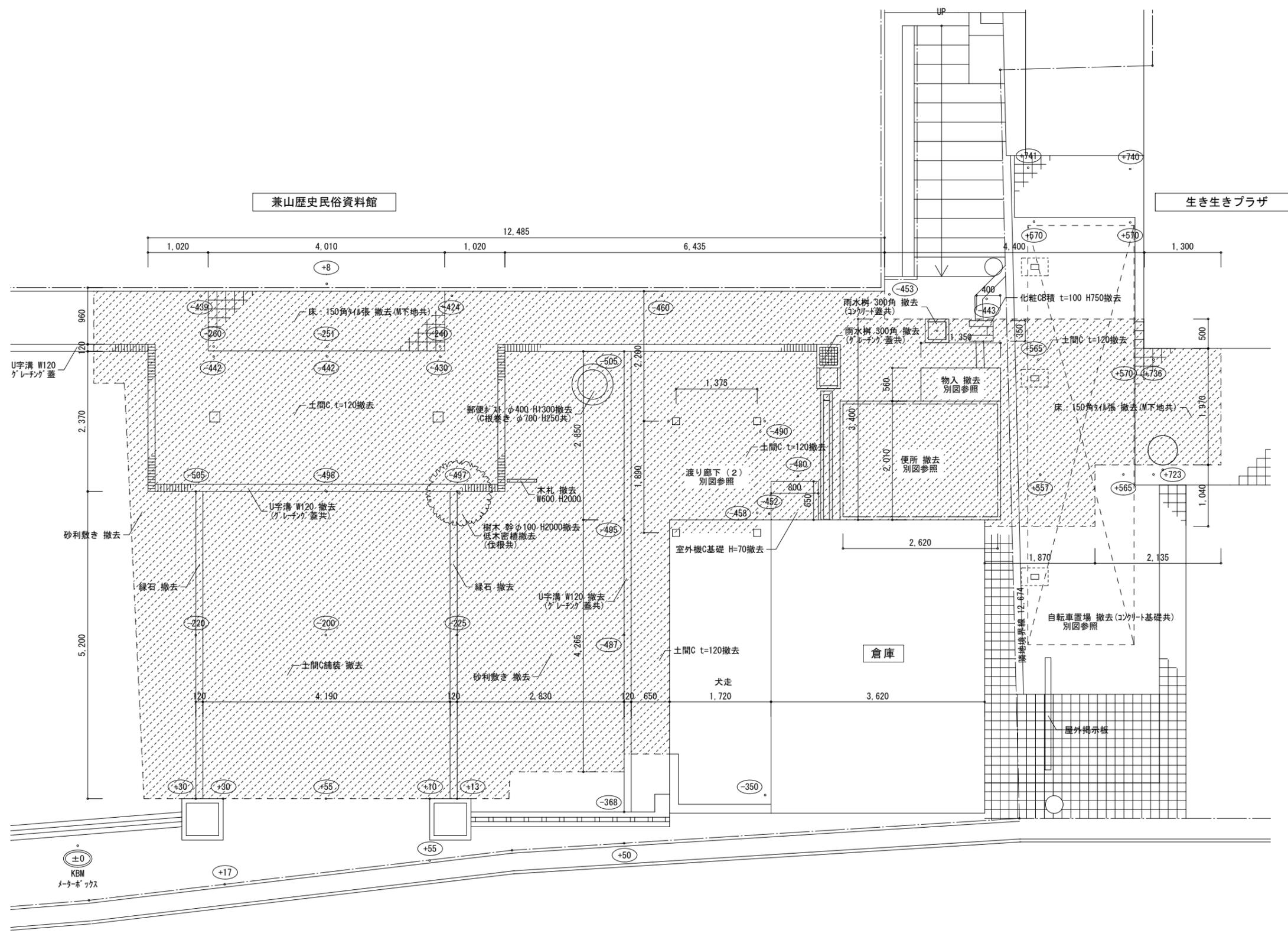
(背面掲示板)

- 本体 建築工事
- 可動棚 天然木突板貼り (ア) 20 (UC塗装)
(木口 無垢材貼り)
(チャンネルサポート・木棚水平ブラケット)

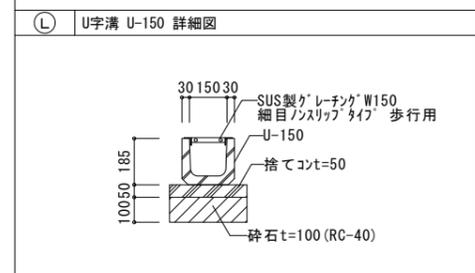
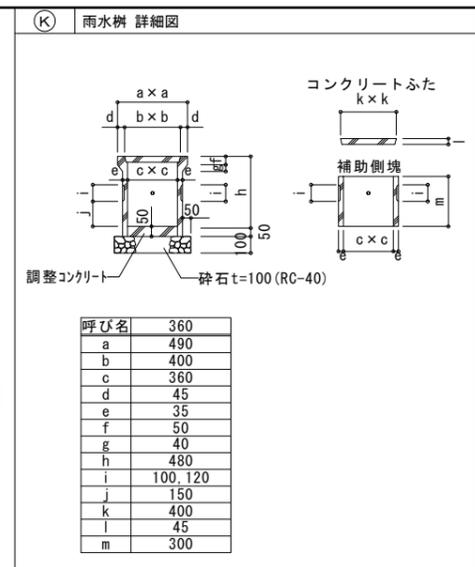
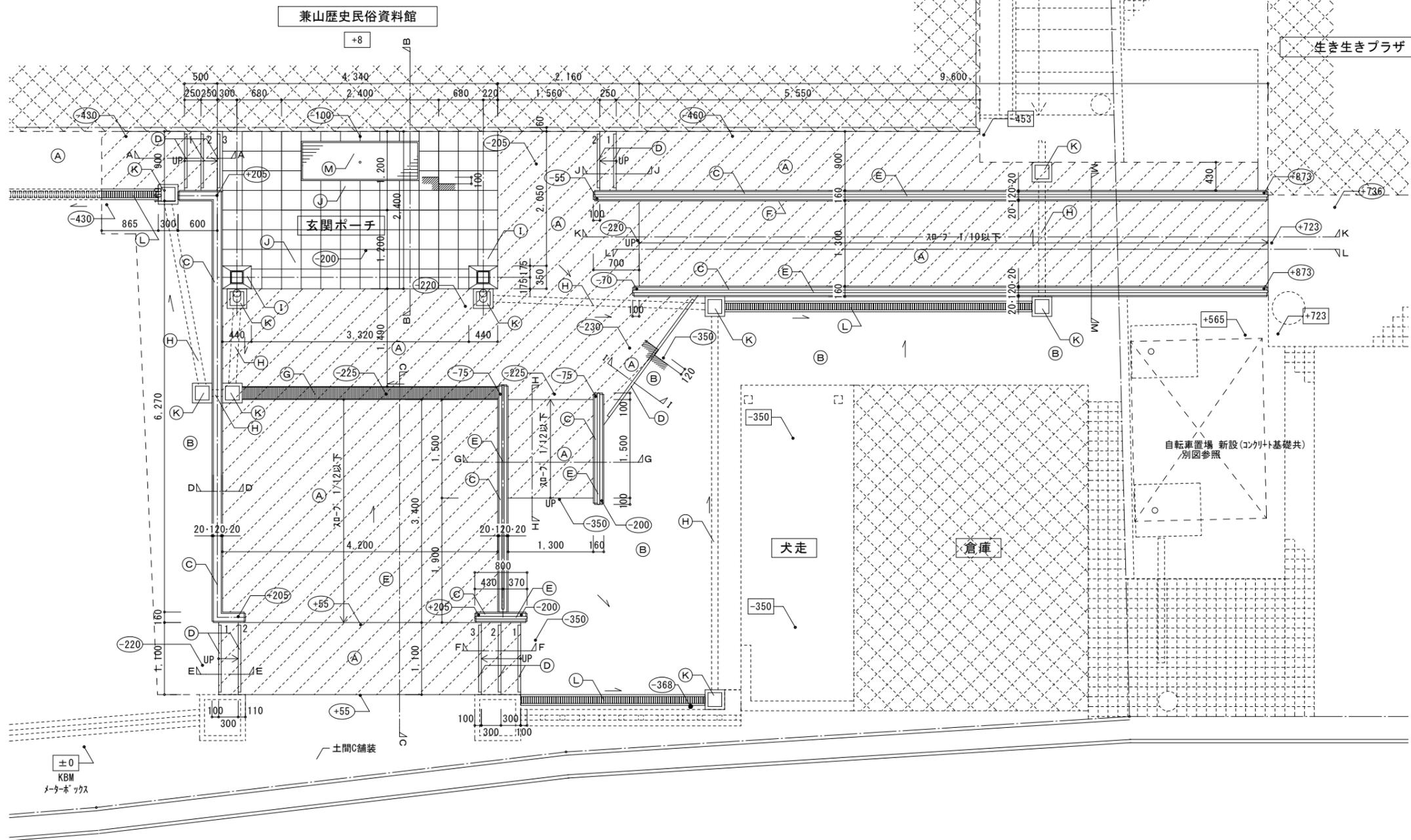


背面掲示板断面詳細図 S=1/5



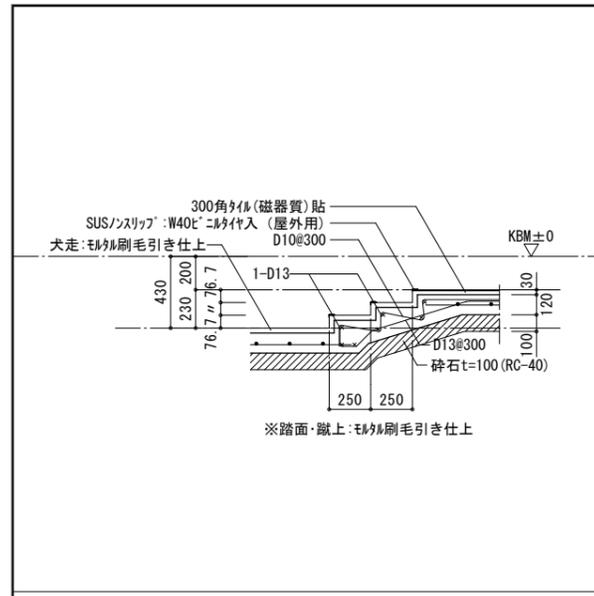


凡例	
	撤去部分を示す。
(±0)	KBMからの既設レベルを示す。
	※特記事項
	①材料は最寄目地まで撤去とする。



凡例		材料		設備		その他	
±0	KBMからの計画レベルを示す。	(A)	土間コンクリート t=120 特殊粗毛引き仕上 D10@200×F30 共 (Fc=18N-SL18)	(G)	側溝 W150×H150 グレージング 共	(M)	SUS玄関マット 600×2400 SUS受枠共
±0	KBMからの既設レベルを示す。	(B)	砂利敷	(H)	排水管 VP100		
----	既設部分を示す。	(C)	コンクリート立上 (Fc=21N SL18)	(I)	柱根巻 H=150 コンクリート打放仕上		
▨	既設建物を示す。	(D)	SUSノンスリップ (W40 屋外用 ヒコメ付付入)	(J)	土間コンクリート t=120 D10@200×F30 共 300角付体 (磁器質) 貼 (貼付下地)		
		(E)	SUS手摺	(K)	雨水樹 コンクリート蓋共 360×360		
		(F)	SUS補助手摺	(L)	U字溝 U-150 グレージング 共		

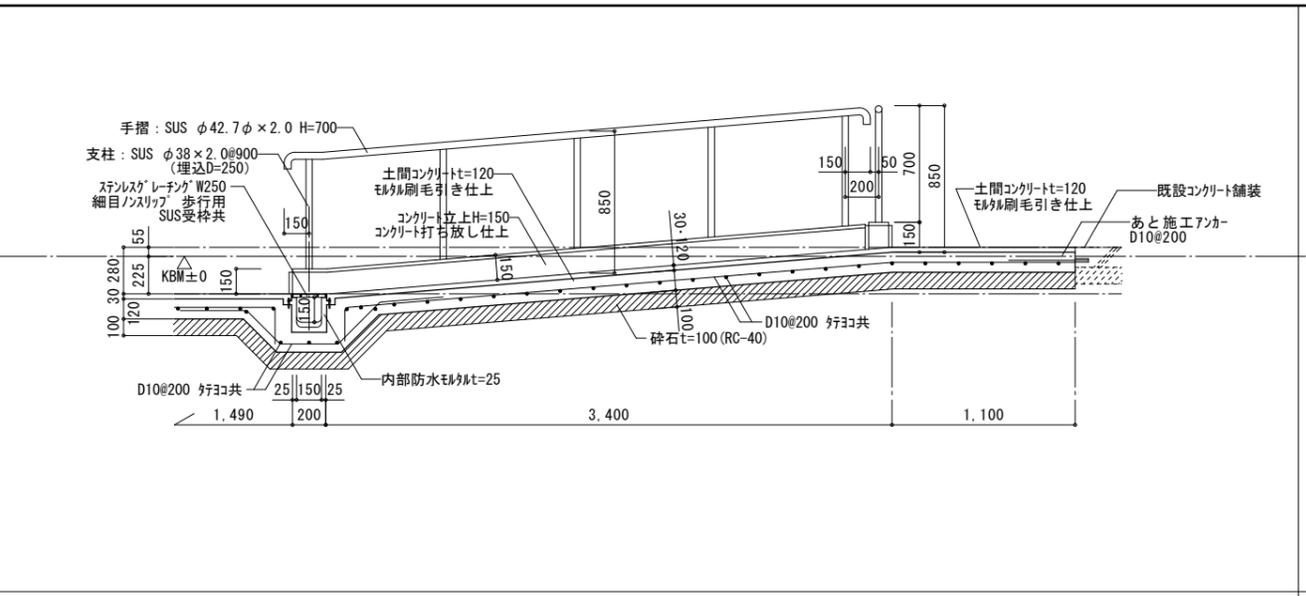
※特記事項
 ①擁壁部分には3m以内毎にひび割れ誘発目地を設けること。
 ②新設自転車置場コンクリート基礎廻りは既設土間コンクリートを撤去し施工とする。



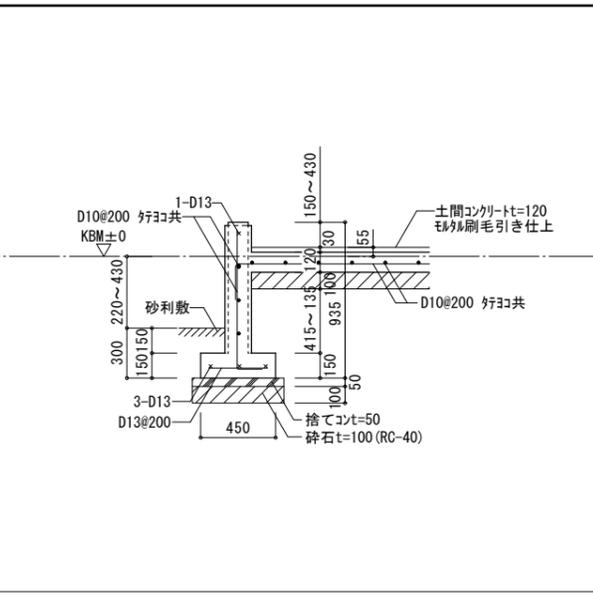
A-A 断面詳細図 1/30



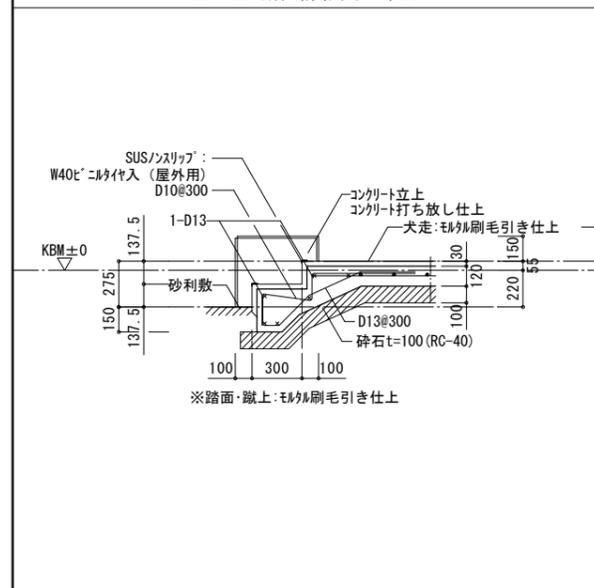
A 17 図参照



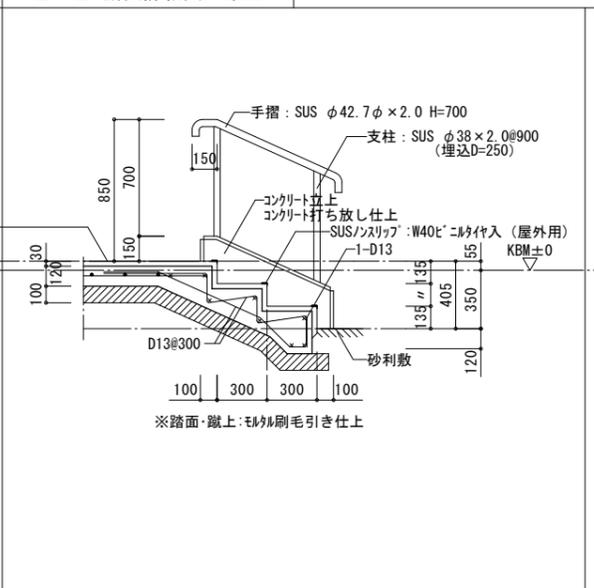
B-B 断面詳細図 1/30



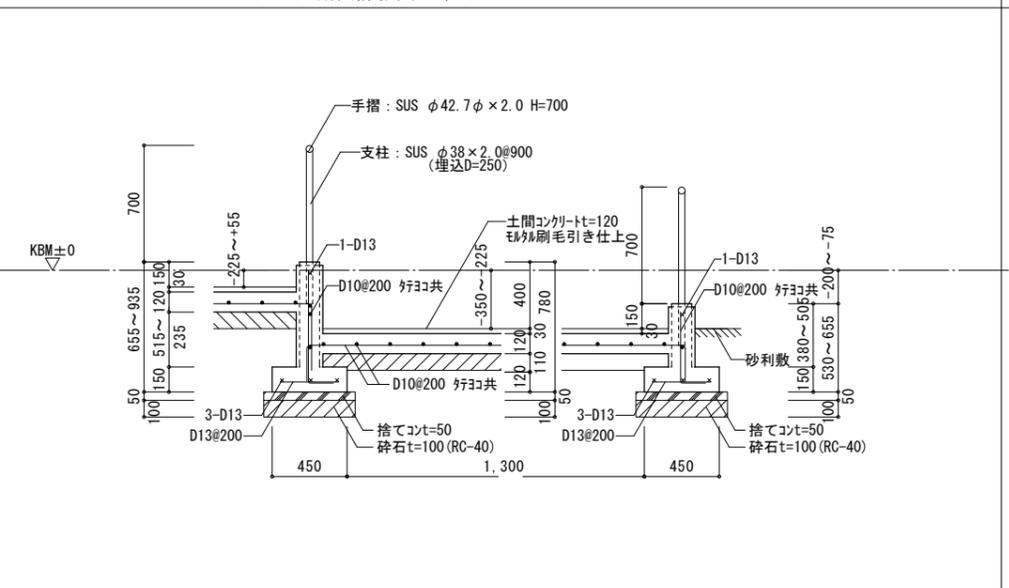
C-C 断面詳細図 1/30



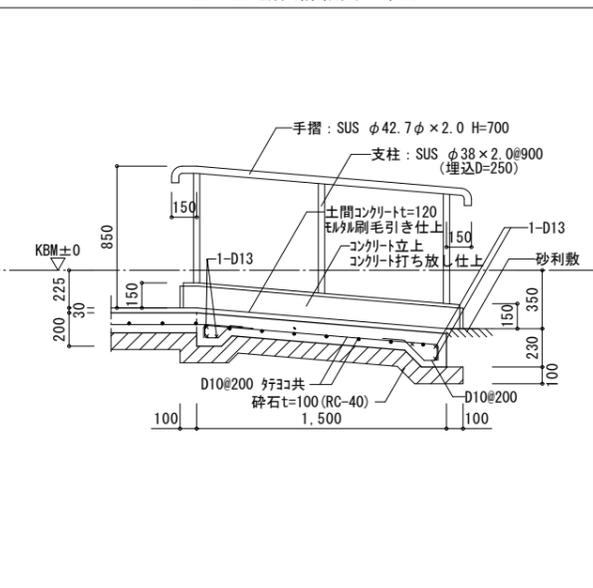
D-D 断面詳細図 1/30



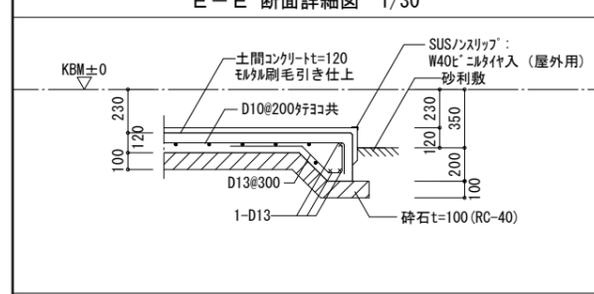
E-E 断面詳細図 1/30



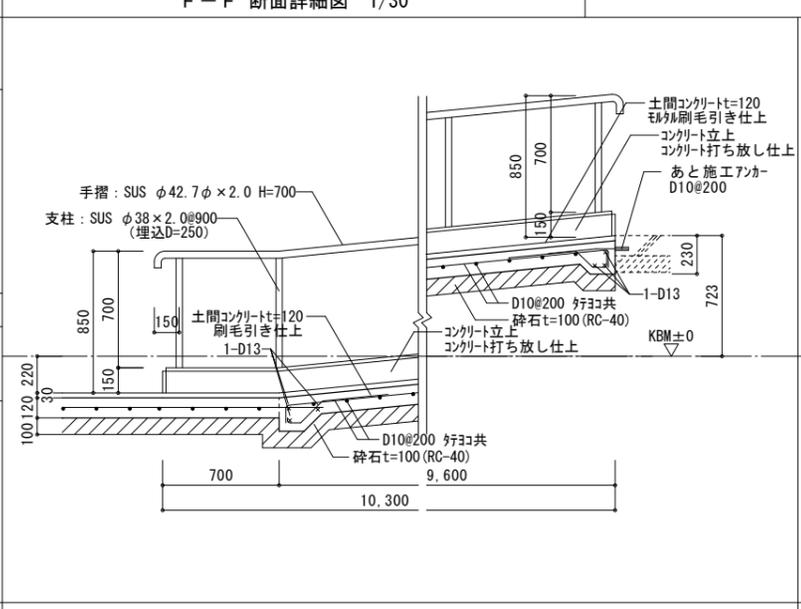
F-F 断面詳細図 1/30



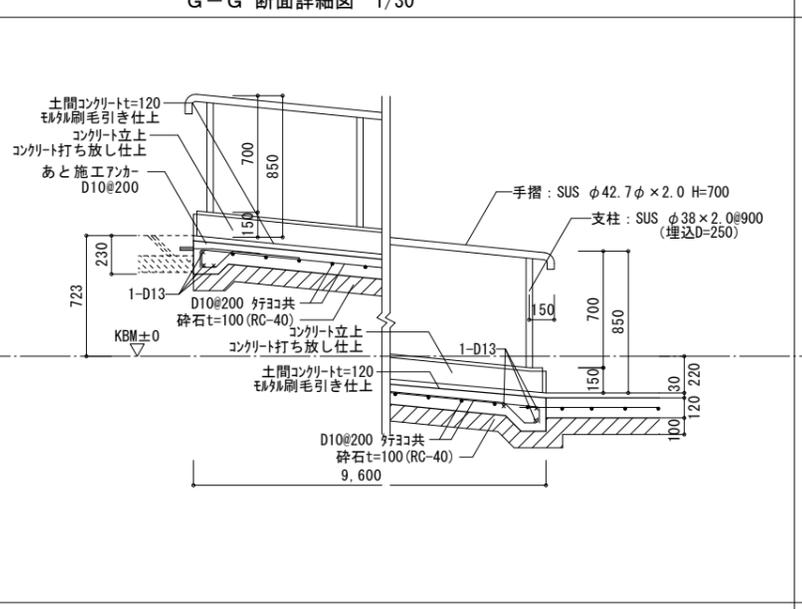
G-G 断面詳細図 1/30



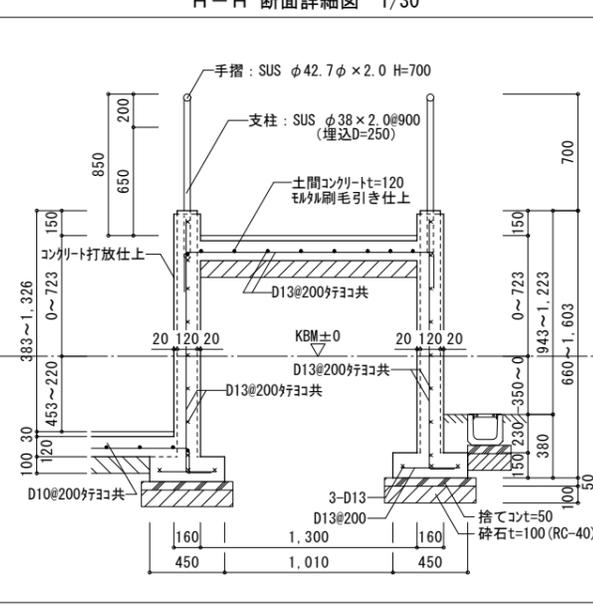
H-H 断面詳細図 1/30



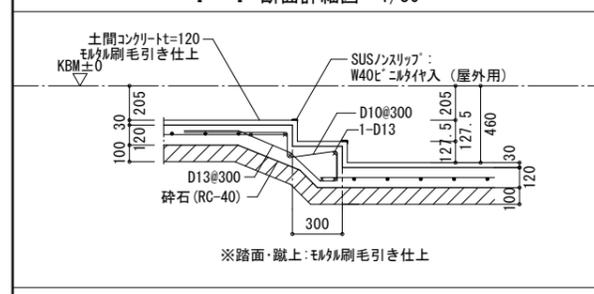
I-I 断面詳細図 1/30



J-J 断面詳細図 1/30



K-K 断面詳細図 1/30



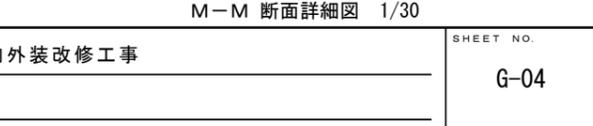
L-L 断面詳細図 1/30



M-M 断面詳細図 1/30



N-N 断面詳細図 1/30



O-O 断面詳細図 1/30

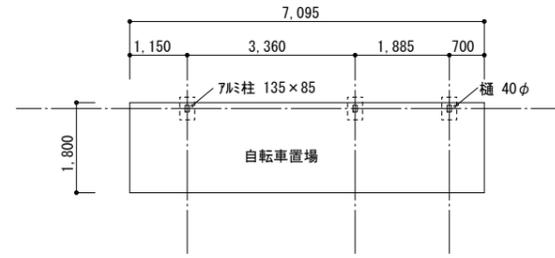
株式会社 山田建築事務所
YAMADA ARCHITECT OFFICE 一級建築士 184560号 山田克弘

CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE
			1/30
			DATE
			'17.03

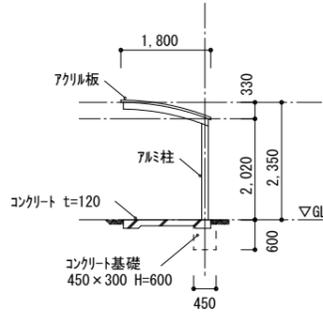
兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事
 改修後 外構部分詳細図

SHEET NO.
G-04

本体：7}市販品
屋根：7}板
床版：コンクリート

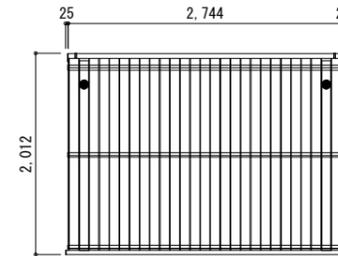


平面図



断面図

※三協立山(株) サイクルポート SLGR型 オープンタイプ 同等品以上とする。



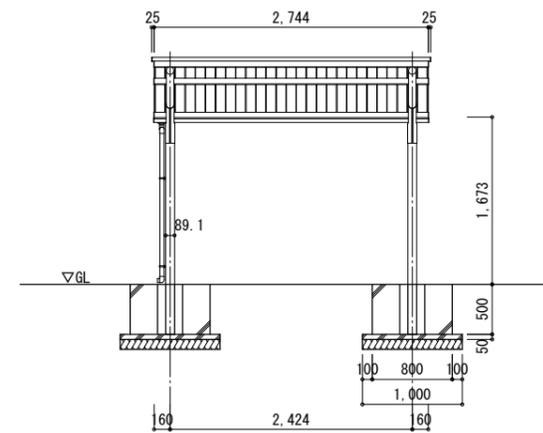
平面図

■材質仕様表

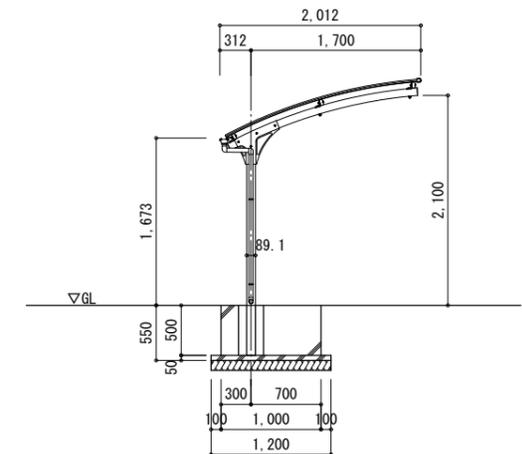
主要部材・部品	材質
柱	一般構造用炭素鋼管 STK400 φ89.1×3.2t
梁	一般構造用炭素鋼管 STK490 φ76.3×3.2t
母屋	一般構造用角形鋼管 STKR400 □60×30×1.6t
屋根材・壁パネル	ガルバリウム鋼板(t=0.5) 不燃認定番号:NM-8697
柱・梁ジョイント金具	溶融亜鉛メッキ鋼板 SGHC t=2.3
雨樋	硬質塩ビ(φ42) AAS

■塗装仕様表

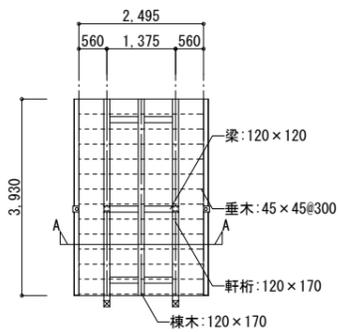
主要部材・部品	材質
柱・梁・母屋	亜鉛メッキ鋼管Z27+静電粉体塗装(50μm)
屋根材・壁パネル	表面：アクリル+ポリエステル系樹脂塗装(ポップシルバー) 裏面：ポリエステル系樹脂塗装(ホワイト)



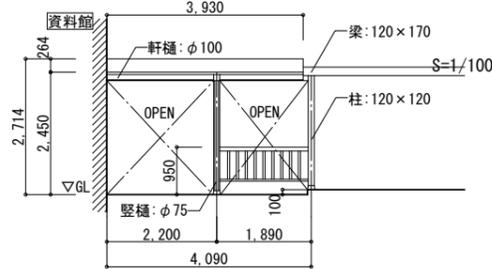
立面図



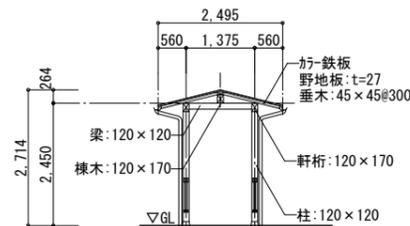
断面図



屋根伏図



立面図

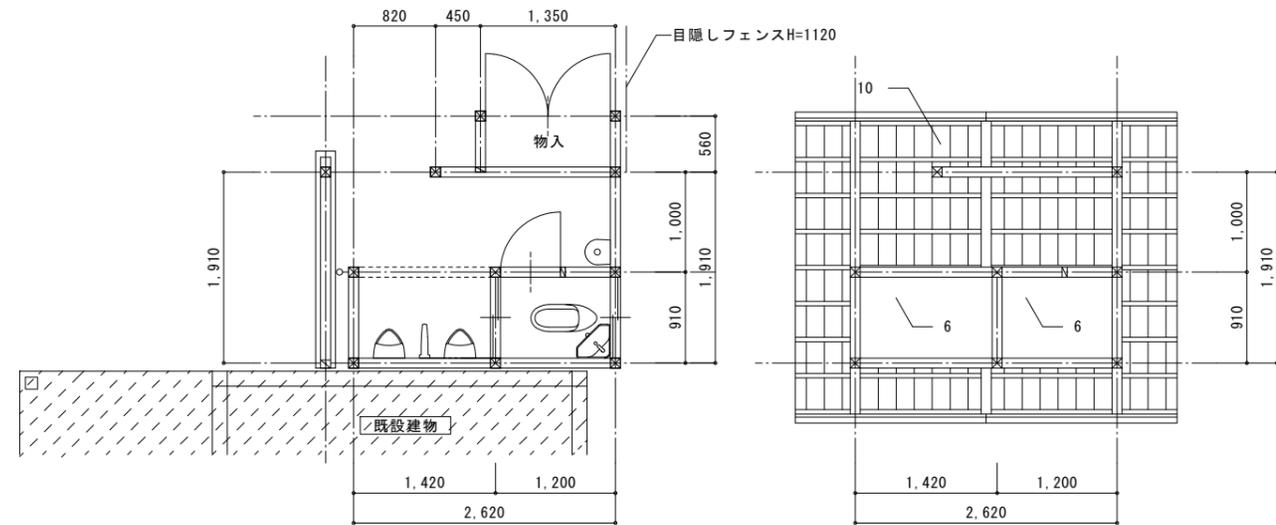


A-A断面図

外部仕上げ表		建具	外部：金属製建具、内部：木製建具
屋根	日本瓦葺	軒 樋	か-鉄板厚0.4 120角型
軒 天	杉板張	縦 樋	か-鉄板厚0.27 φ60
外 壁	金属角波鋼板張		
すそ廻り	Mコテ		

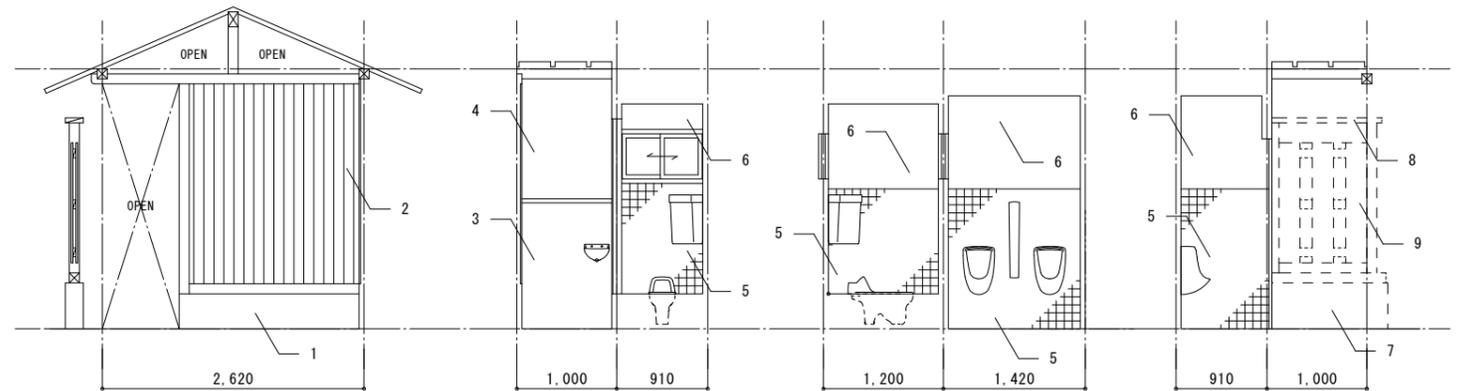
内部仕上げ表		室名	床	巾木	壁	天井	廻り縁	備考
便所 1	Cコテ			タイル貼	下部：タイル貼、上部：化粧シート合板	化粧シート合板	塩ビ	
便所 2	乱形モザイクタイル貼			〃	下部：タイル貼、一部Mコテ 上部：化粧シート合板	化粧野地板、化粧垂木表し一部化粧シート合板	塩ビ	

展開内部仕上リスト									
符号	仕上	符号	仕上	符号	仕上	符号	仕上	符号	仕上
1	Cコテ	4	Mコテの上 EP	7	自然石乱形貼	10	化粧野地板、化粧垂木		
2	金属角波鋼板張	5	80角タイル貼	8	木下地鋼板巻				
3	Mコテ	6	化粧シート合板	9	板t=21張				



屋外便所 平面図 1/50

天井伏図 1/50



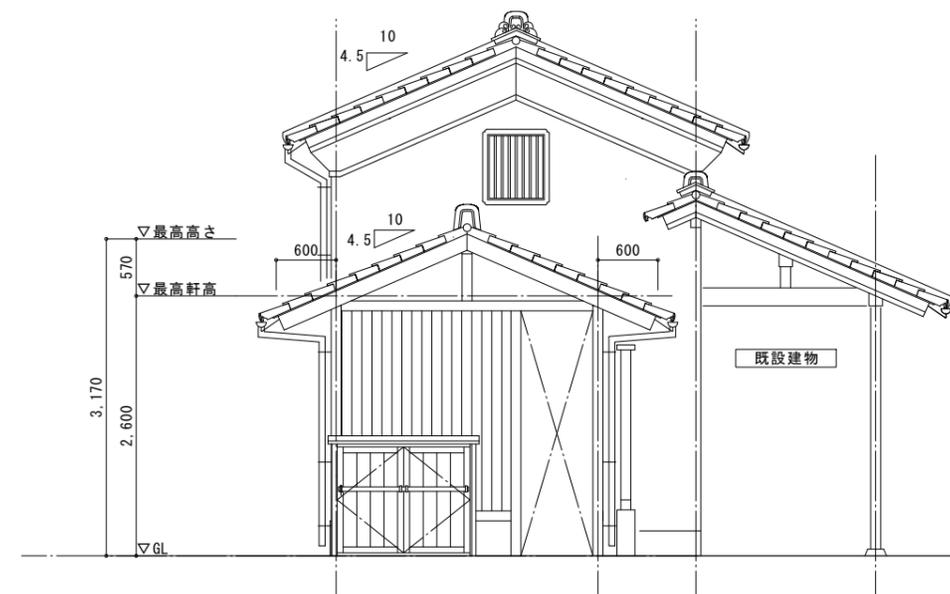
展開図 1/50

A

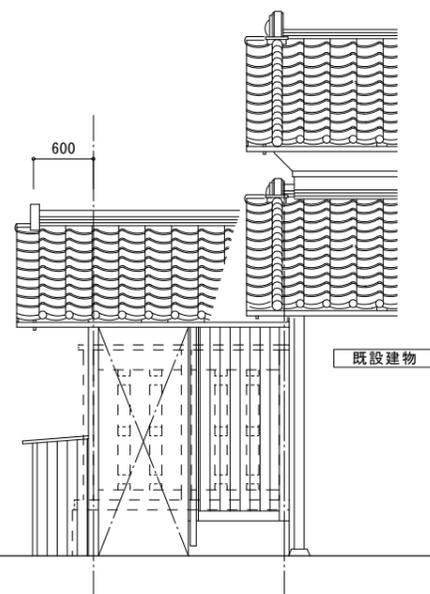
B

C

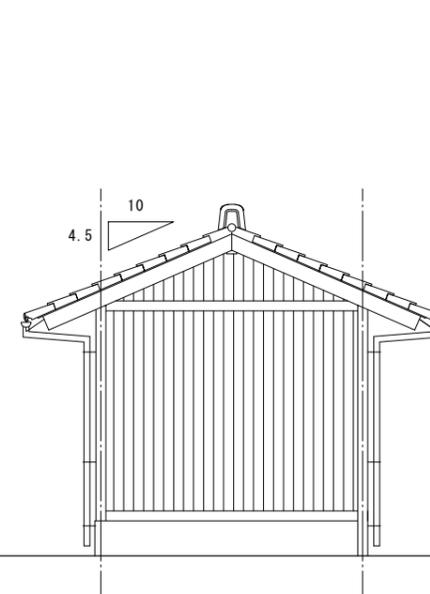
D



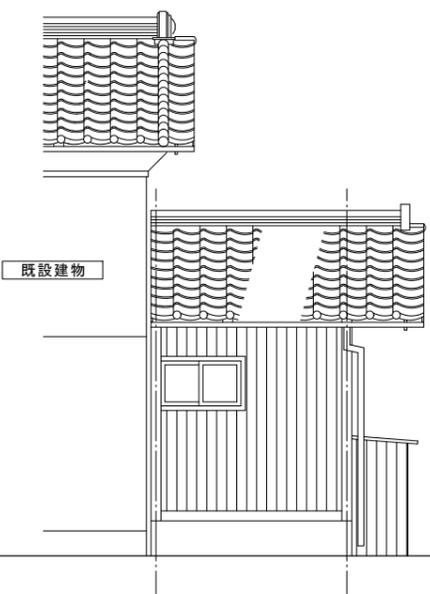
北立面図 1/50



西立面図 1/50

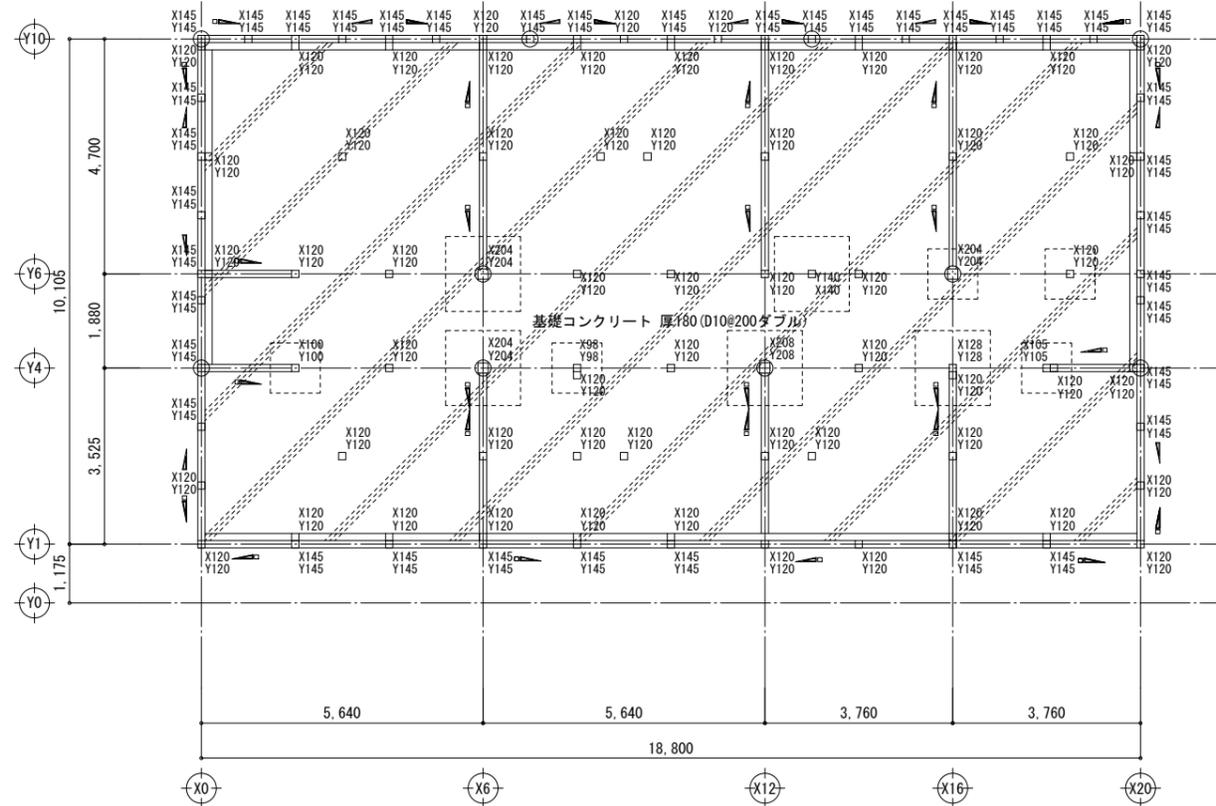


南立面図 1/50



東立面図 1/50

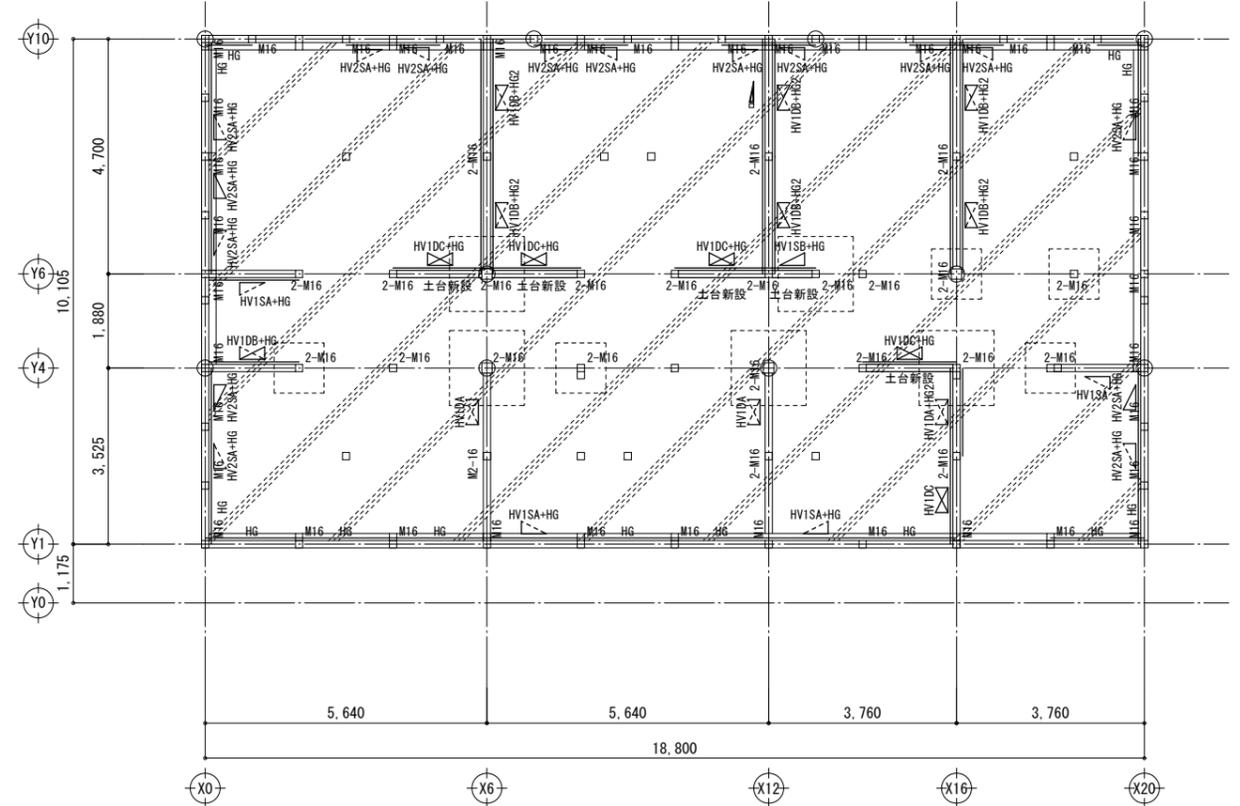
補強前



基礎・土台伏図 S=1/100

▲ 1階筋違い
□ 1階柱

補強後



基礎・土台伏図 S=1/100

□ 既設1階柱

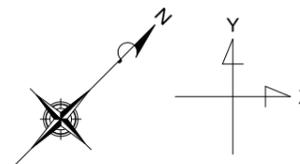
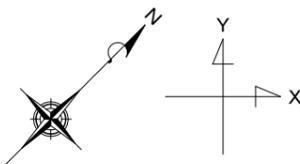
(1階補強図)

※補強による新設部材で地盤面より1m以内の部分には、防腐・防蟻処理を行うこと。
※補強工事により判明した既存部材の劣化部分については、部材の交換等必要な処置を行うこと。

凡例

⊙	通し柱
□	管柱
▲	筋違い 120×120 釘打ち
▼	筋違い 27×120 釘打ち

補強内容	X方向	Y方向
HV1DA 既設筋かい 120x120クロス 接合部補強 ボルト1-M12	0箇所	2箇所
HV1DA+HG 既設筋かい 120x120クロス 接合部補強 ボルト1-M12 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	0箇所	1箇所
HV1DB 既設筋かい 120x120シングル 接合部補強 ボルト1-M12 新設筋かい 120x120シングル 接合部ボルト1-M12	0箇所	0箇所
HV1DB+HG 既設筋かい 120x120シングル 接合部補強 ボルト1-M12 新設筋かい 120x120シングル 接合部ボルト1-M12 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	1箇所	6箇所
HV1DC 新設筋かい 120x120クロス 接合部ボルト1-M12	0箇所	1箇所
HV1DC+HG 新設筋かい 120x120クロス 接合部ボルト1-M12 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	4箇所	0箇所
HV1SA 既設筋かい 120x120シングル 接合部補強 ボルト1-M12	1箇所	0箇所
HV1SA+HG 既設筋かい 120x120シングル 接合部補強 ボルト1-M12 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	3箇所	0箇所
HV1SB 新設筋かい 120x120シングル 接合部ボルト1-M12	0箇所	0箇所
HV1SB+HG 新設筋かい 120x120シングル 接合部ボルト1-M12 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	1箇所	0箇所
HV2SA 既設筋かい 27x120シングル 接合部補強 ヘキサプレートSD	0箇所	0箇所
HV2SA+HG 既設筋かい 27x120シングル 接合部補強 ヘキサプレートSD 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	8箇所	8箇所
HG 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	9箇所	4箇所
M16 柱梁接合金物用あと施工アンカーボルト M16		



株式会社 山田建築事務所

YAMADA ARCHITECT OFFICE

一級建築士 184560号 山田 克弘

CHECK	DESIGN	DRAW

SCALE	1/100
DATE	'17.03

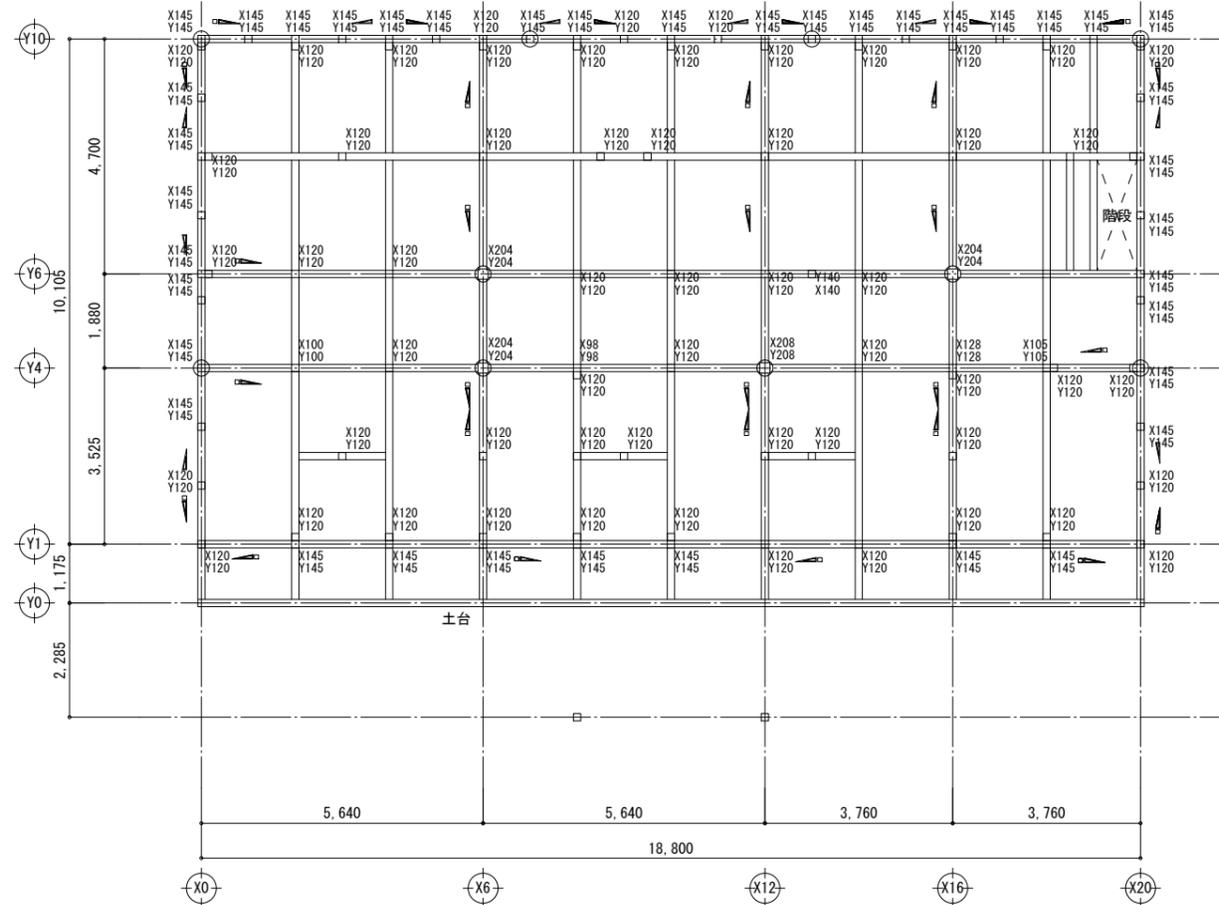
兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事

補強前・後 基礎・土台伏図

SHEET NO.

S-01

補強前



2階梁伏図 S=1/100

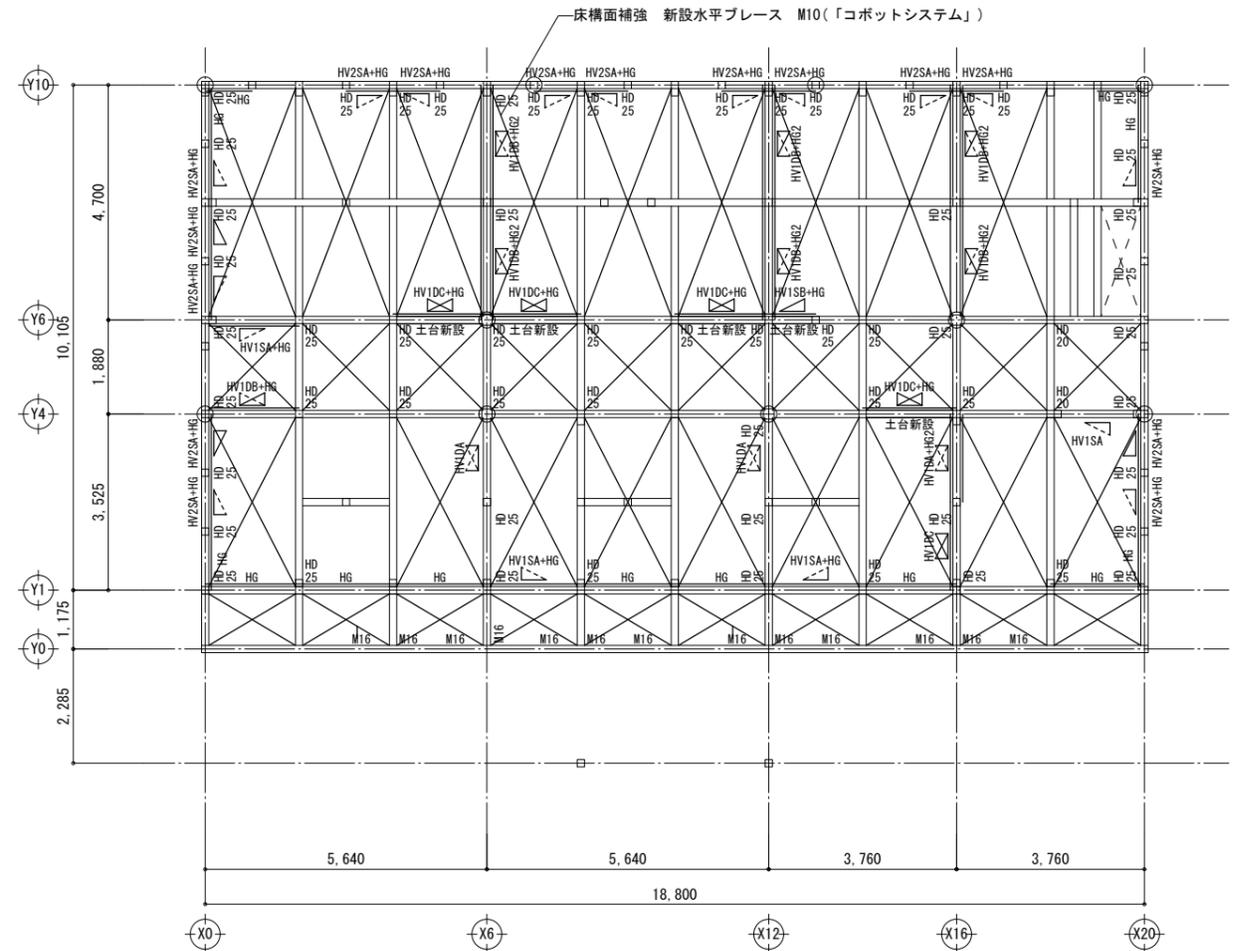
床板：すざ板 厚27

1階筋違い
1階柱

凡例

⊙	通し柱
□	管柱
↖	筋違い 120×120 釘打ち
↗	筋違い 27×120 釘打ち

補強後

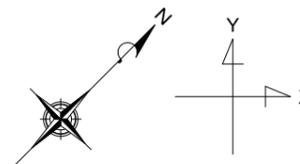
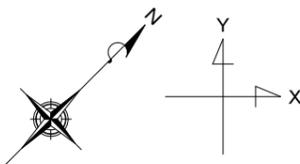


2階梁伏図 S=1/100

(1階補強図)

□ 既設1階柱

補強内容	X方向	Y方向
HVIDA 既設筋かい 120x120クロス 接合部補強 ボルト1-M12	0箇所	2箇所
HVIDA+HG 既設筋かい 120x120クロス 接合部補強 ボルト1-M12 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	0箇所	1箇所
HVIDB 既設筋かい 120x120シングル 接合部補強 ボルト1-M12 新設筋かい 120x120シングル 接合部ボルト1-M12	0箇所	0箇所
HVIDB+HG 既設筋かい 120x120シングル 接合部補強 ボルト1-M12 新設筋かい 120x120シングル 接合部ボルト1-M12 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	1箇所	6箇所
HVIDC 新設筋かい 120x120クロス 接合部ボルト1-M12	0箇所	1箇所
HVIDC+HG 新設筋かい 120x120クロス 接合部ボルト1-M12 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	4箇所	0箇所
HVISA 既設筋かい 120x120シングル 接合部補強 ボルト1-M12	1箇所	0箇所
HVISA+HG 既設筋かい 120x120シングル 接合部補強 ボルト1-M12 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	3箇所	0箇所
HVISB 新設筋かい 120x120シングル 接合部ボルト1-M12	0箇所	0箇所
HVISA+HG 新設筋かい 120x120シングル 接合部ボルト1-M12 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	1箇所	0箇所
HV2SA 既設筋かい 27x120シングル 接合部補強 ヘキサプレートSD	0箇所	0箇所
HV2SA+HG 既設筋かい 27x120シングル 接合部補強 ヘキサプレートSD 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	8箇所	8箇所
HG 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	9箇所	4箇所
HD 15 柱梁接合金物 ホールダウンHD15		
HD 20 柱梁接合金物 ホールダウンHD20		
HD 25 柱梁接合金物 ホールダウンHD25		



株式会社 山田建築事務所

YAMADA ARCHITECT OFFICE

一級建築士184560号 山田克弘

CHECK	DESIGN	DRAW

SCALE	1/100
DATE	'17.03

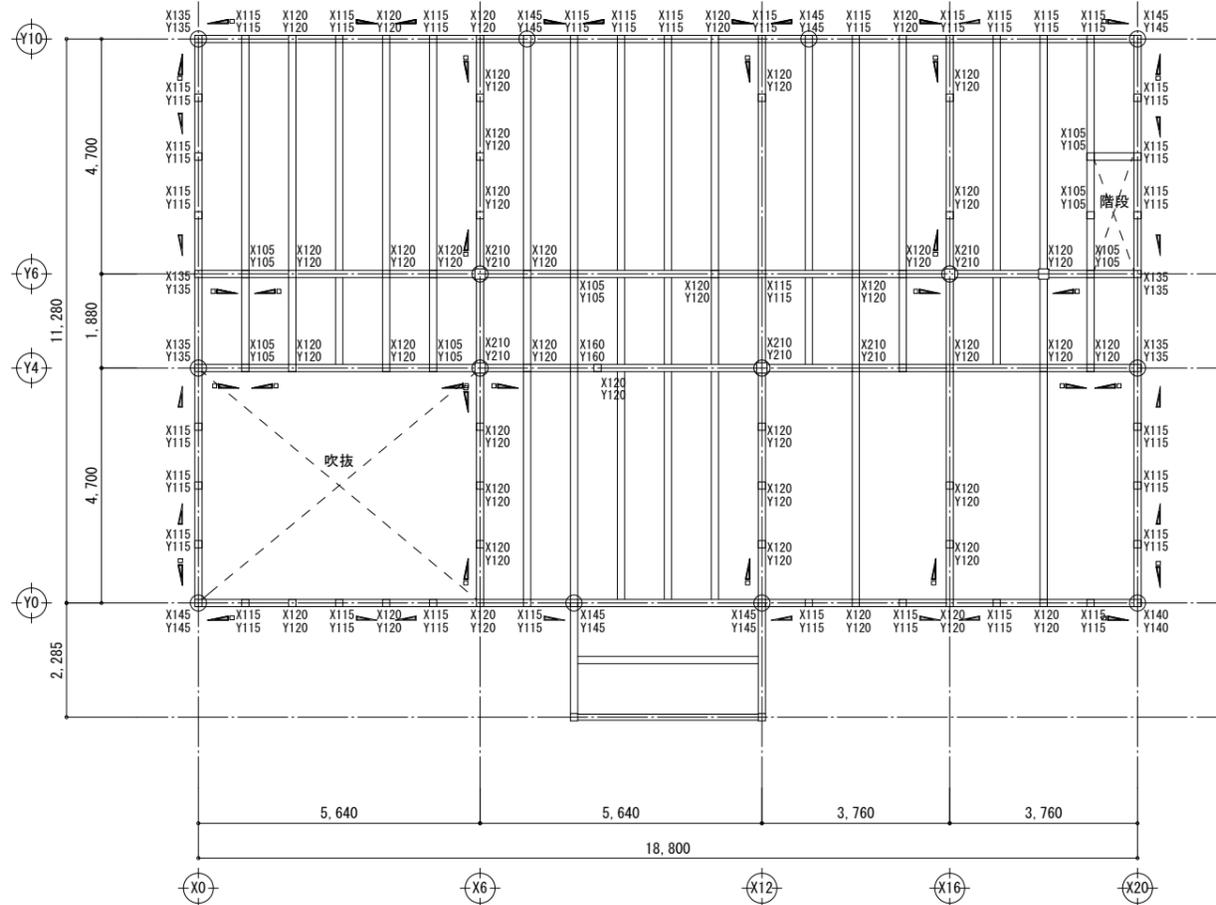
兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事

補強前・後 2階梁伏図

SHEET NO.

S-02

補強前



3階梁伏図 S=1/100

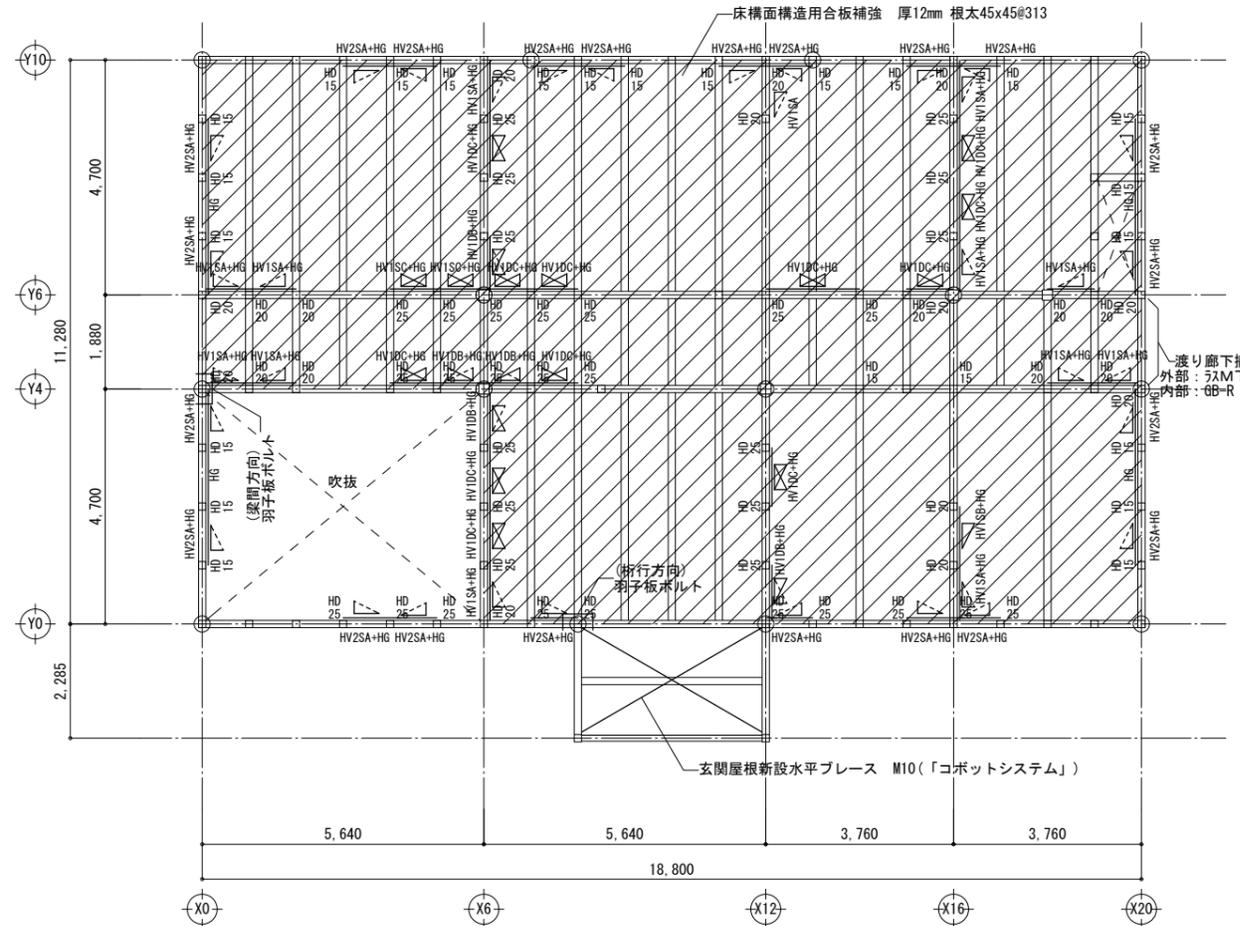
床板：すざ板 厚27

2階筋違い
2階柱

凡例

⊙	通し柱
□	管柱
┆	筋違い 120×120 釘打ち
┆	筋違い 27×120 釘打ち

補強後

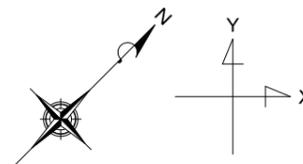
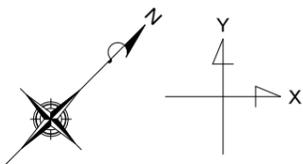


屋根裏梁伏図 S=1/100

(2階補強図)

既設2階柱

補強内容	X方向	Y方向
HVIDA	0箇所	0箇所
HVIDA+HG	0箇所	0箇所
HVIDB	0箇所	0箇所
HVIDB+HG	2箇所	3箇所
HVIDC	0箇所	0箇所
HVIDC+HG	8箇所	6箇所
HVISA	0箇所	1箇所
HVISA+HG	7箇所	5箇所
HVISB	0箇所	0箇所
HVISA+HG	0箇所	1箇所
HV2SA	0箇所	0箇所
HV2SA+HG	14箇所	8箇所
HG	0箇所	4箇所
HD 15		
HD 20		
HD 25		



株式会社 山田建築事務所

YAMADA ARCHITECT OFFICE

一級建築士 184560号 山田克弘

CHECK

DESIGN

DRAW

SCALE 1/100

DATE '17.03

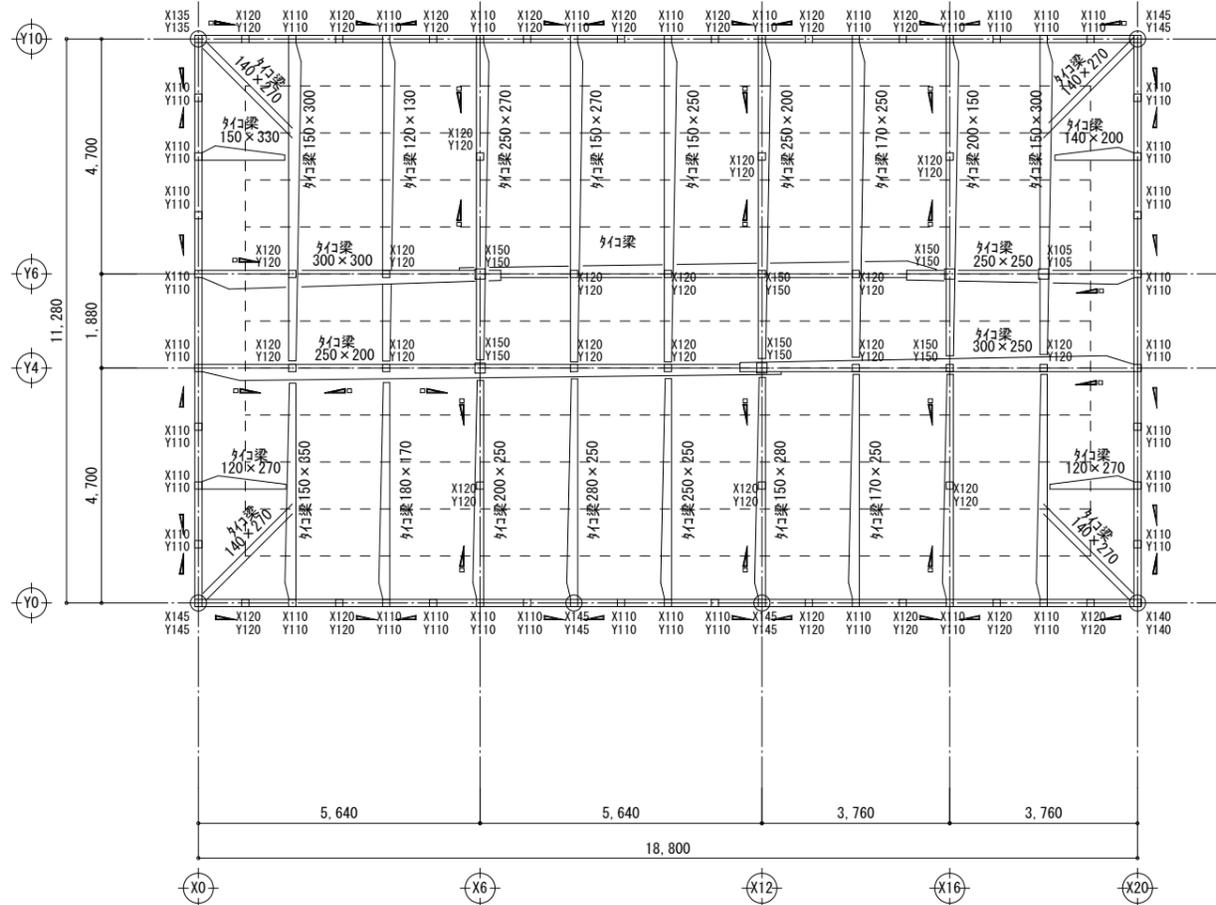
兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事

補強前・後 屋根裏梁伏図

SHEET NO.

S-03

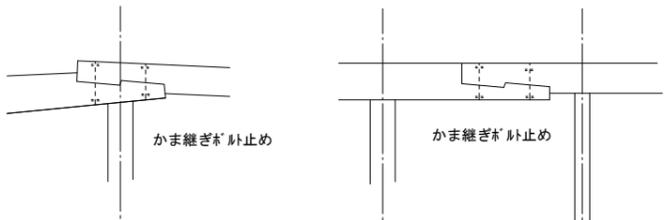
補強前



小屋伏図 S=1/100

継ぎ手: PL-400×150×6.0 4-12φ

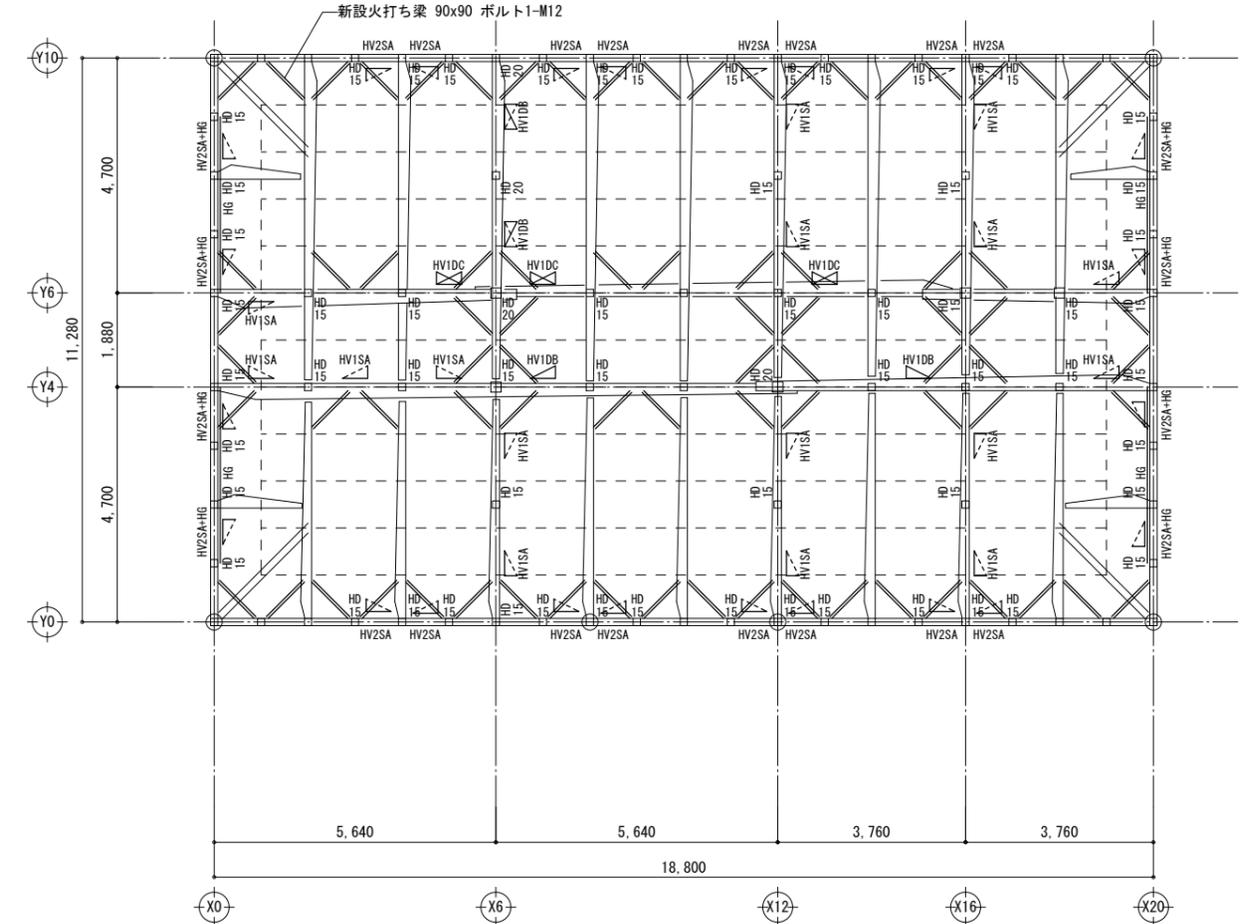
野地板: すぎ板 厚12
垂木: 55×75 @360(松)
母屋: 105×120 (米松)



継手要領図

凡例	
⊙	通し柱
□	管柱
┆	筋違い 120×120 釘打ち
┆	筋違い 27×120 釘打ち

補強後

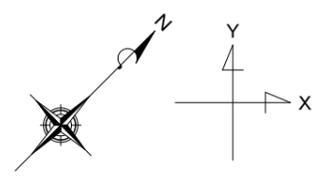
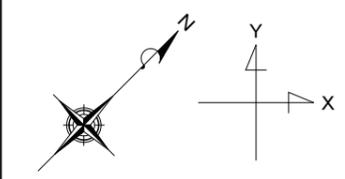


小屋伏図 S=1/100

(屋根裏補強図)

□ 既設屋根裏柱

補強内容		X方向	Y方向
HV1DA	既設筋かい 120x120クロス 接合部補強 ボルト1-M12	0箇所	0箇所
HV1DA+HG	既設筋かい 120x120クロス 接合部補強 ボルト1-M12 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	0箇所	0箇所
HV1DB	既設筋かい 120x120シングル 接合部補強 ボルト1-M12 新設筋かい 120x120シングル 接合部ボルト1-M12	0箇所	0箇所
HV1DB+HG	既設筋かい 120x120シングル 接合部補強 ボルト1-M12 新設筋かい 120x120シングル 接合部ボルト1-M12 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	2箇所	3箇所
HV1DC	新設筋かい 120x120クロス 接合部ボルト1-M12	0箇所	0箇所
HV1DC+HG	新設筋かい 120x120クロス 接合部ボルト1-M12 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	8箇所	6箇所
HV1SA	既設筋かい 120x120シングル 接合部補強 ボルト1-M12	0箇所	1箇所
HV1SA+HG	既設筋かい 120x120シングル 接合部補強 ボルト1-M12 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	7箇所	5箇所
HV1SB	新設筋かい 120x120シングル 接合部ボルト1-M12	0箇所	0箇所
HV1SB+HG	新設筋かい 120x120シングル 接合部ボルト1-M12 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	0箇所	1箇所
HV2SA	既設筋かい 27x120シングル 接合部補強 ヘキサプレートSD	0箇所	0箇所
HV2SA+HG	既設筋かい 27x120シングル 接合部補強 ヘキサプレートSD 構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	14箇所	8箇所
HG	構造用合板張り補強 厚12 釘N50@150	0箇所	4箇所
HD 15	柱梁接合金物 ホールダウンHD15		
HD 20	柱梁接合金物 ホールダウンHD20		
HD 25	柱梁接合金物 ホールダウンHD25		



株式会社 山田建築事務所

YAMADA ARCHITECT OFFICE 一級建築士 184560号 山田克弘

CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE
			1/100
			DATE
			'17.03

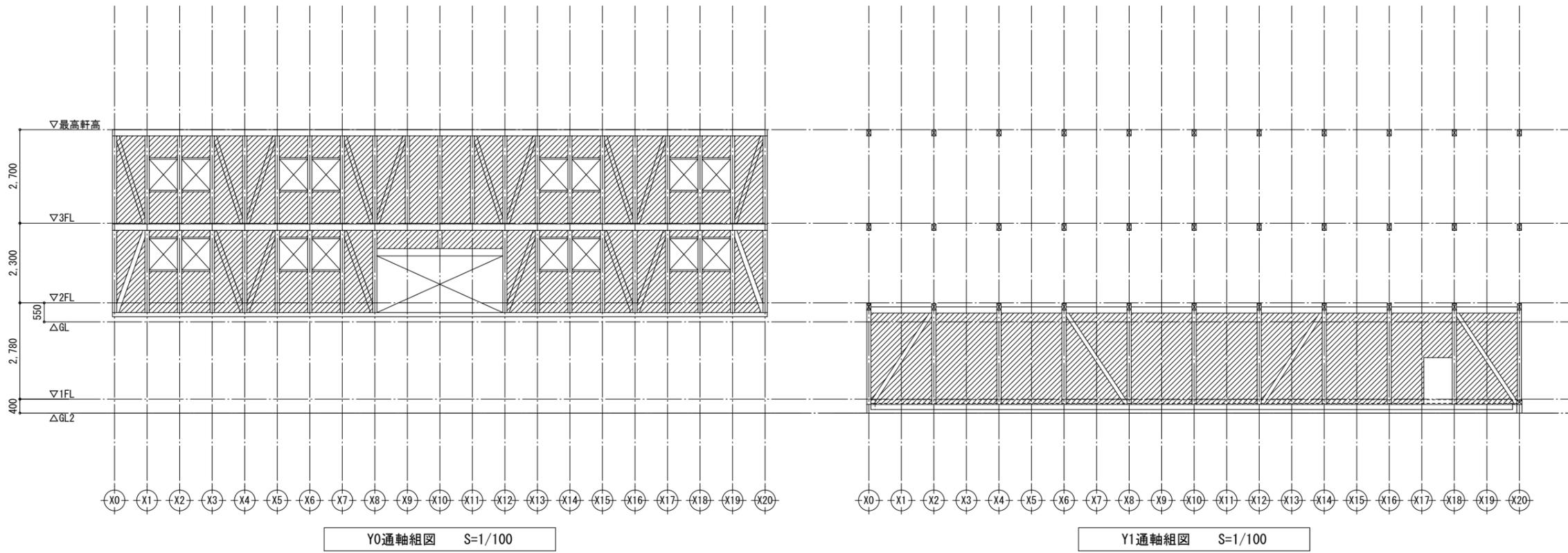
兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事

補強前・後 小屋梁伏図

SHEET NO.

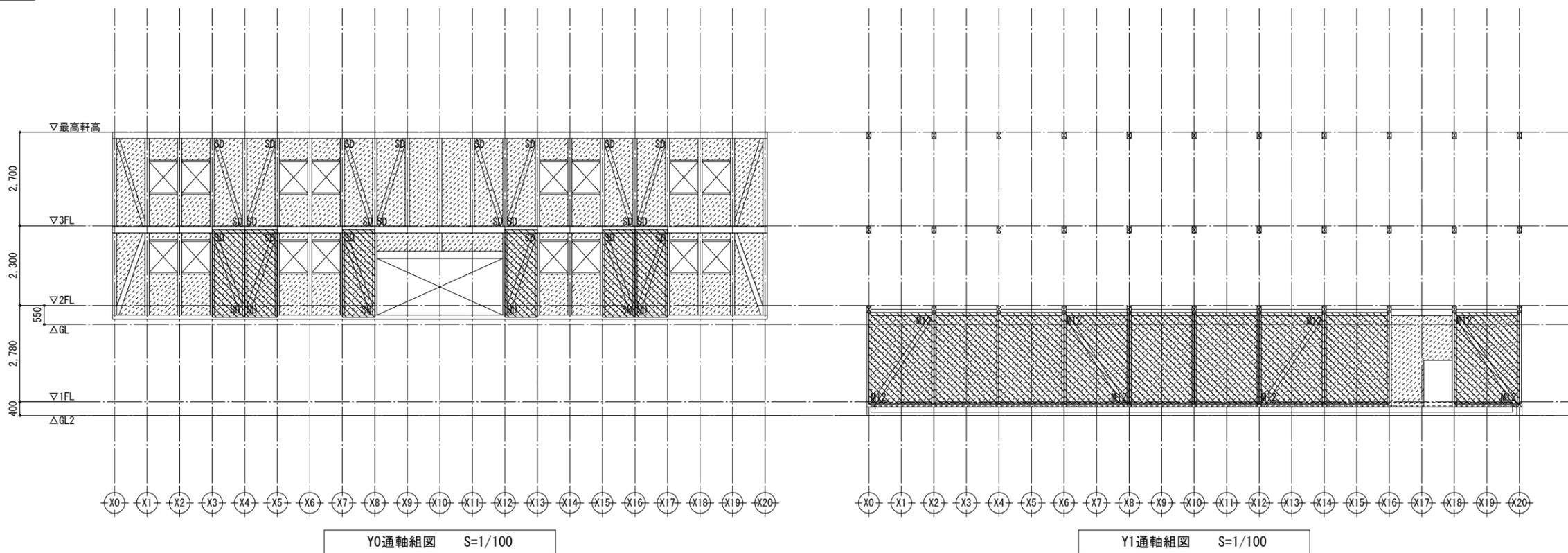
S-04

補強前



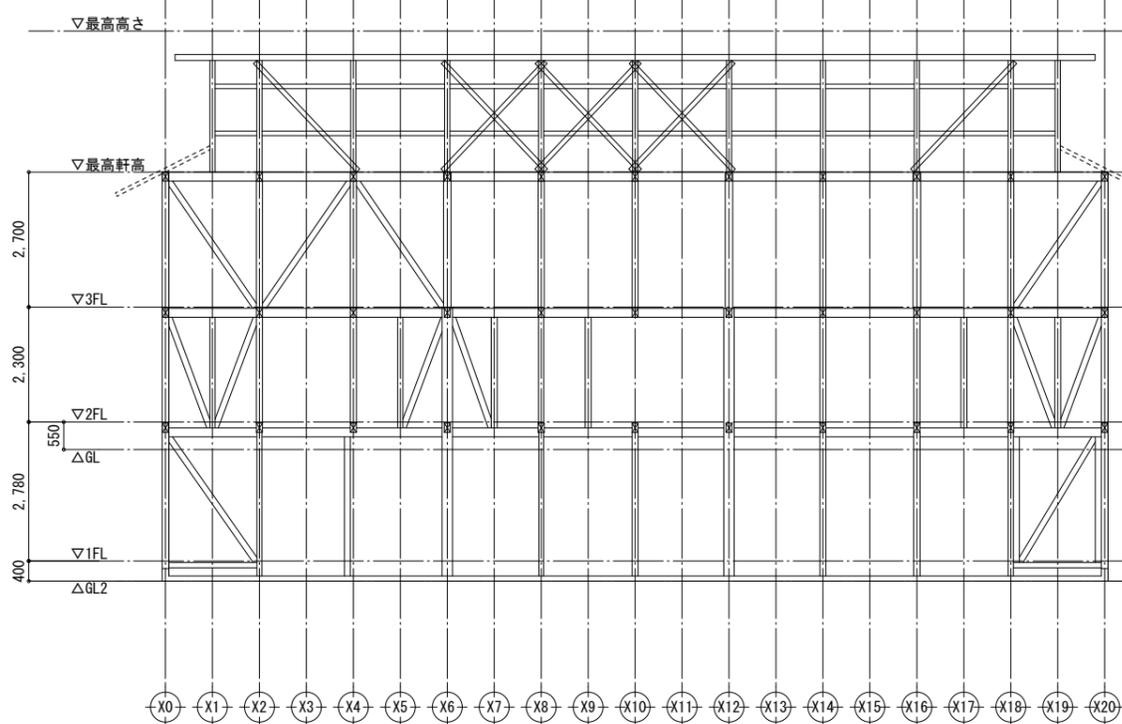
凡例 (補強前)	
	外壁：土塗り壁 t=70~90

補強後

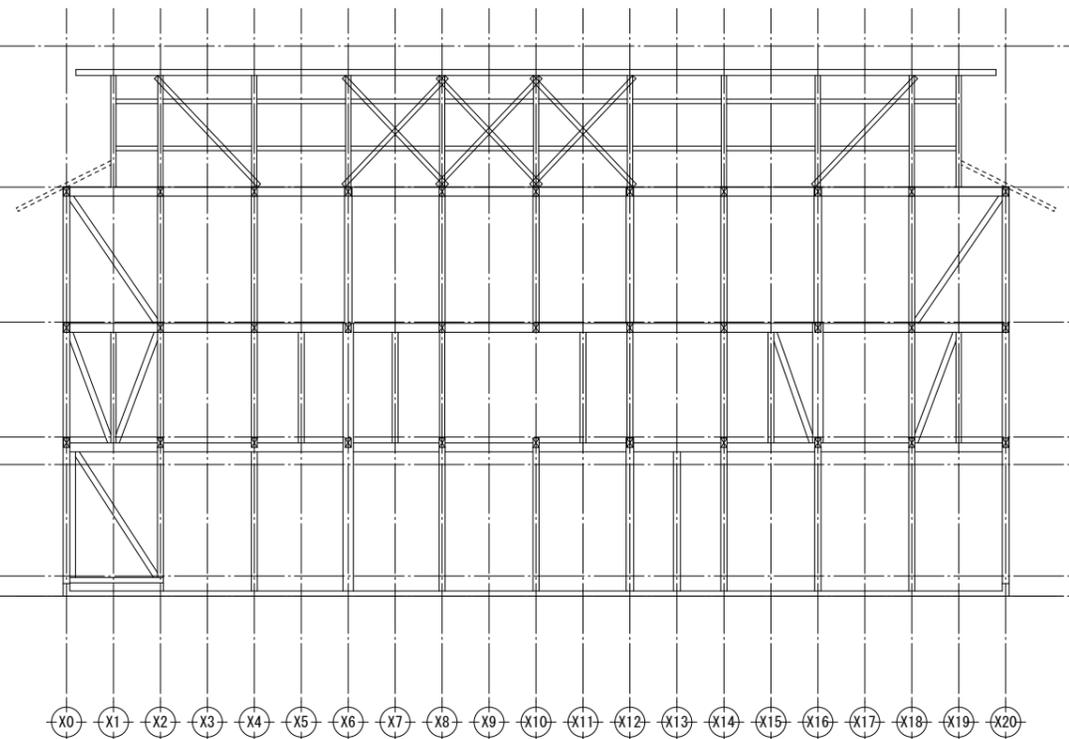


凡例 (補強前)	
	既設外壁：土塗り壁
	構造用合板張り補強
SD	接合部補強 ヘキサプレートSD
M12	接合部金物 1-M12

補強前

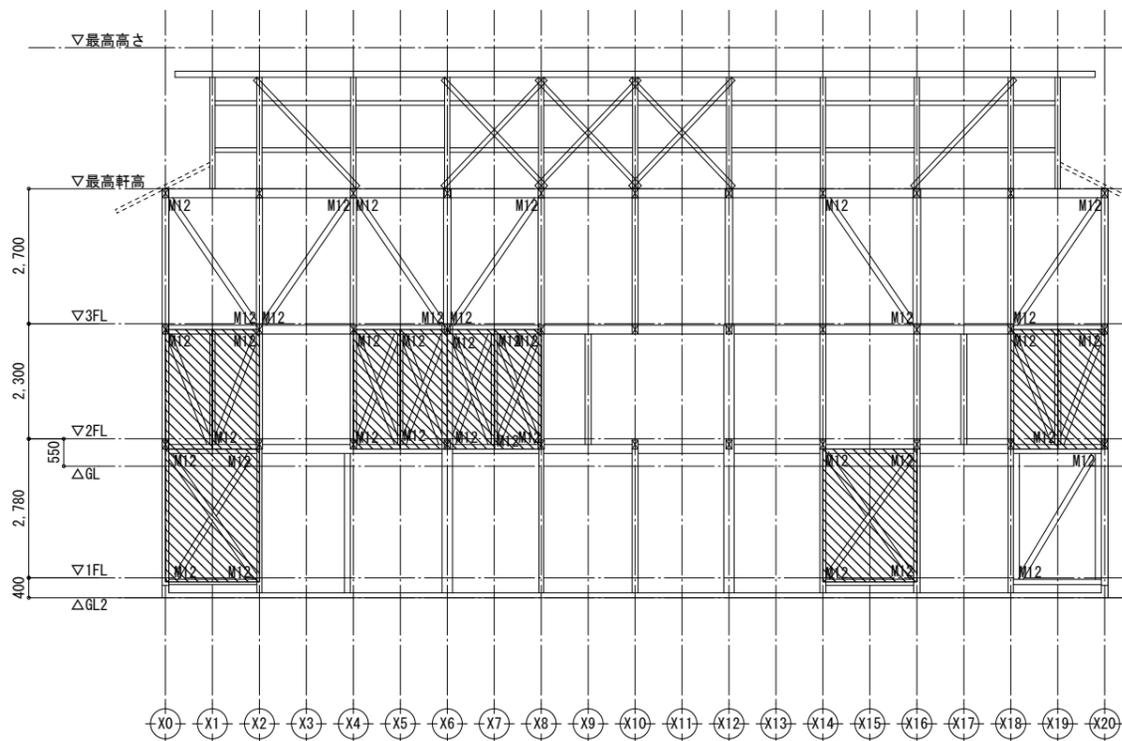


Y4通軸組図 S=1/100

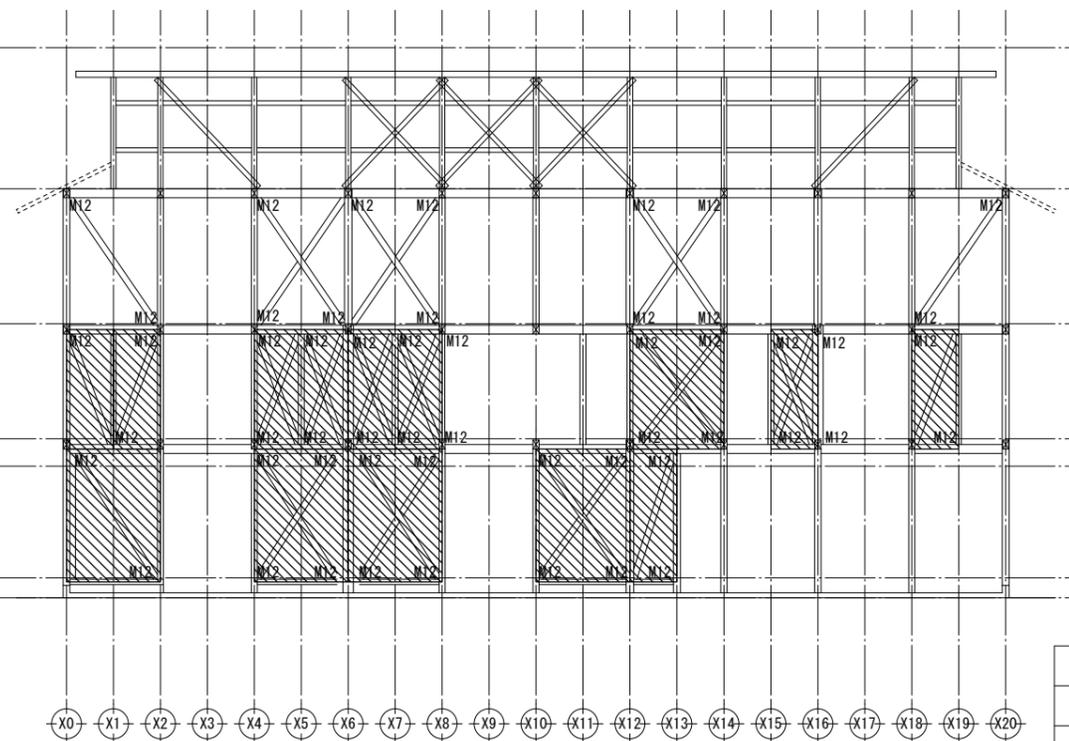


Y6通軸組図 S=1/100

補強後



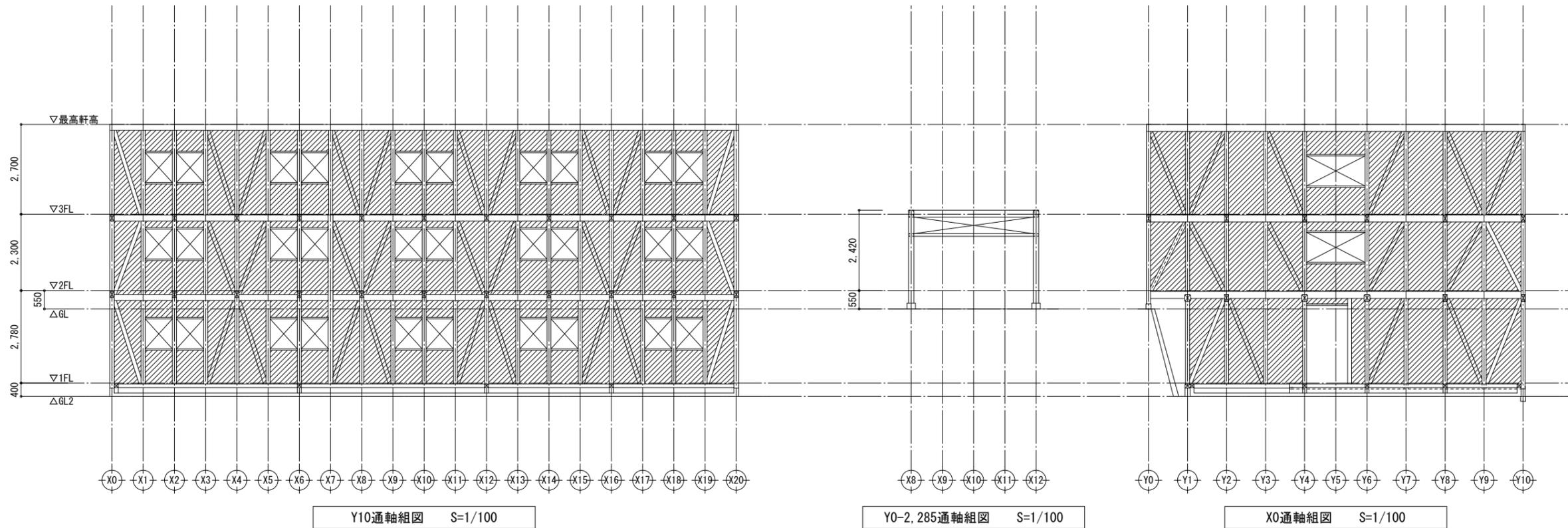
Y4通軸組図 S=1/100



Y6通軸組図 S=1/100

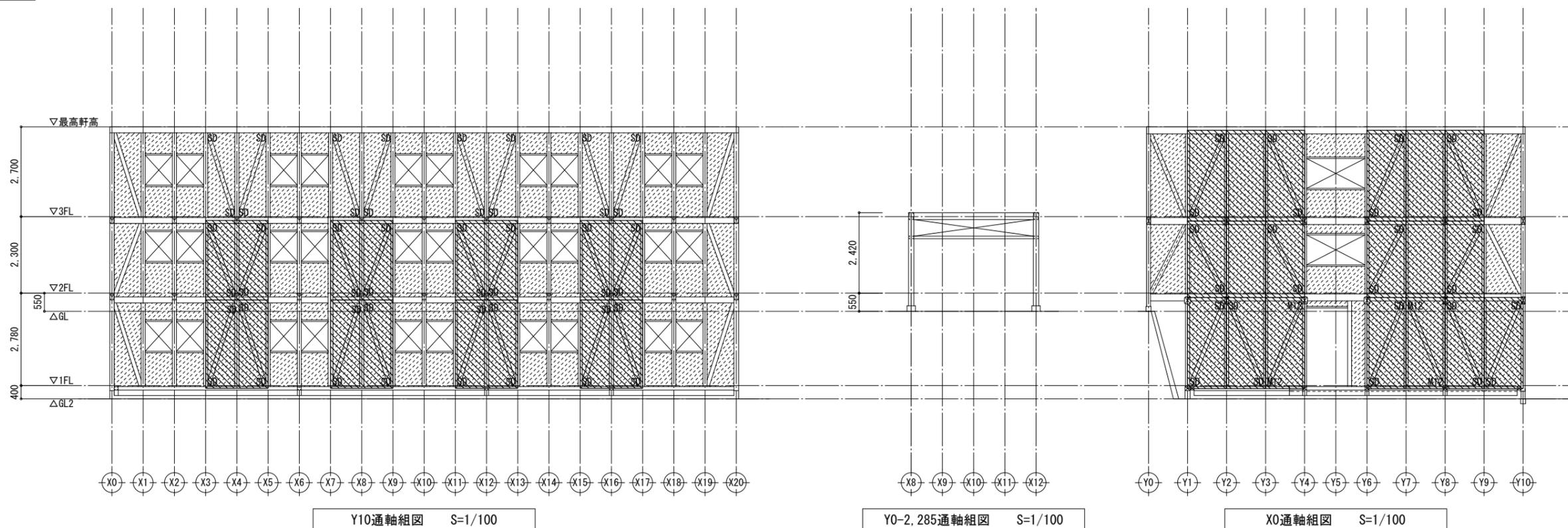
凡例 (補強前)	
	構造用合板張り補強
SD	接合部補強 ヘキサプレートSD
M12	接合部金物 1-M12

補強前



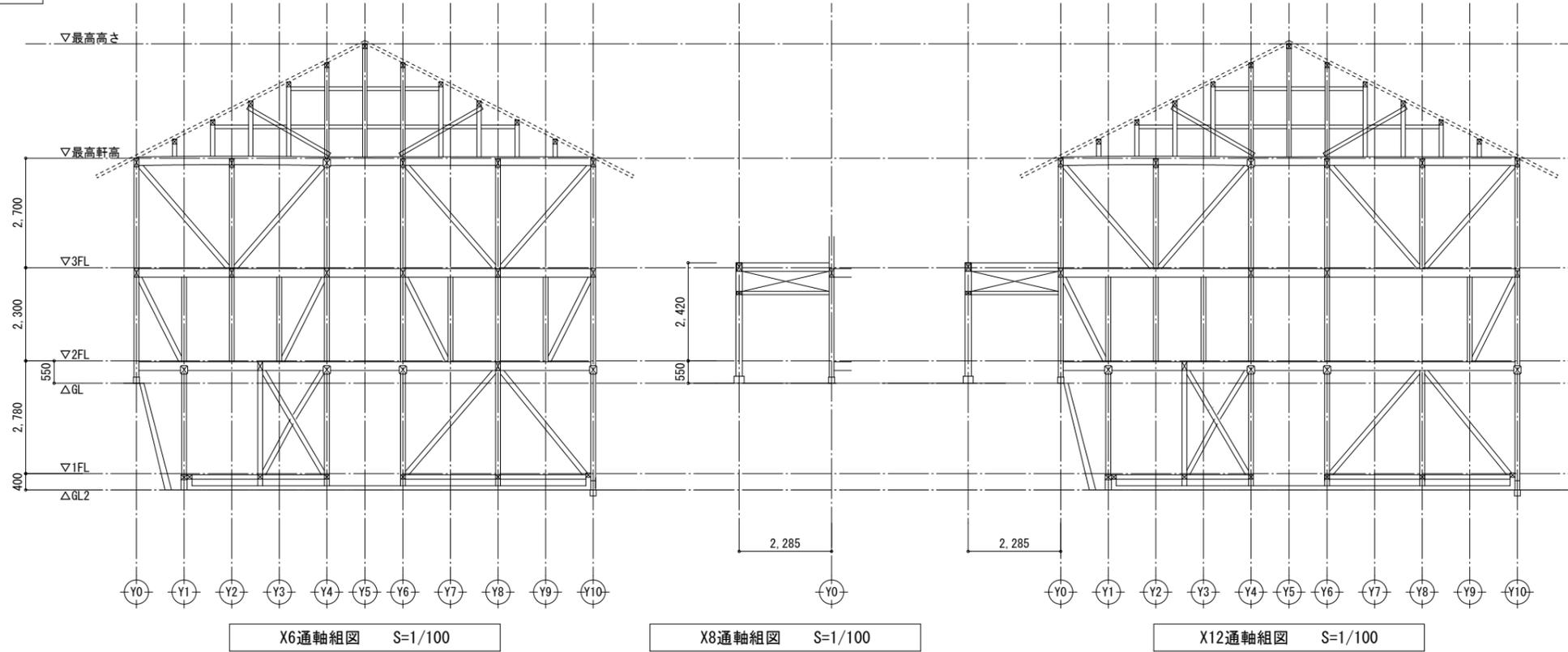
凡例 (補強前)	
	外壁：土塗り壁 t=70~90

補強後

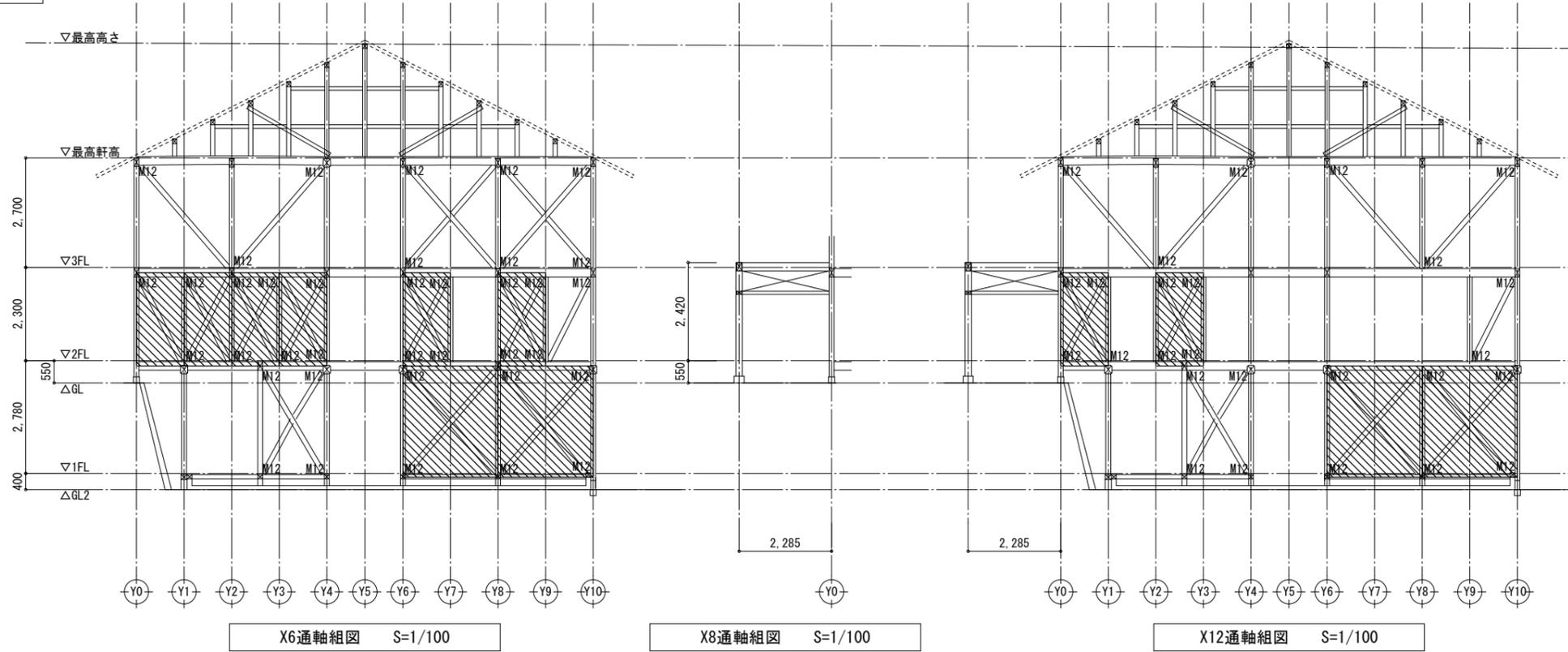


凡例 (補強前)	
	既設外壁：土塗り壁
	構造用合板張り補強
SD	接合部補強 ヘキサプレートSD
M12	接合部金物 1-M12

補強前

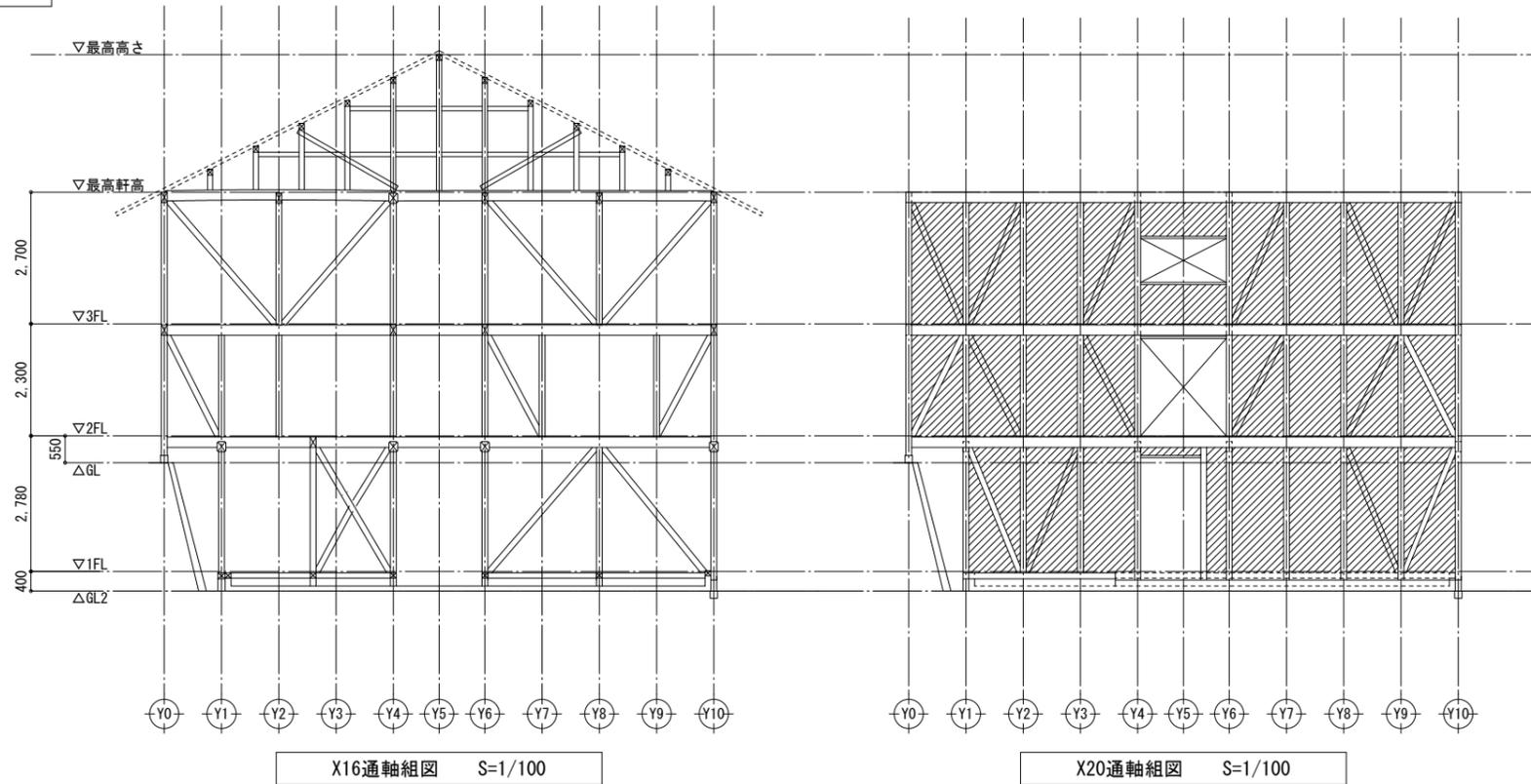


補強後



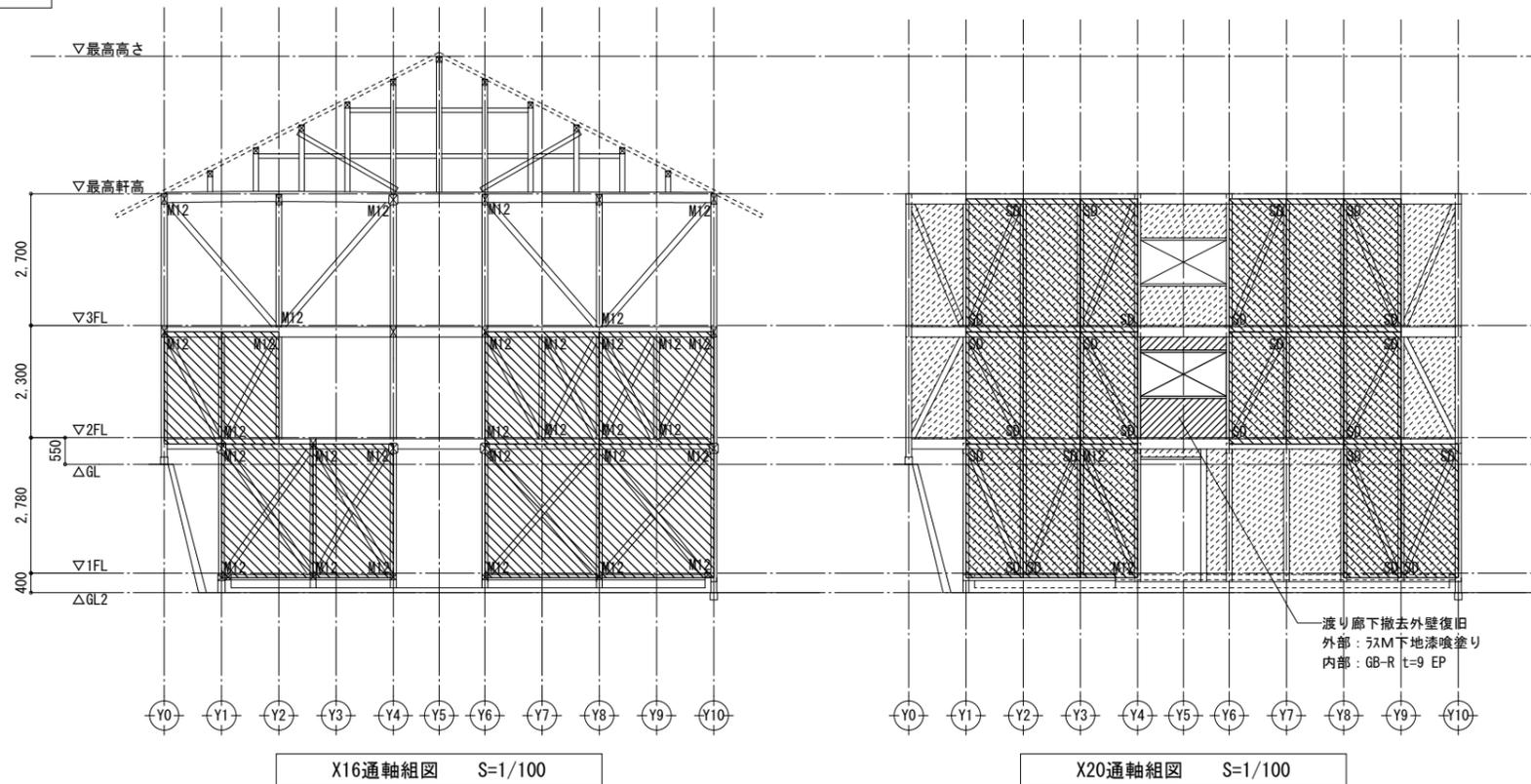
凡例 (補強前)	
	構造用合板張り補強
SD	接合部補強 ヘキサプレートSD
M12	接合部金物 1-M12

補強前

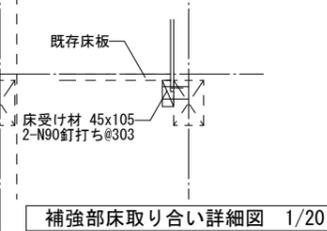
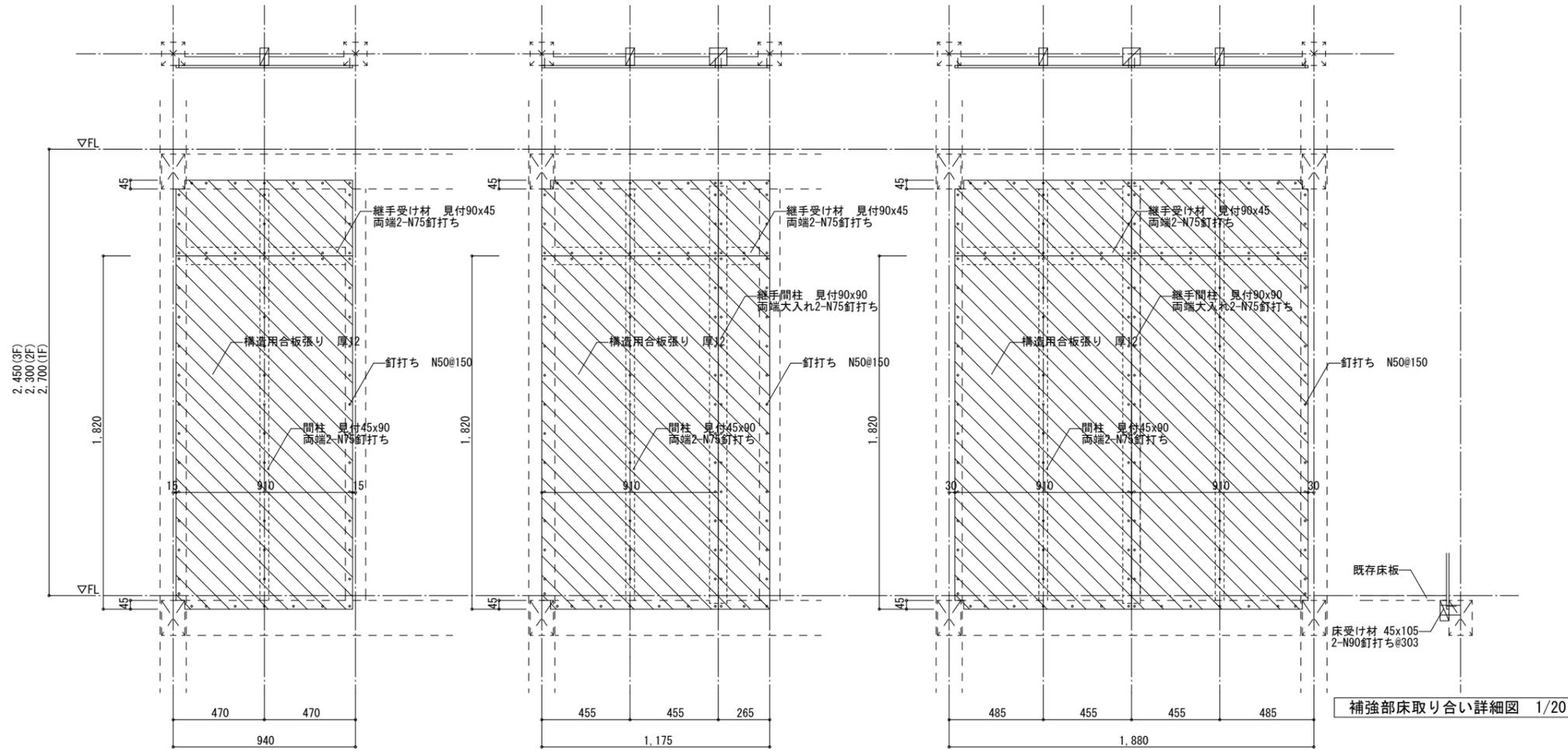
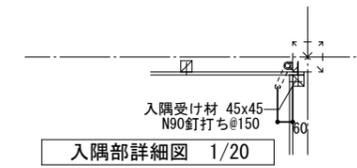


凡例 (補強前)	
	外壁：土塗り壁 t=70~90

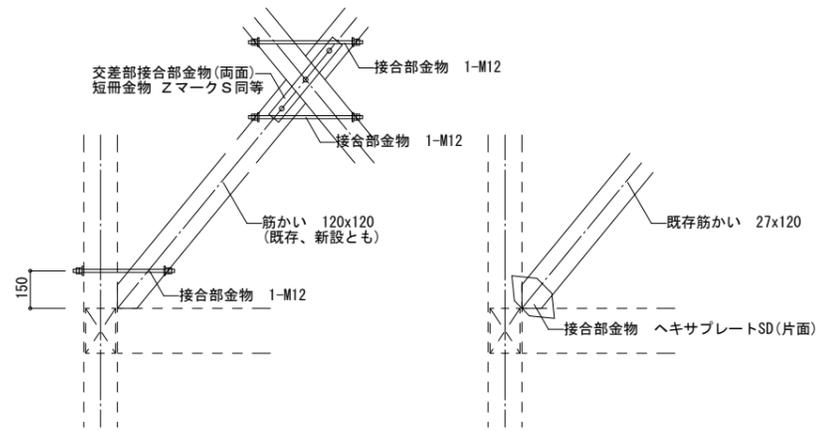
補強後



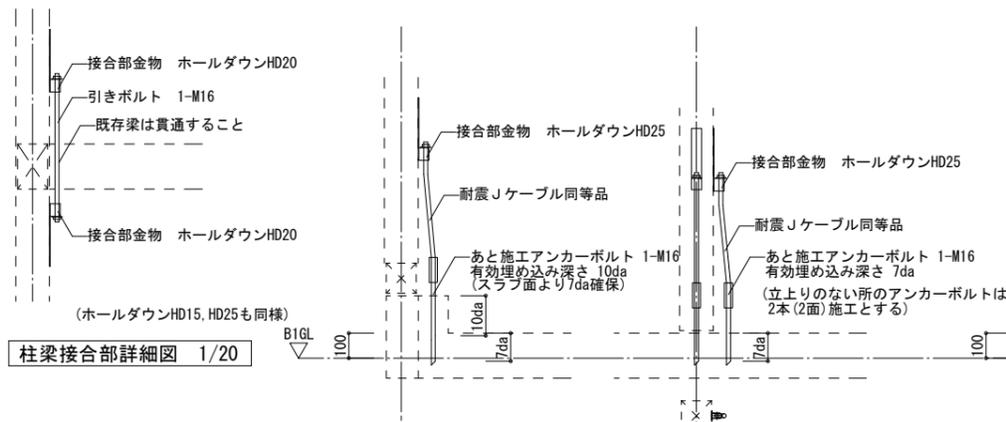
凡例 (補強前)	
	既設外壁：土塗り壁
	構造用合板張り補強
SD	接合部補強 ヘキサプレートSD
M12	接合部金物 1-M12



構造用合板張り補強部詳細図 1/20



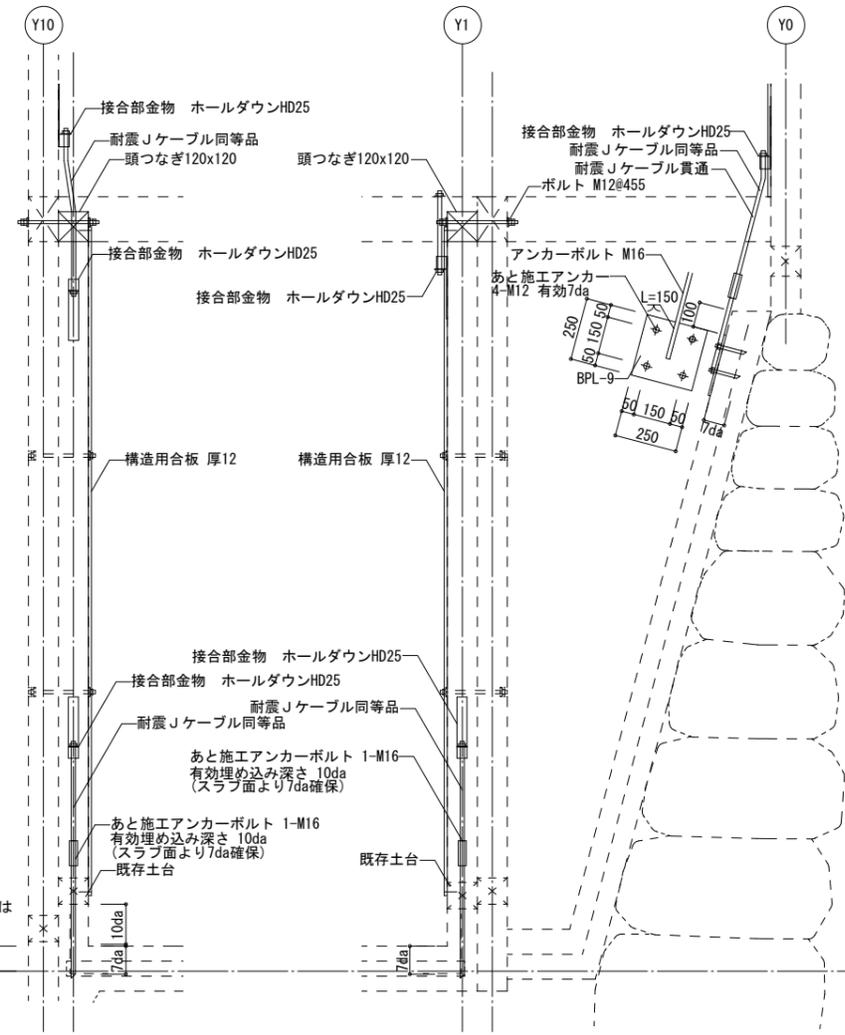
筋かい接合部詳細図 1/20



柱梁接合部詳細図 1/20

外壁側既存土台のない所 1/20

立上りのない所 1/20



外壁側既存土台のある所 1/20

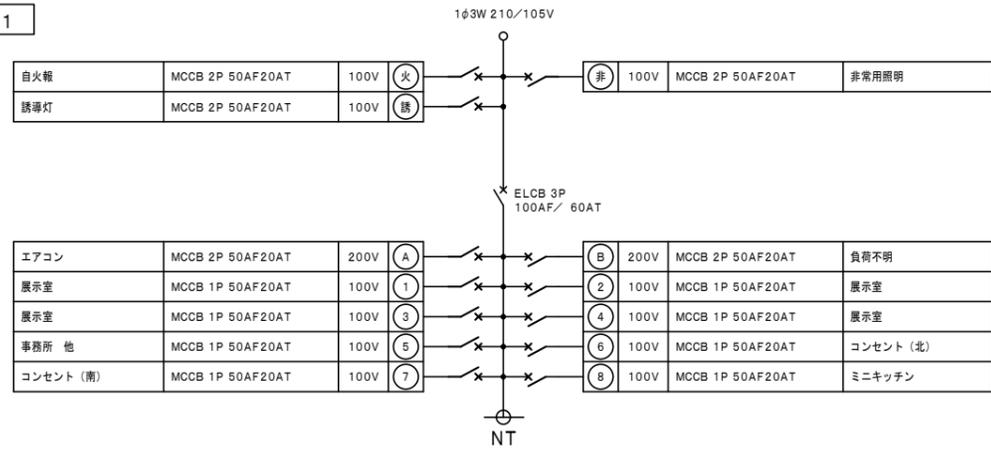
電気設備工事特記仕様書						
1. 工事概要						
1. 工事名称 兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事						
2. 所在地 岐阜県可児市兼山675-1 (用途地域 非緑引き都市計画区域 無指定地域)						
3. 建物概要						
番号	建物名称	主体構造	階数(地上/地下)	延床面積(m ²)	消防法施行令別表第1	
1	兼山歴史民俗資料館	木造	2 / -	402.03	(4)項	
2						
3						
4						
5						
4. 工事種目 注: ○のついたものを適用する。						
番号	工事種目	建物				
		1	2	3	4	5
	突発電設備	*	*	*	*	*
	中央監視制御設備	*	*	*	*	*
	直流電源設備	*	*	*	*	*
	自家発電設備	*	*	*	*	*
1	幹線動力設備	○	*	*	*	*
2	電灯コンセント設備	○	*	*	*	*
	電話設備	*	*	*	*	*
	情報設備	*	*	*	*	*
	電気時計設備	*	*	*	*	*
3	放送設備	○	*	*	*	*
	表示設備	*	*	*	*	*
	インターホン設備	*	*	*	*	*
	テレビ共同視聴設備	*	*	*	*	*
4	火災報知設備	○	*	*	*	*
	避難設備	*	*	*	*	*
	防犯設備	*	*	*	*	*
	ITV設備	*	*	*	*	*
	構内配電線路設備	*	*	*	*	*
	構内通信線路設備	*	*	*	*	*
5. 設備概要 注: ○のついたものを適用する。						
方式	設備概要					
・受電方式	・ 3φ 3W 6600V 60Hz	設備容量	KVA			
・自家発電	・ φ W V Hz	発電容量	KVA			
・受電設備形式	・ 屋内形	・ 屋外形				
・監視方式	・ 警報盤式	・ 表示操作盤式	・ 監視制御装置式			
・通信、情報設備	・ 電話	・ 電気時計	・ 拡声	・ 表示	・ インターホン	
	・ テレビ共同受信	・ 火災報知	・ 防犯	・ ITV		

III. 工事仕様	
1. 共通仕様	
1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は全て国土交通大臣官庁官庁登録部監修「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)」、「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)」、国土交通大臣官庁官庁登録部監修「環境建築改修公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)」の各最新版による。	
2) 本仕様書で「図示」とあるのは設計図面記載事項を意味する。	
3) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合はそれぞれの工事特記仕様書を適用する。	
2. 種目・項目・特記事項の適用 特記事項は ○印のついたものを適用する。 ○印のない場合は ※ 印のついたものを適用する。	
3. 設計図書の優先順位	
1) 工事見積書及び現場説明事項	
2) 質疑応答書及び補足訂正追加事項	
3) 特記仕様書	
4) 図示	
5) 標準仕様書	

業	項目	特記事項																																																																							
一般 共通 事項	○ 建材	使用機材等指定表によるほか同等品以上とする。ただし、同等品以上とする場合は監督職員の承認を受ける。 ○ 構内 に関することが ○ できる 、できない ○ 別契約 の関係請負者が定置したものは、無償で利用できる。 ○ 取り外し 再使用する機器は、清掃、絶縁測定の上取りつける。 ・ 構外に搬出し適宜に処理する ・ 構内指示場所に致均し ・ 構内指示場所に堆積 機材等の寸法及び妥固は必ず参考とする																																																																							
	○ 工事用仮設備	発生材は監督職員の指示により処理する。																																																																							
	○ 足場、さん構	入線しない管路には 1.2mm 以上のビニル被覆鉄線棒を挿入する。																																																																							
	○ 再使用機器	屋内 ○ PFP管 ○ ねじなし電線管 ・ 厚鋼電線管 屋外 ○ FEP管 ・ 厚鋼電線管 ・ 溶融亜鉛メッキ鋼管 ・ PEライニング鋼管(厚鋼)																																																																							
	○ 防火区分	特記なきプレートは ○ 樹脂製 ○ 金属製 () 配線経路、電線サイズ、配線本数、管路サイズなど機能を満足すれば、図面と多少相違しても請負金額の変更はしない。 ※ 建築工事仕様書による。																																																																							
	○ 建材の寸法及び妥固	※ 下記のを監督職員の指示する規定の台紙に貼付し、撮影箇所を明記し提出する。																																																																							
	○ 発生材																																																																								
	○ 呼び線																																																																								
	○ 電線管																																																																								
	○ 配線器具プレート類																																																																								
○ 配線本数、管路等																																																																									
○ 工事写真																																																																									
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>分類</th> <th>規格</th> <th>撮影箇所数</th> <th>部数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">着工前写真</td> <td>※ カラープリント</td> <td>※ キャビネ版</td> <td>※ サービズ版</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>※ カラープリント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">工事写真</td> <td>(工事記録用)</td> <td>・ キャビネ版</td> <td>・ サービズ版</td> <td>※ 必要数</td> <td>・ 部</td> </tr> <tr> <td>(工事報告書用)</td> <td>・ キャビネ版</td> <td>・ サービズ版</td> <td>・ 以上</td> <td>・ 部</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">竣工写真</td> <td>※ カラープリント</td> <td>※ キャビネ版</td> <td>・ 六ツ切版</td> <td>・ 以上</td> <td>・ 部</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 四ツ切版</td> <td>・</td> <td>・ 以上</td> <td>・ 部</td> </tr> <tr> <td>・ リパサルフィルム</td> <td>※ 4×5版</td> <td>・</td> <td>・ 以上</td> <td>・ 部</td> </tr> <tr> <td>・ カラースライド</td> <td>・ 35mm 版</td> <td>・</td> <td>・ 以上</td> <td>・ 部</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ビデオ記録</td> <td>・ カラー</td> <td>・ ナレーション、BGM付</td> <td></td> <td>・ 分以上</td> <td>・ 巻</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・ 工事完結記録</td> <td></td> <td>・ 分以上</td> <td>・ 巻</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・ 工事記録</td> <td></td> <td>・ 分以上</td> <td>・ 巻</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・ 竣工時記録</td> <td></td> <td>・ 分以上</td> <td>・ 巻</td> </tr> </tbody> </table>	種別	分類	規格	撮影箇所数	部数	着工前写真	※ カラープリント	※ キャビネ版	※ サービズ版			※ カラープリント					工事写真	(工事記録用)	・ キャビネ版	・ サービズ版	※ 必要数	・ 部	(工事報告書用)	・ キャビネ版	・ サービズ版	・ 以上	・ 部	竣工写真	※ カラープリント	※ キャビネ版	・ 六ツ切版	・ 以上	・ 部		・ 四ツ切版	・	・ 以上	・ 部	・ リパサルフィルム	※ 4×5版	・	・ 以上	・ 部	・ カラースライド	・ 35mm 版	・	・ 以上	・ 部	ビデオ記録	・ カラー	・ ナレーション、BGM付		・ 分以上	・ 巻	・	・ 工事完結記録		・ 分以上	・ 巻			・ 工事記録		・ 分以上	・ 巻			・ 竣工時記録		・ 分以上	・ 巻
種別	分類	規格	撮影箇所数	部数																																																																					
着工前写真	※ カラープリント	※ キャビネ版	※ サービズ版																																																																						
	※ カラープリント																																																																								
工事写真	(工事記録用)	・ キャビネ版	・ サービズ版	※ 必要数	・ 部																																																																				
	(工事報告書用)	・ キャビネ版	・ サービズ版	・ 以上	・ 部																																																																				
竣工写真	※ カラープリント	※ キャビネ版	・ 六ツ切版	・ 以上	・ 部																																																																				
		・ 四ツ切版	・	・ 以上	・ 部																																																																				
	・ リパサルフィルム	※ 4×5版	・	・ 以上	・ 部																																																																				
	・ カラースライド	・ 35mm 版	・	・ 以上	・ 部																																																																				
ビデオ記録	・ カラー	・ ナレーション、BGM付		・ 分以上	・ 巻																																																																				
	・	・ 工事完結記録		・ 分以上	・ 巻																																																																				
		・ 工事記録		・ 分以上	・ 巻																																																																				
		・ 竣工時記録		・ 分以上	・ 巻																																																																				

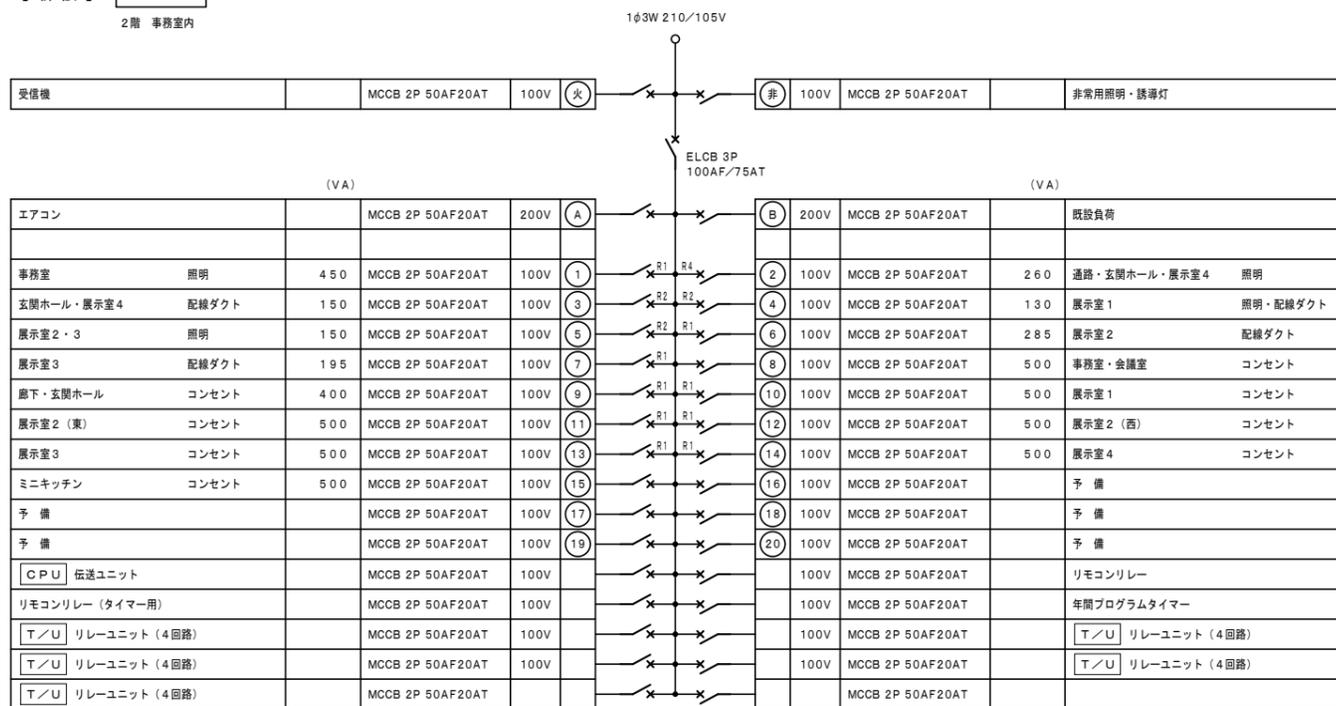
○ 施工時・中間期及び竣工時の提出書類 ※ 工事完成図	※ 提出書類は可視市建設工事における取扱い書類等一覧表による。 ※ 建築工事仕様書による。 システム・主要機器の取扱説明には、書類の他に 「施工時・中間期及び竣工時の提出書類」 を提出する。 施工前に提出する。 検査する機材、種別は監督職員の指示による。なお、工事現場以外での検査及び試験の立合いに要する費用(交通費及宿泊費)は工事請負金額に含む。 請負者は自主施工監理者を選任し、品質管理を徹底すること。 下記の露出配管は塗装を行う。(但し、溶融亜鉛メッキ材は除く) ※ 屋上及び屋外 ※ 倉庫 ※ 駐車場 ※ 工場 ※ 電気室 ※ 機械室 ※ EPS 既存コンクリート、床、壁等の配管の穴明けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。 点検口廻の裏面には、点検箇所を明記する。 プレートに用途を記載する。 建設地の自治体により決められた騒音規制基準に該当する設備機器は規制値を遵守する。 竣工時敷地境界にて騒音測定を行い上記基準の確認を行う。 規制値以上の場合は改善対策を施す。 設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備設計・施工指針 2014年版」(国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修)による。 1) 設計用水平地震力 機器の重量[kgf]に、設計用標準水平地震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合、設計用標準水平地震度は、次による。 設計用水平地震度																																																												
○ 取扱い説明 ○ 施工計画書 ・ 機材の検査																																																													
・ 品質管理																																																													
※ 金属製電線管の塗装																																																													
○ はつり ・ 点検口																																																													
○ ジョイントボックス類 ・ 騒音規制基準																																																													
○ 耐震施工																																																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設置場所</th> <th rowspan="2">機器種別</th> <th colspan="2">特定の施設</th> <th colspan="2">一般の施設</th> </tr> <tr> <th>重要機器</th> <th>一般機器</th> <th>重要機器</th> <th>一般機器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設		一般の施設		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器	上層階	機器	2.0	1.5	1.5	1.0	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	1.5	1.0	機器	1.5	1.0	1.0	0.6	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0	水櫃類	1.5	1.0	1.0	0.6	地下・1階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6		水櫃類	1.5	1.0	1.0	0.6
設置場所	機器種別			特定の施設		一般の施設																																																							
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器																																																								
上層階	機器	2.0	1.5	1.5	1.0																																																								
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5																																																								
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	1.5	1.0																																																								
	機器	1.5	1.0	1.0	0.6																																																								
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0																																																								
	水櫃類	1.5	1.0	1.0	0.6																																																								
地下・1階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4																																																								
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6																																																								
	水櫃類	1.5	1.0	1.0	0.6																																																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設	上層階	機器	2.0	1.5	防振支持の機器	2.0	2.0	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	機器	1.5	1.0	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	水櫃類	1.5	1.0	地下・1階	機器	1.0	0.6	防振支持の機器	1.0	1.0		水櫃類	1.5	1.0																								
設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設																																																										
上層階	機器	2.0	1.5																																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																																										
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5																																																										
	機器	1.5	1.0																																																										
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
地下・1階	機器	1.0	0.6																																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設	上層階	機器	2.0	1.5	防振支持の機器	2.0	2.0	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	機器	1.5	1.0	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	水櫃類	1.5	1.0	地下・1階	機器	1.0	0.6	防振支持の機器	1.0	1.0		水櫃類	1.5	1.0																								
設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設																																																										
上層階	機器	2.0	1.5																																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																																										
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5																																																										
	機器	1.5	1.0																																																										
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
地下・1階	機器	1.0	0.6																																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設	上層階	機器	2.0	1.5	防振支持の機器	2.0	2.0	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	機器	1.5	1.0	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	水櫃類	1.5	1.0	地下・1階	機器	1.0	0.6	防振支持の機器	1.0	1.0		水櫃類	1.5	1.0																								
設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設																																																										
上層階	機器	2.0	1.5																																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																																										
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5																																																										
	機器	1.5	1.0																																																										
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
地下・1階	機器	1.0	0.6																																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設	上層階	機器	2.0	1.5	防振支持の機器	2.0	2.0	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	機器	1.5	1.0	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	水櫃類	1.5	1.0	地下・1階	機器	1.0	0.6	防振支持の機器	1.0	1.0		水櫃類	1.5	1.0																								
設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設																																																										
上層階	機器	2.0	1.5																																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																																										
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5																																																										
	機器	1.5	1.0																																																										
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
地下・1階	機器	1.0	0.6																																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設	上層階	機器	2.0	1.5	防振支持の機器	2.0	2.0	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	機器	1.5	1.0	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	水櫃類	1.5	1.0	地下・1階	機器	1.0	0.6	防振支持の機器	1.0	1.0		水櫃類	1.5	1.0																								
設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設																																																										
上層階	機器	2.0	1.5																																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																																										
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5																																																										
	機器	1.5	1.0																																																										
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
地下・1階	機器	1.0	0.6																																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設	上層階	機器	2.0	1.5	防振支持の機器	2.0	2.0	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	機器	1.5	1.0	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	水櫃類	1.5	1.0	地下・1階	機器	1.0	0.6	防振支持の機器	1.0	1.0		水櫃類	1.5	1.0																								
設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設																																																										
上層階	機器	2.0	1.5																																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																																										
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5																																																										
	機器	1.5	1.0																																																										
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
地下・1階	機器	1.0	0.6																																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設	上層階	機器	2.0	1.5	防振支持の機器	2.0	2.0	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	機器	1.5	1.0	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	水櫃類	1.5	1.0	地下・1階	機器	1.0	0.6	防振支持の機器	1.0	1.0		水櫃類	1.5	1.0																								
設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設																																																										
上層階	機器	2.0	1.5																																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																																										
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5																																																										
	機器	1.5	1.0																																																										
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
地下・1階	機器	1.0	0.6																																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設	上層階	機器	2.0	1.5	防振支持の機器	2.0	2.0	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	機器	1.5	1.0	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	水櫃類	1.5	1.0	地下・1階	機器	1.0	0.6	防振支持の機器	1.0	1.0		水櫃類	1.5	1.0																								
設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設																																																										
上層階	機器	2.0	1.5																																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																																										
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5																																																										
	機器	1.5	1.0																																																										
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
地下・1階	機器	1.0	0.6																																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設	上層階	機器	2.0	1.5	防振支持の機器	2.0	2.0	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	機器	1.5	1.0	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	水櫃類	1.5	1.0	地下・1階	機器	1.0	0.6	防振支持の機器	1.0	1.0		水櫃類	1.5	1.0																								
設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設																																																										
上層階	機器	2.0	1.5																																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																																										
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5																																																										
	機器	1.5	1.0																																																										
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
地下・1階	機器	1.0	0.6																																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設	上層階	機器	2.0	1.5	防振支持の機器	2.0	2.0	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	機器	1.5	1.0	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	水櫃類	1.5	1.0	地下・1階	機器	1.0	0.6	防振支持の機器	1.0	1.0		水櫃類	1.5	1.0																								
設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設																																																										
上層階	機器	2.0	1.5																																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																																										
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5																																																										
	機器	1.5	1.0																																																										
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
地下・1階	機器	1.0	0.6																																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設	上層階	機器	2.0	1.5	防振支持の機器	2.0	2.0	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	機器	1.5	1.0	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	水櫃類	1.5	1.0	地下・1階	機器	1.0	0.6	防振支持の機器	1.0	1.0		水櫃類	1.5	1.0																								
設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設																																																										
上層階	機器	2.0	1.5																																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																																										
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5																																																										
	機器	1.5	1.0																																																										
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
地下・1階	機器	1.0	0.6																																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設	上層階	機器	2.0	1.5	防振支持の機器	2.0	2.0	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	機器	1.5	1.0	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	水櫃類	1.5	1.0	地下・1階	機器	1.0	0.6	防振支持の機器	1.0	1.0		水櫃類	1.5	1.0																								
設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設																																																										
上層階	機器	2.0	1.5																																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																																										
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5																																																										
	機器	1.5	1.0																																																										
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
地下・1階	機器	1.0	0.6																																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設	上層階	機器	2.0	1.5	防振支持の機器	2.0	2.0	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	機器	1.5	1.0	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	水櫃類	1.5	1.0	地下・1階	機器	1.0	0.6	防振支持の機器	1.0	1.0		水櫃類	1.5	1.0																								
設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設																																																										
上層階	機器	2.0	1.5																																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																																										
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5																																																										
	機器	1.5	1.0																																																										
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
地下・1階	機器	1.0	0.6																																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設	上層階	機器	2.0	1.5	防振支持の機器	2.0	2.0	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	機器	1.5	1.0	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	水櫃類	1.5	1.0	地下・1階	機器	1.0	0.6	防振支持の機器	1.0	1.0		水櫃類	1.5	1.0																								
設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設																																																										
上層階	機器	2.0	1.5																																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																																										
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5																																																										
	機器	1.5	1.0																																																										
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
地下・1階	機器	1.0	0.6																																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設	上層階	機器	2.0	1.5	防振支持の機器	2.0	2.0	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	機器	1.5	1.0	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	水櫃類	1.5	1.0	地下・1階	機器	1.0	0.6	防振支持の機器	1.0	1.0		水櫃類	1.5	1.0																								
設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設																																																										
上層階	機器	2.0	1.5																																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																																										
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5																																																										
	機器	1.5	1.0																																																										
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
地下・1階	機器	1.0	0.6																																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上層階</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋上及び塔屋</td> <td>水櫃類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>防振支持の機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地下・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振支持の機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水櫃類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設	上層階	機器	2.0	1.5	防振支持の機器	2.0	2.0	屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5	機器	1.5	1.0	中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	水櫃類	1.5	1.0	地下・1階	機器	1.0	0.6	防振支持の機器	1.0	1.0		水櫃類	1.5	1.0																								
設置場所	機器種別	特定の施設	一般の施設																																																										
上層階	機器	2.0	1.5																																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																																										
屋上及び塔屋	水櫃類	2.0	1.5																																																										
	機器	1.5	1.0																																																										
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										
地下・1階	機器	1.0	0.6																																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																																										
	水櫃類	1.5	1.0																																																										

【撤去】 L-1



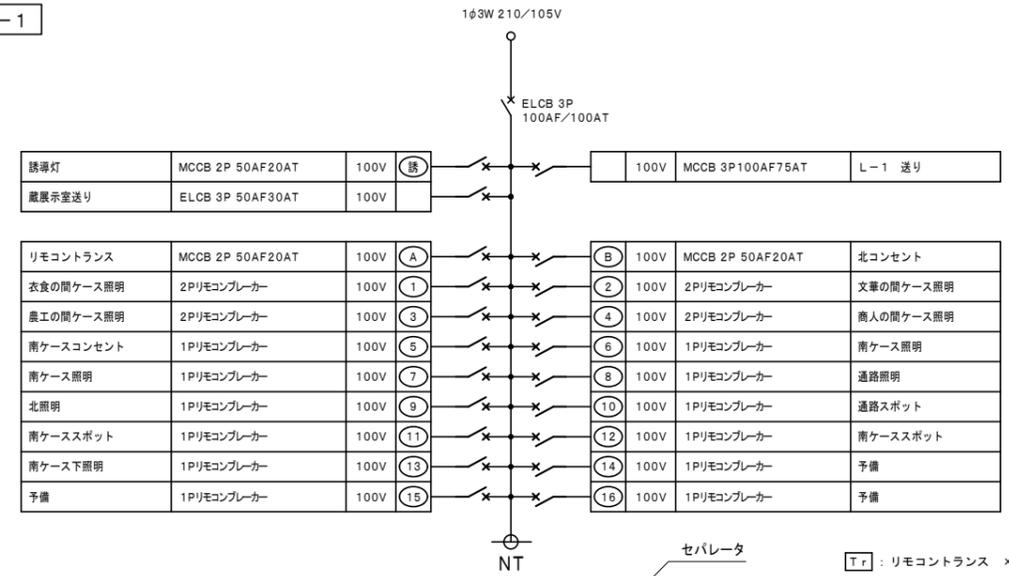
【新設】 NL-1

2階 事務室内



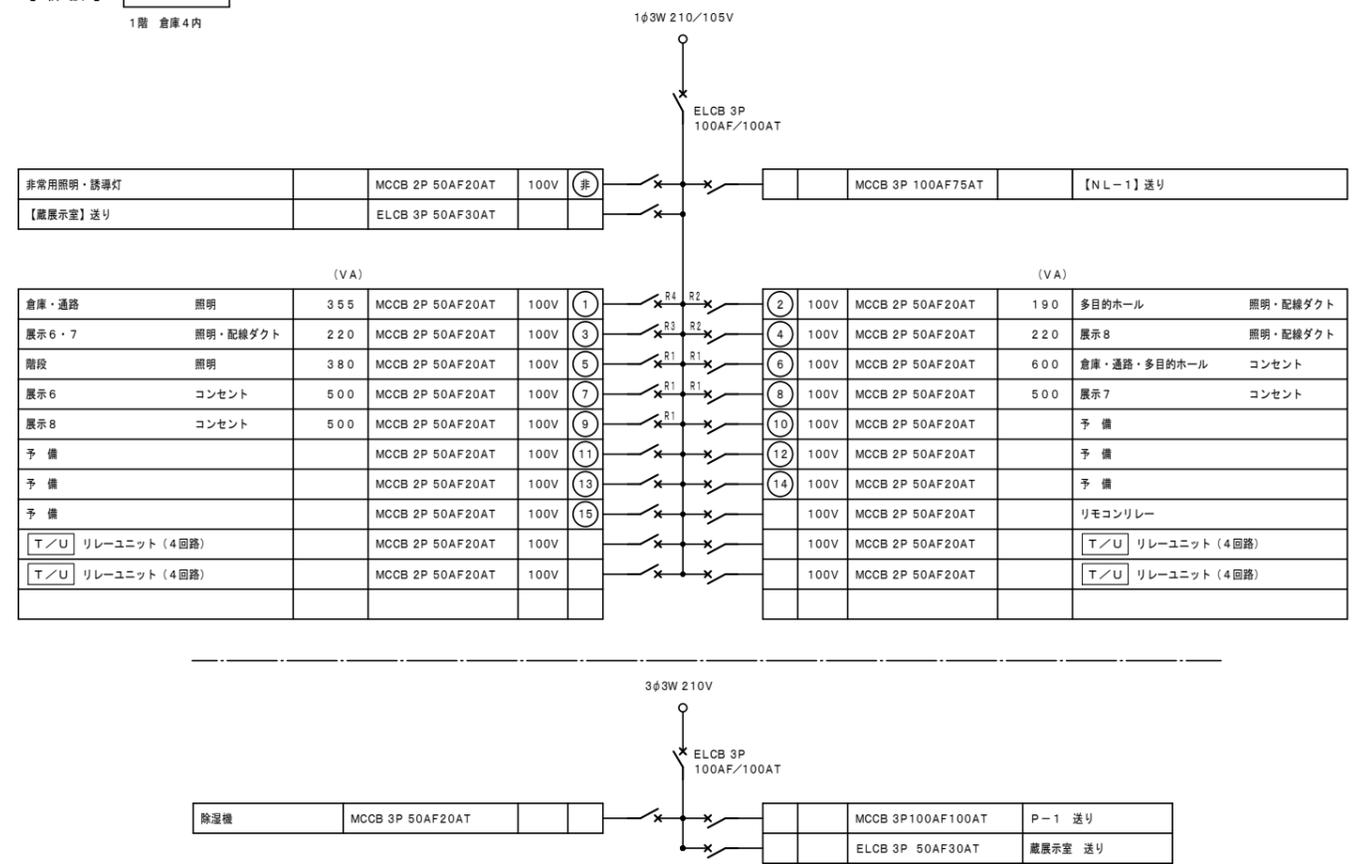
1. パターン、グループ設定器（アドレス設定機能付）× 1台納入
2. 【NL-1】：盤表面に個別リモコンスイッチ× 18 + グループスイッチ× 2 + パターンスイッチ× 2 取付
3. 【NLP-1】：盤表面に個別リモコンスイッチ× 16 + グループスイッチ× 2 + パターンスイッチ× 2 取付

【撤去】 LP-1



【新設】 NLP-1

1階 倉庫4内



照明器具参考図 (既設・撤去)

a402	FL40W×2	b401	FL40W×1	c401	FL40W×1	d401	IL40W×1 シーリングライト
c201		FL20W×1					
e401	IL40W×1 ブラケット	f401	IL40W×1 スポットライト	g401	IL40W×1 スポットライト	h401	IL40W×1 シーリングライト
ライティングダクト用							
i100	LEDダウンライト	j181	FDL18W×1	k401	IL40W×1 軒下ダウンライト	l101	FL10W×1 避難口誘導灯
電池内蔵・天井							
m101	FL10W×1 通路誘導灯	n013	JE13W×1 非常用照明	o013	JE13W×1 非常用照明		
電池内蔵・床埋込型		電池内蔵		電池内蔵			

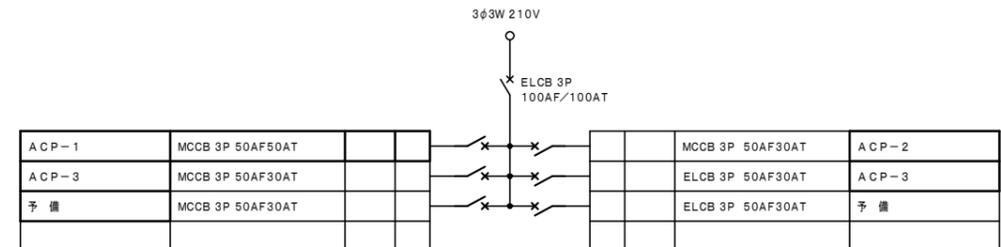
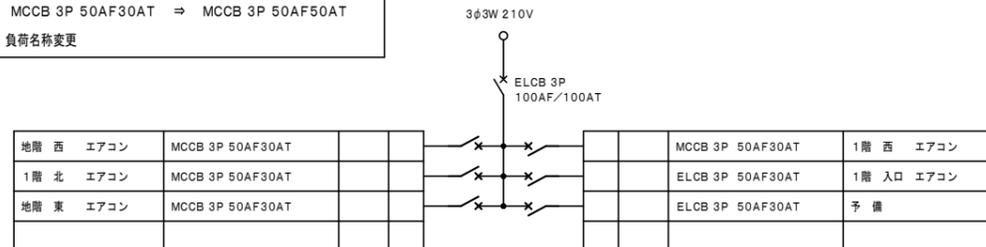
照明器具参考図 (新設)

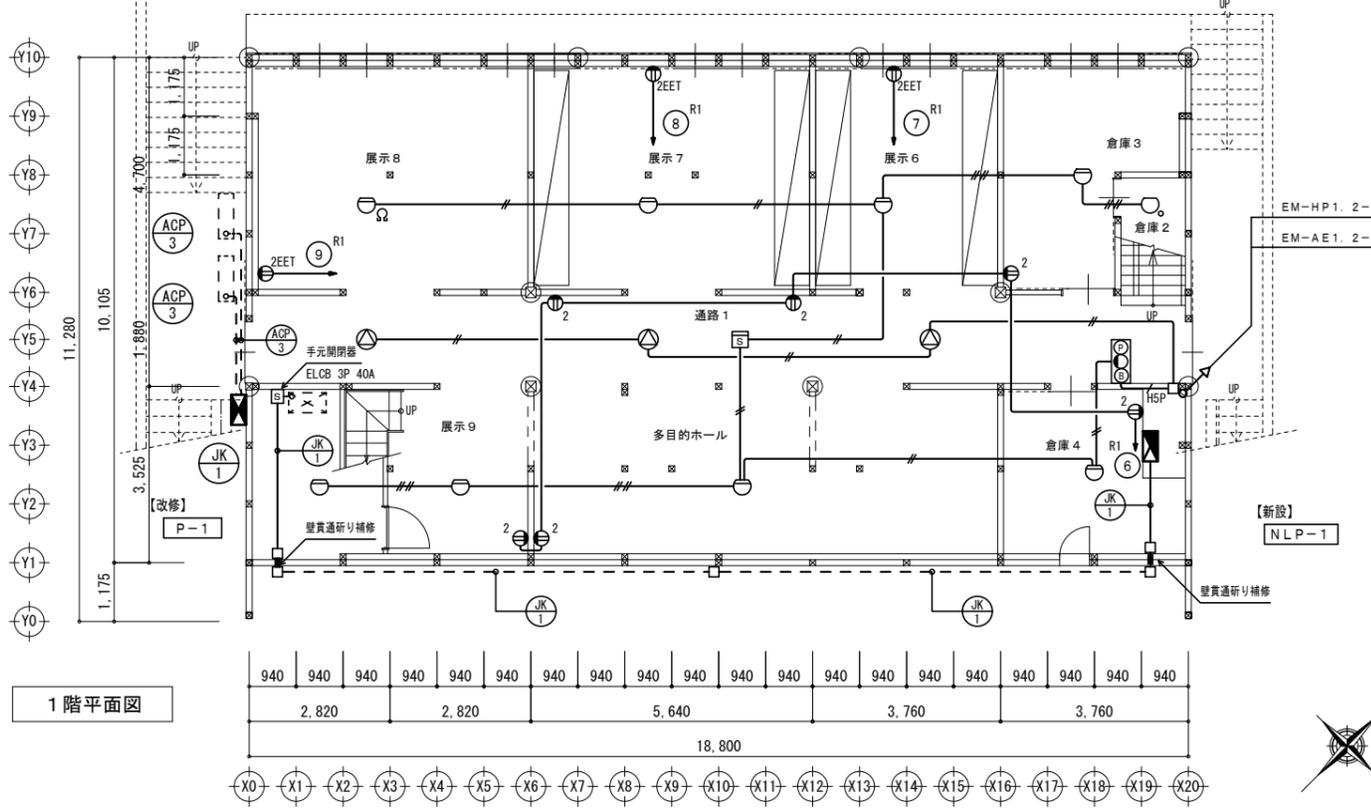
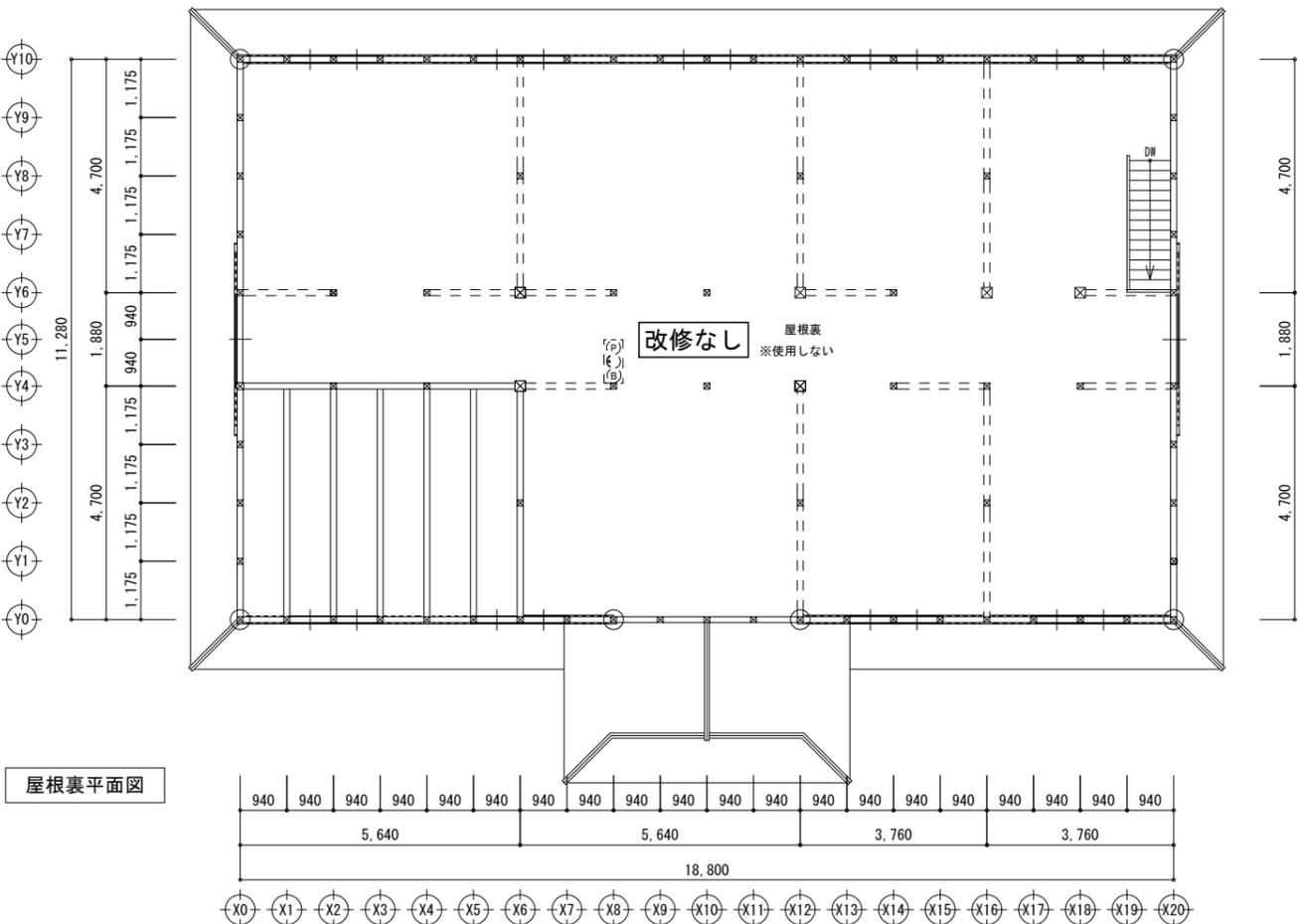
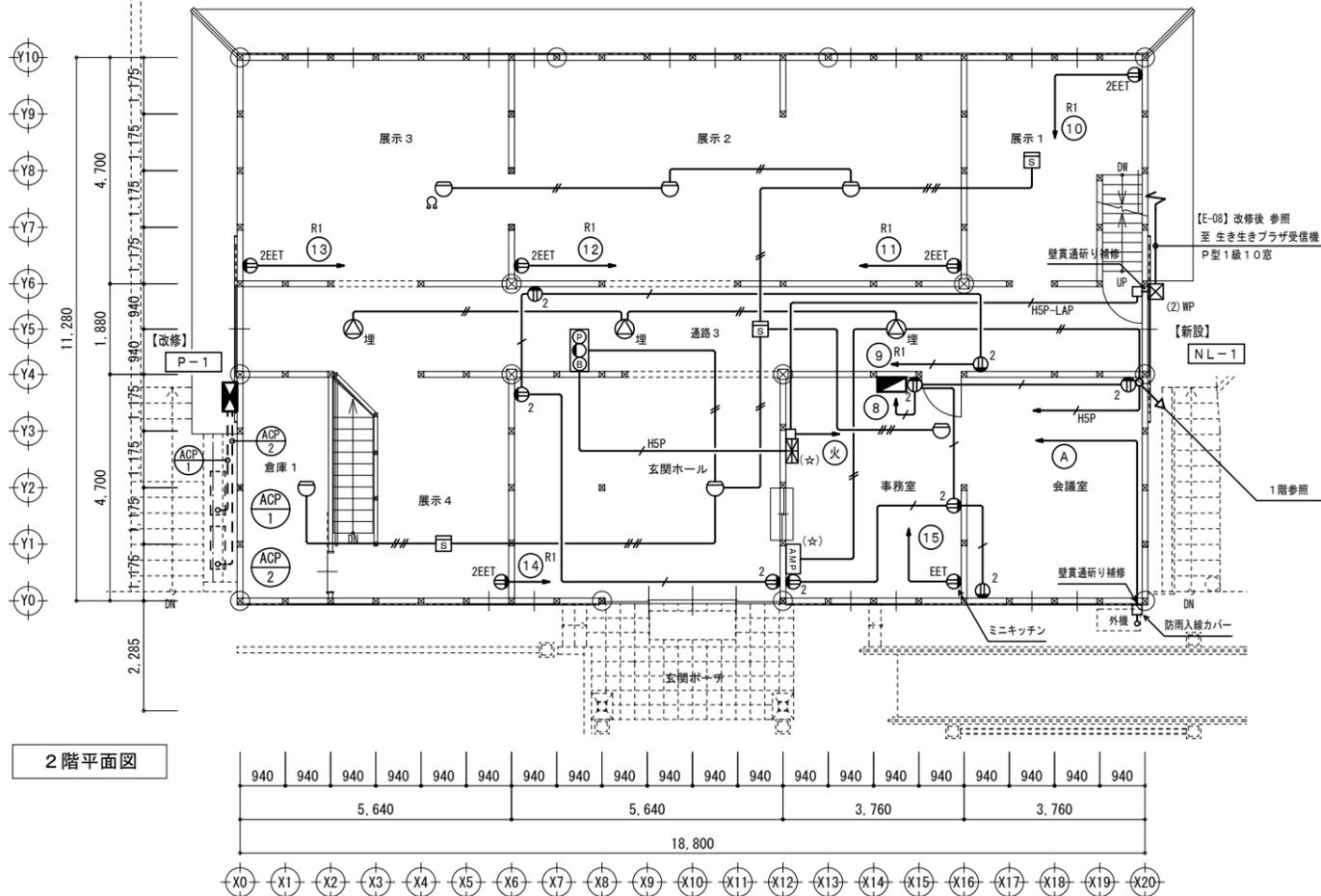
A320	直付 LEDベースライト (3,200lm以上)	B100	LEDスポットライト	C065	LED電球 スポットライト	D100	LEDシーリングライト 100型
A235	直付 LEDベースライト (2,350lm以上)	配光可変タイプ・個別調光タイプ 個別調光 (約5%~100%)・器具光束 (380lm) 3,500K・Ra92・ビーム角 (10度~30度) 消費電力: 13.3W・電圧: 100V (配線外用) アルミダイカスト (ブラックつや消し)		ハロゲン電球 6.5形相当 電球色 (調光仕様) 電圧: 100V 天井直付型 アルミダイカスト (ブラックつや消し)		LEDソケット付共 (NNU140113K) 電圧: 100V~242V 天井直付専用 アルミダイカスト (ブラックつや消し)	
A155	直付 LEDベースライト (1,550lm以上)						
A320: LSS9-3200LM (公) A235: LSS9-2350LM (公) A155: LSS9-1550LM-2 (公)		NNN2023B-LE1 (P)		NNN01522B (P)		NNN54520B (P)	
E100	LEDダウンライト 100型	F060	LEDダウンライト 60型	G650	LED建築化照明 650L	H20C	避難口誘導灯 (LED) C級片面
埋込穴 φ75 光源遮光角 15度 3,000K・Ra85・電圧: 100V~242V 枠: アルミダイカスト (ブラックつや消し)		埋込穴 φ100 軒下用 (防雨型) 3,000K・Ra83・電圧: 100V 枠: アルミダイカスト (オフブラック)		防湿・防滴型・位相制御式 (2線式) 2,700K・Ra83・電圧: 100V グレアレス配光・送り端子付		電池内蔵・天井直付	
XNDN1009BL-LE9 (P)		NDW06303B-LE1 (P)		G650: LGB50417-LB1 (P)		SH1-FSF20-C (公)	
I10C	通路誘導灯 (LED) C級	J112	LED非常用照明 埋込型	K112	LED非常用照明 直付型		
電池内蔵・床埋込型 (防雨型)		φ100低天井 (~3m) 30分間 LED内蔵・非常時点灯/常時点灯 電圧: 100~242V 電池内蔵 非常灯認定番号: D-LALH-41 (パナソニック) カバー指定色塗装 (黒色)		φ100低天井 (~3m) 30分間 LED内蔵・非常時点灯/常時点灯 電圧: 100~242V 電池内蔵 非常灯認定番号: D-LALH-40 (パナソニック) カバー指定色塗装 (黒色)			
FW10373-LE1+FK10096 (P)		K1-LRS11-2 (公) ※		K1-LRS11-2 (公) ※			

(注記1) 上図は参考とし、同等又はそれに準ずるものとする。
(注記2) 参考品番末尾の路は (公) : 公共品番 (P) : パナソニックである。
(注記3) (公) ※ : カバーを特注で塗装する為、塗装前の参考品番である。

【改修】 P-1

改修内容
・ ACP-1 送りブレーカー取替え
MCCB 3P 50AF30AT ⇒ MCCB 3P 50AF50AT
・ 負荷名称変更





JK 1	EM-CE3. 5'-4C (1CE) (E31)	ACP 2	塗装共 EM-CE5. 5'-4C (1CE) (C31)
JK 1	EM-CE8'-3C E3. 5' (C31)	ACP 3	塗装共 EM-CE3. 5'-4C (1CE) (C31)

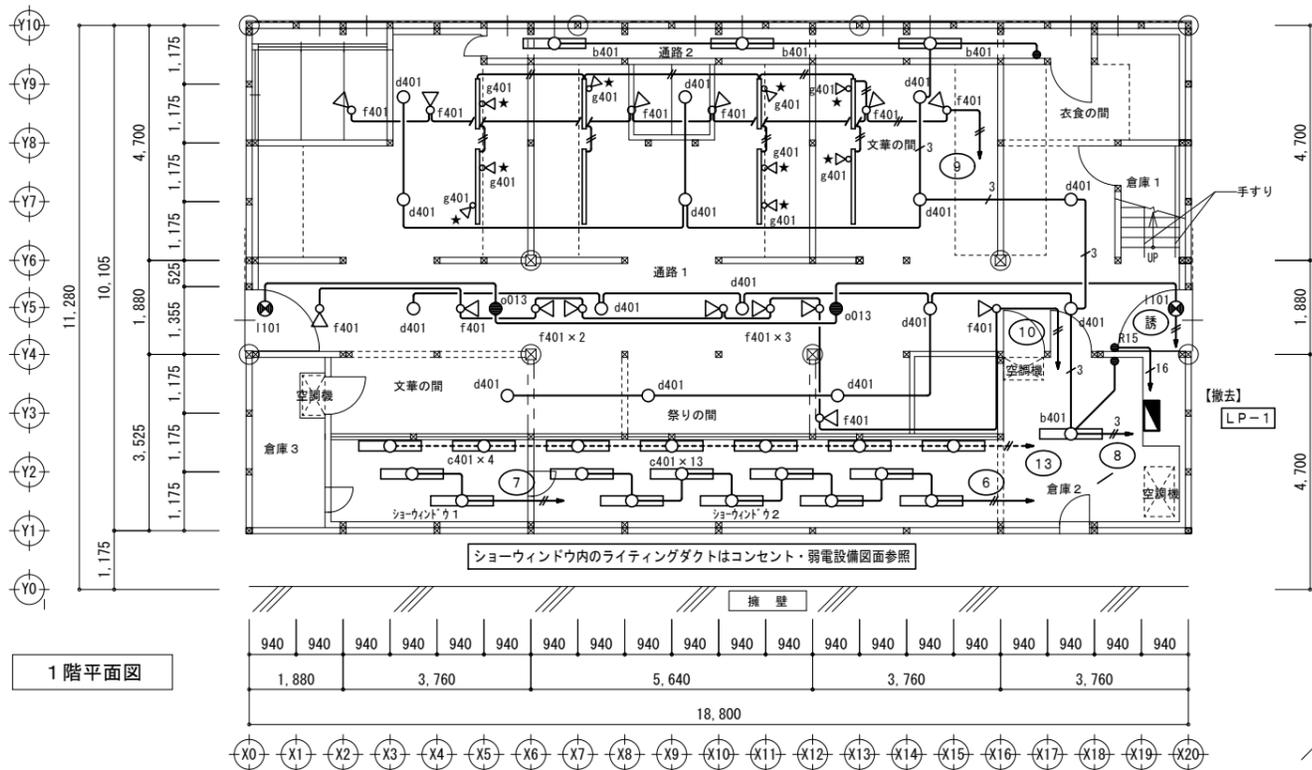
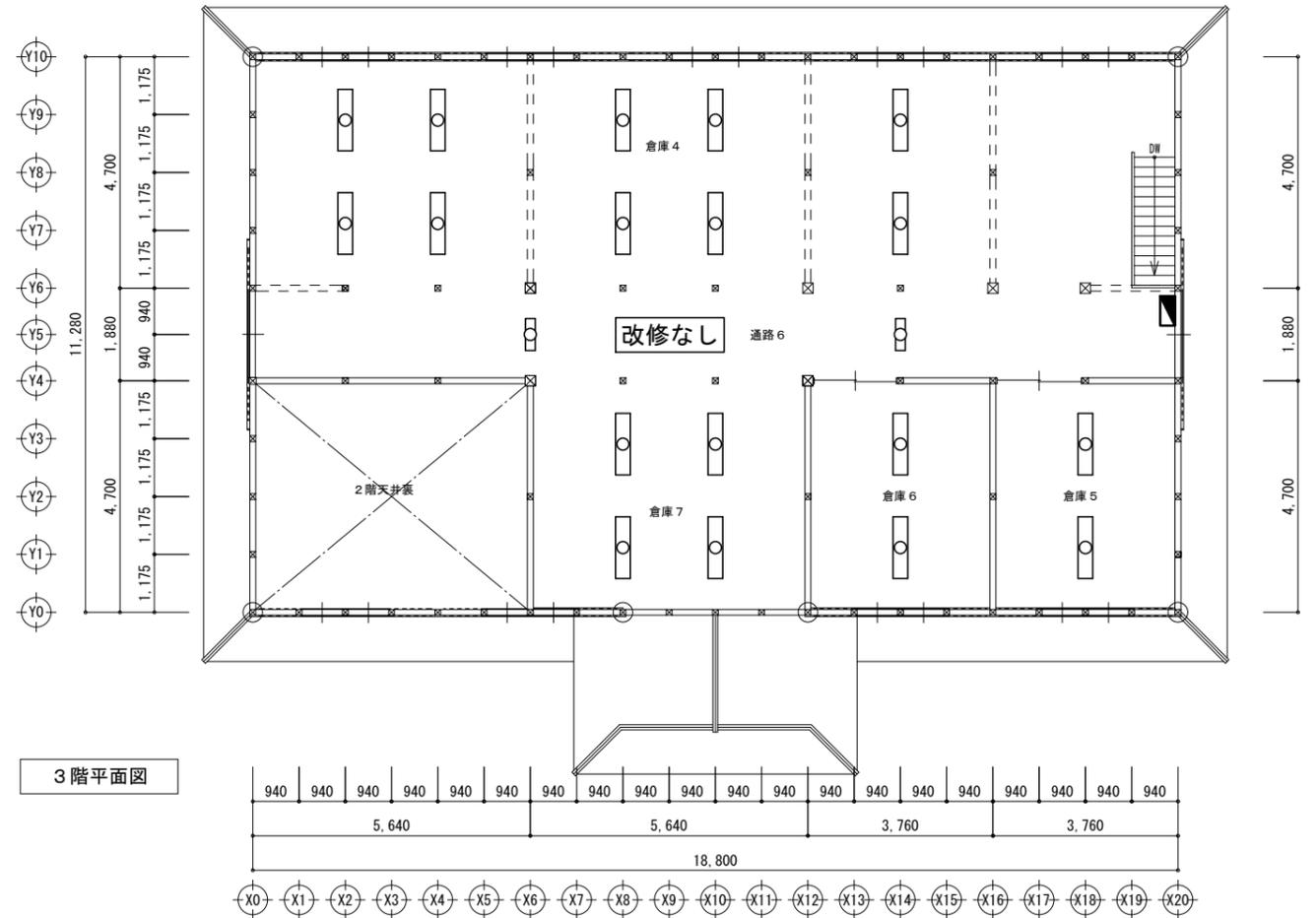
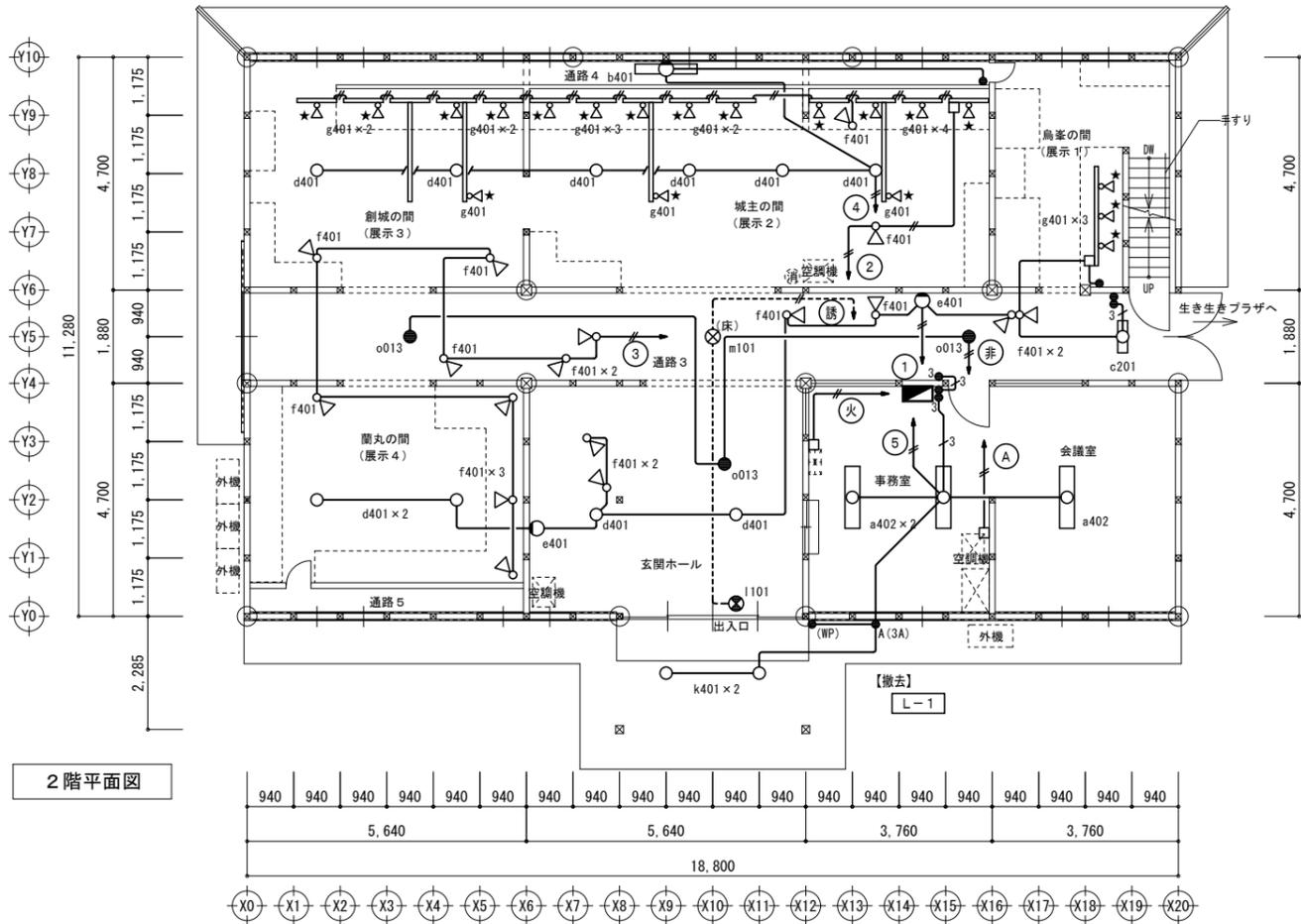
EM-HP1. 2-5P (PF22)	EM-AE1. 2-2C (PF16)
---------------------	---------------------

記号	施工内容
(☆)	既設器具の再取付 (再使用) を表す

凡例	名称
Ⓜ2	壁付 コンセント 2P15A×2
ⓂEET	壁付 コンセント 2P15A×1E+ET
AMP	卓上アンプ (既設流用)
Ⓜ	天井露出型スピーカー
Ⓜ埋	天井埋込型スピーカー
Ⓜ	受電機 P型2級5窓
Ⓜ	差動式スポット型感知器 2種 露出型
Ⓜ	定温式スポット型感知器 特種 露出型
Ⓜ	光電式スポット型感知器 2種 露出型
Ⓜ	総合盤 (受電機P型2級) (表示灯) (電鈴)

注1. 特記なき配管配線は下記による。但し、二重天井内はケーブルコロガシとする。
尚、壁立上り貫通部はPF管にて保護のこと。
【コンセント設備】
EM-EEF2. 0-2C (PF22)
EM-EEF2. 0-3C (1CE) (PF22)
【放送設備】
EM-AE1. 2-2C (PF16)
EM-AE1. 2-4C (PF16)
EM-HP1. 2-5P (PF22)
EM-HP1. 2-5P-LAP (PF28)
【配線施工】
天井内隠ぺい
露出





凡例	名	称
□	天井直付 照明器具	FL 4.0W×2
□	壁(梁)直付 照明器具	FL 2.0W×1
○	シーリングライト	
△	スポットライト	
△	ライティングダクト・スポットライト	
△★	スポットライト 再使用	
⊗	避難口誘導灯	FL 2.0W×1
⊗(床)	通路誘導灯(床埋込型)	FL 2.0W×1
●	壁付スイッチ	1P 15A×1
●3	壁付スイッチ	3W 15A×1
●(WP)	壁付スイッチ	1P 15A×1 (防水)
●R15	壁付リモコンスイッチ	15回路

●R15

通路照明	南ケース照明	南ケーススポット	衣食の間	商人の間
通路スポット	南ケース照明	南ケーススポット	文華の間	予備
北照明	南ケース下照明	南ケースコンセント	農工の間	予備

注1. 図中の電気設備の撤去を行う。また、撤去図は参考とし、不要な配線は十分調査の上全て撤去とする。

注2. 特記なき配管配線は下記による。尚、配管撤去は露出部及び建築工事にて天井・壁の解体場所とし、打込み配管・建築解体以外は残置とする。

注3. 電灯及び動力の幹線ケーブルは撤去せず再使用する。

【電灯設備】

———#——— VVF2. 0-2C

———#3——— VVF2. 0-3C

———#——— VVF1. 6-2C

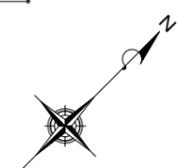
———#3——— VVF1. 6-3C

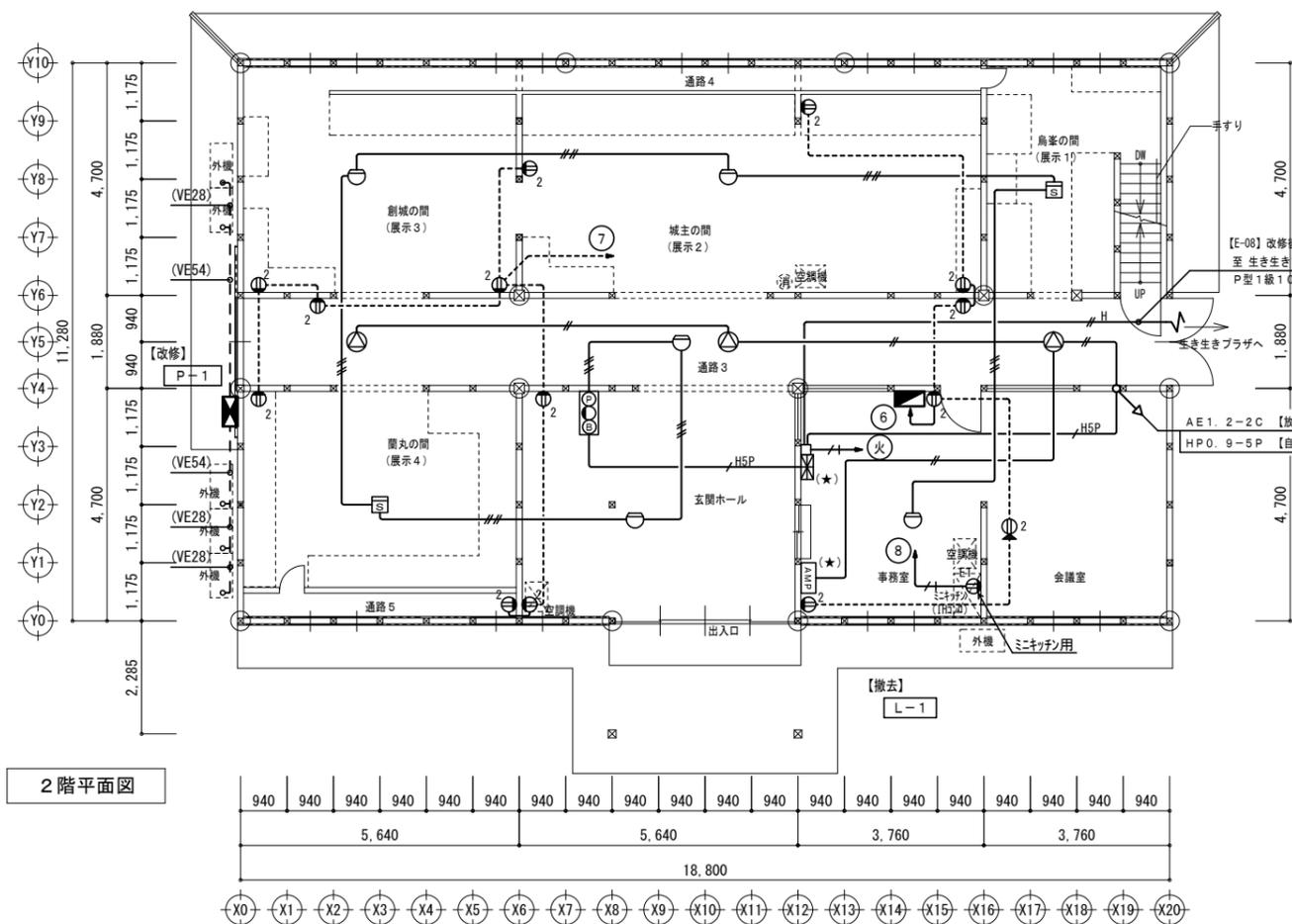
———#16——— VVF1. 6-2C×2 + 3C×4

【配線施工】

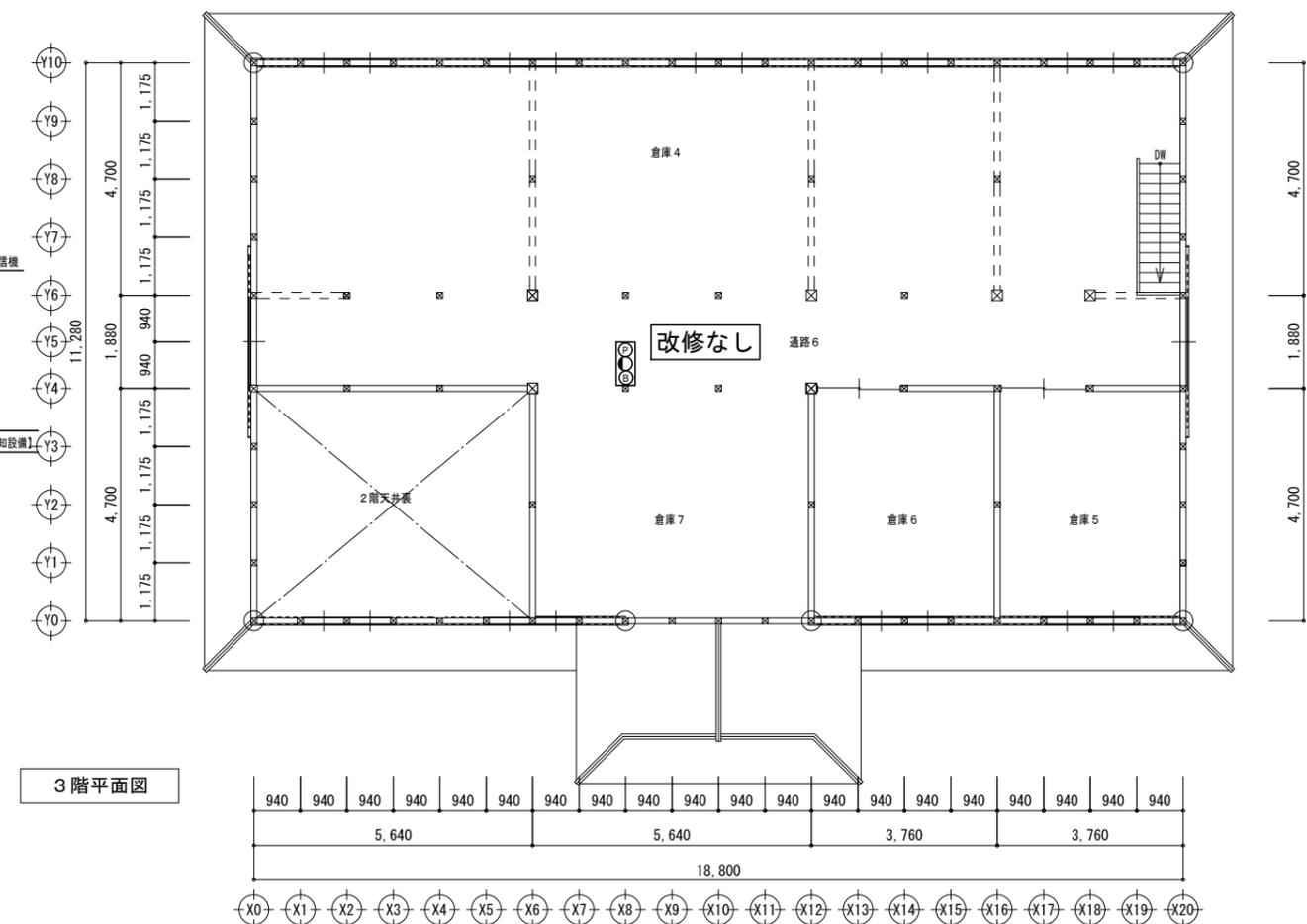
——— 天井内隠ぺい

----- 床隠ぺい

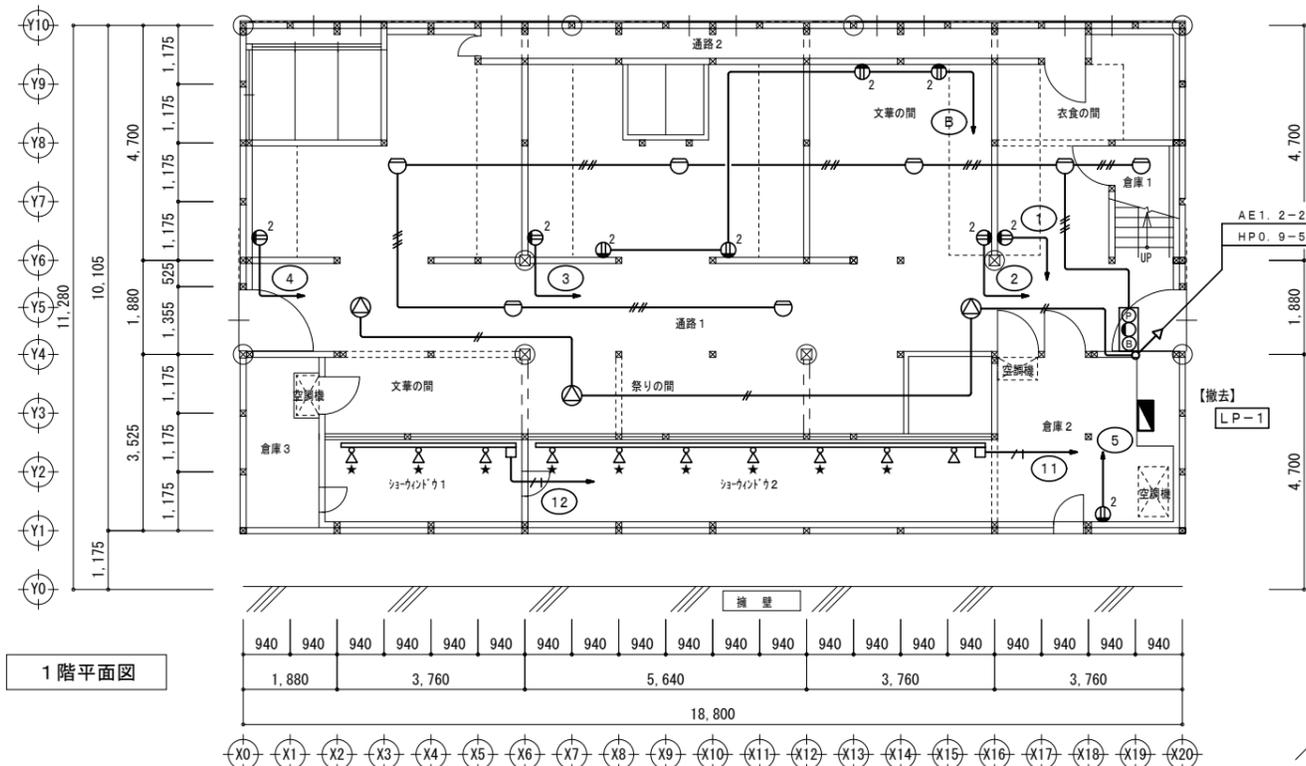




2階平面図



3階平面図

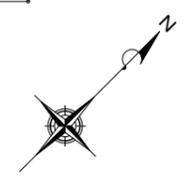


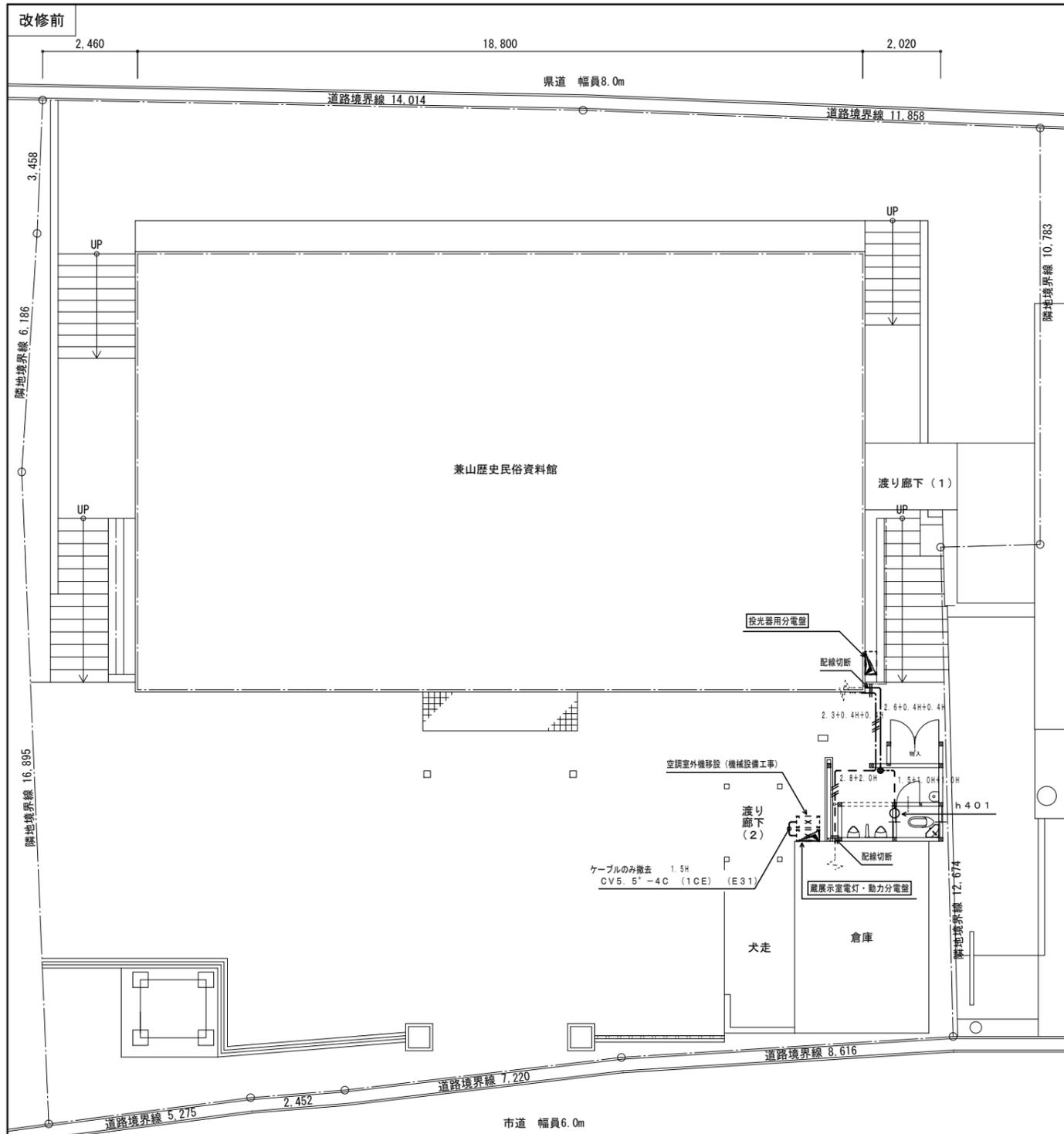
1階平面図

記号	施工内容
(★)	撤去（再使用する）を表す

凡例	名称
⊕ 2	壁付 コンセント 2P15A×2
⊕ 2	床付 コンセント 2P15A×2
⊕	ライティングダクト・スポットライト
△★	スポットライト 再使用
AMP	卓上アンプ
⊕	天井露出型スピーカー
⊕	受信機 P型2線5窓
⊕	差動式スポット型感知器 2種 露出型
⊕	光電式スポット型感知器 2種 露出型
⊕	総合盤（受信器P型2線）（表示灯）（電鈴）

- 注1. 図中の電気設備の撤去を行う。また、撤去図は参考とし、不要な配線は十分調査の上全て撤去とする。
- 注2. 特記なき配管配線は下記による。尚、配管撤去は露出部及び建築工事にて天井・壁の解体場所とし、打込み配管・建築解体以外は残置とする。
- 注3. 電灯・動力電話及びテレビの幹線（引込）ケーブルは撤去せず再使用する。
- 【電灯・コンセント設備】
- VVF2. 0-2C
 - VVF2. 0-3C (1CE)
- 【動力設備】
- CV5. 5'-3C 配管は図面参照
- 【放送設備】
- AE1. 2-2C
- 【自動火災報知設備】
- AE1. 2-4C
 - HP1. 2-2C
 - HP0. 9-5P
- 【配線施工】
- 天井内隠べい
 - 露出
 - 床隠べい

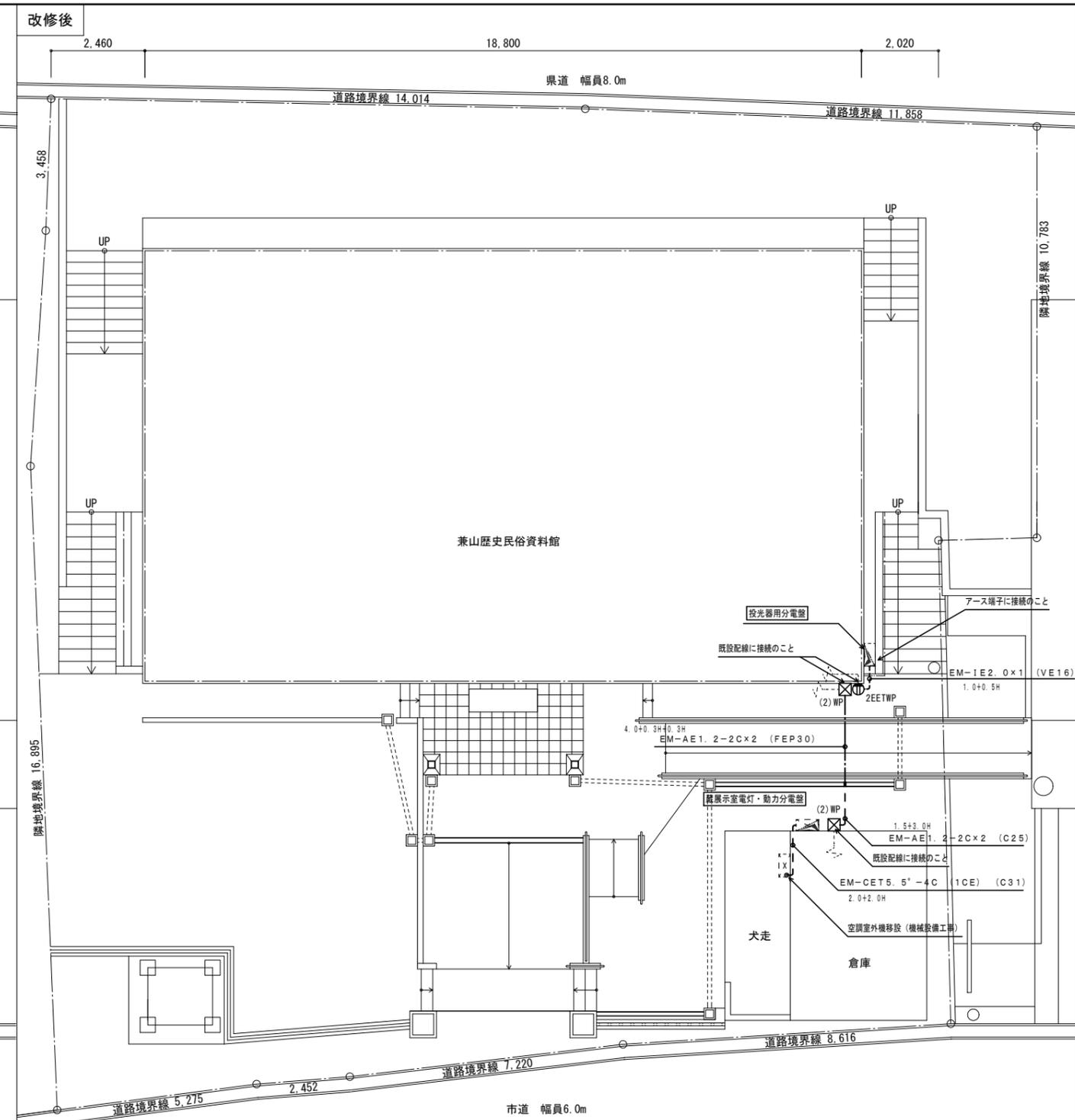




改修前 外構配置図 S=1/100

注1. 図中の電気設備の撤去を行う。また、撤去図は参考とし、不要な配線は十分調査の上全て撤去とする。
 注2. 特記なき配管配線は下記による。尚、配管撤去は露出部及び建築工事にて天井・壁の解体場所とし、打込み配管・建築解体以外は残置とする。

【電灯・コンセント設備】	VVF2. 0-2C	ケーブル露出配線
	VVF2. 0-2C	(PF22)
【弱電設備】	AE1. 2-2C×2	
	AE1. 2-2C×2	(PF22)
【共通】	---	工事(撤去)範囲外



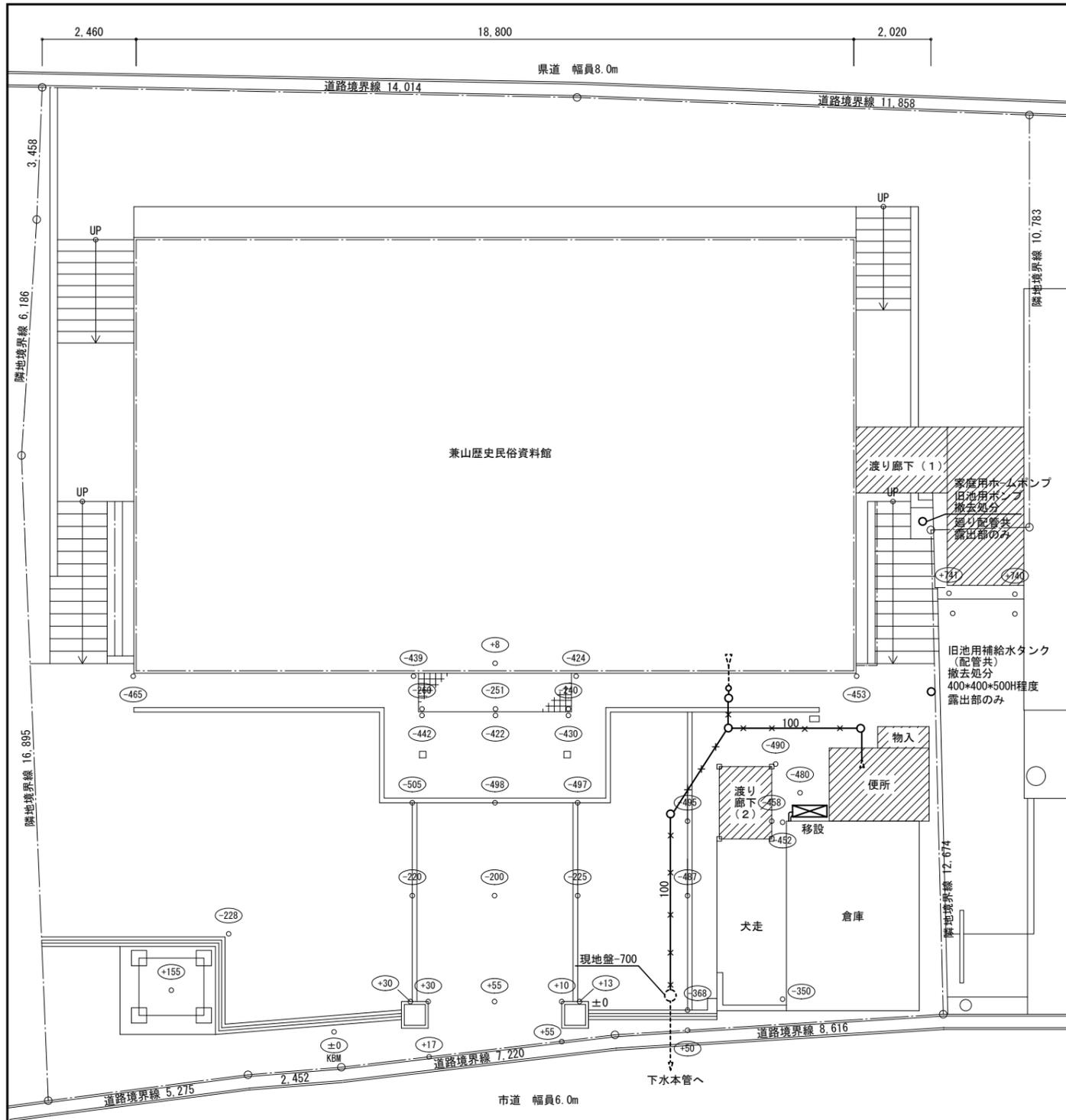
改修後 外構配置図 S=1/100

注1. 特記なき配管配線は下記による。但し、二重天井内はケーブルコロッガンとする。
 尚、壁立上り貫通部はPF管にて保護のこと。

【電灯・コンセント設備】	EM-EEF1. 6-2C	屋内	屋外
		(PF16)	
【自動火災報知設備】	EM-AE1. 2-4C	屋内	屋外
		(PF16)	
	HSP-LAP	EM-HFA-LAP 1. 2-5P	(PF28) (C31)
【共通】	---	工事範囲外	

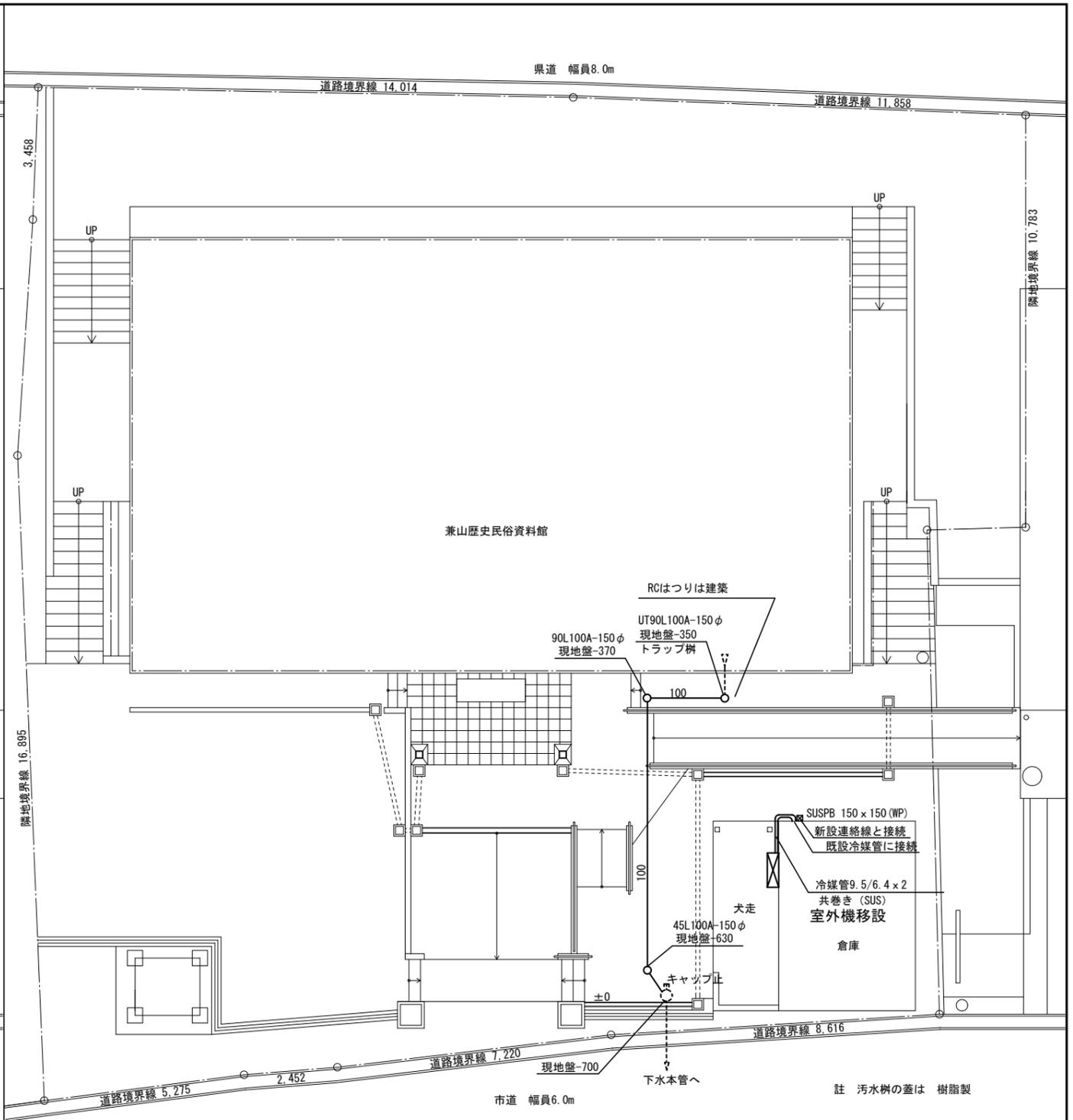
Ⅰ 工事概要		Ⅱ 工事仕様		分類	項目	特記事項																																																																																																																																																																		
<p>Ⅰ 工事概要</p> <p>1 工事場所 岐阜県可児市兼山675-1</p> <p>2 建物概要</p> <table border="1"> <tr> <th>建物名称</th> <th>構造及び階数</th> <th>延面積 (㎡)</th> <th>消法令の適用</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>兼山歴史民俗資料館</td> <td>木造 2階建</td> <td>402.03㎡</td> <td>別表第1(4)項</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>別表第1()項</td> <td></td> </tr> </table> <p>3 工事種目 (○印のついた設備工事を適用する)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">工事種目</th> <th colspan="5">工事種別</th> </tr> <tr> <th>兼山歴史民俗資料館</th> <th>解体便所</th> <th>解体渡り廊下</th> <th>屋外倉庫</th> <th>屋外</th> </tr> <tr> <td>空調設備</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>換気設備</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>衛生器具設備</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋内給水設備</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋内給水設備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋内排水設備</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋外排水設備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>消火設備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>給湯設備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ガス設備</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>し尿浄化槽設備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>さく井設備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>厨房機器設備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>4 設備概要 (○印をつけたものが該当項目となる)</p> <table border="1"> <tr> <th>方式及び種類</th> <th colspan="2">方式</th> </tr> <tr> <td>○ 空調方式</td> <td>空調和</td> <td>○ ダクト方式 ○ パッケージ方式</td> </tr> <tr> <td>・ 暖房方式</td> <td>温風暖房</td> <td>・ ファンコイルダクト方式</td> </tr> <tr> <td>・ 自動制御方式</td> <td>・ 電気式</td> <td>・ 空気式</td> </tr> <tr> <td>○ 給水方式</td> <td>○ 水道直結方式</td> <td>・ 高置水槽方式</td> </tr> <tr> <td>○ 排水方式</td> <td>建物内汚水、雑排水 (○ 分流</td> <td>・ 合流)</td> </tr> <tr> <td>・ 消火設備の種類</td> <td>・ 屋内消火栓設備</td> <td>・ スプリンクラー設備</td> </tr> <tr> <td>○ ガスの種類</td> <td>・ 都市ガス</td> <td>○ 液化石油ガス</td> </tr> </table>		建物名称	構造及び階数	延面積 (㎡)	消法令の適用	備考	兼山歴史民俗資料館	木造 2階建	402.03㎡	別表第1(4)項					別表第1()項		工事種目	工事種別					兼山歴史民俗資料館	解体便所	解体渡り廊下	屋外倉庫	屋外	空調設備	○		○	○		換気設備	○					衛生器具設備	○	○				屋内給水設備	○	○				屋内給水設備						屋内排水設備	○	○				屋外排水設備					○	消火設備						給湯設備						ガス設備			○			し尿浄化槽設備						さく井設備						厨房機器設備						方式及び種類	方式		○ 空調方式	空調和	○ ダクト方式 ○ パッケージ方式	・ 暖房方式	温風暖房	・ ファンコイルダクト方式	・ 自動制御方式	・ 電気式	・ 空気式	○ 給水方式	○ 水道直結方式	・ 高置水槽方式	○ 排水方式	建物内汚水、雑排水 (○ 分流	・ 合流)	・ 消火設備の種類	・ 屋内消火栓設備	・ スプリンクラー設備	○ ガスの種類	・ 都市ガス	○ 液化石油ガス	<p>Ⅱ 工事仕様</p> <p>1 共通仕様</p> <p>図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編 最新版)、公共建築設備工事標準図(機械設備工事編 最新版)及び監督職員の指示による。 ○ 可児市建設工事共通仕様書(可児市HPにて閲覧可)</p> <p>2 特記仕様</p> <p>項目は、番号に○印のついたものを適用する。特記事項は、無印あるいは○印のついたものを適用する。</p>		<p>分類</p> <p>一般共通事項</p> <p>空気調和設備</p> <p>換気設備</p> <p>衛生器具設備</p>	<p>項目</p> <p>23 防振継手</p> <p>24 防食処置</p> <p>25 保温工事</p> <p>26 天井仕上げ区分</p> <p>27 地中配管埋設深さ</p> <p>28 水質検査(11項目)</p> <p>29 引渡し後の検査</p> <p>1 設計条件(調整目標値)</p> <p>2 パッケージ形空調和機</p> <p>3 煤煙濃度計</p> <p>4 煤じん測定口</p> <p>5 膨張タンク</p> <p>6 遠隔油量指示計</p> <p>7 ダクト</p> <p>8 チャンバー等</p> <p>9 吹出口、吸込口</p> <p>10 保温</p> <p>11 ビストンダンパー</p> <p>12 瞬間流量計</p> <p>13 温度計</p> <p>14 圧力計</p> <p>15 空調機器の電動機出力</p> <p>1 ダクト</p> <p>2 吹出口、吸込口</p> <p>3 ビストンダンパー</p> <p>1 大便器洗浄弁</p> <p>2 ずみ付ロータンク</p> <p>3 小便器洗浄管</p> <p>4 掃除流し</p> <p>5 水栓</p> <p>6 耐火カバー</p>	<p>特記事項</p> <p>合成ゴム製(円筒形使用の場合の全長は、下記による) 呼称 80A 以下は、300mm 以上とする。 呼称100A 以上 125A 以下は、400mm 以上とする。 呼称150A 以上 250A 以下は、500mm 以上とする。 土中埋設の鋼管類(油配管を除く)の防食材は、 (・ 防食用プライマー ・ ペトロラタム系 ・ ブチルゴム系)とする。</p> <p>a 保温材 GW又は、RW保温筒 室内に△印を付した部屋は、天井材を貼らない部屋を示す。 車輛通路では、管の上端より 600mm 以上とする。</p> <p>受水槽室、給食室、上水道引込工事、給水本管(40A以上)工事では実施する。 引渡し後の検査時期は下記により、請負者は検査に立会うものとする。 ○引渡し 1年後 ・ 引渡し 2年後</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">屋外</th> <th colspan="2">屋内</th> </tr> <tr> <th>温度(DB)</th> <th>湿度(RH)</th> <th>温度(DB)</th> <th>湿度(RH)</th> </tr> <tr> <td>夏期</td> <td>36.6℃</td> <td>51.8%</td> <td>26.0℃</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>冬期</td> <td>0.2℃</td> <td>56.5%</td> <td>22.0℃</td> <td>40.0%</td> </tr> </table> <p>a 電気ヒーター (KW 以上)を組込む場合は、送風機に残留運転回路を設ける。 b 冷暖房の能力は、JIS B 8616による表示とする。 c 冷媒管の保温は、国土交通省仕様による。ただし屋外露出部分は、(○ ステンレス鋼板 ・ 亜鉛鍍金鋼板)屋内露出部分は、(・ ステンレス鋼板 ・ 着色亜鉛鍍金鋼板)によりラッキングを行う。 d 圧縮機用電動機の合計出力が KW未満は、すべて製造者の標準仕様による。 ・ 設ける ・ 設けない ・ 設けない ・ 設ける (口径 80A 以上) ・ ステンレス鋼板製 (SUS-444) ・ 鋼板製 指示計は、屋内と屋外に設ける。 矩形ダクトは、(・ アンゲ'フランジ'工法 ○ 共板'フランジ'工法 ・ スライド'フランジ'工法)による低圧ダクトとする。但し、共板'フランジ'工法、スライド'フランジ'工法の使用範囲は'外長辺1,500mm以下とする。 a 空調和機の吸込側及び吐出側に接続するチャンバーの板厚は、1.2mm以上とする。 図示されたチャンバーには、寸法 (・ 約 400x500H ・ 約 500x600H)の点検口を設ける。 内貼りを施すチャンバー等の表示寸法は、外法寸法とする。 b 隠蔽ダクトのフランジ部(補強を含む)はフランジ高さ10mmまで保温施工する。 アネモ形吹出口接続用ボックスは、吹出口のネック径 200mm 以下は、約400×400×250H、200mm を超えるものは、約500×500×300Hとする。 ○ アルミニウム製 ・ 鋼製 a 外気取入ダクトのうち暖房室、浴室及び厨房内を通るダクトは、保温を行う。 復帰操作 (・ 遠隔式 ・ 手元式) ・ 設ける (検出部と指示部一体) ・ 設けない 取付箇所は、次による。 ユニット形空調和機 ・ 冷水ポンプ ・ 冷却水ポンプ ヘッダーの各送り管 ヘッダーの各返り管 指示部を着脱可能なタイプを設ける。(取付箇所は、図示による) 瞬間流量計を設けない場合は、ビトー管式流量計用タッピングのみを設ける。 取付箇所は前記による。 温水ボイラー及びヘッダー(往、還)の温度計は、入口側のみを取付ける。 温度計は円形又はL形とし円形温度計の場合は、パイメタル式とし目盛板外径は、100mmとする。 設ける (・ 標準仕様書による ・ 図示による)</p> <p>空調機器の圧縮機、ファン用電動機出力は、空調機基本仕様(空調能力、送風量等)を満足すれば設計仕様と異なっても可能とする。</p> <p>空気調和設備の7項による。 空気調和設備の9項による。 空気調和設備の11項による。</p> <p>節水機構を有する洗浄弁を(・ 使用する ・ 使用しない) 防露タイプのロータンクを(・ 使用する ・ 使用しない) ・ 埋込配管とする。 ・ 露出配管とする。 排水口は、(・ 目皿 ・ 鎖付き共栓)とする。 水栓(器具付風水栓を含む)は、 (・ 節水コマ ・ 吊りコマ ・ 普通コマ)とする。 防火区画を貫通する大便器は耐火カバーを取付ける。</p>		屋外		屋内		温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	夏期	36.6℃	51.8%	26.0℃	50.0%	冬期	0.2℃	56.5%	22.0℃	40.0%															
建物名称	構造及び階数	延面積 (㎡)	消法令の適用	備考																																																																																																																																																																				
兼山歴史民俗資料館	木造 2階建	402.03㎡	別表第1(4)項																																																																																																																																																																					
			別表第1()項																																																																																																																																																																					
			別表第1()項																																																																																																																																																																					
			別表第1()項																																																																																																																																																																					
			別表第1()項																																																																																																																																																																					
工事種目	工事種別																																																																																																																																																																							
	兼山歴史民俗資料館	解体便所	解体渡り廊下	屋外倉庫	屋外																																																																																																																																																																			
空調設備	○		○	○																																																																																																																																																																				
換気設備	○																																																																																																																																																																							
衛生器具設備	○	○																																																																																																																																																																						
屋内給水設備	○	○																																																																																																																																																																						
屋内給水設備																																																																																																																																																																								
屋内排水設備	○	○																																																																																																																																																																						
屋外排水設備					○																																																																																																																																																																			
消火設備																																																																																																																																																																								
給湯設備																																																																																																																																																																								
ガス設備			○																																																																																																																																																																					
し尿浄化槽設備																																																																																																																																																																								
さく井設備																																																																																																																																																																								
厨房機器設備																																																																																																																																																																								
方式及び種類	方式																																																																																																																																																																							
○ 空調方式	空調和	○ ダクト方式 ○ パッケージ方式																																																																																																																																																																						
・ 暖房方式	温風暖房	・ ファンコイルダクト方式																																																																																																																																																																						
・ 自動制御方式	・ 電気式	・ 空気式																																																																																																																																																																						
○ 給水方式	○ 水道直結方式	・ 高置水槽方式																																																																																																																																																																						
○ 排水方式	建物内汚水、雑排水 (○ 分流	・ 合流)																																																																																																																																																																						
・ 消火設備の種類	・ 屋内消火栓設備	・ スプリンクラー設備																																																																																																																																																																						
○ ガスの種類	・ 都市ガス	○ 液化石油ガス																																																																																																																																																																						
	屋外		屋内																																																																																																																																																																					
	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)																																																																																																																																																																				
夏期	36.6℃	51.8%	26.0℃	50.0%																																																																																																																																																																				
冬期	0.2℃	56.5%	22.0℃	40.0%																																																																																																																																																																				
		<p>16 スリーブ</p> <p>17 防振吊り金物及び防振支持金物</p> <p>18 建物導入部の施工</p> <p>19 電線及び電線管等</p> <p>20 地中埋設機</p> <p>21 弁の耐圧</p> <p>22 鑄鉄製弁類</p>		<p>1 主任技術者等</p> <p>2 技能士の適用</p> <p>3 工事中電力・水・その他</p> <p>4 工事中仮設物</p> <p>5 残土処分</p> <p>6 埋め戻し土</p> <p>7 使用砕石</p> <p>8 アスファルト舗装</p> <p>9 コンクリートの調合</p> <p>10 発生材の処理</p> <p>11 完成図書・その他</p> <p>12 完成写真及び工程写真</p> <p>13 測定表</p> <p>14 容量等の表示</p> <p>15 耐震施工</p> <p>16 スリーブ</p> <p>17 防振吊り金物及び防振支持金物</p> <p>18 建物導入部の施工</p> <p>19 電線及び電線管等</p> <p>20 地中埋設機</p> <p>21 弁の耐圧</p> <p>22 鑄鉄製弁類</p>	<p>・ 適用する (・ 1級管工事施工管理技師 ・ 2級管工事施工管理技師)</p> <p>○ 適用しない</p> <p>○ 配管(建築配管作業) ・ 熱熱線施工</p> <p>・ 冷凍空調和機器施工 ○ 建築板金(ダクト板金作業)</p> <p>本工事に必要な工事中電力、水及び諸手続き等の費用は、すべて請負者の負担とする。</p> <p>構内につくることが ・ できる ・ できない</p> <p>○ 構外搬出適切処理 ・ 構内指示の場所に敷きならし</p> <p>・ 標準仕様書による ○ 根切り土の中の良質土 ○ 山砂の類</p> <p>埋設配管の敷き砕石、樹類の下部砕石は、再生砕石を使用する。 透水性舗装を除いて、アスファルト混合剤は再生アスファルトとする。 大型重量機器の基礎等に用いるコンクリート強度は、温度補正と割増し3N/mm2を適用する。 監督職員の指示により適切に処理する。 建築工事仕様書による。</p> <p>建築工事仕様書による。</p> <p>温度、湿度、風量などの測定表を提出する。ただし測定箇所などは監督職員の指示による。 機器類の能力、容量等は原則として表示された数値以上とする。 電動機出力等は原則として表示された数値以下とする。ただし電動機で図面に表示された数値未満のものを使用する場合は、10%以上余裕を持ったものとする。 設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所の「建築設備耐震設計施工指針」(2014年版)によるほか下記による計算書を監督職員に提出する。 a 適用範囲 100kg を超える機械設備機器 b 地震力 設計用水平地震力は、工事監理指針耐震施工に準拠するものとする。 施設区分は下記とする。なお、耐震施工上の地域係数は1とする。 施設区分 ・ 特定施設 ・ 一般の施設 c 重要度の高い設備機器 ・ 水槽類 ・ 消火機器 ・ 給水機器 なお、水槽は特記無い限り重要設備機器とする。 d その他 振れ止め施工については、上記以外についても手で触れて揺れない程度に全ての配管、機器について実施する。 水室を要するスリーブは、鍍付鋼管スリーブとするも鋼管にリングスリーブ2本でも可 次の配管には防振吊り金物(・ シングル ・ ダブル)又は、防振支持金物を設ける。 ただし、屋外及び地下ビット内等を除く。 口径 65A 以上の配管 (・ 冷水水 ・ 冷却水 ・ 揚水) 次に示す配管 建物導入配管(給水、消火、ガス)は、変位吸収配管による。 a 合成樹脂製可とう管(PF管)及び付属品はサイズ 22mm 迄のものを使用する。 なお、PF管は、波付き1重管とする。 位置ボックス類は、原則としてビニール製とするも、床位置ボックスは鋼製とし接地を施すものとする。又金属製ボックス類は、全て絶縁ワックスを塗布する。 b スラブ配管 スラブ配管はサイズ 25mm 以下に限り認める。 c 電線本数・管路など 分電盤、制御盤、端子盤などの二次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管路などは、監督職員の承諾を受けて図面表示と多少相違しても差し支えない。 d 呼び線 長さ 1m 以上の入線しない電線管には、1.2 mm 以上のビニル被覆鉄線を挿入する。 e 最上階の埋込配管 最上階の天井スラブへの埋込配管は、原則として避けるものとする。 表面径 100mm のアルミ製 設置範囲 (・ 標準仕様書による ・ 図示部分) a 特記のない弁は、JIS 10Kとする。 b 油系に使用する弁は、JIS 10K(マレブル弁等)とする。 c 水道直結給水配管系に使用する弁は、JIS 10Kとする。 ライニング鋼管の配管に取付ける弁は、ライニング弁を、 ・ 使用する ・ 使用しない</p>																																																																																																																																																																			
		<p>CHECK DESIGN DRAW</p> <p>SCALE NO SCALE</p> <p>DATE '17.03</p>		<p>兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事</p> <p>機械設備工事特記仕様書(1)</p>		<p>SHEET NO.</p> <p>M-01</p>																																																																																																																																																																		

分類	項目	特記事項	分類	特記事項	分類	特記事項										
屋内給水設備	1 タンク	据付架台は、製造者標準仕様の溶融亜鉛めっきとする。 水道事業者の認定品とする。 ポンプ基礎は、（・標準基礎 ・防振基礎）とする。	ステンレス風道	<p>1 適用 ステンレス鋼板製風道に関する材料及び施工法は次による。</p> <p>2 風道用材料</p> <p>(1) ステンレス鋼板 JIS G 4305（冷間圧延ステンレス鋼板）及びJIS G 4307（冷間圧延ステンレス鋼帯）によるSUS430で、JISマーク表示品とする。尚、表面仕上げはNo 2Bとする。</p> <p>(2) 鋼材 ア 山形鋼 JIS G4317（冷間圧延ステンレス鋼等辺山形鋼）によるSUS304とする。 イ 棒鋼 JIS G4303（ステンレス棒鋼）によるSUS304とする。 ウ リベット JIS G1213（冷間成形リベット）に準ずるステンレス（SUS304）製とする。 エ ボルト及びナット JIS G1180（六角ボルト）及びJIS B1181（六角ナット）に準ずるステンレス（SUS304）製とする。 オ フランジ用パッキン 石綿系以外のもので自己消燃性及び気密性を有するものとする。尚、厚さは3mm以上とする。 カ 溶接棒 JIS Z3221（ステンレス鋼被覆アーク溶接棒）、JIS Z3321（溶接用ステンレス鋼棒及びワイヤー）による。</p> <p>(3) 風道付属品 次による他は亜鉛鉄板製風道の風道付属品当該事項による。 ア 吹出口及び吸込口 (7) ユニバーサル形吹出口の取付枠、可動羽根及び背部のシャッターはステンレス鋼板製とし取付枠の板厚は0.8mm以上とする。 (4) 吸込口の取付枠、シャッター及びスリットはステンレス鋼板製とする。尚、シャッターの板厚は0.8mm以上とする。</p> <p>イ 風量調整ダンパー ケーシング及び可動羽根は板厚1.0mm以上のステンレス鋼板製、ダンパー軸はステンレス鋼棒製軸受けは青銅、黄銅、またはステンレス鋼製、開閉表示器及び調整ハンドルはステンレス鋼製及びステンレス鋼棒製とする。</p> <p>ウ 排気フード (7) ステンレス鋼板製（SUS430、表面仕上げNo. 2B）とし板厚は1.0mm以上とする。 なお、板の継目は溶接とし、必要に応じ、補強材を入れる。 (4) フードの下端には50mm以上の下がり部を設け、集気部分の傾斜角度は水平面に対し、10°以上とする。 (5) フードの内側周囲には油脂受け溝を設け、10φ～20φの黄銅製コックを取付ける。 (6) グリスフィルターはステンレス製パッフル形とし、使用数と同数の予備品を納入する。</p> <p>エ 風量測定口 アルミニウム合金または亜鉛合金製とする。</p> <p>3 風道の製作及び取付 (1) 次による他は、亜鉛鉄板製風道の一般事項による。 風道製作の溶接はアーク（TIG、MIG及び被覆アーク）または抵抗溶接とし、溶接後はスパッタースケール等をワイヤーブラシ又はグラインダーで十分除去する。</p> <p>ア 矩形風道 (7) 板の継目 ① 風道の角の継目は2カ所以上とし、ピツパグは、ボタンパンチスナップは、スポットまたはアーク溶接とする。 ② 流れに直角方向の継目は、流れ方向に内部甲は、継ぎまたはアーク溶接とする。 継目は同一面において900mm以上、側面の継ぎ目は300mm以上離す。 ③ 流れ方向の継目は、標準の板取りできないものに限り内部甲は、継ぎまたはアーク溶接とする。</p> <p>(4) 標準の板厚 最大風速が15m/sec以下の風道板厚は表-1による。 尚、両端寸法が異なる風道は、その最大寸法による板厚とする。</p> <p>表-1 風道の板厚 単位 (mm)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>板の標準厚さ</th> <th>風道の長辺</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.5</td> <td>450 以下</td> </tr> <tr> <td>0.6</td> <td>450 を超え 750 以下</td> </tr> <tr> <td>0.8</td> <td>750 を超え 1,500 以下</td> </tr> <tr> <td>1.0</td> <td>1,500 を超えるもの</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) 風道の接続 ① 接続は表-2による接合用フランジを用いて行う。フランジの継ぎ箇所は四隅とし、フランジ接合面の溶接部はグラインダーなどで平滑に仕上げた後、必要な穴明けを行う。 ② フランジと風道との取付はリベットを原則とする。ただし、板厚1.0mm以上の風道においてはアーク溶接（最大溶接間隔100mm以下）でも良い。 ③ フランジ接合部はフランジ幅と同一のテープを使用してボルトで気密に締付ける。</p>	板の標準厚さ	風道の長辺	0.5	450 以下	0.6	450 を超え 750 以下	0.8	750 を超え 1,500 以下	1.0	1,500 を超えるもの	ステンレス	表-2 接合用フランジ 単位 (mm)
	板の標準厚さ				風道の長辺											
	0.5				450 以下											
	0.6	450 を超え 750 以下														
	0.8	750 を超え 1,500 以下														
1.0	1,500 を超えるもの															
2 量水器	・要（・本工事 ・別途工事） ○ 不要 ・借用 ・本工事（水道事業者の認定品） ・水道事業者の規格品 ・標準図によるMC形 ・設ける	表-3 風道の横方向の補強 単位 (mm)														
3 機器基礎		表-4 風道の縦方向の補強 単位 (mm)														
1 ステンレス流し	流し台（・本工事 ・別途工事） トラップ（・本工事 ・別途工事） 満水試験は、満水試験継手又はサニテスターにて行う。 煙試験 ○ 行わない ・行う 排水鉛管の支持金具は、ゴム等にて保護して支持する。 排水用鉛管を ・使用する ○ 使用しない ステンレス製流しの床上部分の配管は、V P管を使用してもよい。	表-5 風道のつり金物及び支持金物 単位 (mm)														
② 試験		表-6 配管圧力試験														
3 排水鉛管の支持	・要（・本工事 ・別途工事） ・不要	給湯設備														
④ 衛生器具の接続		ガス設備														
5 その他	① ガス配管支持 ② ガスメーター 3 ガスポンペ 4 耐震ガス遮断器 5 ガス漏れ警報器 ⑥ その他	し尿浄化槽設備														
1 放流納付金		試験														
1 消火栓弁の耐圧	・1Mpa ・1.6Mpa ・易操作性1号屋内消火栓 ・1号屋内消火栓 ・2号屋内消火栓 ・消火器収納ボックス付易操作性1号屋内消火栓 ・消火器収納ボックス付1号屋内消火栓 ・消火器収納ボックス付2号屋内消火栓箱内に別途機器（発信機及びランプ等）接続端子取付用の木板を設ける。	配管試験	圧力													
2 屋内消火栓箱				表-7 試験圧力												
1 配管の接続法	一般配管用ステンレス鋼管の接続は、原則メカニカルジョイントとする。	兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事	機械設備工事特記仕様書（2）													
1 処理方法	合併処理 ・触れっ気方式 ・長時間ばっ気方式 ・回転板接触方式			SHEET NO.												
2 処理能力	処理対象人員 人 処理水量 m ³ /日	M-02														
3 形式	・現場施工形 ・ユニット形															
4 放流水質	BOD mg/Lit 以下、COD mg/Lit 以下、SS mg/Lit 以下															
5 主要部構造	・FRP製 ・コンクリート製															
6 マンホールふた	製造者標準品 ・MHA ・MHB															
7 臭突	立上がり部は、GL+500H までコンクリートにて根巻きする。															
8 流入管底	設計GL-約 mm															
9 スラブ耐荷重	土圧のみ ・20N/m ² ・35N/m ² ・80N/m ²															
10 排水方法	自然流下 ポンプ排水（排水槽内径 mm、深さ mm）															
11 消毒剤	固形剤とし予備品 2kg（容器入り）を納入する。															
12 槽内配管類の防食	鋼管類（ステンレスを除く）は、タールエポキシ樹脂塗料3回塗りとする。															
13 送風機室	・設けない ・設ける（・本工事 ・別途工事） ・槽と一体 ・図示による															
試験	標準仕様書による。	YAMADA ARCHITECT OFFICE	一級建築士 184560号 山田 克弘													
		CHECK DESIGN DRAW	SCALE NO SCALE	兼山歴史民俗資料館耐震補強及び内外装改修工事	SHEET NO.											
			DATE '17.03	機械設備工事特記仕様書（2）	M-02											



改修前 屋外設備図 S=1/100

凡例	
	撤去部分を示す。
	KBMからのレベルを示す。



改修後 屋外設備図 S=1/100

凡例	
	KBMからのレベルを示す。

新 設 ・ 機 器 表

記号	名称	機器仕様	電気容量		台数	備考 (参考品番)
			電源	消費電力		
ACP-1	空冷式ヒートポンプ	天井埋込みダクトタイプ	3φ200V	7.35KW	1	
	パッケージ	冷房能力 20.0kw 暖房能力 22.4kw				
	(同時ツイン)	圧縮機電動機出力: 4.61KW ファン電動機出力: 内0.18KW*2 外0.2KW*2				
		冷媒管: 9.5φ×25.4φ 冷媒管: 9.5φ×15.9φ (断熱低圧・低圧10mm, 高圧10mm)				
		転倒防止措置 ゴム板敷き t=10(基礎下部) ワイヤードリモコン キャンバス継ぎ手 フィルターチャンバー (ロングライフフィルター) 結露防止角型アネモ8m3タイプ (200φ) 8組				
ACP-2	空冷式ヒートポンプ	天井埋込みダクトタイプ	3φ200V	2.75KW	1	
	パッケージ	冷房能力 10.0KW 暖房能力 11.2KW				
		圧縮機電動機出力: 1.95KW ファン電動機出力: 内0.3KW 外0.211KW				
		冷媒管: 9.5φ×15.9φ (断熱低圧・低圧10mm, 高圧10mm)				
		転倒防止措置 ゴム板敷き t=10(基礎下部) ワイヤードリモコン キャンバス継ぎ手 フィルターチャンバー (ロングライフフィルター) 結露防止角型アネモ8m3タイプ (200φ) 4組				
ACP-3	空冷式ヒートポンプ	床置型ダクトタイプ (外圧縮機形)	3φ200V	4.12KW	2	重量: 113Kg
	パッケージ	冷房能力 12.5KW 暖房能力 14.0KW				
		圧縮機電動機出力: 2.8KW				
		ファン電動機出力: 0.75KW、風量: 42 m3/min				
		外部用リモコン 冷媒管: 9.5φ×15.9φ (断熱低圧・低圧10mm, 高圧10mm) 木製架台 転倒防止措置 (内外) ゴム板敷き t=10				
ACP-4	空冷式ヒートポンプ	床置型タイプ (外圧縮機形)	1φ200V	1.19KW	1	
	パッケージ	冷房能力 4.5KW 暖房能力 5.0KW				
		圧縮機電動機出力: 0.85KW				
		ファン電動機出力: 内 0.064KW、外 0.064KW				
		冷媒管: 6.4φ×12.7φ (断熱低圧・低圧10mm, 高圧10mm) 木製架台 転倒防止措置 (内外) ゴム板敷き t=10				
KACP-5	空冷式ヒートポンプ	室外機のみ移設	3φ200V		1	
	パッケージ	RCYJ80F ダイキン製				
JK-1	除湿機	床置丸形ダクトタイプ	3φ200V	2.1KW	1	
		除湿能力 107 L/日 条件 30°CDB 60%程度				
		圧縮機電動機出力: 1.5KW				
		ファン電動機出力: 0.14KW、風量: 26 m3/min				
		木製架台 転倒防止措置 (内外) ゴム板敷き t=10 丸形ダクト 2組				

註 電気容量等は、参考とする。

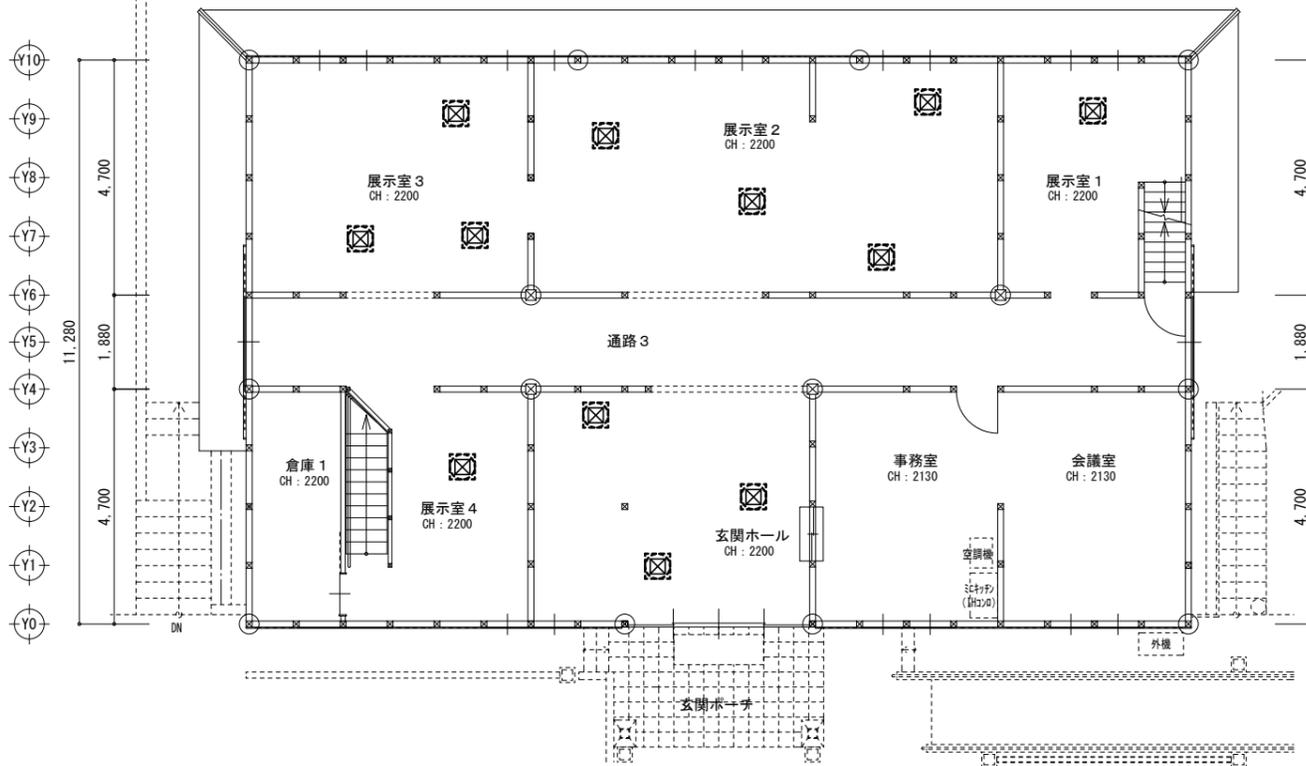
換気設備 機器表

符号	名称	付属品及び仕様	電源	数量
FV-1	壁付換気扇 (24H用)	型式 格子型、電気式シャッター	1φ100V	1
		羽根径 200φ×480m3/h		
		付属品 防火ダクト付SUS製ウェザーカバー(防虫網付) 木枠 他標準付属品一式		
FV-2	パイプファン	型式 低騒音タイプ、プラスチック製本体、格子形	1φ100V	1
		ダクト径 100φ×100m3/h×10Pa		
		付属品 防火ダクト付SUS製ウェザーカバー(防虫網付) 木枠 他標準付属品一式 スイッチ		
FV-3	天井換気扇 ミニキッチン用	型式 低騒音タイプ、金属製本体、風圧式シャッター	1φ100V	1
		ダクト径 100φ×120m3/h×50Pa		
		付属品 深形SUS製フード(防虫網付) 他標準付属品一式		
OA-1	自然給気口	型式 天井取付型		4
		ダクト径 150φ グリル150φ フィルター付		
		付属品 深形SUS製フード(防虫網付) 他標準付属品一式		
		註 屋外深型パイプフードは、指定色とする		

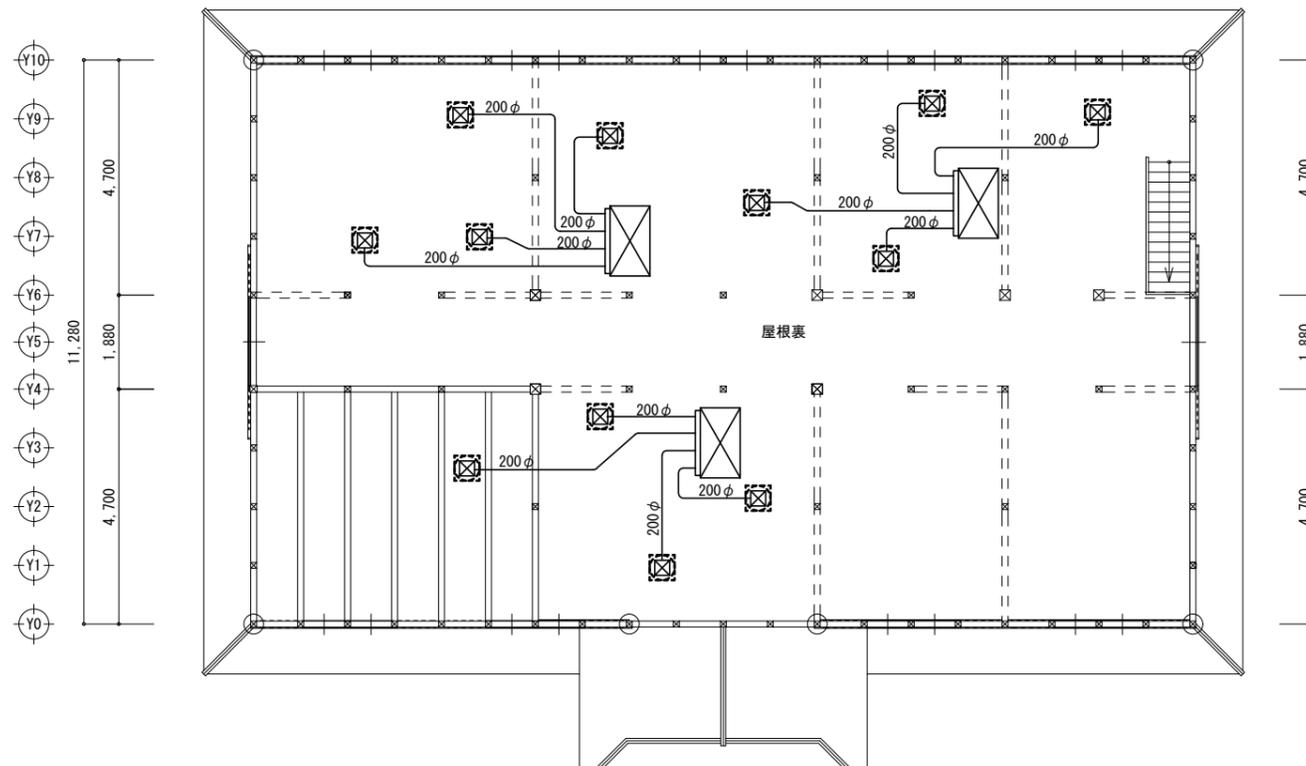
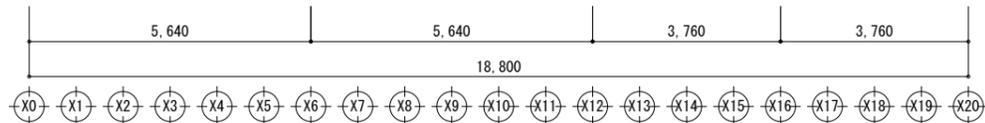
註 電気容量等は、参考とする。

凡 例

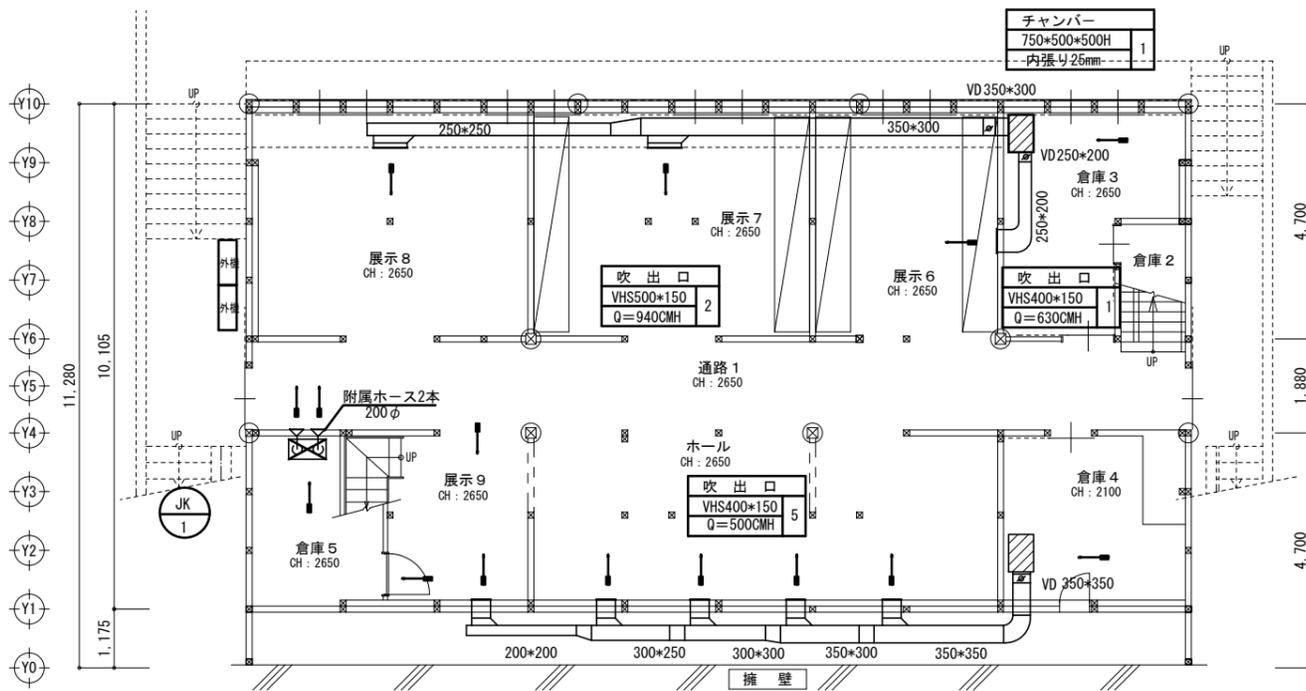
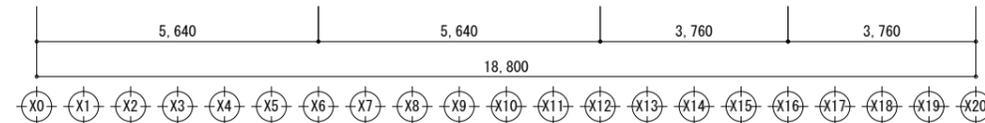
符号	名称	符号	名称
—●—	給水管	—X—	弁類
—○—	排水管	—⊗—	仕切弁
----	通気管	○	水栓
— —	給湯管	⊕	混合水栓
—PG—	ガス管	⊙	ブラッシュ弁
—R—	冷媒管	⊖	床上掃除口
—D—	ドレン管	⊗	排水口
		⊙	汚水樹
		⊗	地中埋設標
		G	ガス漏警報器
		●+	ガスコック
		R	リモコン



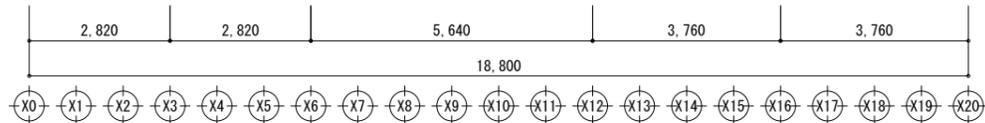
2階平面図



屋根裏平面図

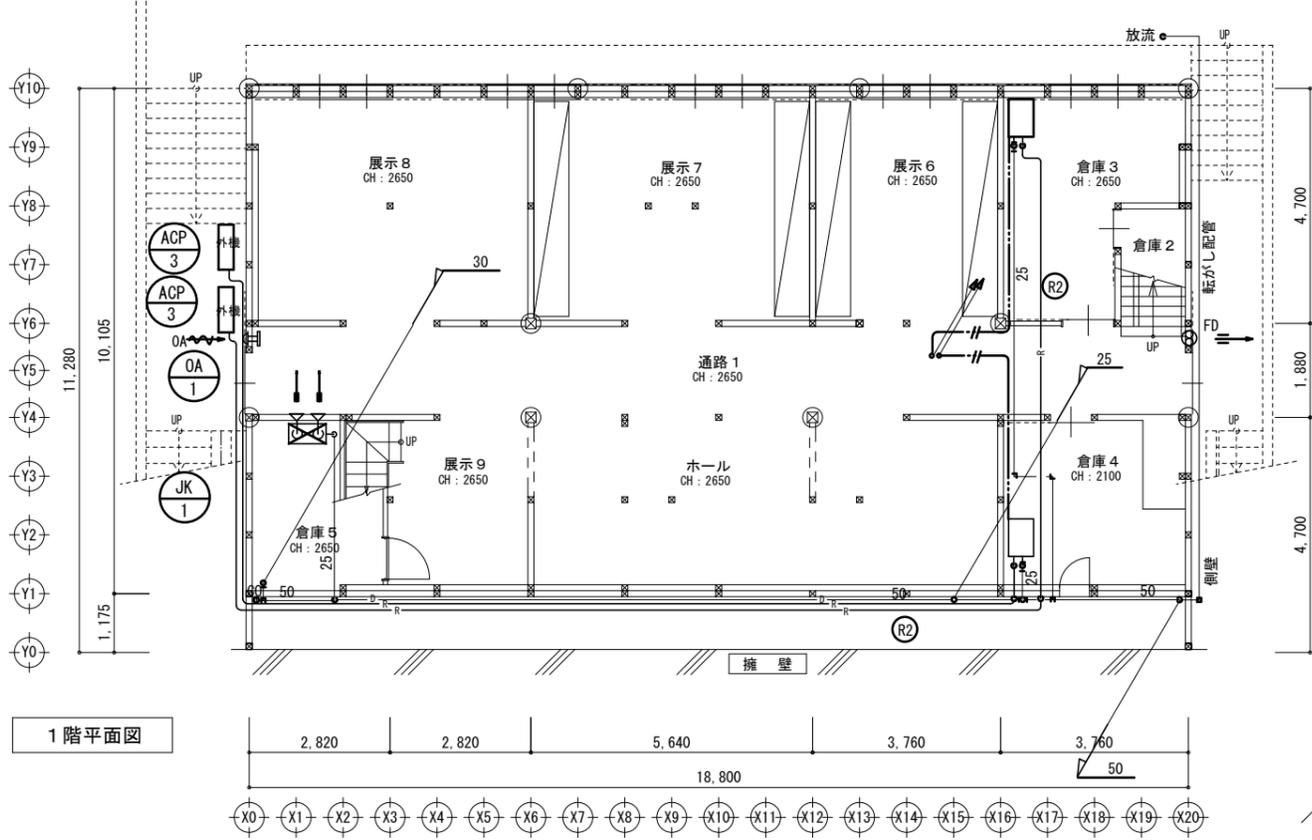
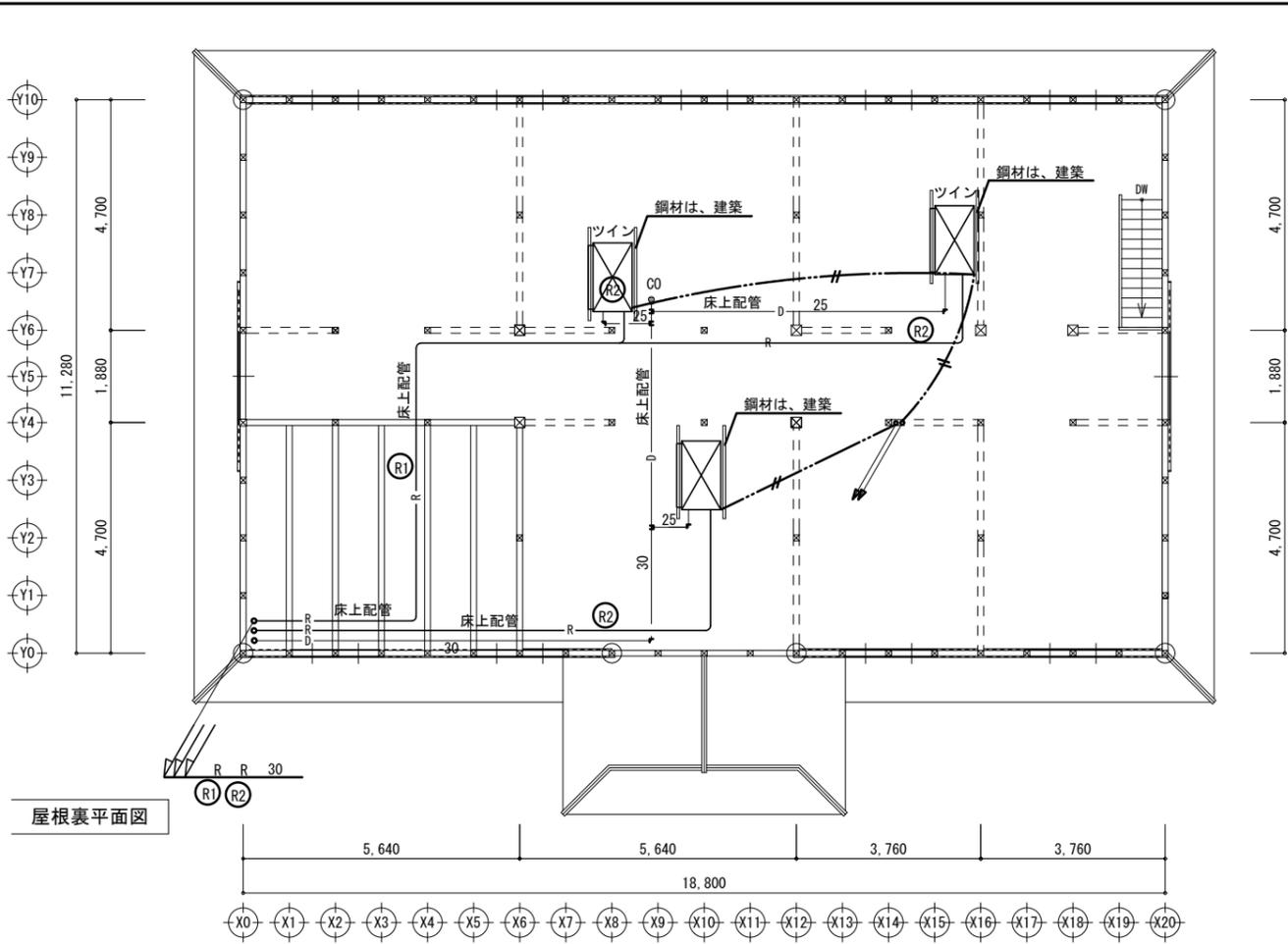
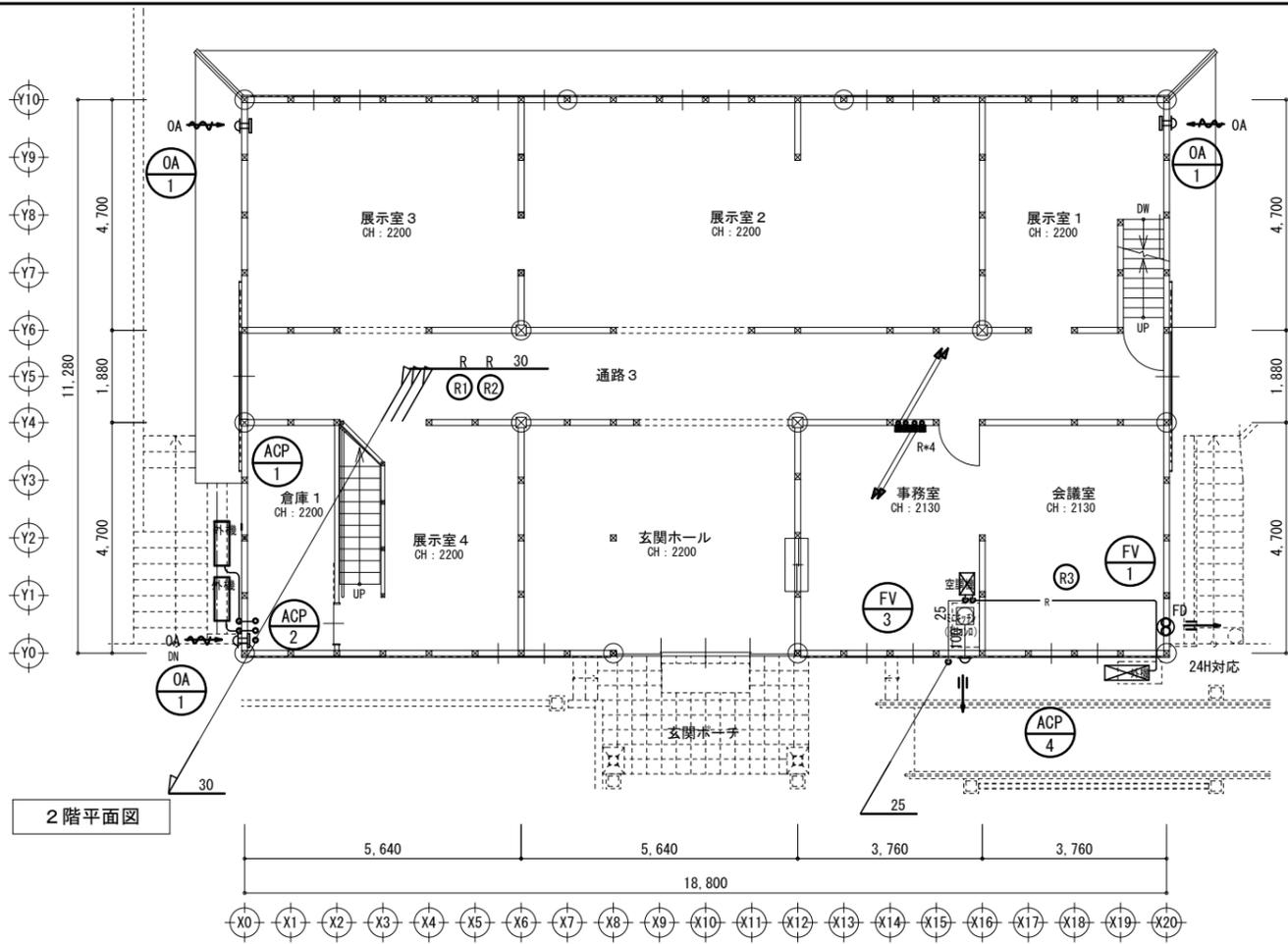


1階平面図



CHECK	DESIGN	DRAW

SCALE	1/100
DATE	'17.03



凡例

(R1)	冷媒管 : 9.5φ × 25.4φ
(R2)	冷媒管 : 9.5φ × 15.9φ
(R3)	冷媒管 : 6.4φ × 12.7φ
—//—	EM-CEES1.25-2C

換気計算	
1階 容積	503.44m ³
2階 容積	466.54m ³
合計	969.98m ³
必要換気量	290.99CMH < 480CMH OK



撤去 空調機器表

記号	名称	機器仕様	電気容量		台数	備考
			電源	消費電力		
KACP-1	空冷式ヒートポンプ	床置型 (外圧縮機形)	3φ200V	3.05KW	5	
	パッケージ	冷房能力 10.0KW 暖房能力 11.2KW				
		冷媒管: 9.5φ×15.9φ (断熱低圧・低圧10mm, 高圧10mm)				
KACP-2	空冷式ヒートポンプ	床置型タイプ (外圧縮機形)	1φ200V	1.19KW	1	
	パッケージ	冷房能力 4.5KW 暖房能力 5.0KW				
		冷媒管: 6.4φ×12.7φ (断熱低圧・低圧10mm, 高圧10mm)				
KJK-1	除湿機	床置ダクトタイプ	3φ200V	2.1KW	1	
		除湿能力 107 L/日 条件 30°CDB 60%程度				
		圧縮機電動機出力: 1.5KW				

註 電気容量等は、参考とする。

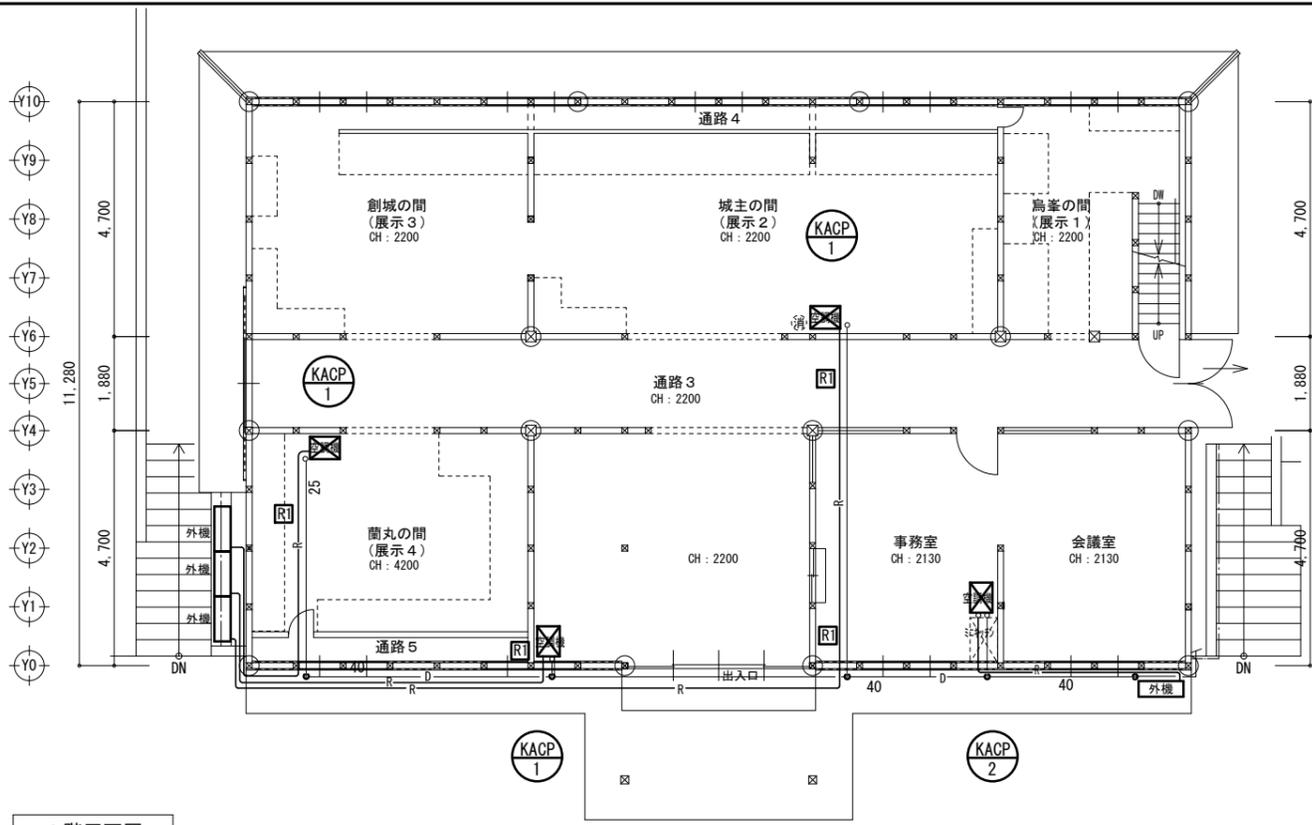
換気設備 機器表

符号	名称	付属品及び仕様	電源	数量	
KFV-1	天井換気扇 ミニキッチン用	型式 低騒音タイプ、金属製本体、風圧式シャッター	1φ100V	1	
		ダクト径 100φ			
		付属品 フード			

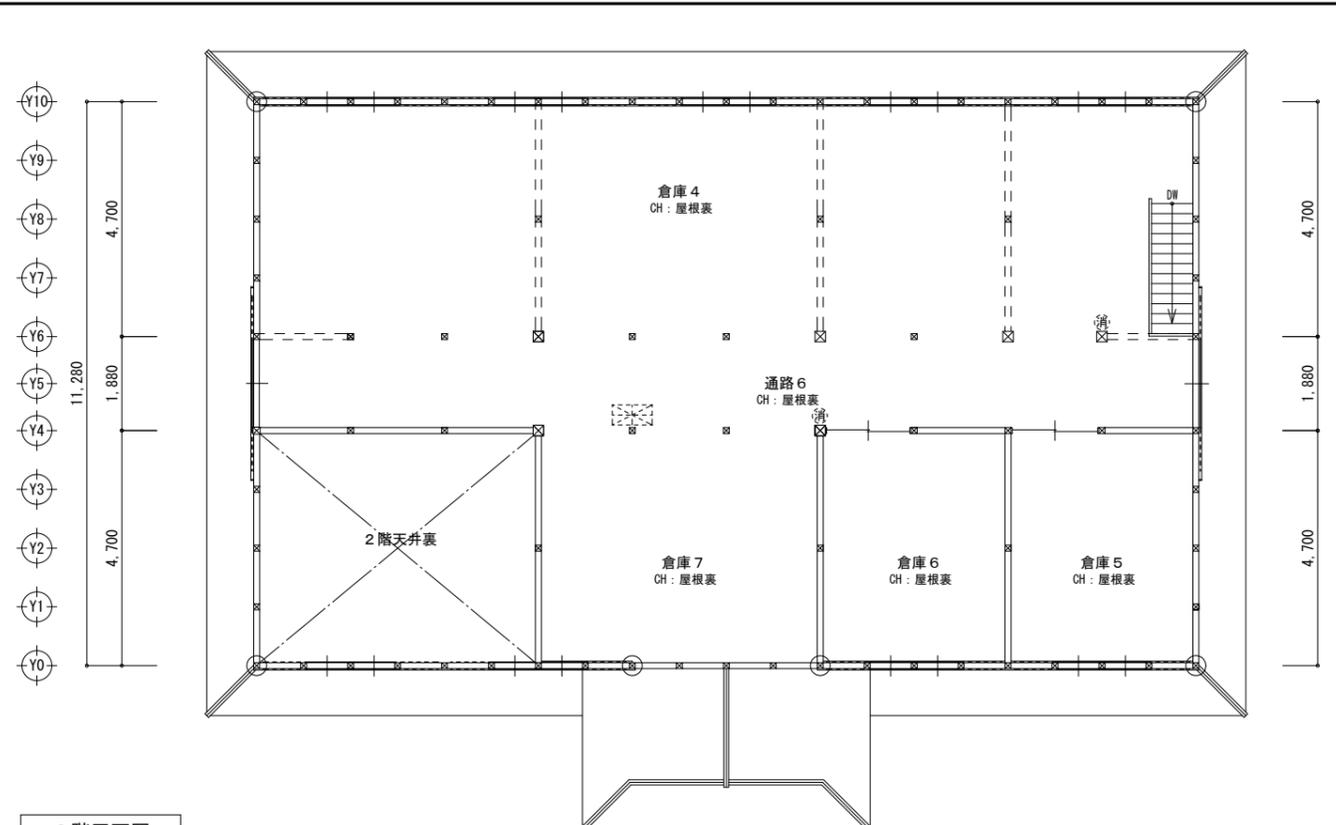
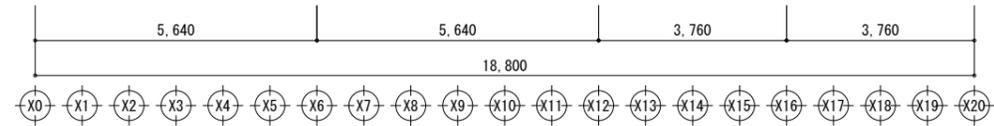
註 電気容量等は、参考とする。

撤去 衛生器具附属品表

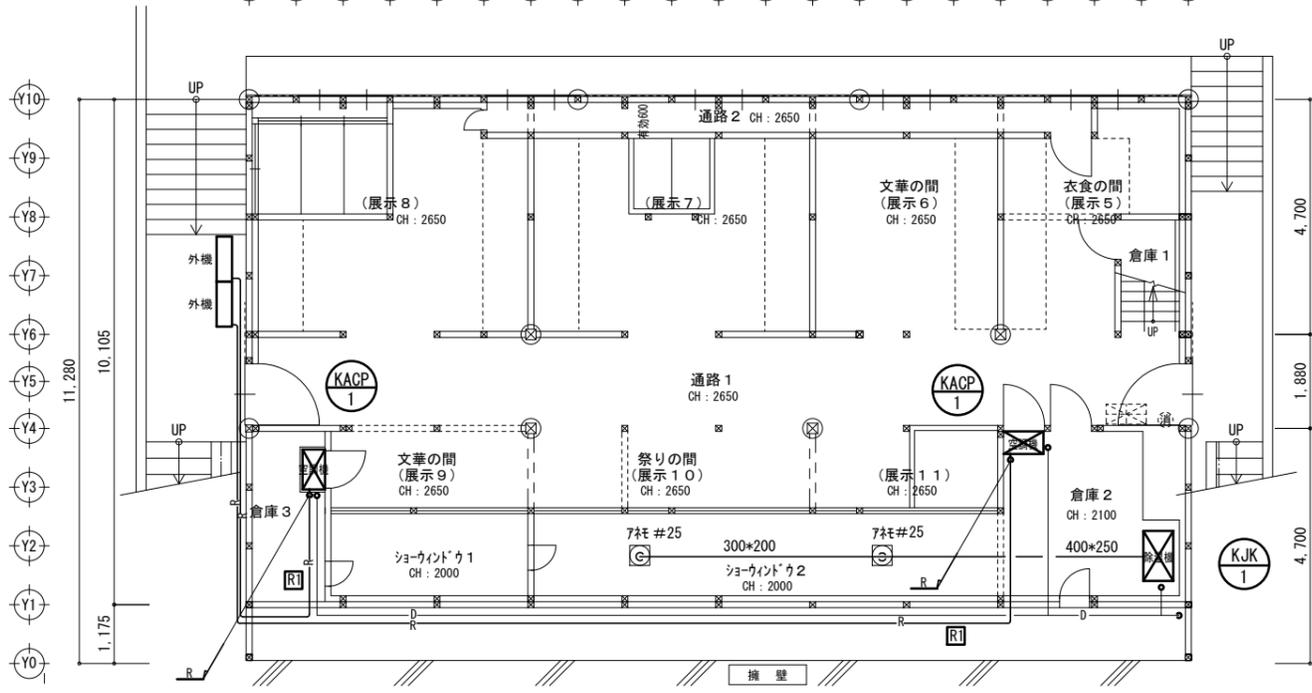
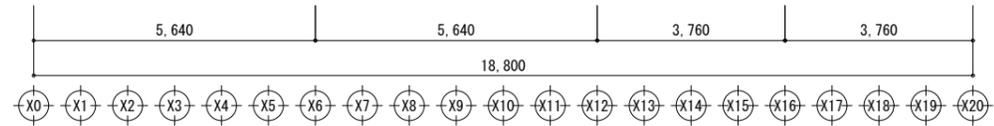
器具名	型番	計	備考
和風便器ロータンク、紙巻器	S670B, TS116	1	
小便器	FV式 ストール	2	
手洗器	T123B-13	1	



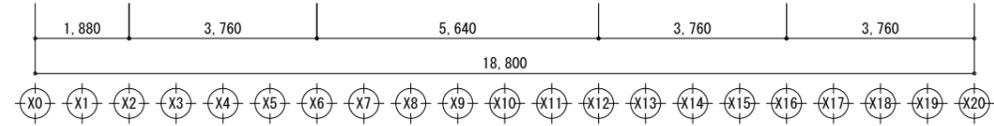
2階平面図



3階平面図



1階平面図



- R1 冷媒管 9.5*15.9
- R2 冷媒管 9.5*15.9

CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE
			1/100
			DATE '17.03

